

第六類 人事 第四章 教習

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退所セシム

- 一 品行不良ニシテ改悛ノ見込ナキ者
 - 二 學業修得ノ見込ナキ者
 - 三 傷疾ノ爲缺席一月ニ及ヒ尙治癒ノ見込ナキ者
 - 四 其ノ他將來保健婦ノ業務ニ從事スルヲ不適當ト認ムル者
- 第二十條 成績優秀、品行方正ナル者ニ對シテハ之ヲ褒賞スルコトアルヘシ
- 第二十一條 所長必要ト認ムルトキハ講習生ニ懲戒ヲ加フ

第五章 學科試驗、學業成績及卒業

- 第二十二條 學科試驗ハ學科終了ニ當リ其ノ期間中ニ履修シタル學科ノ分類科目ニ付之ヲ行フ
- 第二十三條 講習生疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ前條ノ規定ニ依ル試驗ヲ受クルコト能ハサルトキハ卒業ノ學力操行ヲ斟酌シ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ
- 第二十四條 講習生ノ卒業ハ學科試驗及臨地訓練ノ成績並出席狀況ヲ斟酌シテ之ヲ評定ス
- 第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ卒業セシメス
- 一 所定ノ學科授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ者
 - 二 所定ノ臨地訓練日數中訓練ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ者
- 第二十六條 所定ノ課程ヲ卒業シタル者ニ對シテハ第三號様式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

第六章 授業料

- 第二十七條 授業料ハ全講習期間ヲ通シテ一人ニ付二十圓トス但シ大阪市ニ勤務スル者ニ對シテハ之ヲ免除ス
- 第二十八條 授業料ハ講習期ノ始メ指定日ニ其ノ全額ヲ納付スヘシ
- 第二十九條 授業料ハ缺席又ハ出席停止中ト雖モ之ヲ減免セス
- 第三十條 退所シタル者ト雖モ既納ノ授業料ハ之ヲ還付セス
- 第三十一條 品行方正、身體強健、志操堅固ニシテ學費ニ乏シキ講習生ニ對シテハ所長ノ上申ニ依リ特ニ授業料ヲ減免スルコトアルヘシ
- 附則
本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ所長之ヲ定ム
- 第一號様式
- 入所願
- 私儀貴所入所志願ニ付御許可相成度履歷書、卒業證書寫(或ハ看護婦免許狀寫)、寫眞並戸籍謄本相添ヘ此段及御願候也
- 年 月 日
- 本 籍
現住所
- 氏 名
生年月日
- 大阪市立保健婦養成所長 殿
- 〔大例一三號〕

収入
印紙

誓約書

私儀今般貴所ニ入所許可相成候ニ就テハ御規則ヲ遵守スルハ勿論限リニ退所等致間敷且本入在所中ニ係ル一切ノ事件ニ關シテハ保證人ニ於テ引受ケ可申茲ニ保證人連署ヲ以テ及誓約候也

年 月 日

本人 氏 名

保證人

本 籍

現住所

本人トノ續柄

保證人

本 籍

現住所

職 業

大阪市立保健婦養成所長 殿

第三號様式
第 號

卒業證書

所 印

第六類 人 第四章 教習

氏 名
生年月日

別表

學科目及教授時數

學 科 目 名	各學科目別各學科目別 總時數各週時數	內譯學科目 各週時數
環境産業及學校衛生大意	三六	三
一般衛生大意		
都市及産業衛生大意		
學校衛生大意		
結核其ノ他慢性傳染病豫防並ニ寄生蟲病豫防ノ意	四九	四
結核豫防大意		
トヲホム、ム、 花柳病、寄生 蟲病、癩病ヲ 除ク 諸慢性傳染病 豫防大意ヲ含ム		二二 二四
トヲホム豫防大意		(隔週) 一五 (約) 一〇
花柳病豫防大意(癩病ヲ含ム)		

右者本所所定ノ課程ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年 月 日

厚生省 大阪市立保健婦養成所長位勳 氏 名 所長印

〔大例一三號〕

寄生蟲病豫防大意	二四		(約一〇)
急性傳染病豫防大意	五九	二	
母性及乳幼児衛生大意		五	
結婚及母性衛生大意			(二四)
乳幼児衛生大意			(三五)
榮養大意	二四	二	
衛生法規大意	六	一	
社會事業大意	六	一	
社會保險大意	六	一	
レシトゲン	二二	一	
防空救護	六	一	
國民道德	一一		
計	二四〇	二〇	
臨地訓練	七八日	六日	

〔大例二三號〕

第七類 給與

第七類 給與

第一章 費用辨償、給料及旅費

名譽職員費用辨償條例

明治三十四年三月市會議決名譽職員實費辨償規程左ノ通改正ス
制定 大八、三、二九市會議決
最近改正 昭一、一、三、九 條例

第一條 名譽職員職務ノ爲ニ要スル費用辨償額左ノ如シ

市會 議長	年 額 千八百圓
市會 副議長	年 額 千五百圓
市會 議員	年 額 千二百圓
(議長及副議長ヲ除ク)	
市參事 會員	年 額 二百圓
市學務 委員	年 額 二百圓
其ノ他 名譽職員	日 額 四圓

第二條 年額ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一期トシ毎月下旬其ノ十二分ノ一ヲ支給ス

新ニ當選シタル者ニ對シテハ日割ヲ以テ其ノ月分ヲ又退職シタル者ニ對シテハ其ノ月分ノ全額ヲ支給ス

第三條 前條ノ場合ニ於テ日割ノ計算ヲ爲スハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第四條 市外旅行ニ對スル費用辨償額ハ旅費條例ノ定ムル所ニ依ル

第五條 職務ノ日數ニ應ジ支給スル費用辨償額ノ支給期日ハ市長之ヲ定

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

〔大例一三號〕

第六條 本規程ハ大正八年四月一日ヨリ施行シ明治三十四年三月大阪市會議決名譽職員實費辨償規程ハ之ヲ廢止ス

附則

有給吏員給料支給條例

本市會議決ヲ經大阪市有給吏員給料支給條例左ノ通相定ム
制定 昭一、一、三、二二條例一〇
最近改正 昭一、八、七、規則二

第一條 本市有給吏員ノ給料額左ノ如シ

市長	年給 一萬圓以上二萬五千圓以下
市助役	年給 三千五百圓以上一萬五千圓以下
市考査役	年給 三千圓以上一萬二千圓以下
市收入役	年給 二千圓以上一萬二千圓以下
副收入役	年給 千二百圓以上七千圓以下
局長	年給 三千五百圓以上一萬五千圓以下
技監	年給 三千五百圓以上一萬五千圓以下
理事	年給 三千圓以上一萬二千圓以下
病院長	年給 二千圓以上一萬圓以下
主事	年給 一千二百圓以上七千圓以下
主視	年給 一千二百圓以上七千圓以下
副視	年給 一千二百圓以上七千圓以下
醫藥	年給 一千二百圓以上七千圓以下
樂劑	年給 一千二百圓以上七千圓以下
清掃主事	年給 一千二百圓以上七千圓以下

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

醫 員 年給 千二百圓以上五千圓以下
月給 三十圓以上二百五十圓以下

研究員 年給 千二百圓以上三千圓以下
月給 三十圓以上二百圓以下

書記員 月給 三十圓以上二百五十圓以下

清掃監督 月給 三十圓以上二百圓以下

助産婦長 月給 三十圓以上二百圓以下

保母長 月給 三十圓以上二百圓以下

船關長 月給 三十圓以上二百圓以下

機械士長 月給 三十圓以上二百圓以下

守衛長 月給 三十圓以上二百圓以下

區主 年給 千二百圓以上四千圓以下

區書記 月給 三十圓以上二百五十圓以下

第二條 年給八十二分シテ、月給ハ其ノ月分ヲ毎月之ヲ支給シ其ノ支給日ハ市長之ヲ定ム

第三條 新任、轉任、復職又ハ増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其ノ月分ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第四條 休職ヲ命セラレタル者ハ發令ノ翌月ヨリ給料月額ノ三分ノ一ヲ休職給トシテ之ヲ支給ス

亡シタルトキハ其ノ減給ニ依ル當月分ノ全額ヲ支給ス

第十一條 給料ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十二條 本市囑託員ニシテ日勤スル者ノ報酬支給ニ關シテハ本條例ヲ準用ス

第十三條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

明治二十二年大阪市告示第六號給料支給規則

明治二十三年大阪市告示參第二十八號報酬支給規則

大正九年大阪市告示第三十四號市吏員給料規程

昭和五年大阪市條例第十號掃除監視吏員設置條例

有給吏員給料支給條例施行細則

制定 昭二一、三、二二 告示一、一一
最近改正 昭二二、一一、二二 告示六、九三

大阪市有給吏員給料支給條例施行細則左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市の有給吏員給料支給條例施行細則

第一條 給料ハ毎月二十二日之ヲ支給ス但シ左記所屬ノ者ノ給料ハ毎月二十一日之ヲ支給ス

電氣局 港灣局

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

第五條 市吏員職務上ノ義務ニ違反シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ市吏員ノ體面ヲ汚シ若ハ信用ヲ害スヘキ行爲アリタルトキハ一月以上一年以下ノ範圍内ニ於テ年給月割額又ハ月給額ノ三分ノ一以下ヲ減スルコトアルヘシ

第六條 退職、解職又ハ死亡シタル者ハ其ノ月分ノ給料全額ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ當月分ノ給料ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

一 懲戒處分ニ因リ解職セラレタル者
二 職務ノ内外ヲ問ハズ市吏員ノ體面ヲ汚シ又ハ信用ヲ害スヘキ行爲アリタルニ因リ解職セラレタル者
三 職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルニ因リ解職セラレタル者
四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ失職シタル者

第七條 休職、退職又ハ解職ノ者事務引繼、殘務整理ノ爲特ニ命ヲ受ケ公務ニ従事スルトキハ其ノ間日割ヲ以テ仍從前ノ給料ヲ支給ス但シ既ニ支給ヲ受ケタル月ノ分ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 市吏員陸海軍ニ召集セラレ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クルトキハ其ノ間給料ノ支給ヲ停止ス但シ其ノ額カ本職給料額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第九條 私事ノ故障ニ因リ職務セザルコト三十日ヲ超ユルトキハ其ノ給料ノ半額ヲ減ス公務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ヲ除クノ外病氣療養ノ爲職務セザルコト九十日ヲ超ユルトキ亦同シ

第十條 第五條及前條ノ規定ニ依リ減給セラレタル者休職、退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ減給ニ依ル當月分ノ全額ヲ支給ス

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

水道局

經濟研究所

圖書館

學校、幼稚園

心華婦人館

生活科學研究所

病院

工業研究所

區役所

給料支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス

第二條 退職、解職又ハ死亡シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得但シ退職者引續キ本市有給吏員ト爲リタルトキハ前條ノ支給日ニ依ル

第三條 轉勤者ノ給料ハ其ノ發令ノ當日迄ノ分ヲ前局、室、部、課、摩又ハ區ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ後局、室、部、課、摩又ハ區ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第四條 日割計算法ハ年給ハ年額ヲ月給ハ月額ヲ基礎トシ其ノ月ノ現日數ニ依リ前乘後除トス

第五條 大阪市有給吏員給料支給條例(以下條例ト稱ス)第九條ノ適用ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル日數ハ病氣若ハ私事故障ト連續スルモ減給ノ理由トナルヘキ缺勤日數中ニ之ヲ算入セス但シ其ノ前後ノ缺勤日數ハ之ヲ通算ス

一 普通及特別休暇
二 忌服期間
三 傳染病發生ノ爲交通ヲ遮斷セラレタルトキ

條例第九條ノ期間ノ計算ニ付テハ引續キ七日以上出勤セザルトキハ之ヲ中斷セス

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

第六條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受ケタルトキハ左記様式ニ依リ俸給支給部隊又ハ當該官吏ノ證明書ヲ受ケ勤務所屬長ヲ經テ總務局長ニ(休職中ノ者ハ直接總務局長ニ)届出ツヘシ

第七條 條例第八條但書ノ規定ニ依リ給料ノ差額ヲ支給スヘキ者ノ支出命令書ニハ前條ノ規定ニ依リ證明書ヲ添付スヘシ

附則 大正十二年達第一二號給料支給定日ハ之ヲ廢止ス

證明書

所屬部隊名
役種官等氏名
應召年月日
召集解除ノ月日
陸海軍給與令ニ依リ受ケタル俸給額
右證明ス

年月日

召集部隊長 何

某印

雇傭員給料支給規程

制 定 昭一八、一三、二告示一二二
最近改正 昭一八、一〇、告示三四一

雇傭員給料支給規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

雇傭員給料支給規程

第一條 雇傭員ノ給料支給ニ關シテハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

第二條 雇傭員ノ給料ハ之ヲ日給トス但シ特ニ必要アルトキハ月給ト爲スコトアルヘシ

第三條 日給ハ新ニ採用ノ者ハ業務ニ就キタル當日ヨリ、増給、減給ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

身分ノ變更アリタルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ニ依リ支給ス

第四條 日給ハ勤務ノ日數ニ依リ之ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ勤務セスト雖之ヲ支給ス

一 休暇日但シ公休日ノ前後兩日ニ互リ缺勤シタルトキヲ除ク

二 削除

三 忌服セルトキ

四 傳染病發生ノ爲交通遮斷セラレタルトキ

前項第一號中召集ニ依リ特別休暇ニ在リテハ大阪市有給吏員給料支給條例第八條、同施行細則第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第五條 別表ニ定ムル者ヲ除クノ外日給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ左記所屬員ニ對シテハ毎月二十七日ニ、其ノ他ノ者ニ對シテハ二十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月二十一日ヨリ同月末日迄ノ分ニ付

〔大例一三號〕

テハ此ノ限ニ在ラス

港灣局 水道局
經濟研究所 圖書館
學校、幼稚園 心華婦人館
生活科學研究所 病院
工業研究所

給料支給當日休日ニ當ル場合ハ順次繰下トス但シ二月二十七日及十二月分並ニ電氣局現業員及從業員ニ限リ順次之ヲ繰上ク

第六條 退職、解職又ハ死亡シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第七條 轉勤者ノ給料ハ其ノ發令ノ當日迄ノ分ヲ前局、室、部、課、廠又ハ區ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ後局、室、部、課、廠又ハ區ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第八條 第二條但書ノ規定ニ依ル月給者ニシテ雇傭員扶助規程ノ適用ヲ受クル者民法ノ規定ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ給料支給額ヨリ休業扶助料相當額(休業扶助料相當額賠償額ヨリ多キトキハ賠償額)ヲ控除ス

第九條 給料ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十條 第二條但書ノ規定ニ依ル月給者ノ給料支給ニ關シテハ大阪市有給吏員給料支給條例及同施行細則ノ規定ヲ準用ス但シ私事ノ故障ニ因リ勤務セサルコト三月ヲ超ユルトキ又ハ公務ノ爲負傷シ若ハ疾病ニ罹リタル場合ヲ除クノ外病氣療養ノ爲勤務セサルコト六月ヲ超ユルトキハ給料ハ之ヲ支給セス

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

〔大例一三號〕

第十一條 海外貿易調査ノ爲外國駐在地ニ於テ傭入ヲ爲ス傭員ノ給料ハ當該地方ノ通貨ヲ以テ之ヲ支給ス

第十二條 本規程ハ日傭入夫ノ給料支給ニ關シテハ之ヲ適用セス

附則

左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

明治二十八年市參事會議決交通遮斷中ニ係ル給料支給方

明治二十八年大阪府內務部第一課通牒第三九七號傭員忌引中ニ係ル給料支給方

附則 (昭一八、六、告示二四〇)

本改正規程ハ昭和十八年六月分ヨリ之ヲ適用ス

別表

所屬	締切期間	支拂期日
電氣局所屬ノ傭員ニシテ現業員及從業員タル者	前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ分	當月 二十五日
港灣局所屬ノ傭員ニシテ三十日未滿ノ期間ヲ限リ傭入ノ者	前月二十一日ヨリ當月五日迄ノ分 當月六日ヨリ當月二十日迄ノ分	當月 十三日 當月 二十七日
別段ノ定アルモノヲ除クノ外土木局所屬ノ傭員	前月二十一日ヨリ當月二十日迄ノ分	當月 二十六日
土木局所屬土砂運搬船夫及渡渡船夫	前月二十一日ヨリ前月末日迄ノ分 當月一日ヨリ當月十日迄ノ分	當月 八日 當月 十八日

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

土木局所屬ノ備員ニシテ渡船事業ノ現業ニ従事スル者	前月二十一日ヨリ當月五日迄ノ分 當月六日ヨリ當月二十日迄ノ分	當月 十一日 當月 二十六日	當月二十八日但シ三月及十二月ハ當月二十七日
保健局作業部作務課(胞衣汚物取扱費)ノ從員	當月二十一日ヨリ當月五日迄ノ分 當月六日ヨリ當月二十日迄ノ分	當月 十三日 當月 二十八日	但シ二月及十一月ハ當月二十七日

月給備員給料支給規程

制定 昭一八、一〇、一四 通三七七

大阪府知事ノ許可ヲ受ケ月給備員給料支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

月給備員給料支給規程

- 第一條 月給者タル備員(電氣局勤務ノ者ヲ除ク)ノ給料支給ニ關シテハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 日給ヨリ月給ト爲リタル場合ノ給料額ハ従前ノ日給額ノ三十倍ニ相當スル額トス但シ圓位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ圓位ニ滿タシム
- 第三條 新ニ月給ト爲リタルトキ又ハ増減給アリタルトキハ發令ノ翌日ヨリ起算シ當月分ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 第四條 引續キ缺勤シタルトキハ左ノ各號ニ定ムル區分ニ依リ其ノ期間

三二六

- 給料ノ半額ヲ減ジ其ノ後ハ之ヲ支給セズ
- 一 私事ノ故障ニ因ルトキ 十日ヲ超エ三十日ニ至ル期間
 - 二 業務ニ因ラザル負傷又ハ疾病ノ療養ヲ爲ストキ 三十日ヲ超エ九十日ニ至ル期間
- 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ其ノ療養ノ爲引續キ缺勤三年ヲ超ユルトキハ給料ハ之ヲ支給セズ
- 減額ノアリタル當月分及支給期間ノ終リタル當月分ノ給料ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 第一項及第二項ノ期間ノ計算ニ付テハ引續キ七日以上田勤セザルトキハ之ヲ中斷セズ

第五條

左ノ各號ノ一ニ該當スル日數ハ病氣若ハ私事故障ト連續スルモ減給ノ理由トナルベキ缺勤日數中ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ前後ノ缺勤日數ハ之ヲ通算ス

一 普通及特別休暇

二 忌服期間

三 傳染病發生ノ爲交通ヲ遮斷セラレタルトキ

第六條 解僱又ハ死亡シタル者ハ左ノ各號ノ一ニ依ル場合ノ外當月分ノ給料全額ヲ支給ス

- 一 解僱ノ當日又ハ死亡ノ前日迄引續キ五日以上缺勤中ノトキハ爾後給料締切期間迄引續キ缺勤シタルモノト看做シ第四條ノ規定ニ依リ當月分ノ給料ヲ支給ス
- 二 懲戒又ハ之ニ準ズル處分ニ因リ解僱セラレタルトキハ當月分ノ給料ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

第二條 前條該當者ニ對シテハ應召、徵發、徵用等ノ期間從前通給料ヲ支給ス但シ陸海軍其ノ他ニ依リ受ケル本俸額、給料又ハ之ニ準スヘキ給料ハ之ヲ控除ス

市長其ノ受ケル給與ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ受ケヘキ給料ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第三條 戰時又ハ事變ニ際シ日本赤十字社救護員トシテ召集セラレタル者ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四條 本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ今次事變ニ依リ本條例施行前既ニ召集又ハ徵發セラレタル者ニ付テハ召集又ハ徵發ノ日ニ遡リテ之ヲ適用ス

附則 (昭二二、九條例二三)

今次事變ニ依リ本改正規定施行前既ニ日本赤十字社救護員トシテ召集セラレタル者ニ付テハ召集ノ日ニ遡リテ之ヲ適用ス

附則 (昭一八、一〇規則一二)

本改正規則ハ別ニ定ムル應徵者ニシテ改正規則施行前徵用セラレタル者ニ付テハ徵用ノ日ニ遡リテ之ヲ施行ス

入營雇員臨時處遇規程

制定 昭一五、二、二九告示七七

入營雇員臨時處遇規程左ノ通相定メ昭和十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

三二七

- 第七條 陸海軍ニ召集セラレタルトキノ給料支給ニ關シテハ大阪市有給吏員給料支給條例第八條及同施行細則(以下細則ト稱ス)第六條、第七條ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 所屬替ヲナセル者ノ給料支給ニ關シテハ細則第三條ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 給料締切期間及給料支拂期日ニ關シテハ雇員給料支給規程第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス但シ給料支拂期日ガ月二回以上ノ者ニ在リテハ最終ノ支拂期日トス
- 三月二十一日ヨリ同月末日迄ノ給料ハ月給額ノ三分ノ一トシ四月一日ヨリ同月二十日迄ノ給料ハ月給額ノ三分ノ二トス
- 第十條 日割計算ニ關シテハ細則第四條ノ規定ヲ準用ス
- 第十一條 給料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ

戰時事變應召者特別給與規則

制定 昭二二、七、二九條例二〇
最近改正 昭一八、一〇 規則一二

市制第九十一條ノ規定ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經戰時事變應召者特別給與條例左ノ通相定ム

戰時事變應召者特別給與規則

- 第一條 本市有給吏員及雇員ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ兵役法、徵發令其ノ他ノ法令ニ依リ召集、徵發若ハ徵用セラレ又ハ物件ノ管理、使用若ハ收用ニ伴ヒ供用セシメラレタル者ハ他ノ規定ニ拘ラス之カ爲解職又ハ解僱シ若ハ休職ヲ命スルコトナシ

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

入營雇傭員臨時處遇規程

第一條 本市雇傭員ニシテ徵集ニ依リ入營スル者ノ身分及給與ニ關シテハ當分ノ内他ノ規定ニ拘ラス本規程ノ定ムル所ニ依ル
第二條 徵集ニ依リ入營スル者ニ對シテハ其ノ間休務ヲ命ス
退營後勤務ニ復スル迄ノ日數ハ前項ノ休務期間中ニ之ヲ算入ス但シ其ノ日數ハ十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 前條ノ規定ニ依ル休務者月給者ナルトキハ休務發令ノ翌月ヨリ、日給者ナルトキハ休務發令ノ翌日ヨリ給料ノ支給ハ之ヲ停止ス
第四條 休務中ノ入營者退營シタルトキハ願出ニ依リ復務セシム但シ入營者職業保障法第二條第一項但書第二號以下ノ事由ニ該當スト認ムル者ニ付テハ解僱スルコトアルヘシ
復務ヲ命シタル者月給者ナルトキハ發令ノ翌日ヨリ日割ニヨリ、日給者ナルトキハ勤務ニ復シタル日ヨリ給料ヲ支給ス

第五條 休務中ノ入營者志願ニ依ラスシテ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超エテ服役スルニ至リタルトキハ其ノ際復務シタルモノト看做シ爾後戰時事變應召者特別給與規則ノ例ニ依ル
前項ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ旨在營部隊ノ證明ヲ添ヘ所屬長ヲ經テ届出ツヘシ

第六條 入營中志願ニ依リ一般現役兵ノ服役期間ヲ超エテ服役スルニ至リタルトキハ其ノ際解僱ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨在營部隊ノ證明ヲ添ヘ所屬長ヲ經テ届出ツルコトヲ要ス
第七條 休務ノ期間ハ之ヲ在職年數ニ通算ス但シ退營後自己ノ都合ニ依リ本市ノ勤務ニ復セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一 求職ノ登錄又ハ勞務ノ紹介ヲ爲シタル職業紹介所
二 市立宿泊所ニ宿泊ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ宿泊所
第五條 日曜祝祭日及一月一日ヨリ一月三日迄ニ於テハ支拂ハ之ヲ爲サス
第六條 支拂時間左ノ如シ
一 職業紹介所 午後四時三十分ヨリ午後七時迄
二 宿泊所 午後四時三十分ヨリ午後九時迄
天候其ノ他ノ事故ニ因リ事業ヲ中止シタルトキ又ハ特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス職業紹介所ニ限り午後一時ヨリ支拂ヲ開始ス

第七條 賃金ノ支拂ヲ受ケントスル者ハ本人田頭ノ上勞働登錄票ヲ添ヘ勞銀票ヲ提出スヘシ但シ特別ノ事由アリト認ムル事業所ノ使用労働者ニ限り豫メ届出タル代理人ニ依リ支拂ヲ受クルコトヲ得
第八條 賃金ノ支拂ハ勞銀票ト引換ニ之ヲ爲スモノトス但シ勞銀票ノ持參人並其ノ捺印及記載事項ニ付不審ノ點アリト認ムルトキハ支拂ヲ拒絶スルコトアルヘシ
前項但書ノ場合ニ於テハ持參人ニ於テ其ノ眞實ヲ證明スルノ義務アルモノトス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル勞銀票ハ之ヲ無効トス
一 公印又ハ監督者ノ印ナキモノ
二 支拂金額ヲ訂正シタルモノ
三 汚染シ又ハ毀損シタルモノニシテ其ノ眞偽ヲ認定シ難キモノ
第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費


第八條 本規程ハ入營ノ際臨時雇傭中ノ者及勤続六月ニ滿タサル者ニ對シテハ之ヲ適用セス
前項ノ規定ニ依ル勤続期間ノ算定ニハ臨時ニ雇傭セラレタル期間ヲ通算ス
第九條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム
附則
本規程施行ノ日ニ於テ現ニ入營中ノ者ニ付テハ本人ノ希望ニ依リ本年三月一日附テ以テ再採用シ同日以降本規程ヲ適用スルコトヲ得但シ本規程施行ノ際志願ニ依リ一般現役兵ノ服役期間ヲ超エテ現ニ服役中ノ者及入營ノ際第八條第一項ノ規定ニ該當シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

日傭労働者賃金支拂規程
制 定 昭二二四、二八告示二七三
最近改正 昭一六、五 告示二六一
日傭労働者賃金支拂規程左ノ通相定メ昭和十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
日傭労働者賃金支拂規程
第一條 職業紹介所ノ紹介ニ依リ本市ニ於テ使傭スル労働者ノ賃金支拂ハ別記様式ニ依ル勞銀票ニ依リ之ヲ爲スモノトス
第二條 勞銀票ハ毎日ノ賃金ニ付使傭労働者ニ對シテ之ヲ發行ス
第三條 勞銀票ニ依ル賃金ノ支拂ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外一日ニ付三枚以内トス
第四條 支拂ハ左ノ場所ニ於テ之ヲ爲ス

四 其ノ他所定ノ様式及色彩ヲ具備セサルモノ
第十條 左ノ場合ヲ除クノ外勞銀票ハ之ヲ再發行セス
一 前條ノ規定ニ依ルモノニシテ再發行スヘキモノト認ムルトキ
二 勞銀票ヲ紛失シタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ提供シ又ハ保證人ヲ立テタルトキ
前項第二號ノ規定ニ依ル擔保ハ既發行ノ勞銀票ヲ返還シタルトキ又ハ時効期間滿了シタルトキ之ヲ還付ス
第十一條 賃金ノ支拂ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
附則
電氣局ニ於テ現ニ調製シアル用紙ハ昭和十二年八月末日迄之ヲ使用スルコトヲ得
附則 (昭一六、五、告示二六一)
本改正規定施行ノ際現ニ保有スル勞銀票及用紙ニ付テハ仍從前ノ様式ニ依ルコトヲ得

〔大例一三號〕
〔大例一三號〕
三二八
三二九

シールプレス



事業名 昭和何年度 工番号

No 簿册番號 局部名 勞銀票 No 各票通シ番號

昭和 年 月 日 出 務	
豫算科目	
従業場所	
所 屬 名	従業 番 號
支 拂 額	全
職 名	單 價 圓
定 步	人 步 厘
時間外	
特別步	
減 步	
計	
監督者印	
受領者印	
上記金額正 = 領收候也 昭和 年 月 日	
勞務者 氏 名	
登録番號	

(80m.m)
(91m.m)

備考

- (1) 事業名ハ電氣局勞銀票ニアリテハ經濟名ヲ記入スルコト
- (2) 工事名ハ電氣局勞銀票ニアリテハ事業部課名ヲ記入スルコト
- (3) 簿册番號及勞銀票各業通シ番號ハ印刷スルコト
- (4) 豫算科目欄ハ電氣局勞銀票ニアリテハ豫算科目及財産整理科目ノ二欄トスルコト
- (5) 監督者印欄下隅ニ勞銀票記入者ノ認印(小形)ヲモ押捺スルコト
- (6) 勞銀票ノ上部二十八ミリメートル以内ヲ左記種別ニ依リ著色ス但シ事業別其ノ他特ニ区分ノ必要アルトキハ其ノ濃淡ニ依ルコト

(局部名) (色種別)

注意

- 一 賃金ハ本票ト引換ニ支拂フモノトス
- 二 本票ハ日備勞働者賃金支拂規程所定ノ場合以外ハ如何ナル事由アルモ再發行セズ

電氣局 淡 紅(赤)
水道局 水 色(青)
土木局 洋 橙(黃)

[大例一三號]

發行セズ

- 三 左ノ勞銀票ハ無効トス
 - (イ) 公印又ハ監督者印ナキモノ
 - (ロ) 支拂金額ヲ訂正シタルモノ
 - (ハ) 汚染シ又ハ毀損シタルモノニシテ其ノ眞偽ヲ認定シ難キモノ
 - (ニ) 其ノ他所定ノ様式及色彩ヲ具備セザルモノ
- 四 本票ハ之ヲ讓渡ヘルコトヲ得ス

大阪市役所 局 部 名

公 印

港 灣 局 淡 綠(綠)
其ノ他 白

(7) 用紙規格規則第一條第二號一連五十听乃至七十听ノモノヲ用ヒルコト

[大例一三號]

河川手掘浚渫賃金支給規程

制定 大九、四、八市長決定

浚渫土砂舟坪一坪ニ對シ

特等 四圓五十錢 沿岸、古杭、沈石、除却及橋下物揚場、互磯其ノ他腐芥堆積箇所並ニ特ニ地質堅硬ナル場所ニ適用

一等 三圓五十錢 普通一般ニ適用

二等 三 圓 前記以外土質泥濘特ニ積載ノ容易ナル場合ニ適用

手掘土砂運送賃金 一町毎ニ土砂一舟坪ニ對シ五錢

旅費條例

制定 明三二、二、二六告示參第四
最近改正 昭二八、七 規則 三

本市會ノ議決ヲ經テ明治二十二年十月大阪市告示第七號旅費規則ヲ左ノ

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

通改正ス

旅費條例

- 第一條 本市吏員其ノ他ニシテ公務ノ爲旅行スルトキハ本條例ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ外國ニ旅行スル場合ノ旅費ハ市長之ヲ定ム
- 第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、宿泊料及日當トシ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リテ支給ス
- 第三條 鐵道賃ハ鐵道又ハ軌道旅行、船賃ハ水路旅行、車馬賃ハ陸路旅行ニ之ヲ支給ス
- 第四條 鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス
- 第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ
- 第五條 市用ノ船、車、馬等ニ依リ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セズ
- 第六條 途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道、軌道

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

旅行ハ三百二十二粒、水路旅行ハ百八十五粒、陸路旅行ハ四十七粒ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第七條 日當ハ公務ノ爲宿泊シタル場合ヲ除キ陸路二十四粒未滿、鐵道及軌道百三十粒未滿又ハ水路四十八粒未滿ノ旅行ニ在リテハ定額ノ二分ノ一、陸路十粒未滿、鐵道及軌道五十四粒未滿又ハ水路二十粒未滿ノ旅行ニ在リテハ定額ノ三分ノ一トス

一 旅行ニシテ陸路、鐵道及軌道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道及軌道ハ五・四粒、水路ハ二粒ヲ以テ陸路一粒ト看做シ陸路ニ換算シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第八條 鐵道賃、船賃、車馬賃ハ各其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一粒未滿ノ端數ハ之ヲ切捨シ

第九條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スル必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ之ヲ計算ス

第九條ノ二 兼任又ハ兼務者ニシテ公務ノ爲旅行スルトキハ其ノ本務職ノ等級ニ依リ旅費ヲ支給ス

第十條 旅行中退職又ハ休職ト爲リタル者ニハ舊任職地ニ至ル前職又ハ本職相當ノ旅費ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 懲戒處分ニ因リ解職セラレタル者
- 二 職務ノ内外ヲ問ハス市吏員ノ體面ヲ汚シ又ハ信用ヲ害スヘキ行爲アリタルニ因リ解職セラレタル者

- 三 職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルニ因リ解職セラレタル者
 - 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ失職シタル者
- 旅行中死亡シタルトキハ前項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス
- 第十一條 事務引繼、殘務整理等ノ爲退職又ハ休職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職又ハ本職相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ旅費ヲ以テ支辨シ難キトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條 常時出張者ニ對シテハ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十四條 市長ハ時宜ニ依リ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得
- 第十五條 雇員ニシテ特別ノ取扱ヲ要スルモノ(雇外國人ノ類)及其ノ他別表中ニ記載セサル者ニ旅費ヲ支給スルノ必要アルトキハ別表ニ準シ市長之ヲ定ム
- 第十六條 國父ハ公共團體其ノ他ヨリ旅費ノ支辨ヲ受クルトキハ本條例ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給セス但シ其ノ受クル旅費額カ本條例ノ規定ニ依ル旅費額ヨリ少キトキハ市長ノ指定スルモノニ限り其ノ差額ヲ支給ス
- 第十七條 旅費ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
- 第十八條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

別表

等	級	鐵道賃一粒	船賃一粒	車馬賃一粒	宿泊料一夜	一日當
一 等	市長、助役、検査役、收入役、局長、技監、理事、區長、隊長、名譽職員	五 錢	四 錢	三 十 錢	十 二 圓	八 圓
二 等	年 給 者	四 錢	三 錢	二 十 五 錢	九 圓	六 圓
三 等	其ノ他ノ有給吏員	三 錢	七 厘	二 十 錢	六 圓	五 十 錢
四 等	雇 員、備 員	三 錢	一 厘	十 三 錢	四 圓	五 十 錢

旅費條例施行細則

制 定 昭二一、三、一二告示一三
最近改正 昭一八、七 告示二六六

旅費條例施行細則左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅費條例施行細則

第一條 旅行中身分ノ變更ニ依リ旅費ノ支給定額ニ増減ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ新ナル身分ニ相當スル定額ヲ支給ス但シ鐵道賃、船賃及車馬賃ニ付テハ最近ノ停車驛、寄港地又ハ豫定到達地ヲ以テ其ノ定額ヲ區分シテ之ヲ計算ス

第二條 旅費條例第十四條ノ規定ニ依ル旅費額左ノ如シ

- 一 同一地ニ於テ滞在十五日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ對スル宿泊料及日當ハ定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ二割、四十五日ヲ超ユルトキハ三割、六十日ヲ超ユルトキハ四割ヲ減ス

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

大正十四年達第四號旅費規程第十四條ニ依ル旅費額ハ之ヲ廢止ス

等	級	宿泊料一夜	一日當
一 等	市長、助役、検査役、收入役、局長、技監、理事、區長、隊長、名譽職員	十 圓	七 圓
二 等	年 給 者	八 圓	五 圓
三 等	其ノ他ノ有給吏員	六 圓	三 圓
四 等	雇 員、備 員	四 圓	二 圓

旅費ニ關スル臨時措置條例

本市會ノ議決ヲ經テ旅費ニ關スル臨時措置條例左ノ通相定メ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 旅費ニ關スル臨時措置條例
 市長ハ當分ノ内時宜ニ依リ旅費條例ノ定ムル旅費額ニ其ノ三割以内ヲ加給スルコトヲ得

旅費ニ關スル臨時措置條例施行細則

制定 昭一六、二二、二六告示六四七
 最近改正 昭一七、四、告示一三三

旅費ニ關スル臨時措置條例施行細則左ノ通相定メ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 旅費ハ當分ノ内旅費條例ノ定ムル旅費額ニ左ノ額ヲ加給ス但シ

日歸リ出張ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 一 昭和十七年一月一日ヨリ 旅費條例ノ定ムル旅費額ノ一割
 同 昭和十七年一月一日迄

二 昭和十七年二月一日ヨリ 同 二割
 同 昭和十七年三月末日迄
 三 昭和十七年四月一日以降 同 三割
 第二條 本細則施行ノ際現ニ出張中ノ者ニシテ本細則ニ依リ加給ヲ爲スノ要アル者及本細則施行後旅程ノ前條兩號ニ跨ルモノニ對シテハ旅費條例第九條ノ規定ヲ準用ス

滿洲國及支那出張旅費ニ關スル件

制定 昭一三、一一、二二市參事會議決
 本市吏員其ノ他ニシテ本邦、滿洲國及支那間ヲ旅行スル場合ニ於ケル旅費額ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外市長之ヲ專決スルモノトス

(經濟局) 海外貿易調査ニ關スル外國旅費支給ノ件

制定 大一一五、五、一八市參事會議決
 本市吏員其ノ他ニシテ海外貿易調査ノ爲本邦外國間ヲ旅行シ又ハ外國ヲ旅行スルトキハ左ニ定ムル所ニ依リ視察費及旅費ヲ支給スルモノトス
 但シ大正十一年六月參議第十九號議決支那貿易調査囑託員ニ對スル外國旅費ノ件ハ之ヲ廢止ス

區分	日當	宿泊料		船車賃	支度料		移轉料	
		甲地方	乙地方		甲	乙		
理事	一五圓	四二圓	二二圓	七〇〇圓以内	六〇〇圓以内	四五〇圓以内	三五〇圓以内	
				一級實費	二級實費			

【大例一三號】

年給者	月給者		日給者	年給者	月給者	日給者
	百圓以上	百圓未満				
一〇	八	六	五	二四	二二	一七
				同	最低實費	同
六〇〇圓以内	五〇〇圓以内	四〇〇圓以内	三〇〇圓以内	五〇〇圓以内	四〇〇圓以内	三〇〇圓以内
三五〇圓以内	三〇〇圓以内	二五〇圓以内	二〇〇圓以内	三五〇圓以内	二五〇圓以内	二〇〇圓以内
三〇〇圓以内	二五〇圓以内	二〇〇圓以内	一五〇圓以内	三〇〇圓以内	二〇〇圓以内	一五〇圓以内

【大例一三號】

備考

- 陸路旅行(鐵道旅行ヲ除ク)ニハ車馬賃ノ實費ヲ支給ス
 - 宿泊ヲ要セサル旅行ニハ船車賃又ハ車馬賃ノ實費ノミヲ支給ス
 - 支度料ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ之ヲ支給ス但シ出張ノ場合ハ定額ノ半額以内トス
 - 移轉料ハ外國ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ本廳勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者ニ之ヲ支給ス
 - 前二號ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ又ハ外國ニ在勤中許可ヲ受ケ妻子ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムルトキ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス
 - 妻ハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃ノ全額並日當宿泊料、支度料ノ半額
 - 子ハ十二歳以上ノモノニ在リテハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ半額、十二歳未満ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額
- 第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

第七類 給與 第一章 費用辨償、給料及旅費

(經濟局)上海駐在員一時歸廳ノ場合滞在旅費支給ニ關スル件

支那貿易調査ノ爲上海ニ駐在ヲ命セラレタルモノ臨時歸廳ノ場合ニ於ケル内地滞在旅費ハ左ノ通り定ムルモノトシ可然哉
記
旅費ハ歸廳ノ日ヨリ其ノ滞在中内國旅費ヲ給シ歸任ノ日ヨリ往返旅費ヲ給ス
制 定 大一一、一〇、四市長決定

諸職員ノ諸給與金任意處分禁止ノ件

本市有給吏員、雇傭員(現業員及從業員ヲ含ム)及市立學校、幼稚園、圖書館ノ教職員並雇傭員ハ其ノ俸給、給料其ノ他本市ヨリ支給セララル一切ノ職務上ノ給與金債權ヲ處分スヘカラス
昭九、一〇、二七告示三七八
昭和九年十月二十五日達第一七二號ヲ以テ本市有給吏員、雇傭員(現業員及從業員ヲ含ム)及市立學校、幼稚園、圖書館ノ教職員並雇傭員ニ對シ俸給、給料其ノ他本市ヨリ支給スヘキ一切ノ職務上ノ給與金債權ノ任意處分ヲ禁止シタリ

第二章 手當及獎勵金

第一節 特殊勤務手當

工事現場監督者等特別手當支給規程

制 定 昭一二、九、一五三
最近改正 昭一七、六達二〇八ノ一四
工事現場監督者等特別手當支給規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工事現場監督者等特別手當支給規程

第一條 市役所及所屬公署執務時間並休日ノ定ニ依ル市役所執務時間及休日ニ依ラサル吏員及雇傭員(電氣局勤務者ヲ除ク)ニシテ常時工事現場ニ出張シ監督ニ從事スル者及工事現場係員詰所勤務者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス但シ賄料支給規程ノ適用ヲ受ケサル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 手當額左ノ如シ

- 一 技 師 一月 七圓五十錢以内
- 二 技 手、書 記 一月 六 圓以内
- 三 技術員、事務員 一月 四圓五十錢以内
- 四 雇 員 一月 三 圓以内

第三條 手當ハ實勤務日數一月ニ付二十日以内ナルトキハ三分ノ一ヲ、十日以内ナルトキハ三分ノ二ヲ減シ、五日未滿ナルトキハ之ヲ支給セ

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

【大例一三號】

【大例一三號】

前項實勤務日數ノ計算ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 遲參早退ハ一月三回ヲ以テ缺勤一日ト看做ス
- 二 一日六時間以上勤務ニ服セサルトキハ當日ハ缺勤ト看做ス
- 第四條 勤務成績著シク不良ト認ムル者ニ對シテハ手當額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 第五條 毎月分ノ手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日(休日ニ當ルトキハ順次繰下トス)ニ之ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 各局部、課、隊長其ノ所屬員ニ對シ本規程ニ依ル手當ヲ支給スヘキ勤務ヲ命セントスルトキハ別記様式ニ依リ總務局長ニ合議スヘシ之ヲ免セントスルトキ亦同シ
- 第七條 各局部、課、隊長ハ工事現場監督者又ハ工事現場係員詰所勤務者出張簿ヲ備ヘ其ノ職、氏名、出張事由、出張先、出張月日、出張返歸廳ノ時刻其ノ他必要事項ヲ記載スヘシ
- 第八條 本手當ハ賄料支給規程ニ依ル賄料ト之ヲ併給ス

附 則

本規程施行ノ際現ニ本規程ニ依ル手當ヲ受クヘキ勤務ニ從事スル者ニ付テハ第六條ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ各部、課、隊長ハ本規程施行ノ日ヨリ十五日以内ニ別記様式ノ申請書ニ準シ報告書ヲ作成シ市長ニ之ヲ提出スヘシ

(別記)

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金
工事現場監督勤務命令書

三三八

職名	勤務狀況		勤務開始月日	勤務終了月日
	出勤日数	欠勤日数		
局長				
課長				
主任				
係長				
事務員				
その他				

備考
一 勤務狀況該當欄ニハ○印ヲ記入スルコト
二 勤務終了月日欄ハ勤務ヲ免セントスル場合記入スルコト

從業員精勤手當支給規程

制定 昭一五、七、一、一六九
從業員精勤手當支給規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【大例一三號】

大正十一年四月二十七日水道部長決定水道部諸職夫精勤手當並勤務獎勵金支給ノ件第四項、昭和十四年達第三一一號水道部工場從業員賃金規則中第十四條、同年達第三一〇號港灣部機械工場從業員賃金規則第十四條及昭和十一年達第五〇號土木部所屬渡船從務者給與規程第四條中一並常備員夏期特別手當支給規程ヲ削リ、昭和十一年達第五五號常備員夏期特別手當支給規程ハ之ヲ廢止ス

木薪炭自動車運轉從事者手當支給規程

制定 昭一五、一〇、一、四三九

木薪炭自動車運轉從事者手當支給規程左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 木薪炭自動車(乗合自動車ヲ除ク)ノ運轉又ハ瓦斯發生爐及附屬装置ニ關スル作業(以下附帶作業ト稱ス)ニ從事シタル者ニ對シテハ當分ノ内本規程ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス
- 第二條 本手當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
 - 一 自動車運轉士及自動車運轉手
 - (イ)運轉及附帶作業ヲ單獨ニテ爲シタル場合 一日 三十錢
 - (ロ)附帶作業從事者アル場合 一日 二十五錢
 - 二 附帶作業從事者トシテ専任セラレタル者 一日 二十錢
- 第三條 本手當ノ支給ヲ受クル者勤務時間外ニ於テ附帶作業ヲ爲シタルトキト雖附帶作業中ノ時間ニ對シテハ時間外勤務賄料又ハ歩増給ヲ支給セス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

三三九

從業員精勤手當支給規程

- 第一條 本市常備從業員(電氣局勤務ノ者ヲ除ク)ニシテ精勤ノ者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ精勤手當ヲ支給ス
- 第二條 精勤手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ期間中ニ於ケル勤務成績ニ基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
 - 一 皆勤者 一月 二圓
 - 二 缺勤一日ノ者 一月 一圓
- 第三條 前條ノ期間中ニ於テ公傷病ニ因ル休業、忌服及休暇日(公休日ヲ含ム)ヲ通算シ十五日(前條第二項ノ該當者ニ在リテハ十日)ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ハ本規程ノ適用ニ關シテハ之ヲ缺勤ト看做ス
遲參早退ハ二回ヲ以テ缺勤一日ニ換算シ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ繰上ケ缺勤一日トシテ前條ノ規程ニ依リ支給額ヲ定ム
- 第四條 從業員服務規程第三十八條ノ規定ニ依リ勤務ヲ停止セラレタルトキ及同規程第五十六條ノ規定ニ依リ懲戒ニ處セラレ若ハ第六十五條ノ規定ニ依リ賠償ヲ命セラレタルトキハ其ノ月ノ精勤手當ハ之ヲ支給セス
- 第五條 毎月分ノ精勤手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料支給日ニ之ヲ支給ス但シ給料支給日月二回以上アル場合ハ最終支給日トス

附則

【大例一三號】

- 第四條 毎月分ノ手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日(電氣局所屬ノ者ニ對シテハ二十五日)ニ之ヲ支給ス
- 第五條 遲參、早退其ノ他ニ因リ勤務ヲ缺キ又ハ執務中不都合ノ所爲アリタルトキハ本規程ニ依リ手當支給額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 第六條 本規程ニ依ル手當ハ一時限リ雇傭ノ者ニ對シテハ之ヲ支給セス
- 第七條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム

電氣局運輸職員給與規程

制定 大一四、一〇、二七號 四九

最近改正 昭一八、三三號 一四三ノ二

- 電氣局運輸職員給與規程左ノ通相定メ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第一條 電氣局運輸職員給與規程ニ依リ採用セラレタル運輸職員(日勤ノ運輸事務員ヲ除ク以下同シ)ニ對シテハ本規程ニ依リ業務手當、紋日手當、賄料及夜勤賄手當ヲ支給ス
- 第二條 業務手當ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 一 月給ノ運輸事務員、運輸監督及信號員
 - 一入平均一月 十三圓
- 二 日給ノ運輸事務員 同 七圓
- 三 日給ノ運輸監督、信號員及女子指導員 同 七圓

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

同 十圓

前項ノ平均額ハ之ヲ給料支給期間在職ノ者ニ對スル支給標準額トシ給料支給期間ノ中途ニ於テ退職又ハ就職シタル者ニ對スル支給標準額ハ前項平均額ノ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第三條 紋日手當ハ大祭祝日其ノ他ノ日ニ定時間勤務セシ者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭及明治節 一日 一圓
- 二 一月十日、七月二十五日及十二月三十一日 同 二圓

第四條 賄料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

區別	回数又ハ時間	金額
宿直 賄料	一 度	八 十 錢
休日勤務賄料	定 時 間	一 圓 五 十 錢
時間外勤務賄料	三 時 間 以 上	六 十 錢
	五 時 間 以 上	八 十 錢

第五條 二十四時間三十分ノ隔日勤務ノ運輸職員ニシテ夜勤ヲ爲シタルトキハ電氣局勤務ノ吏員ノ例ニ依リ夜勤賄手當ヲ支給ス

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ電氣局長之ヲ定ム

附 則 大正九年三月達第十二號運輸現業員特別勤務手當支給規程、大正十一年

七月達第二十六號電氣鐵道部運輸現業員臨時手當支給規程、大正十一年七月達第二十七號電氣局運輸現業員代務手當支給規程、大正九年三月達第十一號電氣局運輸現業員支給規程ハ之ヲ廢止ス

電氣局運輸從業員給與規程

制 定 大 一 四、一〇、二七號 五〇
最近改正 昭一八、三 一四三ノ三

電氣局運輸從業員給與規程左ノ通相定メ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局運輸從業員給與規程

第一條 電氣局現業員採用規程ニ依リ採用セラレタル電車車掌、電車運轉手、轉轍手、自動車信號手、電車手及運輸使丁ニ對シテハ本規程ニ依リ業務手當、兼務手當、紋日手當、宿直手當、賄料及夜勤賄手當ヲ支給ス

第二條 業務手當ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

- 一 電車車掌、電車運轉手 一人平均一月 十圓
- 二 轉轍手、電車信號手、自動車信號手 同 同 七圓
- 三 電車手 同 同 三圓

前項ノ平均額ハ之ヲ給料支給期間在職ノ者ニ對スル支給標準額トシ給料支給期間ノ中途ニ於テ退職又ハ就職シタル者ニ對スル支給標準額ハ前項平均額ノ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

時間外勤務賄料	三 時 間 以 上	三 十 錢
	五 時 間 以 上	四 十 錢

第五條ノ二 二十四時間三十分ノ隔日勤務ノ運輸使丁ニシテ夜勤ヲ爲シタルトキハ一度ニ付三十錢ノ夜勤賄手當ヲ支給ス

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ電氣局長之ヲ定ム

附 則

大正九年三月達電第一號臨時勤務手當支給規程ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭一八、三達一四二)

本改正規定ハ昭和十八年一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局乘合自動車乘務員給與規程

制 定 昭 八、一、一八達一二四
最近改正 昭一七、七 達一六三

電氣局乘合自動車乘務員給與規程左ノ通相定メ昭和八年十二月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局乘合自動車乘務員給與規程

第一條 本規程ニ於テ乘合自動車乘務員トハ電氣局現業員採用規程ニ依リ採用セラレタル自動車運轉手及自動車車掌ヲ謂フ

第二條 乘合自動車乘務員ニハ本規程ニ依リ左ノ手當ヲ給與ス

- 一 業務手當
- 二 ガソリン手當
- 三 運轉手當

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

區別	回数又ハ時間	金額
宿直 賄料	一 度	四 十 錢
休日勤務賄料	定 時 間	四 十 錢

第五條 賄料ハ運輸使丁ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

第四條ノ二 轉轍手、電車手及自動車信號手ニシテ宿直ヲ爲シタルトキハ一度ニ付五十錢ノ宿直手當ヲ支給ス

十二月三十一日 同 一圓

二 運輸使丁 紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭及明治節 一日 五十錢

一月十日、七月二十五日及十二月三十一日 同 二圓

紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭及明治節 一日 一圓

一 電車車掌、電車運轉手、轉轍手、電車信號手、自動車信號手、電車手

第四條 紋日手當ハ大祭祝日其ノ他ノ日ニ定時間勤務セシ者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 兼務手當ハ電車運轉手ニシテ電車車掌ヲ兼務スル者電車車掌ノ勤務ヲ命セラレ一日三回以上乗務シタル者ニ金二十錢ヲ支給ス

前項ノ乗務回数ハ一運輸系統ヲ以テ一回トス但シ時宜ニ依リ其ノ未滿ヲ以テ一回ト看做スコトアルヘシ

大正九年三月達第十二號運輸現業員特別勤務手當支給規程、大正十一年

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

四 紋 日 手 當

勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ前項ノ手當ヲ支給セサルコトアルヘシ

第三條 業務手當ハ業務成績ニ應ジ一月一人平均十圓ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

第四條 ガソリン手當及運轉手當ハ自動車運轉手ニ對シ左ノ各號ニ依リテ之ヲ支給ス但シ一月ヲ通シ責任行程ヲ運轉勤務セサル者ハ之ヲ除外ス

一 ガソリン手當ハ別ニ定ムル標準消費量ヨリ各人ノ節約シ得タルガソリン量ニ應ジ一人一月平均五圓

二 運轉手當ハ各人ノ運轉料及業務成績ニ應ジ一月一人平均十五圓

第五條 前二條ノ金額ハ一月間在職シタル者ニ支給スヘキ標準額ニシテ月ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ支給スヘキ標準額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第六條 非常業務車乗務其ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル者第三條及第四條ノ給與ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ電氣局長其ノ勤務狀態ヲ考査シ相當ノ補給ヲ爲スコトヲ得

第七條 紋日手當ハ當日定時間勤務ニ服シタル者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭及明治節 一日 一圓
- 二 一月十日(戎祭)、七月二十五日(天神祭)及十二月三十一日 一日 二圓

テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算ス

電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金 規程施行細則

制 定 昭 七、一、九 告示 四 最近改正 昭一七、二、二 告示 四七五

電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程施行細則左ノ通相定ム

第一條 電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程施行細則ノ適用ヲ受タル運輸職員及運輸從業員ハ電氣局現業員採用規程ニ依リ採用セラレタル運輸事務員、運輸監督、信號員、女子指導員、事務手、電車車掌、電車運轉手、自動車運轉手、轉轍手、自動車信號手及電車手トス

規程第二條第二號ノ雜役夫トハ電車手ヲ謂フ

第二條 勤續年數ノ計算ニ關シテハ前條ニ定ムル運輸職員、運輸從業員トシテ電氣局ニ就職シタル月ヨリ之ヲ起算ス

第三條 勤續給與金年額ノ前期分ハ當該年數ニ達シタル月ノ翌月ヨリ、後期分ハ前期滿了月ノ翌月ヨリ各起算シ六月ニ達シタル月ノ翌月中ニ之ヲ支給ス

第四條 運輸職員、運輸從業員以外ノ職務ニ轉職シタル者ハ規程ノ適用ニ關シテハ退職シタルモノト看做ス

本細則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

第八條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ電氣局長之ヲ定ム

昭和二年達第三七號電氣局乗合自動車運轉手、車掌獎勵手當及賄料支給規程ハ之ヲ廢止ス

電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金 規程

制 定 昭 六、二、二、三、告示 三二八

市制第九十一條第一項ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經電氣局運輸職員運輸從業員勤續給與金規程左ノ通相定メ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程

第二條 勤續給與金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給與ス

一 運輸職員、運輸從業員(雜役夫ヲ除ク)ニシテ勤續二年ノ者ニハ年額二十五圓、以後一年ヲ増ス每ニ金五圓ヲ加給シ年額金百圓ニ至リテ止ム

二 雜役夫ニシテ勤續三年ノ者ニハ年額金二十五圓、以後一年ヲ増ス每ニ金五圓ヲ加給シ年額金百圓ニ至リテ止ム

第三條 勤續給與金ハ六月毎ニ年額ノ二分ノ一ヲ給與ス但シ退職又ハ死亡ノ際ハ六月未滿ノ端數ニ對シテハ之ヲ給與セス

附 則

〔大例一三號〕

第一條所定ノ運輸職員及運輸從業員ニシテ昭和十五年五月三十一日以前ニ於テ教習所教員、信號手、信號手補、電車車掌助手、自動車車掌補、信號人又ハ雜役夫タリシ者ノ勤續年數ノ算定ニ關シテハ教習所教員、信號手、信號手補、電車車掌助手、自動車車掌補、信號人又ハ雜役夫タリシ期間ヲ通算ス

電氣局技術職員、技術從業員並備員勤續給與金規程

制 定 大 二、四、二、二、告示 二五二

本市會ノ議決ヲ經電氣局技術職員、技術從業員並備員勤續給與金規程左ノ通相定メ大正十四年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 技術職員、技術從業員並備員勤續給與金規程

第二條 勤續給與金ハ三年以上勤續シタル者ニ之ヲ給與ス勤續三年ノ者ハ年額金二十五圓トシ以後一年ヲ増ス每ニ金五圓ヲ加給シ年額金百圓ニ至リテ止ム

第三條 勤續給與金ハ六箇月毎ニ年額ノ二分ノ一ヲ給與ス但シ退職又ハ死亡ノ際ハ六箇月未滿ノ端數ニ對シテハ之ヲ給與セス

本規程施行ノ期日ハ市長之ヲ定ム

本規程施行ノ際現ニ電氣局ニ在職セル現業員ノ勤續年數ニ付テハ常備ト

シテ本市ニ就職シタル月ヨリ之ヲ計算ス

電氣局技術職員、技術従業員並傭員勤績給與金規程施行細則

制 定 大一五、一、三一告示一四
最近改正 昭一八、三、告示七〇

電氣局技術職員、技術従業員並傭員勤績給與金規程施行細則左ノ通相定ム

電氣局技術職員、技術従業員並傭員勤績給與金規程施行細則

第一條 電氣局技術職員、技術従業員並傭員勤績給與金規程（以下規程ト稱ス）ノ適用ヲ受クル技術職員、技術従業員及傭員ハ電氣局現業員採用規程ニ依リ採用セラレタル技術員、木工、石工、電工、機工、電路工、建築工、軌道工、測量工、塗工、印刷工、縫工、作業手、倉庫手及貨物自動車運轉手トス

第二條 勤績年數ノ計算ニ關シテ常備トシテ電氣局ニ就職シタル月ヨリ之ヲ起算ス

第三條 勤績給與金年額ノ前期分ハ當該年數ニ達シタル月ノ翌月ヨリ、後期分ハ前期滿了月ノ翌月ヨリ各起算シ六月ニ達シタル月ノ翌月中ニ之ヲ支給ス

附 則

規程施行ノ際勤績三年以上ニ達シタル者ノ第一次ノ給與方法ニ關シテハ電氣局長之ヲ定ム

港灣局從業員特別手當支給規程

制 定 昭一八、一〇、一四達三七九

港灣局從業員特別手當支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

港灣局從業員特別手當支給規程

第一條 港灣局所管ノ各種事業用諸船艇乗組補助船員ニ對シ船長又ハ船機關長ノ職務ヲ代理セシメタルトキハ左ノ各號ニ依リ代務手當ヲ支給ス

一 代務手當ハ代務一時間ニ付日給額ノ百分ノ五トス但シ一日ニ付日給額ノ百分ノ七十ヲ超ユルコトヲ得ズ

二 時間ノ計算上一時間未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ三十分以上ハ之ヲ一時間ニ切上ゲ三十分未滿ハ之ヲ切捨ツ

前項ノ日給額トハ月給者ニ在リテハ月給額ノ三十分ノ一トス

第二條 潜水作業ニ従事スル者ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ潜水作業手當ヲ支給ス

一 潜水作業手當ハ作業時間三十分ニ付三十八錢トス

二 作業時間三十分未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ業務ノ都合又ハ天候等ニ因リ作業ノ中止ヲ命ジタル結果生ジタル端數ニ限リ之ヲ三十分トシテ計算ス

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

水道局從業員交代勤務手當支給規程

制 定 昭一八、一〇、一四達三八〇

水道局從業員交代勤務手當支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

水道局從業員交代勤務手當支給規程

第一條 水道局所屬交代勤務ノ常備従業員ニシテ精勤ノ者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ交代勤務手當ヲ支給ス

一 晝夜交代

甲 皆 勤 者 月額 六圓
乙 遲參又ハ早退一回ノ者 同 四圓

二 晝夜三交代

甲 皆 勤 者 月額 三圓
乙 遲參又ハ早退一回ノ者 同 二圓

月ノ五日以前ニ就職シタル者又ハ六日以後ニ退職若ハ死亡シタル者ニ對シテハ前項ノ區分ニ依ル支給額ノ半額ヲ支給シ六日以後ニ就職シタル者又ハ五日以前ニ退職若ハ死亡シタル者ニ對シテハ其ノ月ノ交代勤務手當ハ之ヲ支給セズ

第二條 公傷病ニ因ル休業、公休日、特別休暇及忌服期間ヲ通算シ一月十五日（前條第二項ノ該當者ニ在リテハ十日）ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ハ之ヲ缺勤ト看做シ其ノ月ノ交代勤務手當ハ之ヲ支給セズ

第三條 本手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料計算期間ニ依リ給料支給日ニ之ヲ支給ス

土木局渡船從業員特別手當支給規程

制 定 昭一八、一〇、一四達三八〇

土木局渡船從業員特別手當支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

土木局渡船從業員特別手當支給規程

第一條 昭和七年四月一日渡船事業直營ノ際現ニ船夫タリシ者ニシテ引續キ其ノ職ニ在ル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ特別手當ヲ支給ス

第二條 特別手當ハ出勤日數ニ應ジテ之ヲ支給ス但シ遲參又ハ早退ヲ爲シタルトキハ其ノ日ノ手當ノ一部若ハ全部ヲ支給セザルコトアルベシ

公休日、特別休暇及忌服期間ハ前項ノ出勤日數ニ算入ス

第三條 渡船場勤務手當ノ支給ヲ受クル者勤務場所ニ異動アルモ其ノ支給額ハ之ヲ變更セズ

第四條 本手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料計算期間ニ依リ給料支給日ニ之ヲ支給ス

第五條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長ニ合議ノ上土木局長之ヲ定ム

渡船事業從業員ノ給與ニ關スル件

制 定 大一五、三、三一告示 六六
最近改正 昭一五、二、告示 七一

渡船事業從業員ノ給與ニ關スル件左ノ通相定メ大正十五年四月一日ヨリ

之ヲ施行ス

渡船事業從業員給與ニ關スル件

第一條 本市渡船事業請負者ノ使用人ニシテ專ラ本市渡船事業ニ從事スル船夫及作業手退職、負傷又ハ死亡シタル場合ニハ本市雇員其ノ他日給者特別給與規程第三條並第十一條及職工、工夫扶助規程第一條第二項、第三條乃至第十二條ノ規定ニ準シ給與金ヲ支給スルコトヲ得

第三條

第一條ニ依リ給與ヲ受クヘキ者ノ勤續年數ノ計算ハ明治四十年四月一日(渡船事業ヲ市營ニナシタル時期)以降ニ於テ本市渡船事業ノ船夫及作業手ニ從務シタル月ヨリ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

本規定施行前ニ退職又ハ死亡シタル者ニハ本規定ヲ適用セス

學校幼稚園郊外學園職員其ノ他特別手當支給規程

大阪市立學校幼稚園六甲郊外學園職員其ノ他特別手當支給規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市立學校幼稚園郊外學園職員其ノ他特別手當支給規程

第一條 本規程ニ於テ特別手當ト稱スルハ左ノモノヲ謂フ

- 一 講習手當
二 監護手當
三 寄宿手當
四 養護學校特別手當

第二條

國民學校、國民學校ニ類スル各種學校及幼稚園職員成規ノ手續ニ依リ講習會ニ出席シタルトキハ講習料相當額(材料費ヲ要スル講習ニ在リテハ之ヲ含ム)ノ講習手當ヲ支給ス但シ池田師範合同研究會出席ノ場合ハ一人一回ニ付一圓トス

第三條

手當ヲ支給スル講習會ニ職員ヲ入會セシメタルトキハ教育局長ニ於テ取纏メタル場合ヲ除クノ外當該學校長ヨリ主催者、講師、科目、期間、會場、講習料、入會セシメタル職氏名其ノ他必要ナル事項ヲ具シ市長ニ報告スヘシ

第四條

學校幼稚園ニ於テ修學旅行其ノ他ノ行事ヲ實施スルニ際シ監護附加又ハ指導ヲ爲シタル職員其ノ他ニ對シテハ一人一日ニ付左表ニ依リ監護手當ヲ支給ス

【大例一三號】

【大例一三號】

Table with columns for School Type (學校幼稚園), Activity Type (行事ノ種別), Position (職員), Salary (手當), and Category (類別). Rows include National Schools (國民學校), Kindergarten (幼稚園), and Youth Schools (青年學校).

特別ノ事情ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ豫メ市長ノ許可ヲ受クヘシ
本市國民學校水泳教師適任證所持者ニシテ夏季水泳授業ノ指導ニ當リタルトキハ一人一日ニ付前二項ノ規定ニ依ル手當ノ外五十錢以内ノ手當ヲ加給スルコトヲ得

第五條

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ監護手當ハ之ヲ支給セス
一 國民學校及國民學校ニ類スル各種學校ノ校外授業、幼稚園ノ園外保育又ハ青年學校ノ體育訓練ヲ市内ニ於テ實施スル場合

二 青年學校ノ見學、野外教練又ハ野外體育訓練ニ於テ出發ヨリ歸校迄三時間ヲ要セサル場合

第六條 郊外學園職員及備員ニシテ寄宿ヲ爲ス者ニハ左ノ寄宿手當ヲ支給ス

職員 一月 五圓
備員 一月 二圓
月ノ中途ヨリ寄宿シ又ハ之ヲ廢シタル者ニ對シテハ其ノ月分ノ手當ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

第七條 養護學校所屬員ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ養護學校特別手當ヲ支給ス

職員	一月	三圓
事務員及衛生婦	一月	二圓
使丁及常備雜役	一日	三錢

前項ノ手當ノ支給ニ關シテハ給料支給ノ例ニ依ル

附則 (昭一四、八、二六)

本改正規程ハ昭和十四年度ニ於テ既ニ夏期野外訓練ニ從事シタル者ニ對シテモ之ヲ適用ス

附則 (昭一五、一一、四八)

本改正規程ハ昭和十五年十月分ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭一七、四、二二)

本改正規程ニ依リ特別手當ハ昭和十七年三月分ヨリ之ヲ支給ス

動物園勤務雇員特別手當支給規程

制 定 昭一八、三、四、七、八

動物園勤務雇員特別手當支給規程左ノ通相定メ昭和十八年一月一日ヨリ之ヲ施行セリ

第一條 動物園ニ勤務スル雇員ニ對シ當日ノ有料入場人員ニ應ジ左ノ區別ニ依リ特別手當ヲ支給ス

動物園勤務雇員特別手當支給規程

〔大例一三號〕

傳染病豫防救治に従事者手當支給規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

傳染病豫防救治に従事者手當支給規程

第一條 傳染病ノ豫防救治ニ從事スル吏員及雇員ニ對シテハ本規程ニ依リ手當ヲ支給ス

第二條 法定傳染病豫防救治ニ從事スル吏員及雇員ニシテ專ラ患者又ハ病源汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

一 吏員及雇員 給料月額 三分ノ一以内

〔大例一三號〕

一 吏員及雇員 一回 八十錢以内

二 備員 一回 四十錢以内

第五條 本規程ニ依リ手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 勤務成績不良ト認ムル者及一時限リ雇員ノ者ニ對シテハ本規定ニ依リ手當ヲ支給セズ

第七條 第二條及第三條ノ二ニ掲クル手當ニ付テハ保健局長及桃山病院長ハ毎月勤務ノ日數、勤務成績及危險ノ程度ヲ斟酌シテ本規定ニ依リ手當支給額ヲ定ムヘシ

第八條 削除

附則 (昭一四、一、二七)

第二條ノ二ノ規定ニ依リ手當ハ昭和十三年十二月分ヨリ之ヲ支給ス

附則 (昭一八、五、二七、一九五)

本改正規程ハ昭和十八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年十一月二十八日津守保健指導所並ニ員探少年保養所勤務者結核豫防救治に従事手當ニ關スル件及昭和九年三月三十一日市立健康相談所家庭訪問従事職員ニ對スル訪問手當支給ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

掃除監視吏員特別手當支給規程

制 定 昭八、一二、二三、一四〇

掃除監視吏員特別手當支給規程左ノ通相定メ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ

二 備員 給料月額 六分ノ一以内

ペスト、コレラ、發疹チフスノ豫防救治ニ從事スル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ増額支給スルコトアルヘシ

一 傳染病院勤務ノ吏員及雇員 給料月額 二十割以内

二 傳染病院勤務ノ看護婦 一日ニ付 二圓以内

三 傳染病豫防従事ノ吏員及雇員 給料月額 十割以内

第二條ノ二 熱帯病ノ豫防救治ニ從事スル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

一 吏員及雇員 給料月額 五分ノ一以内

二 備員 給料月額 十分ノ一以内

第三條 前二條ノ規定ニ依リ給料額ハ其ノ月末日ニ於ケル現在額ニ依リ但シ退職、解職、休職又ハ死亡シタル者ニ在リテハ其ノ退職、解職、休職又ハ死亡シタル時ノ現在額トス

第四條 健康相談所及少年保養所勤務者並ニ保健所其ノ他ノ勤務者ニシテ結核ノ豫防救治ニ從事スル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス但シ一月ノ勤務日數十五日以内ノ者ニ對シテハ其ノ半額トシ五日以内ノ者ニ對シテハ之ヲ支給セズ

一 別ニ定ムル吏員 月額 三十圓以内

二 前項以外ノ吏員及雇員 月額 十圓以内

三 備員 月額 五圓以内

第四條ノ二 保健局所屬消毒專務ノ吏員及雇員ニシテ引續キ二十四時間ヲ超エ勤務シタル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ特別勤務手當ヲ支給ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

施行ス

- 第一條 掃除監視吏員特別手當支給規程
- 第二條 掃除監視吏員清潔 法施行ニ從事シタルトキハ其ノ期間本規程ノ定ムル所ニ依リ特別手當ヲ支給ス
- 第三條 本手當ハ清潔方法施行期間中ノ出勤日數ニ應ジ翌月之ヲ支給ス
- 第四條 本手當ハ支給額左ノ如ク
清掃主事及清掃監督 一日 四十五錢
清掃 監視 一日 三十錢
- 第五條 遲參又ハ早退シタル者ニハ前條ノ規程ニ依ル手當支給額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 第六條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ保健局長之ヲ定ム

塵芥受託搬出料集金手當支給規程

制 定 昭二二五、一五五五四

- 第一條 塵芥受託搬出料集金手當支給規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二條 本市掃除監視吏員ニシテ塵芥受託搬出料ノ集金ニ從事スル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス
- 第三條 手當額ハ一月間ノ集金額ノ千分ノ五トシ之ニ集金件數一件ニ付一錢ヲ加フ
- 第四條 集金成績著シク不良ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル手當ノ支給額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 第五條 毎月分ノ手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日(休

日ニ當ルトキハ順次繰下トス)ニ之ヲ支給ス但シ一月分ノ手當額二十錢ニ充タサルトキハ順次翌月分ニ繰入ルルモノトス

三月分ノ手當ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第五條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ保健局長之ヲ定ム

保健局作業部從業員特別手當支給規程

制 定 昭一八、一〇、一四三三八二

- 第一條 保健局作業部從業員特別手當支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二條 塵芥蒐集並ニ汚泥處理作業ニ從事スル者自己ノ配置組中ニ缺員アル場合ニ於テ所定業務ノ作業ニ從事シタルトキハ過勤手當ヲ支給ス
- 第三條 前項ノ過勤手當ハ缺員一人ニ付十歩トシ之ヲ其ノ組ノ出勤員數ニテ除シタル率ヲ各自ノ日給額ニ乗ジ得タル額トス
- 第四條 前條ノ作業ニ從事スル者自己ノ配置組中ニ缺員アル爲若ハ作業ノ都合ニ依リ已ムテ得ズ公休日ニ出勤シ且ツ他ノ規定ニ依リ代休又ハ特別ノ給與ヲ得ザルトキハ一日ニ付一圓ノ公休日出勤手當ヲ支給ス
- 第五條 胞衣汚物取扱作業ニ從事スル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ衛生手當ヲ支給ス但シ月ノ五日以前ニ就職シタル者又ハ六日以後ニ退職、轉勤若ハ死亡シタル者ニ對シテハ其ノ半額トス
- 第六條 阿波堀田張所屬從業員 月 額 四 圓
- 第七條 木津川消毒加工場所屬從業員 月 額 六 圓

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

- 前項ノ手當ハ月十五日以内ノ勤務者ニ對シテハ之ヲ支給セズ
- 第四條 齋場勤務ノ者定勤務時間外ニ於テ火葬操業ニ從事シタルトキハ左ノ區別ニ依リ時間外勤務手當ヲ支給ス但シ一錢未滿ノ端數ハ一日毎ニ之ヲ切捨ツ
- 一 六月一日ヨリ九月末日迄
常 時 一日ニ付 日給額ノ百分ノ五十以内
非常時 同 百分ノ百以内
- 二 十月一日ヨリ翌年五月末日迄
常 時 一日ニ付 日給額ノ百分ノ三十五以内
非常時 同 百分ノ七十以内

- 前項ノ日數ノ計算ニ付テハ夜間作業ニシテ翌日ニ互リ勤務スルモ一日トス
- 第五條 齋場又ハ靈園勤務ノ者ニシテ埋火葬又ハ祭壇飾付作業ニ從事スル者ニ對シテハ一日ニ付七十五錢ノ特別手當ヲ支給ス
- 前項ノ手當ノ支給ニ付テハ雇傭員給料支給規程第四條ノ規定ヲ準用ス
- 第六條 第二條、第三條及前條ノ規定ニ依ル手當ハ臨時從業員ニ對シテハ之ヲ支給セズ
- 第七條 本規程ニ日給額ト八月給者ニ在リテハ月給額ノ三十分ノ一トス
- 第八條 本規程ニ依ル手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料計算期間ニ依リ給料支給日ニ之ヲ支給ス但シ公休日出勤手當ハ當月分ヲ其ノ最終ノ給料支給日ニ支給ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

第九條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長ニ合議ノ上保健局長之ヲ定ム

附 則

昭和十六年達第一六〇號清掃從業員特別手當支給規程及昭和十五年達第一五六號齋場及靈園勤務作業手當支給規程ハ之ヲ廢止ス

(經濟局)海外駐在員手當支給規程

制 定 昭一四、四、三二二

昭和十一年達第五四號大阪市海外駐在員手當及宿舍料支給規程左ノ通告正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 大阪市海外駐在員手當支給規程

第二條 本市海外駐在員ニ對シテハ本規程ニ依リ在外手當及所長手當ヲ支給ス

第三條 在外手當ノ支給額ハ別表ノ定ムル所ニ依ル但シ一時歸國ノ場合ニ於テハ駐在地出發ノ日ヨリ歸任ノ日迄日割ヲ以テ其ノ半額ヲ支給ス

第四條 在外手當ハ年額ヲ十二分シ毎月給料支給日ニ之ヲ支給ス但シ退職、解職、休職又ハ死亡シタルトキハ支給日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第五條 在外手當ハ任地到着服務ノ日ヨリ引揚ノ日迄トシ其ノ月分ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス但シ退職、解職又ハ休職ヲ命セラレタル者引續キ同一地ニ滞在スルトキハ退職、解職又ハ休職ノ日迄、死亡シタルトキハ死亡ノ日迄トス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

- 第五條 退職、解職又ハ休職トナリタル者事務引繼又ハ殘務整理ノ爲特ニ命テ承ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間仍從前ノ在外手當ヲ支給ス
- 第六條 在外手當支給ニ關シテハ大阪市有給吏員給料支給條例第三條、第九條、同施行細則第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス
- 第七條 所長手當ハ駐在地ノ事情其ノ他ヲ斟酌シ其ノ都度三百圓以上千圓以内ニ於テ市長之ヲ定ム
- 第八條 第三條、第四條及第六條ノ規定ハ所長手當ニ之ヲ準用ス
- 第九條 在外手當及所長手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

種別	書		記		主		事
	月給六十圓未滿ノ者	月給百圓以上ノ者	月給百圓未滿ノ者	月給百圓以上ノ者	年給二千圓未滿ノ者	年給二千圓以上ノ者	
關東州	同千三百圓	同千六百圓	同千三百圓	同千六百圓	同千九百圓	同千九百圓	年給二千圓未滿ノ者ノ給與金額ニ本俸ヨリ二割ヲ控除シタル額ヲ加算シタル金額
支那	同千二百圓	同千五百圓	同千二百圓	同千五百圓	同千二百圓	同千二百圓	同
滿洲	同千二百圓	同千四百圓	同千二百圓	同千四百圓	同千二百圓	同千二百圓	同
南洋	同千二百圓	同千九百圓	同千二百圓	同千九百圓	同千九百圓	同千九百圓	同
印度	同千二百圓	同千三百圓	同千二百圓	同千三百圓	同千四百圓	同千四百圓	同

(經濟局)海外駐在吏員給與ノ補給ニ關スル件

制定 昭一〇、六、二〇市長決定

- 一 上海、天津、哈爾濱、大連及錦州ニ駐在スル大阪貿易調査所吏員ノ受クヘキ諸給與金ハ本規程ニ依リ補給スルコトヲ得
 - 二 本規程ノ諸給與金トハ俸給、在外手當及宿舍料ノ三種トス
 - 三 補給金ハ當該吏員ノ受クヘキ諸給與金ノ月額合計ニ左ノ率ヲ乘シタルモノヲ以テス
 - (イ) 前月ニ於ケル平均爲替相場カ百弗ニ付一一〇圓以上一二〇圓未滿ナルトキハ一割
 - (ロ) 前月ニ於ケル平均爲替相場カ百弗ニ付一二〇圓以上ナルトキハ一〇圓迄ヲ増ス毎一割ヲ増ス
 - (ハ) 前月ニ於ケル平均爲替相場カ百弗ニ付一二〇圓以上ナルトキハ一〇圓迄ヲ増ス
 - 四 補給金ハ給料支給日ニ在外手當トシテ加給ス
- 附則
本規程ニ於テ補給金ヲ算出スヘキ基礎トナル爲替相場ハ上海向正金電價爲替相場ヲ以テス
本規程ハ決裁ノアリタル月ヨリ實施スルモノトス

中央卸賣市場吏員其ノ他特別勤務手當支給規程

制定 昭六、一〇、三一第一四四
最近改正 昭一四、六、二九 第一三三

中央卸賣市場吏員其ノ他特別勤務手當支給規程左ノ通相定メ昭和六年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

中央卸賣市場吏員其ノ他特別勤務手當支給規程

〔大例一三號〕

スル雜役ニシテ業務ノ都合ニ依リ早朝又ハ夜間勤務ヲ命シタル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ特別勤務手當ヲ支給ス但シ早朝勤務手當ハ勤務時間九時間以上ト定メラレタル者、夜間勤務手當ハ晝夜交替勤務ノ者ニ限リ之ヲ支給ス

一 早朝勤務手當

午前六時以前出勤ノ者	六十錢	吏員及雇員一人ノ金額	給仕使丁一人ノ金額
午前四時以前出勤ノ者	五十錢	吏員及雇員一人ノ金額	給仕使丁一人ノ金額
午前五時以前出勤ノ者	四十錢	吏員及雇員一人ノ金額	給仕使丁一人ノ金額
午前六時以前出勤ノ者	三十錢	吏員及雇員一人ノ金額	給仕使丁一人ノ金額
夜間勤務手當	四十錢	吏員及雇員一人ノ金額	給仕使丁一人ノ金額

中央卸賣市場從業員特別勤務手當支給規程

制定 昭一八、一〇、一四 第一三八四

中央卸賣市場從業員特別勤務手當支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

- 第一條 中央卸賣市場從業員特別勤務手當支給規程
- 第二條 中央卸賣市場所屬ノ從業員ニシテ勤務時間及休暇規程ニ定ムル勤務ニ服スル者引續キ晝夜勤務ニ服シタルトキハ日給額ノ十分ノ二ノ特別勤務手當ヲ支給ス但シ交替ノ爲引續キ兩勤務ニ服シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 前條ノ日給額トハ月給額ノ三十分ノ一トス
- 第四條 本手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料計算期間ニ依リ給料支給日ニ之ヲ支給ス

小賣市場勤務者特別手當支給規程

制定 昭一〇、一〇、一六 第一〇五

市設小賣市場勤務者特別手當支給規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 市設小賣市場(以下小賣市場ト稱ス)ニ勤務スル傭員ニ對シテハ其ノ勤務時間十一時間以上ト定メラレタル期間勤務一日ニ付十五錢ノ特別勤務手當ヲ支給ス
- 第二條 小賣市場ノ物價調査ニ從事スル吏員及雇員ニシテ其ノ勤務時間午前五時三十分又ハ午前六時ヨリ九時間以上ト定メラレタル者ニ對シテハ勤務一日ニ付左ノ區分ニ依リ特別勤務手當ヲ支給ス
 - 一 吏員及雇員 三十錢
 - 二 傭員 十五錢
- 第三條 遲參又ハ早退ヲ爲シタル者ニ對シテハ其ノ當日ハ本規程ニ依リ

三五三

手當ハ支給セズ

第四條 本規程ニ依ル手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外毎月分ヲ翌月十五日ニ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス
支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下下ス

區役所吏員及雇傭員外勤手當支給規程

制定 昭一、九、二八 達一九七

區役所吏員及雇傭員外勤手當支給規程左ノ通相定ム

區役所吏員及雇傭員外勤手當支給規程

第一條 左ノ事務ニ従事スル區役所吏員及雇傭員ニシテ一日ニ付六時間以上(七月二十一日ヨリ八月三十一日迄及一年ヲ通シ土曜日ハ三時間以上)廳外勤務ニ服シタルトキハ本規程ノ定ムルトコロニ依リ手當ヲ支給ス

一 連脱税檢舉、家屋賃賃價格ノ調査及諸營業者課税標準額審査事務
二 國稅、府稅、市稅其ノ他ノ督勵及滯納處分事務
三 衆議院議員、市會議員其ノ他ノ選舉資格者調査事務
前項各號ノ勤務ノ爲一時限リ雇傭員者ニ對シテハ本規程ヲ適用セズ

第二條 手當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 書記以上 一日ニ付 五十五錢以内
二 雇傭員及傭員 同 四十五錢以内

第三條 勤務成績著シク不良ト認ムル者ニ對シテハ本規程ニ依ル手當ノ支給額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

第四條 毎月分ノ手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス

手當支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下下ス

第五條 主管局、部、課、隊長ハ廳外勤務者ノ出張簿ヲ備ヘ其ノ職氏名、出張事由、出張先、出張月日、出張歸廳ノ時刻其ノ他必要ナル事項ヲ明ニスヘシ

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム

附則 (昭一五、四達一七五)

本改正規定ハ昭和十五年四月分ヨリ之ヲ施行ス

ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス

手當支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下下ス

第五條 區長ハ廳外勤務者ノ出張簿ヲ備ヘ其ノ職、氏名、出張事由、出張先、出張月日、出張歸廳ノ時刻其ノ他必要ナル事項ヲ明ニスヘシ

附則

本規程ハ昭和十一年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

徵收事務従事者外勤手當支給規程

制定 昭二、四、一達 三三

徵收事務従事者外勤手當支給規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ支給ス

徵收事務従事者外勤手當支給規程

第一條 本市吏員及雇傭員ニシテ諸徵收金ノ督勵及滯納處分事務ノ爲一日ニ付六時間以上(七月二十一日ヨリ八月三十一日迄及一年ヲ通シ土曜日ハ三時間以上)廳外ニ於テ勤務シタルトキハ本規程ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス

特別ノ規定ニ依リ徵收事務ニ關スル手當又ハ獎勵金ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ本規程ヲ適用セズ

第二條 手當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 吏員 一日ニ付 四十錢以内
二 雇傭員 同 三十五錢以内

第三條 勤務成績著シク不良ト認ムルトキハ前項手當ノ支給額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

第四條 毎月分ノ手當ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス

手當支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下下ス

第五條 主管局、部、課、隊長ハ廳外勤務者ノ出張簿ヲ備ヘ其ノ職氏名、出張事由、出張先、出張月日、出張歸廳ノ時刻其ノ他必要ナル事項ヲ明ニスヘシ

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム

附則 (昭一五、四達一七五)

本規程ハ昭和十一年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二節 時間外勤務手當及休日勤務手當

〔大例一三號〕

第二節 時間外勤務手當及休日勤務手當

時間外勤務手當

附則 賄料支給規程

制定 昭一、三、二二 告示一四

大正十三年大阪市告示第六十二號賄料支給規程左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

賄料支給規程

第一條 本市吏員及雇傭員ニシテ所屬長ノ命ニ依リ勤務時間外ニ於テ勤務シタル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ賄料ヲ支給ス

食事ノ給與ヲ爲ストキハ賄料ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

旅費條例ノ規定ニ依リ當日ノ日當ヲ受ゲタル者、特別ノ規定ニ依リ歩増給、時間外勤務手當又ハ休日勤務手當ヲ支給ヲ受クル者及業務成績ニ因ル獎勵手當(勤務時間ニ拘ラス支給スル獎勵金ヲ除ク)ヲ受クル者ニ對シテハ休日勤務賄料又ハ時間外勤務賄料ヲ支給セズ

第二條 賄料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

區別 同 時數 又 雇傭員以上及事務補助員、技 術補助員、備員(事務補助員ヲ除ク)

宿直賄料 一 時數 一 圓 七 十 錢

休日勤務賄料 五時間未満 六十錢以内 四十錢以内

三三五

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

時間外勤務 料	料	
	五時間以上	一圓以内
二時間以上	三十錢以内	二十錢以内
四時間以上	五十錢以内	三十五錢以内
六時間以上	七十錢以内	五十錢以内
八時間以上	一圓以内	七十錢以内
徹夜	一圓三十錢以内	一圓以内

- 第三條 宿直賄料ハ宿直ト當直トニ區分シ各別ニ之ヲ支給ス
- 第四條 休日勤務賄料ハ休日勤務者ニ對シ之ヲ支給ス但シ勤務時間八時間ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ對シ時間外勤務賄料ヲ支給ス
- 第五條 時間外勤務賄料ハ勤務定時間終了後翌日出勤時刻迄ニ於テ勤務シタル時間ヲ通算シテ之ヲ支給ス
- 第五條ノ二 徹夜トハ勤務定時間終了後夜間兩日ニ互リ十時間以上勤務シ翌午前二時ヲ超ユタル場合ヲ謂フ
- 第六條 賄料ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌日十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス
- 賄料支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス
- 第七條 賄料ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
- 第八條 本市囑託員ニシテ日勤スル者ノ賄料ノ給料ノ支給ニ關シテハ本規程ヲ準用ス

附一則 (昭一五、四世六三九)

本改正規程ハ昭和十五年四月分ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭一六、一二世六七〇)
本改正規定ニ依ル賄料ハ昭和十六年十二月八日分ヨリ之ヲ支給ス

從業員特別給與規程

制 定昭一八、一〇、一四世三七八

大阪府知事ノ許可ヲ受ケ從業員特別給與規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

從業員特別給與規程

- 第一條 本市從業員ニ對スル特別給與ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ本規程ハ之ヲ適用セズ
 - 一 電氣局勤務ノ者
 - 二 乗用自動車ノ運轉ニ從事スル者(作業現場關係業務ニ從事スル者ヲ除ク)
 - 三 昇降機ノ運轉ニ從事スル者
 - 四 給仕ニ類スル業務ニ從事スル者
 - 五 其ノ他總務局長ニ於テ本規程ニ依ル給與ノ支給ヲ適當ナラズト認ムル者
- 本規程ノ適用ヲ受クル者ト雖モ業務成績ニ依ル獎勵金ヲ支給ヲ受クルトキ、宿直勤務賄料ノ支給ヲ受クルトキ及旅費ノ支給ヲ受ケ出張中ノトキハ本規程ニ依ル給與ハ之ヲ支給セズ
- 第二條 勤務定時間外ニ互リ勤務セシメタルトキハ三十分ニ付キ左ノ
 - 〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

合ニ依ル割増給ヲ支給ス但シ三十分未滿ノ端數ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

- 一 早 出
 - 二時間ヲ超ユル部分 日給額ノ百分ノ七・五以内
 - 其ノ他ノ時間 日給額ノ百分ノ五以内
- 二 殘 業
 - イ 交代制ニ依ル勤務者
 - 五時間ヲ超ユル部分 日給額ノ百分ノ七・五以内
 - 其ノ他ノ時間 日給額ノ百分ノ五以内
 - ロ 其ノ他ノ勤務者
 - 午後十時ヨリ翌日出勤時限迄 日給額ノ百分ノ七・五以内
 - 其ノ他ノ時間 日給額ノ百分ノ五以内
- 計算上三十分前項各場合ノ時間ニ互ルトキハ其ノ起算時刻ノ屬スルモノニ依ル
- 前二項ノ規定ハ時間外勤務手當ノ支給ヲ受クルトキハ之ヲ適用セズ
- 第三條 前條ノ規定ニ依ル割増給ハ本廳勤務ノ者及本廳ニ出勤スル者ニ對シテハ左ノ時間内ハ之ヲ支給セズ
 - 一 四月一日ヨリ十月三十一日迄 午前七時三十分ヨリ同八時迄
 - 二 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄 午前八時ヨリ同八時三十分迄
- 第四條 業務ノ都合ニ因リ臨時出勤ヲ命ジタルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラズ勤務時間三十分ニ付日給額ノ百分ノ七・五以内ノ割増給ヲ支給ス
- 第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

〔大例一三號〕

- 第二條 第一項但書及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第五條 遲參若ハ早退シ又ハ大阪市從業員服務規程第三十七條ノ規定ニ依リ勤務ヲ停止セラレタルトキハ勤務ヲ缺キタル時間三十分又ハ其ノ端數毎ニ日給額ヲ限度トシテ其ノ百分ノ五以内ヲ減算但シ業務ノ爲傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ハ月給者ニ對シテハ之ヲ適用セズ
- 第六條 業務ノ都合ニ因リ公休日ニ勤務セシメタルトキハ代休ヲ與フ但シ平日ニ於ケル勤務定時間ニ對シ日給額ノ百分ノ百ノ割増給ヲ支給ヲ以テ之ヲ代フルコトヲ得
- 第二條、第三條及前條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 病院(保養所ヲ含ム)勤務者及傳染病豫防從事者ニ對シテハ第一條但書ノ規定ニ拘ラズ第一項ノ規定ヲ適用ス
- 第五條 第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第七條 交代制度ニ依ル勤務者ニシテ一勤務ヲ終ヘ引續キ他ノ一勤務ニ服セシメタルトキハ勤務定時間ニ對シ日給額ノ百分ノ百ノ割増給ヲ支給ス
- 第二條 第一項第二項及第五條 第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第八條 宿直勤務中作業ニ從事セシメタルトキハ作業時間ニ對シ第二條ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 業程本位ニ依ル勤務者所屬長ノ命ニ依リ所定ノ業程以上ニ互リ又ハ臨時ニ又ハ公休日ニ於テ勤務シタルトキハ第二條又ハ第四條又ハ第六條 第一項但書ノ規定ニ拘ラズ其ノ勤務シタル業程ノ一人一日ノ業程ニ對スル歩合ニ依ル割増給ヲ支給ス

第十條 業程本位ニ依ル勤務者其ノ業程ヲ完了セザルトキハ第五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ完了セザル業程ノ一人一日ノ業程ニ對スル歩合ニ依リ日給ヲ減ズ

第五條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ月給者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十一條 前二條ノ規定ニ依ル歩合ハ一人一日ノ業程ヲ百トシ所屬長ニ於テ勤務シタル又ハ完了セザル業程ヲ認定シテ之ヲ算定ス但シ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十二條 業務ノ都合ニ因リ晝間勤務者ニ對シ晝間勤務ヲ免ジ夜間勤務ニ服セシメタルトキハ勤務時間三十分ニ付日給額ノ百分ノ二・五以內ノ夜間作業手當ヲ支給ス

第十三條 特ニ困難若ハ激甚ナル作業又ハ長時間ニ亙ル過勞ノ作業ニ從事セシメタルトキハ日給額ノ範圍内ニ於テ特別作業手當ヲ支給スルコトアルベシ

第十四條 本規程中日給額ト八月給者ニ在リテ八月給額ノ三十分ノ一トス

第十五條 本規程ニ依ル給與ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料計算期間ニ依リ給料支拂日ニ之ヲ支給ス

第十六條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム

附則

渡船船夫ニ對スル特別手當ハ本規程ノ適用ニ付テハ之ヲ日給ト看做シ日給額ニ加算ス
左ノ規程ハ之ヲ廢止ス

大正七年達第三七號港灣局從業員特別給與規程
昭和十五年達第四一四號水道局從業員特別給與規程
昭和三年達第一一三號土木局從業員特別給與規程
昭和十一年達第五〇號土木局所屬渡船從業員給與規程
昭和四年達第一〇〇號塵芥燒却場從業員特別給與規程
昭和六年達第一二三號齋場及靈園勤務從業員步増支給規程
昭和六年達第一四三號中央卸賣市場從業員特別給與規程

(港灣局) 船艇員時間外勤務手當支給規程

制定 昭一、三、二五五六

大正九年達第二七號船艇員時間外勤務手當支給規程左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 船艇員時間外勤務手當支給規程

臨時機關士ニシテ時間外勤務スル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ時間外勤務手當ヲ支給ス

第二條 定時間外ニ亙リ勤務ヲ命シタルトキハ其ノ業務ノ性質、勤務時間及其ノ日ノ勤務成績ニ應ジ左ノ金額ヲ支給ス但シ三十分未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

一 午後十時ヨリ翌日午前六時迄 三十分間ニ付 二十錢以內
二 其ノ他ノ時間 同 十五錢以內

計算上三十分間カ前項第一號及第二號ノ時間ニ亙ルトキハ其ノ起算時間ノ屬スルモノニ依ル

〔大例一三號〕

第三節 獎勵金

〔大例一三號〕

水道局集金獎勵金支給規程

制定 昭一四、一、二三一四

水道部集金獎勵金支給規程左ノ通相定ム

第一條 水道局勤務ノ集金員ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ毎月左ノ集金獎勵金ヲ支給ス

- 一 現年度集金獎勵金
- イ 實收獎勵金
- ロ 第一種特別獎勵金
- ハ 第二種特別獎勵金
- ニ 第三種特別獎勵金
- 二 過年度集金獎勵金

各獎勵金ハ併給ヲ妨ケス

第二條 本規程ニ於テ種別ト稱スルハ左ノ各號ニ依ル

- 一 自己ノ集金區ニ於ケル集金、他ノ者ノ集金區ニ於ケル集金ノ別
- 二 前號ニ依ル各種別ニ付專用檢使用料ノ集金、共用檢使用料ノ集金、其ノ他ノ集金ノ別

集金區トハ各集金員ノ分擔區域ヲ謂ヒ集金ノ難易ニ依リ之ヲ六等級ニ分チ最モ容易ナルモノヲ一等地トシ最モ困難ナルモノヲ六等地トス

第三條 本規程ニ於テ集金歩合ト稱スルハ各集金員ノ現年度收入ニ關スル集金一月分ニ付各種別毎ニ計算シタル實收件數ノ集金スヘキ件數ニ

三五九

第三條 其ノ日ノ執務中不都合ノ行爲アリタル者ニ對シテハ本規程ニ依ル手當ヲ支給セズ

第四條 業務ノ性質、勤務成績、第二條ノ規定ニ依ル手當額及不都合ノ行爲ノ有無ハ港灣局長ノ認定ニ依ル

第五條 本規程ニ依ル手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ毎月二十七日ニ支給ス但シ三月二十一日ヨリ同月末日迄ノ分ハ此ノ限ニ在ラス

支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス

動物園勤務者特別時間外増歩支給ノ件

制定 昭四、四、三〇土木部長決定

動物園ニ夜間開園ヲ行ヒ開園時間ヲ午後十時三十分迄延長スルトキハ居殘勤務セシ諸職夫ニ對シ土木部職夫規程第十九條ノ割増給ニ依ラス左記ノ通り特別時間外増歩ヲ支給相成可然哉

記

- (イ) 皆勤者(午後十一時終業)日給額ノ七歩
- (ロ) 早退者ハ午後五時ヨリ起算シ一時間ニ付日給額ノ一歩

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

對スル歩合ト實收金額ノ集金スヘキ金額ニ對スル歩合トノ平均歩合ヲ謂フ

集金員ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ集金スルコト能ハサリシ件數及金額ハ前項ノ規定ニ依ル集金スヘキ件數及金額ニ算入セス

第四條 現年度集金獎勵金ハ第五條乃至第八條ノ規定ニ依リ計算シタル點數ノ合計ヲ一點當リ三毛三絲トシテ算定ス

第五條 實收獎勵金ハ各集金員ニ對シ現年度收入ニ關スル集金ニ付各種別毎ニ左表ニ依リ計算シタル點數ニ依リ之ヲ支給ス

集金區ノ等級	實收件數一件ニ付	實收金額一圓ニ付
一 等 地	五 點	一・五點
二 等 地	六 點	一・五點
三 等 地	七 點	一・五點
四 等 地	八 點	一・五點
五 等 地	一 二 點	一・五點
六 等 地	一 八 點	一・五點

但シ共用檢ニ付テハ實收件數一件ニ付點數ヲ二倍ス

前項ノ規定ニ依リ計算シタル各種別ノ點數ニ付生シタル一點未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第六條 第一種特別獎勵金ハ集金成績良好ナル者ニ對シ左ノ各號ニ依リ計算シタル點數ニ依リ之ヲ支給ス

集金區ノ等級	超過シ又ハ應接シタル區域ニ於ケル點檢日數一日ニ付	超過シ又ハ應接シタル區域ニ於ケル實收件數一件ニ付
一 等 地	七〇〇點	七〇點

〔大例一三號〕

二 等 地	八五〇點	八・五點
三 等 地	一、〇〇〇點	一〇・〇點
四 等 地	一、一五〇點	一一・五點
五 等 地	一、七〇〇點	一七・〇點
六 等 地	二、五五〇點	二五・五點

第九條 過年度集金獎勵金ハ過年度收入及收入未済ノ爲調定ヲ繰越シタル收入ニ關スル集金ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ集金一月分ニ付左表ニ依リ之ヲ算定ス

過年度ノ種別	實收件數一件ニ付	實收金額一圓ニ付
前年度分及前二年度分	六 錢	二 錢
前二年度分	一〇 錢	四 錢
前四年度分以前	一五 錢	五 錢

前項ノ收入ニ關スル集金ニ專ラ從事スル者ニ對シテハ前項ノ規定ニ依ル獎勵金ノ外一月ニ付五圓ヲ加給ス但シ月中途ニ於テ交付シタルトキハ十五日以上從事シタル者ニ限リ半額ヲ支給ス

第十條 集金員職務怠慢ニ因リ集金不能若ハ困難ニ陥ラシメタルトキ又ハ不都合ノ所爲アリタルトキハ獎勵金ノ支給額ヲ減ジ又ハ支給セザルコトアルヘシ

第十一條 天災事變其ノ他集金員ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リ集金

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

一 集金歩合百分ノ九十八以上ノ各種別ニ付

前條ノ規定ニ依リ計算シタル其ノ種別ノ點數ノ十割

二 集金歩合百分ノ九十九以上ノ各種別ニ付

前條ノ規定ニ依リ計算シタル其ノ種別ノ點數ノ二十割

三 前號ノ場合ニ於テ自己ノ集金區ニ於ケル集金歩合各種別共ニ百分ノ百ナルトキハ其ノ各種別ニ付

前條ノ規定ニ依リ計算シタル其ノ種別ノ點數ノ二十三割

四 第二號ノ場合ニ於テ他ノ者ノ集金區ニ於ケル集金歩合各種別共ニ百分ノ百ナルトキハ其ノ各種別ニ付

前條ノ規定ニ依リ計算シタル其ノ種別ノ點數ノ二十三割

前項第三號及第四號ノ規定ニ依リ計算シタル點數ニ付生シタル一點未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第七條 第二種特別獎勵金ハ勤務成績良好ニシテ他ノ集金員ヲ補助指導スル者ニ對シ一月二萬點以內ニ於テ水道局長ノ定ムル點數ニ依リ之ヲ支給ス

第八條 第三種特別獎勵金ハ集金區カ一點檢區ヲ超過シ又ハ他ノ者ノ集金區ニ於ケル集金ノ應接ヲ爲サシメタル者ニ對シ自己ノ集金區ニ於ケル集金歩合各種別共百分ノ九十九以上ナルトキニ限リ左表ニ依リ計算シタル點數ニ依リ之ヲ支給ス但シ日數ニ依リ難キトキニ限リ實收件數ニ依ル

〔大例一三號〕

成績著シク低下シタルトキハ獎勵金支給方法ハ其ノ都度之ヲ定ム

第十二條 各獎勵金ハ之ヲ合算シ毎月二十五日迄ニ前月分ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ合算額ニ付生シタル十錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十三條 集金區、其ノ等級其ノ他本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ水道局長之ヲ定ム

附 則

本規程ハ昭和十四年一月分ヨリ之ヲ施行ス

水道唧筒場從事者特別獎勵金支給ノ件

制 定 大五、二二、五市長決定
最近改正 昭八、九 市長決定

- 一 水道唧筒場ニ從事スル技手以下ノモノニシテ石炭消費ノ實績カ各一月ヲ通算シテ送水一立方米ニ對スル炭量ヲ左記標準ヨリ減少セシメタルトキハ其ノ減少シタル價格ノ十分ノ二以內ニ於テ送水量ノ多少並炭種參酌ノ其ノ上金額ヲ査定シ當該從事員ニ特別獎勵金ヲ支給スルコトヲ得
- 一等炭 六、七五〇カロリー以上 〇、一九疋
- 二等炭 六、五〇〇 〇、二〇疋
- 三等炭 六、二五〇 〇、二一疋
- 四等炭 六、二五〇 〇、二二疋
- 未滿 〇、二二疋
- 二、各自支給額ハ其ノ資格及勤務成績ニヨリテ之ヲ定ム
- 但シ成績不良ノモノハ之ヲ支給セス

量水器點檢事務従事者勤務獎勵金支給ノ件

- 制 定 昭九、五、三〇市長決定
- 一 支給額ハ一人一月平均九圓トシ毎月點檢區受持勤務人員ニ乗シタルモノヲ以テ總額トス
 - 二 各自支給額ハ其ノ點檢事務ノ難易ヲ參酌シ勤務成績ニ依リ最高二十圓ヲ限度ニ水道部長之ヲ定ム
 - 三 點檢定期日內缺勤二日ヲ超エ又ハ一月ヲ通シ缺勤七日ヲ超ユルモノハ之ヲ支給セス但シ遲參早退ハ五回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ五回ヲ超ユル部分ノ端數ハ四捨五入ス

土木局土砂運搬船夫回航獎勵金支給規程

制 定 昭一八、一、二一

- 大阪府知事ノ許可ヲ受ケ昭和十一年達第百九條土木局所屬土砂運搬船夫回航獎勵金支給規程左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 土木局土砂運搬船夫回航獎勵金支給規程
 - 二 土木局所屬ノ土砂運搬船夫ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ回航獎勵金ヲ支給ス
 - 三 二坪船及三坪船乗組ノ者ニ對スル回航獎勵金ハ航行一回ニ付一圓五十錢トス但シ一月ノ航行回數七回ニ滿タザルトキハ其ノ月ノ回航獎勵金ハ之ヲ支給セズ
 - 四 前項ノ航行回數ハ土砂運搬船ノ航行區域ヲ四航行區ニ分チ左ノ區分ニ依リ之ヲ算出ス

胞衣汚物取扱獎勵金支給規程

制 定 昭一八、一〇、一四第三八三

- 胞衣汚物取扱獎勵金支給規程左ノ通相定メ昭和十八年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 胞衣汚物取扱獎勵金支給規程
 - 二 胞衣汚物取扱作業ニ従事スル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ獎勵金ヲ支給ス
 - 一 胞衣汚物一日ノ蒐集件數十三件ヲ超ユルトキ
 - 一 超過一件ニ付 四 錢
 - 二 産後汚物ノ蒐集 二 錢
 - 三 木津川消毒加工場、阿波堀出張所間 二 錢
 - 四 胞衣汚物運漕 二 錢
 - 一 往復ニ付 四十 錢
- 第二條 前條ノ獎勵金ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外給料計算期間ニ依リ給料支給日ニ之ヲ支給ス

三六二

- 一 航行區内航行 一回航ニ付 一 回
 - 二 航行區間航行 同 一・三回
 - 三 航行區間航行 同 二 回
 - 四 航行區間航行 同 二・五回
- 著シク近距離又ハ前項ノ航行區外ヲ航行セル場合ニ於ケル航行回數ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム
- 業務上ノ都合ニ依リ已ムヲ得ザル事情アリト認ムルトキハ第一項但書ノ航行回數ハ之ヲ減少スルコトアルベシ
- 第三條 五合船乗組ノ者ニ對スル回航獎勵金ハ左ノ各號ニ依リ支給ス但シ浚渫機械船ヨリ土砂受船又ハ土砂處理場ニ至ル距離十町未滿ノ場合ニ在リテハ一日二回航ヲ超エ、同距離十町以上ノ場合ニ在リテハ一日一回航ヲ超エ運送積卸ヲ了セザルトキハ其ノ日ノ回航獎勵金ハ之ヲ支給セズ
- 一 運送土砂一舟坪一町ニ付 四錢五厘
 - 二 五合船ヨリ土砂受船又ハ土砂處理場ニ積換一舟坪ニ付 五十 錢

- 第四條 本規程ニ依リ回航獎勵金ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日ニ之ヲ支給ス
- 第五條 第二條ノ航行區ノ決定及變更其ノ他本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長ニ合議ノ上土木局長之ヲ定ム

〔大例一三號〕

第四節 公傷病手當

公傷病手當支給規程

制 定 昭二一、三、二一 五七

公傷病手當支給規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 最近改正 昭一七、六 一八三ノ二
- 第一條 本市吏員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ治療ヲ施シ又ハ其ノ治療ニ必要ナル費用ヲ支給ス但シ傷病ノ原因ニ付過失アリト認ムルトキハ治療又ハ治療費ノ支給ヲ止メ若ハ之ヲ制限スルコトアルヘシ
 - 第二條 前條ノ規定ニ依リ治療ヲ受クヘキ者民法ノ規定又ハ示談ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ治療金額ヨリ其ノ金額ヲ控除ス
 - 第三條 健康保險法(同法第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ノ規定ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クルトキハ其ノ間治療又ハ治療費ノ支給ハ之ヲ爲サス
 - 第四條 健康保險法第六十二條、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ノ適用ヲ受クルトキハ本規程ニ依リ治療又ハ治療費ノ支給ハ之ヲ爲サス
 - 第五條 前項ノ規定ハ健康保險法ノ適用ヲ受ケサル者ニ付之ヲ準用ス
 - 第六條 本規程ニ依ル治療及治療費ハ退職又ハ解僱ノ後ハ之ヲ制限又ハ停止スルコトアルヘシ
 - 第七條 治療費ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

〔大例一三號〕

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム

雇傭員扶助規程

市制第九十一條第一項ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經從業員扶助規程左ノ通相定メ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

制定 昭六、二二二三告示 三二六 最近改正 昭一七、六 告示二二九ノ四

雇傭員扶助規程

第一條 本市雇傭員及其ノ遺族ハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲ス

前項ノ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除ス

本規程ニ依リ扶助ハ本規程中別段ノ定アル場合ノ外解雇ニヨリテ變更セラルコトナシ

第二條 扶助ヲ分チテ左ノ七種トス

一 治療

二 休業扶助料

三 障害扶助料

四 打切扶助料

五 遺族扶助料

六 葬祭料

七 歸郷旅費

第三條 雇傭員職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ治療ヲ施シ又ハ其ノ治療ニ必要ナル費用ヲ支給ス

第四條 雇傭員職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ其ノ療養ニ爲職務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサルトキハ其ノ間給料全額ヲ支給ス

雇傭員職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ其ノ療養ニ爲職務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサルトキハ其ノ療養中左ニ掲クル區別ニ依リ休業扶助料ヲ支給ス

一 第一級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級 二級 三級 別表ニ掲クルモ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲クル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給ス

【大例一三號】

一 甲種傷病 傷病ノ原因ニ付自己ニ何等ノ過失ナキ者 一日ニ付 賃金全額

二 乙種傷病 傷病ノ原因ニ付自己ニ重大ナル過失ナキ者 一日ニ付 賃金三分ノ二

前項ノ休業扶助料ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リテ發生シタル疾病ニ付其ノ支給六月ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ左ノ通減ス

一 甲種傷病 一日ニ付 賃金四分ノ三

二 乙種傷病 一日ニ付 賃金十分ノ六

雇傭員病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ニキトキハ休業扶助料ハ賃金ノ百分ノ二十トス

第五條 雇傭員職務上ノ負傷又ハ疾病ノ治療シタルトキニ於テ身體障害存スルトキハ別表ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ給料二百四十日分乃至三百五十日分

(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿タサルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ラサルモノトス

別表ニ掲クル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

左ニ掲クル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰上ク但シ其ノ障害扶助料ノ金額カ各身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル金額ヲ超ユルトキハ合算額ニ止ム

一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級

二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級

三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲クルモ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲クル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給ス

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル

【大例一三號】

工場法又ハ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケサル雇傭員ノ歸郷旅費ニ付テハ工場法ノ適用ヲ受ケル者ニ準用ス

第十一條 雇傭員健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第三條ノ扶助ハ之ヲ爲サス健康保險法ニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ

休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ但シ休業扶助料ノ額カ傷病手當金ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

雇傭員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス但シ葬祭料ノ額カ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ第三條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲サス

一 解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年以内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ解雇後ニ於テ再發シタルトキ

第十三條 削除

第十四條 削除

第十四條ノ二 扶助料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十五條 本規程ヲ適用スヘキ雇傭員ノ範圍及旅行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

金額ヲ支給ス 第五條ノ二 雇傭員其ノ傷病ノ原因ニ付重大ナル過失アリタルトキハ前二條ノ規定ニ依リ扶助料ハ之ヲ支給セズ但シ工場法又ハ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ事實ニ付地方長官ノ認定アリタル場合ニ限ル

第六條 第三條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケル者療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セサルトキハ給料又ハ賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿タサルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後扶助ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ扶助料ハ工場法ノ適用ヲ受ケサル雇傭員ニシテ第五條ノ二ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ二分ノ一トス

第七條 雇傭員職務上死亡シタルトキ其ノ遺族又ハ雇傭員ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ對シ給料七百二十日分ヨリ賃金三十日分(其ノ金額五十圓ヲ超ユルトキハ五十圓ニ止ム)ヲ控除シタル額ヲ遺族扶助料トシテ支給ス但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿タサルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓ヲ支給ス

第八條 雇傭員職務上死亡シタルトキハ其ノ葬祭ヲ行フ遺族又ハ雇傭員ノ死亡ノ當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額五十圓ニ滿タサルトキハ五十圓)ノ葬祭料ヲ支給ス

第九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金又ハ遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ハ工場法ノ適用ヲ受ケル雇傭員又ハ工場法、労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケサル雇傭員ニ付テハ工場法施行令第十六條又ハ第十條乃至第十二條ノ規定ニ依リ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケル雇傭員ニ付テハ労働者災害扶助法施行令第十五條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ第二項扶助料ノ標準トスヘキ給料ハ日給者ニ在リテハ其ノ日給額トシ月給者ニ在リテハ其ノ月給額又ハ其ノ三十分ノ一トス

第十條 工場法施行令第二十七條労働者災害扶助法施行令第十二條ニ該當スル者歸郷スル場合ニ於テハ歸郷ニ必要ナル旅費ヲ支給ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

附則
大正五年大阪府告示第九十三號職工工夫扶助規程並大正八年大阪府告示第六十四號電氣局運輸職員、運輸從業員特別給與規程ハ之ヲ廢止ス
附則 (昭一、三告示一五)
渡船事業從務者ノ勤績年數ニ付テハ直覺ト爲リタル前後ノ年數ヲ通算ス
附則 (昭一、二告示七八九)
本規程施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
本規程施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本規程施行後再發シテ扶助ヲ受ケルトキハ本規程ニ依リテ之ヲ扶助ス
勞働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケサル備員ニシテ本規程施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受ケル者本規程施行後引續キ休業扶助料ヲ受ケルトキハ本規程施行後ハ本規程ニ依リテ之ヲ扶助ス
附則 (昭一七、六告示二九ノ四)
本改正規定ハ昭和十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本改正規定施行前支給事由ヲ生シタル扶助又ハ本改正規定施行ノ際現ニ扶助ヲ受ケル者ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
本改正規定施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本改正規定施行後再發シテ扶助ヲ受ケルトキハ本改正規定ニ依リテ之ヲ扶助ス
(別表)

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ	給料九百六十日分乃至千八百日分 其ノ金額男子ニハ八十圓、女子ニハ六十圓ニ滿タサ

等級	身體障害	障害扶助料
第五級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 六 十指ノ用ヲ廢シタルモノ 七 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料六百三十日分乃至七百二十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第四級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 六 十指ノ用ヲ廢シタルモノ 七 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料五百四十日分乃至六百三十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第三級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 三 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 五 一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 六 十趾ヲ失ヒタルモノ	給料四百五十日分乃至五百四十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料三百九十日分乃至四百五十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第一級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料三百日分乃至三百九十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

等級	身體障害	障害扶助料
第六級	一 兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セサレハ大聾ヲ解シ得サルモノ 四 脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ 五 一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 六 一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 七 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セテ四指ヲ失ヒタルモノ	給料二百四十日分乃至三百九十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第五級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 六 十指ノ用ヲ廢シタルモノ 七 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料二百日分乃至二百四十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第四級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 三 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 五 一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 六 十趾ヲ失ヒタルモノ	給料一百九十日分乃至二百日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第三級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料一百五十日分乃至一百九十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料一百日分乃至一百五十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第一級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料九十日分乃至一百日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ

等級	身體障害	障害扶助料
第七級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ聽力ヲ解シ得サルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ	給料九十日分乃至一百日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第六級	一 兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セサレハ大聾ヲ解シ得サルモノ 四 脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ 五 一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 六 一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 七 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セテ四指ヲ失ヒタルモノ	給料八十日分乃至九十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第五級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 六 十指ノ用ヲ廢シタルモノ 七 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料七十日分乃至八十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第四級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料六十日分乃至七十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第三級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料五十日分乃至六十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料四十日分乃至五十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ
第一級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ 三 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料三十日分乃至四十日分 其ノ金額男子ニハ二百圓、女子ニハ二百圓ニ滿タサ

第七類	五	一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ 又ハ拇指若ハ示指ヲ併ヒ三指以上ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第六類	六	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第五類	七	「足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第四類	八	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第三類	九	女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第二類	十	兩側ノ辜丸ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第一類	一	一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇以下ニ減シタルモノ	給料日分至二百七十
第二類	二	頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第三類	三	神經系統ノ機能ニ著シテ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ	給料日分至二百七十
第四類	四	一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第五類	五	一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第六類	六	一下肢ヲ五種以上短縮シタルモノ	給料日分至二百七十

第七類	九	一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第六類	十	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第五類	十一	一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第一類	一	一眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ	給料日分至二百七十
第二類	二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第三類	三	十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	給料日分至二百七十
第四類	四	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セザレハ大聲ヲ解シ得サルモノ	給料日分至二百七十
第五類	五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第六類	六	一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第七類	七	一下肢ヲ三種以上短縮シタルモノ	給料日分至二百七十
第八類	八	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十

第七類	七	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第六類	八	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第五類	九	一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第四類	十	一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第三類	十一	一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第一類	一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ	給料日分至二百七十
第二類	二	一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	給料日分至二百七十
第三類	三	兩眼ニ半盲症視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第四類	四	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第五類	五	鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第六類	六	咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第七類	七	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ	給料日分至二百七十
第八類	八	一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ、又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十

第七類	一	兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第六類	二	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第五類	三	一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第四類	四	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ニ話聲ヲ解シ得サルモノ	給料日分至二百七十
第三類	五	脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第二類	六	一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ	給料日分至二百七十
第一類	七	一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第八類	八	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ	給料日分至二百七十
第九類	九	一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第十類	十	一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	給料日分至二百七十
第十一類	十一	七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	給料日分至二百七十
第十二類	十二	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ	給料日分至二百七十

五	鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ	ハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿タサルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス
六	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
七	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
八	長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ	
九	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ	
十	一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ第二趾ヲ併セテ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ	
十一	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
十二	局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ	
十三	男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	
十四	女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	
第十三級一	一眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ	給料七十日分
二	一眼ノ半盲症、視野狹窄又ハ視野	乃至二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテ

三	變狀ヲ殘スモノ	ハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿タサルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス
四	兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	
五	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ中指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
八	一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ	
九	一下肢ヲ一種以上知縮シタルモノ	
十	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ	
十一	一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
十二	一足ノ第一趾ヲ併セテ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ併シタルモノ	
第十三級一	一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	給料四十日分
二	三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	乃至百九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓女子ニ在リテハ三十圓ニ滿タサルトキハ夫々五十圓トス
三	上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
四	下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	

雇傭員扶助規程施行細則

昭和六年大阪市告示第三百二十六號從業員扶助規程施行細則左ノ通改
 正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 雇傭員扶助規程施行細則
- 第一條 事務又ハ給仕使丁及之ニ類スル業務ニ從事スル傭員ノ扶助ハ雇員ニ準シテ取扱フ
- 傳染病感染者及死亡者手當給與規則ニ依ル手當金ヲ支給スル場合ニハ雇傭員扶助規程(以下規程ト稱ス)ニ依ル扶助ハ之ヲ爲サス
- 第二條 雇傭員職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ治療ヲ受ケヘキ醫師又ハ病院ニ付所屬長ノ指定ヲ受ケヘシ但シ急ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項但書ノ場合ニ於テハ爾後速ニ届出ノ上當該局、部、課長ノ指示ヲ受ケム
- 第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ醫師又ハ病院ノ請求書ヲ提出スヘシ
- 第三條 規程第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ給料、休業扶助料若ハ障害扶助料ヲ受ケントスル者ハ醫師ノ診斷書及負傷又ハ疾病ノ原因ニ關スル所屬長ノ證明書ヲ添ヘ請求書ヲ提出スヘシ
- 第四條 規程第六條ノ規定ニ依リ打切扶助料ヲ支給セントスルトキハ所屬長ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市長ニ申請スヘシ
- 第五條 規程第七條ノ規定ニ依リ遺族扶助料ヲ受ケントスル者ハ戶籍

備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス
- 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ趾趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

膳本、死亡ノ原因ニ關スル所屬長ノ證明書及醫師ノ死亡證明書又ハ死體檢案書ヲ添ヘ請求書ヲ提出スヘシ

第六條 規程第八條ノ規定ニ依リ葬祭料ヲ受ケントスル者ハ前條ノ規定ニ依ル書類ノ外葬祭ヲ爲シタル證據書類ヲ添ヘ請求書ヲ提出スヘシ

第七條 規程第九條ノ規定ニ依ル標準賃金算出ノ基礎タルヘキ賃金トハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他之ニ類スル特段ノ行爲ニ對スル臨時ノ手當等ヲ除キタル左ノ各號ノ金額トス

- 一 給料
- 二 賄料
- 三 歩増給
- 四 各種獎勵金
- 五 各種手當
- 六 勤績給與金

雇員ノ打切扶助料及葬祭料ノ算出ハ給料ヲ基準トス

第八條 規程第十條ノ規定ニ依ル歸郷旅費ハ歸郷ニ要スル汽車汽船賃、車馬賃、食費、宿泊料(旅舎ニ宿泊ヲ要スル場合ニ限ル)及其ノ他所要實費額トス附添入ニ要スル費用ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル汽車及汽船ハ三等賃金、食費ハ鐵道辨當代ヲ限度トシ宿泊料、車馬賃其ノ他ノ雜費ハ必要ト認ムル所要額トス

第九條 規程ニ依ル扶助ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者吏員ニ任セラレタル場合ト雖モ其ノ扶助ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第十條 本則施行ニ關シ必要ナル事項ハ總務局長之ヲ定ム但シ電氣局ニ在リテハ電氣局長之ヲ定ムルコトヲ得

日傭員扶助規程

制定昭六、二、二二、三告示三七
最近改正、昭一、一、二二、告示七九〇

市制第九十一條第一項ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經日傭員夫扶助規程左ノ通相定メ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

日傭員扶助規程

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

第一條 本市日傭員(日々傭入レラル者又ハ使用期間ノ定メナク勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者ヲ謂フ以下同シ)及其ノ遺族ニハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲ス

前項ノ扶助ヲ受ケヘキ者民法ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除ス

第二條 扶助ヲ分テ左ノ七種トス

- 一 治療
- 二 休業扶助料
- 三 打切扶助料
- 四 障害扶助料
- 五 遺族扶助料
- 六 葬祭料
- 七 歸郷旅費

第三條 日傭員業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ治療ヲ施シ又ハ其ノ治療ニ必要ナル費用ヲ支給ス

第四條 日傭員業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ其ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ療養中一日ニ付賃金ノ百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給ス

前項ノ休業扶助料ハ本人ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ賃金ノ百分ノ二十トス

第五條 日傭員業務上ノ負傷又ハ疾病ノ治療シタルトキニ於テ身體障害ノ存スルトキハ別表ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ賃金百八十日分(其ノ金額男子ニ

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

三七三

在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿タサルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ラサルモノトス

別表ニ掲クル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ニ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

左ニ掲クル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰上ク但シ其ノ障害扶助料ノ金額カ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル金額ヲ超ユルトキハ合算額ニ止ム

一 第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 一級

二 第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 二級

三 第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 三級

別表ニ掲クルモノ以外ノ身體障害ヲ有スルモノニ付テハ障害ノ程度ニ應シ別表ニ掲クル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給ス

既ニ身體障害ノ存スルモノノ負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付キ障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給ス

第五條ノ二 日傭員其ノ傷病ノ原因ニ付重大ナル過失アリタルトキハ前

二條ノ規定ニ依ル扶助料ハ之ヲ支給セス但シ工場法又ハ勞働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ事實ニ付地方長官ノ認定アリタル場合ニ限ル

第六條 第三條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者ニシテ工場法ノ適用ヲ受クル者ニ付テハ療養開始後三年、其ノ他ノ者ニ付テハ療養開始後一年ヲ經過スルモ治療セサルトキハ賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リ

テハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿タサルトキハ夫々四百三十圓、又ハ二百七十圓ノ打切扶助料ヲ支給シ以後扶助ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ扶助料ハ工場法ノ適用ヲ受ケサル者ニシテ第五條ノ二ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ二分ノ一トス

第七條 日傭員業務上死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分ノ遺族扶助料ヲ支給ス但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿タサルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓ヲ支給ス

第八條 日傭員業務上死亡シタルトキハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿タサルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給ス

第九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金又ハ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ工場法ノ適用ヲ受ケル者ニ付テハ工場法施行令第十六條又ハ第十條乃至第十二條ノ規定ニ依リ其ノ他ノ者ニ付テハ労働者災害扶助法施行令第十五條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル

第十條 工場法施行令第二十七條又ハ労働者災害扶助法施行令第十二條ニ該當スル者歸郷スル場合ニ於テハ歸郷ニ必要ナル旅費ヲ支給ス工場法又ハ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケサル者別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十一條 第三條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回、本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回之ヲ支給ス

障害扶助料及遺族扶助料ハ請求手續完了後十日以内ニ支給ス

附則 (昭一、二告示七九〇) 本規程施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル本規程施行前ニ扶助ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ本規程施行後再發シテ扶助ヲ受ケルトキハ本規程ニ依リ之ヲ扶助ス

工場法ノ適用ヲ受ケル者ニシテ本規程施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受ケル者本規程施行後引續キ休業扶助料ヲ受ケルトキハ本規程施行後ハ本規程ニ依リ之ヲ扶助ス

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ	標準賃金六百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百八十圓トス
二	二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	同上
三	三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	同上
四	四 胸部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	同上
五	五 半身不隨ト爲リタルモノ	同上
六	六 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	同上
七	七 兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	同上
八	八 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	同上

第十二條 日傭員健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケヘキトキハ其ノ期間第三條ノ扶助ハ之ヲ爲サス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受ケヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ但シ休業扶助料ノ額ハ傷病手當金ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

從業員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス但シ葬祭料ノ額ハ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

健康保險法第六十二條第一項、第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ第三條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲サス

一 解僱(勞務供給契約ニ基ク使用廢止ヲ含ム以下同シ)後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解僱前ニ又ハ解僱後一年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ解僱後ニ於テ再發シタルトキ

第十四條 扶助料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十五條 削除

第十六條 本規程ノ施行ニ關シテハ從業員扶助規程施行細則ヲ準用ス

〔大例一三號〕

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	標準賃金五百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百八十圓トス
二	二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	同上
三	三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	同上
四	四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	同上

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	標準賃金四百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテハ二百八十圓トス
二	二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スルモノ	同上
三	三 精神ニ著シキ障害ヲ殘スルモノ	同上
四	四 胸部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ	同上
五	五 十指ヲ失ヒタルモノ	同上

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	標準賃金四百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテハ二百八十圓トス
二	二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スルモノ	同上
三	三 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩	同上

七	耳ヲ全ク聾シタルモノ 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 十指ノ用ヲ廢シタルモノ 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	又ハ三ツトキハ夫 トスハ二百十圓
六	同上肢ノ用ヲ廢シタルモノ	同上
五	同上肢ノ用ヲ廢シタルモノ	同上
四	同上肢ノ用ヲ廢シタルモノ	同上
三	同上肢ノ用ヲ廢シタルモノ	同上
二	同上肢ノ用ヲ廢シタルモノ	同上
一	同上肢ノ用ヲ廢シタルモノ	同上

六	一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 十趾ヲ失ヒタルモノ	夫ハ二ツトキハ夫 トスハ二百十圓
五	同上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	同上
四	同上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	同上
三	同上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	同上
二	同上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	同上
一	同上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	同上

四	一兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ 咀嚙又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザレハ大聲ヲ解シ得サルモノ 脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ	標準賃金三百 日分但シ其ノ 金額男子ニ在 リテハ女子ニ 在リテハ男子 ノ四ノ五ニ 十圓ハ滿タサ ハ二百十圓ト スハ二百十圓ト
三	同上	同上
二	同上	同上
一	同上	同上

七	殘スモノ 一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セテ四指ヲ失ヒタルモノ	ス
六	同上	同上
五	同上	同上
四	同上	同上
三	同上	同上
二	同上	同上
一	同上	同上

八	一兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 十趾ヲ失ヒタルモノ	夫ハ二ツトキハ夫 トスハ二百十圓
七	同上	同上
六	同上	同上
五	同上	同上
四	同上	同上
三	同上	同上
二	同上	同上
一	同上	同上

八	一兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 十趾ヲ失ヒタルモノ	夫ハ二ツトキハ夫 トスハ二百十圓
七	同上	同上
六	同上	同上
五	同上	同上
四	同上	同上
三	同上	同上
二	同上	同上
一	同上	同上

九	女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ 兩側ノ鼻丸ヲ失ヒタルモノ	標準賃金二百 日分但シ其ノ 金額男子ニ在 リテハ女子ニ 在リテハ男子 ノ四ノ五ニ 十圓ハ滿タサ ハ二百十圓ト スハ二百十圓ト
十	同上	同上

一	一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ 頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ 神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ 一手ノ拇指ヲ併セテ二指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セテ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ヲ五糶以上短縮シタルモノ 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ 一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ 一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ	標準賃金二百 日分但シ其ノ 金額男子ニ在 リテハ女子ニ 在リテハ男子 ノ四ノ五ニ 十圓ハ滿タサ ハ二百十圓ト スハ二百十圓ト
二	同上	同上
三	同上	同上
四	同上	同上
五	同上	同上
六	同上	同上
七	同上	同上
八	同上	同上
九	同上	同上
十	同上	同上
十一	同上	同上

一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 兩眼ニ半盲症視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 咀嚙及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セテ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指ヲ併セテ二指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ノ第一趾ヲ併セテ二趾以上ヲ失ヒタルモノ 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	標準賃金五百 日分但シ其ノ 金額男子ニ在 リテハ女子ニ 在リテハ男子 ノ四ノ五ニ 十圓ハ滿タサ ハ二百十圓ト スハ二百十圓ト
二	同上	同上
三	同上	同上
四	同上	同上
五	同上	同上
六	同上	同上
七	同上	同上
八	同上	同上
九	同上	同上
十	同上	同上
十一	同上	同上

一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 兩眼ニ半盲症視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 咀嚙及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セテ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指ヲ併セテ二指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ノ第一趾ヲ併セテ二趾以上ヲ失ヒタルモノ 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	標準賃金二百 日分但シ其ノ 金額男子ニ在 リテハ女子ニ 在リテハ男子 ノ四ノ五ニ 十圓ハ滿タサ ハ二百十圓ト スハ二百十圓ト
二	同上	同上
三	同上	同上
四	同上	同上
五	同上	同上
六	同上	同上
七	同上	同上
八	同上	同上
九	同上	同上
十	同上	同上
十一	同上	同上

二	咀嚙又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘ス モノ	ノ日分但シ其
三	十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘ タルモノ	五圓又ハ十
四	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ 一耳ノ聽力耳殼ニ接セサレハ大聲 ヲ解シ得サルモノ	十圓又ハ十五
五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇 指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモ ノ	十圓又ハ十五
六	一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、 示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモ ノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用 ヲ廢シタルモノ	十圓又ハ十五
七	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒ タルモノ	十圓又ハ十五
八	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒ タルモノ	十圓又ハ十五
第十一級一	兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害 又ハ運動障害ヲ殘スモノ 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘 スモノ	標準賃金九十 日分但シ其ノ 金額ハ男子ニ テハ七十圓、 女子ニテハ五 十五圓又ハ十 五圓又ハ十五 圓又ハ十五圓 トス
三	一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモ ノ	十圓又ハ十五

八	長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ	ノ日分但シ其
九	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタ ルモノ	十圓又ハ十五
十	一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第 二趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又 ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモ ノ	十圓又ハ十五
十一	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ 廢シタルモノ	十圓又ハ十五
十二	局部ニ頑固ナル神経症狀ヲ殘スモ ノ	十圓又ハ十五
十三	男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモ ノ	十圓又ハ十五
十四	女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	十圓又ハ十五
第十三級一	一眼ノ視力〇・六以下ニ減シタル モノ	標準賃金四十 日分但シ其ノ 金額ハ男子ニ テハ三十圓、 女子ニテハ十 五圓又ハ十五 圓トス
二	一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野 變狀ヲ殘スモノ	十圓又ハ十五
三	兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又 ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	十圓又ハ十五
四	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ	十圓又ハ十五
五	一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタ ルモノ	十圓又ハ十五
六	一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタ ルモノ	十圓又ハ十五

四	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ 一耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常 ノ話聲ヲ解シ得サルモノ	十圓又ハ四十
五	脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	十圓又ハ四十
六	一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモ ノ	十圓又ハ四十
七	一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又 ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ廢 シタルモノ	十圓又ハ四十
八	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用 ヲ廢シタルモノ	十圓又ハ四十
第十二級一	一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害 又ハ運動障害ヲ殘スモノ 一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘 スモノ	標準賃金六十 日分但シ其ノ 金額ハ男子ニ テハ五十圓、 女子ニテハ三 十五圓又ハ十 五圓又ハ十五 圓トス
三	七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタ ルモノ	十圓又ハ四十
四	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタル モノ	十圓又ハ四十
五	鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨 盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ	十圓又ハ四十
六	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機 能ニ障害ヲ殘スモノ	十圓又ハ四十
七	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機 能ニ障害ヲ殘スモノ	十圓又ハ四十

七	一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ 來シタルモノ	十圓又ハ四十
八	一下肢ヲ一種以上短縮シタルモ ノ	十圓又ハ四十
九	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾 ヲ失ヒタルモノ	十圓又ハ四十
十	一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモ ノ、第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シ タルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ 用ヲ廢シタルモノ	十圓又ハ四十
第十四級一	一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又 ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	標準賃金二十 日分但シ其ノ 金額ハ男子ニ テハ十五圓、 女子ニテハ十 圓又ハ十五圓 トス
二	三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタ ルモノ	十圓又ハ四十
三	上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ 殘スモノ	十圓又ハ四十
四	下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ 殘スモノ	十圓又ハ四十
五	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ	十圓又ハ四十
六	一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一 部ヲ失ヒタルモノ	十圓又ハ四十
七	一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關 節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ	十圓又ハ四十
八	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾 ノ用ヲ廢シタルモノ	十圓又ハ四十

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

- 九 局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ
- 十 男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ

備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス
- 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ趾趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

傳染病感染者及死亡者手當給與規則

制定 昭二三、八、二七告示第四二
最近改正 昭元、一二、告示 二

等級	月俸額	療治料	救助料	埋葬料	遺族扶助料
一 等	貳百圓以上	一日ニ付金參圓以內	月俸額一ヶ月分乃至五ヶ月分	月俸額一ヶ月分	千圓
二 等	百六拾圓以上	同	同	同	九百圓
三 等	百參拾圓以上	同	同	同	八百圓

本市會ノ議決ヲ經テ傳染病感染者及死亡者手當給與規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

傳染病感染者及死亡者手當給與規則

- 第一條 凡傳染病アル節豫防救治ノ方法ヲ施行スル爲メ市吏員及市費ヲ以テ備使スル醫員藥劑手書記小使看護人其他人足等該病毒ニ感染又ハ死亡スルモノアルトキハ此規則ニ依リ手當金ヲ支給ス
- 第二條 手當金ヲ分テ療治料救助料埋葬料遺族扶助料ノ四種トシ病者ハ療治料死者ハ埋葬料及扶助料ヲ支給ス
- 但シ遺族扶助料ノ適用ヲ受クル者ニ對シテハ本條ノ埋葬料及遺族扶助料ヲ支給セス
- 健康保險法又ハ大阪市職工工夫健康共濟組合規程ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ之ニ相當スル額ヲ前項ノ埋葬料ヨリ控除ス
- 第一項ノ埋葬料カ前項ノ埋葬料又ハ費用ノ額ヨリ少キトキハ之ヲ支給セス
- 第三條 手當金ハ其ノ月額ノ多寡ニ因リ左表ノ等級ニ應シテ支給スヘシ但シ年給ノ者ハ其ノ十二分ノ一日給者ハ一ヶ月ヲ三十日ト看做シ之ニ乘シタル金額ヲ以テ本條ノ等差ニ準ス

〔大例二三號〕

等級	月俸額	療治料	救助料	埋葬料	遺族扶助料
四 等	百圓以上	同	同	同	七百圓
五 等	八拾圓以上	同	同	同	六百圓
六 等	七拾圓以上	同	同	同	五百圓
七 等	六拾圓以上	同	同	同	四百五拾圓
八 等	五拾圓以上	同	同	同	四百圓
九 等	參拾圓以上	同	同	同	參百圓
十 等	參拾圓以下	同	同	同	貳百五拾圓

第四條 療治料及救助料ハ病狀ノ輕重其ノ他ヲ參酌シ市長ニ於テ其ノ支給額ヲ定ム

第五條 削除

第六條 埋葬料ハ遺族ニ支給ス若シ獨身ニシテ親戚ナキモノハ其同僚又ハ區長ニ之ヲ下付シ埋葬費ニ充テシムルモノトス

第七條 遺族扶助料ハ戸主ニシテ家族ナキ者及非戸主ニシテ妻子ナキ者ハ支給セス其死者非戸主ニシテ妻子ナキ者ト雖モ從來死者ニ依リ生計ヲ立テタル遺族ニアルトキハ之ヲ支給ス

第五節 住宅料

學校、幼稚園、圖書館職員其ノ他賄料、療治料、住宅料支給規程

大阪府知事ノ認可ヲ經大阪府立學校、幼稚園、圖書館職員其ノ他賄料、療治料、住宅料支給規程左ノ通相定ム

大阪府立學校、幼稚園、圖書館職員其ノ他賄料、療治料、住宅料支給規程

第一條 學校、幼稚園及圖書館ノ職員、守衛又ハ使丁ニシテ宿直又ハ當直シタルトキハ左ノ區別ニ依リ賄料ヲ支給ス

Table with columns for position (職員其ノ他ノ所屬別), allowance type (宿直當直), and amount (直當直). Rows include School/Kindergarten (職員, 守衛, 使丁) and Library (職員, 使丁).

第二條 青年學校、小學校、勤勞學校及幼稚園ノ職員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ左ノ區別ニ依リ療治料ヲ支給ス

- 一 入院療養スル者 一日 一圓五十錢

二 其ノ他ニ於テ療養スル者 一日 五十錢

前項ノ規定ニ依ルノ外其ノ傷病ノ狀況ニ依リテ特ニ相當ノ療治料ヲ補給スルコトアルヘシ

第三條 學校、幼稚園ノ職員(書記ヲ除ク)ニ對シテハ住宅料ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一 休職中ノ者

二 專任ニ非サル者

三 定員外ノ者

第四條 住宅料支給額左ノ如シ

Table showing housing allowance by district (區分) and residence type (住宅料). Categories include City (市内), Outside City (市外), and Outside District (區外).

第五條 住宅料ハ其ノ支給ヲ爲スヘキ事實ノ發生シタル月ノ翌月分ヨリ之ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ月分ヨリ支給ス

- 一 任命又ハ復職ノ場合其ノ就職ノ日カ十五日以前ナルトキ
- 二 新ニ世帯主トナリタル者其ノ月ノ十五日以前ニ申告ヲ爲シタルトキ

第六條 住宅料ハ其ノ支給ヲ停止スヘキ事實ノ發生シタル月ノ翌月分ヨリ

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

附則 (昭一七、二、告示四二) 本改正規定ニヨル賄料ハ昭和十六年十二月八日分ヨリ之ヲ支給ス

中央卸賣市場住宅料支給規程

制定 昭八、三、三一、三三、三七 最近改正 昭一五、一、三三〇

中央卸賣市場住宅料支給規程左ノ通相定メ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

中央卸賣市場住宅料支給規程

第一條 中央卸賣市場職員及傭員ニシテ市長職務上必要アリト認ムル者ニ對シ一定區域内ニ其ノ居住ヲ指定シ別表ノ住宅料ヲ支給ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル者已ムコトヲ得サル事由ニ依リ指定區域外ニ居住セントスルトキハ其ノ旨願出テ許可ヲ受クヘシ

第三條 居住指定區域ハ甲及乙ノ二種トシ其ノ範圍ハ市長之ヲ定ム

第四條 新ニ指定區域ニ居住スルニ至リタルトキハ其ノ翌月分ヨリ住宅料ヲ支給ス

資格ノ變更又ハ區域ノ異動アリタルトキハ其ノ事實ノ生シタル翌月分ヨリ支給額ヲ變更ス

解職、退職、休職、轉職、死亡又ハ居住指定ノ取消アリタルトキハ其ノ月分ノ住宅料ハ之ヲ支給ス

第五條 住宅料ハ毎月給料支給日ニ其ノ月分ヲ支給ス

附則 本規程施行ノ日ヨリ指定區域ニ居住スル者ニハ其ノ月分ノ住宅料ヲ支給ス

リ之ヲ停止ス但シ本市立學校、幼稚園以外ノ學校、幼稚園へ轉任(以下轉任ト稱ス)、免職及失職ノ場合其ノ發令ノ日付カ十五日以前ナルトキハ其ノ月分ヨリ停止ス

第七條 資格又ハ居住地ノ變更ニ因リ住宅料支給額ニ更正ヲ要スルトキハ其ノ事實ノ生シタル翌月分ヨリ更正ス

第八條 療治料ハ隨時之ヲ支給ス

賄料ハ翌月給料支給日ニ、住宅料ハ其ノ月給料支給日ニ之ヲ支給ス但シ三月分及轉任、休職、退職、免職、失職又ハ死亡ノ場合ハ其ノ際、支給日カ休日ニ當ルトキハ順次繰下ケ之ヲ支給ス

他ノ區内ノ學校、幼稚園又ハ圖書館ニ轉勤シタル者ノ住宅料ハ發令ノ翌月ヨリ轉勤先ニ於テ之ヲ支給ス

附則

本規程ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

大正十年大阪府告示第五十八號實業學校、高等女學校、盲學校並聾啞學校職員住宅料支給規程

大正十一年大阪府告示第二十七號ノ二小學校、幼稚園及小學校ニ類スル各種學校職員賄料療治料住宅料及使丁賄料給與規程

昭和九年大阪府告示第二百五十三號本市公立學校(小學校、幼稚園、小學校ニ類スル各種學校及小學校ニ併設ノ實業補習學校ヲ除ク)及圖書館職員ノ宿直賄料給與額

附則 (昭一五、九、告示五二〇)

本改正規定ニ依ル住宅料ハ九月分ヨリ之ヲ支給ス

第七類 給與 第二章 手當及獎勵金

別表

種別	甲種指定居住者		乙種指定居住者	
	一戸ヲ構ヘ家 族ヲ有スル者	其ノ他ノ者	一戸ヲ構ヘ家 族ヲ有スル者	其ノ他ノ者
年給住宅料	一五、〇〇〇	七、五〇〇	九、〇〇〇	四、五〇〇
又ハ係長有給吏員ノ	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇
雇員	八、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	二、五〇〇
備員	六、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇

第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

第一節 退隱料及遺族扶助料

退隱料條例

本市會ニ於テ明治三十年大阪府條例第三號退隱料條例改正ノ件ヲ議決シ市制第二百一十一條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得左ノ通相定ム

退隱料條例

第一條 本市有給吏員退職シタルトキハ此條例ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職十年以上ノ者左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

- 一 年齢六十年ヲ超ヘ退職ヲ許シタルトキ
- 二 創傷又ハ疾病ニ因リ職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ許シタルトキ
- 三 廢職又ハ事務ノ都合ニヨリ退職シタルトキ
- 四 本市ノ公職ニ就任スル爲退職シタルトキ
- 五 法定任期滿了ニ依リ退職シタルトキ
- 六 自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲解職シタルトキ

七 市制第八十四條第一項ニ依リ失職シタルトキ但シ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルカ爲失職シタルモノヲ除ク

第三條 公務ニ因リ創傷又ハ疾病ヲ受ケ職務ニ堪ヘサル爲退職ヲ許シ

第七類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

タルトキハ在職期間ノ長短ニ拘ハラズ終身退隱料ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テハ創傷又ハ疾病ノ程度ヲ斟酌シ退隱料年額十分ノ七以内ノ金額ヲ増加退隱料トシテ給スルコトアルヘシ

第四條 退隱料ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額四分ノ一トシ在職十年ヲ超ル者ニハ三十五年ニ至ル迄一年毎ニ俸給年額六十分ノ一ヲ加給ス但シ退隱料年額四千圓ヲ超ユルトキハ四千圓ニ止ム

退隱料年額未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終トス再任ノ者ニ在リテハ前職ヲ退キタル事由第二條各號ノ一ニ該當スルモノニ限リ前後ノ年數ヲ通算ス

第六條 退隱料ハ月割ヲ以テ之ヲ支給シ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第七條 退隱料ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後三ヶ年以内ニ請求スヘシ若シ本條ノ期限内ニ請求セザルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第八條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

- 一 六年ノ懲役若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 在職中市吏員タルノ體面ヲ汚損スル行爲アリタルコト發覺シタルトキ
- 四 第九條ニ該當スル事項ヲ隱蔽シ退隱料ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

第九條 退隱料ヲ受クル者左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スルトキハ其間退隱料ノ支給ヲ停止ス

- 一 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキ刑ノ執行ヲ終リ又

〔大例一三號〕

ハ其執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄

二 本市有給吏員ニ就職シタルトキ

第九條ノ二 退隱料ヲ受ケル者四十歳ニ滿ツル月迄ハ退隱料年額ノ五分ノ一ノ支給ヲ停止ス但シ第三條ノ事由ニ因リ受ケル退隱料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 退隱料ヲ受ケル者再任ノ後退職シタルトキハ其退職當時ノ事實ニ因リ退隱料額ヲ算出シ前ノ退隱料額ニ比較シテ其多キ方ヲ給ス

第十一條 退隱料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但シ恩給金庫法ニ依リ擔保ニ供スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 本條例施行ニ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附則

第十三條 本改正條例ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本市有給吏員中本改正條例施行ノ日ニ在職スル者在職十年ニシテ第二條各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ退職シタルトキハ之ニ對シテ支給スヘキ退隱料ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額四分ノ一トシ在職十年ヲ超ル者ニハ四十年ニ至迄一年毎ニ俸給年額四分ノ一ヲ加給ス

第十五條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ本條例ヲ適用スヘキ場合ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ヲ適用スヘキ場合ニ禁錮以上ノ刑ト看做ス

附則 (昭六、七條例九)

第十六條 昭和六年六月減俸ニ因リ引續キ從前受ケタル俸給ヨリ少キ俸給ヲ受ケル者ニ對シ退隱料ヲ支給スルトキハ從前ノ俸給ニ依リ其ノ額ヲ定ム

給ヲ受ケントスル者ハ前項ノ規定ニ依ル書類ノ外醫師ノ診斷書及其ノ事實ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付スヘシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ請求理由アリト認ムルトキハ別表様式ノ退隱料證書ヲ交付ス

第三條 退隱料ハ年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ當月分及其ノ前二分ヲ支給ス

支給日ハ十二月ニ在リテハ二十三日以降、其ノ他ノ月ニ在リテハ各二十六日以降トス

新ニ退隱料證書ヲ交付シタル者ニ對シテハ最近到來ノ前項ノ規定ニ依ル期日ヨリ當月分及其ノ以前ニ屬スル退隱料ノ全額ヲ一時ニ支給ス

權利消滅シ又ハ停止セラレタル場合ニ於ケル退隱料ハ前各項ノ規定ニ拘ラス隨時之ヲ支給ス

第四條 退隱料ヲ受領セントスルトキハ其ノ都度退隱料證書又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ但シ市區町村長ノ閱覽證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五條 條例第八條又ハ同第九條ノ規定ニ該當スル者ノ退隱料支給ノ終始ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ判決確定ノ日ノ前日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ノ失ヒタル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 在職中市吏員タル體面ヲ汚損スルノ行爲アリタルコト發覺シタルトキハ發覺シタル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル

三 條例第九條ノ規定ニ該當スル事項ヲ隱蔽シ退隱料ヲ受ケタルコト發覺シタルトキハ其ノ發覺シタル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル

第七類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

ノ額ヲ定ム

附則 (昭一六、三條例二)

第十七條 本改正條例ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 本改正條例施行前給與事由ノ生シタル退隱料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ退隱料金額本改正條例所定ノ退隱料金額ニ比シ少キトキハ其ノ差額ヲ増給ス

第十九條 本改正條例施行ノ際現ニ在職シ本改正條例施行後退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ生スル者ニハ第九條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者及本改正條例施行前退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ生シタル者本改正條例施行後再就職シ其ノ退隱料ヲ改定セララル場合ニハ其ノ改定ニ因リ増額分ニ付第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第二十條 大正四年九月一日以前ニ就職シ本改正條例施行ノ際現ニ引續キ在職スル者本改正條例施行後退職シタルトキハ其ノ退隱料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

退隱料條例施行細則

第一條 退隱料ノ支給ヲ受ケントスル者ハ退隱料請求書ニ在職中ノ履歷書及戸籍謄本ヲ添へ請求スヘシ

退隱料條例(以下條例ト稱ス)第三條第一項ノ規定ニ依ル退隱料ノ支給日ヨリ以前ニ在リテハ二十三日以降、其ノ他ノ月ニ在リテハ各二十六日以降トス

新ニ退隱料證書ヲ交付シタル者ニ對シテハ最近到來ノ前項ノ規定ニ依ル期日ヨリ當月分及其ノ以前ニ屬スル退隱料ノ全額ヲ一時ニ支給ス

明治四十年大阪府告示第七十二號市吏員退隱料條例施行細則左ノ通知正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 退隱料ノ支給ヲ受ケントスル者ハ退隱料請求書ニ在職中ノ履歷書及戸籍謄本ヲ添へ請求スヘシ

退隱料條例(以下條例ト稱ス)第三條第一項ノ規定ニ依ル退隱料ノ支給日ヨリ以前ニ在リテハ二十三日以降、其ノ他ノ月ニ在リテハ各二十六日以降トス

新ニ退隱料證書ヲ交付シタル者ニ對シテハ最近到來ノ前項ノ規定ニ依ル期日ヨリ當月分及其ノ以前ニ屬スル退隱料ノ全額ヲ一時ニ支給ス

權利消滅シ又ハ停止セラレタル場合ニ於ケル退隱料ハ前各項ノ規定ニ拘ラス隨時之ヲ支給ス

第四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ判決確定ノ日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ、刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

五 本市有給吏員ニ就職シタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其ノ退職シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第六條 條例第三條ノ規定ニ依ル增加退隱料ハ左ノ各號ニ定ムル區分ニ依リ其ノ都度市長之ヲ定ム

一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ七以内

二 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ五以内

三 一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ三以内

前項各號ノ規定ニ該當セサル創傷又ハ病疾ニ關スル增加退隱料ハ十分ノ七以内ニ於テ其ノ都度市長之ヲ定ム

第七條 退隱料ヲ受ケル者懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ本人、家族若ハ親族ヨリ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第八條 退隱料ヲ受ケル者懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其ノ取消ヲ受ケルコトナクシテ猶豫期間ヲ經過シタル場合ニ限り停止中ノ退隱料ヲ一時ニ支給ス

第七類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

第九條 條例第九條ノ規定ニ依ル停止ノ事由止ミタルトキハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十條 退隱料ヲ受ケル者死亡シタルトキハ其ノ家族、親族又ハ縁故者ヨリ死亡ノ届出ヲ爲スト同時ニ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十一條 退隱料ヲ受ケル者其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ本人、家族又ハ親族ヨリ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十二條 退隱料證書ヲ亡失シ又ハ其ノ謄本ヲ亡失若ハ汚染毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ届出ツヘシ

第十三條 退隱料證書ヲ汚染シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ證書ヲ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 退隱料ヲ受ケル者ハ豫メ印鑑證明書ヲ差出スヘシ改印シタルトキ又同シ

第十五條 退隱料ヲ受ケル者住所ヲ轉シタルトキハ其ノ旨ヲ、本籍地ニ變更生シタルトキハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ、氏名ニ變更生シタルトキハ退隱料證書及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

附則 大正十年大阪府告示第二十六號市吏員退隱料及遺族扶助料更正證書發行交付手續ハ之ヲ廢止ス

第一條 大正十四年四月一日本市ニ編入シタル町村ヨリ退隱料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ權利ヲ有スル者ニハ其ノ現ニ受ケ又ハ受ケヘキ退隱料ヲ給ス但シ支給ノ期日及權利ノ喪失又ハ停止ニ關シテハ本市退隱料條例ニ依ル

第二條 編入町村ノ有給吏員ニシテ編入ノ當日本市ノ有給吏員ニ就職シ又ハ雇員ニ就職シ其ノ後有給吏員ニ就職シタル者ニ對シテ本市退隱料條例ノ適用ニ付テハ其ノ町村有給吏員在職年數ト本市有給吏員在職年數トヲ通算ス但シ本市ヨリ退隱料ヲ受ケル者ニシテ編入町村有給吏員ニ就職シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則 本條例ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

西成普通水利組合有給吏員退隱料並遺族扶助料ニ關スル條例

第一條 昭和八年五月一日本市ニ引繼キタル西成普通水利組合ヨリ退隱料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ權利ヲ有スル者ニハ其ノ現ニ受ケ又ハ受ケヘキ退隱料ヲ給ス但シ支給ノ期日及權利ノ喪失又ハ停止ニ關シテハ本市退隱料條例ニ依ル

第二條 西成普通水利組合ノ有給吏員ニシテ引繼ノ當日本市ノ有給吏員ニ就職シ又ハ雇員ニ就職シ其ノ後有給吏員ニ就職シタル者ニ對シ

第七類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

第九條 條例第九條ノ規定ニ依ル停止ノ事由止ミタルトキハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十條 退隱料ヲ受ケル者死亡シタルトキハ其ノ家族、親族又ハ縁故者ヨリ死亡ノ届出ヲ爲スト同時ニ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十一條 退隱料ヲ受ケル者其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ本人、家族又ハ親族ヨリ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十二條 退隱料證書ヲ亡失シ又ハ其ノ謄本ヲ亡失若ハ汚染毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ届出ツヘシ

第十三條 退隱料證書ヲ汚染シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ證書ヲ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 退隱料ヲ受ケル者ハ豫メ印鑑證明書ヲ差出スヘシ改印シタルトキ又同シ

第十五條 退隱料ヲ受ケル者住所ヲ轉シタルトキハ其ノ旨ヲ、本籍地ニ變更生シタルトキハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ、氏名ニ變更生シタルトキハ退隱料證書及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

附則 大正十年大阪府告示第二十六號市吏員退隱料及遺族扶助料更正證書發行交付手續ハ之ヲ廢止ス

第一條 大正十四年四月一日本市ニ編入シタル町村ヨリ退隱料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ權利ヲ有スル者ニハ其ノ現ニ受ケ又ハ受ケヘキ退隱料ヲ給ス但シ支給ノ期日及權利ノ喪失又ハ停止ニ關シテハ本市退隱料條例ニ依ル

第二條 編入町村ノ有給吏員ニシテ編入ノ當日本市ノ有給吏員ニ就職シ又ハ雇員ニ就職シ其ノ後有給吏員ニ就職シタル者ニ對シテ本市退隱料條例ノ適用ニ付テハ其ノ町村有給吏員在職年數ト本市有給吏員在職年數トヲ通算ス但シ本市ヨリ退隱料ヲ受ケル者ニシテ編入町村有給吏員ニ就職シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則 本條例ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

西成普通水利組合有給吏員退隱料並遺族扶助料ニ關スル條例

第一條 昭和八年五月一日本市ニ引繼キタル西成普通水利組合ヨリ退隱料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ權利ヲ有スル者ニハ其ノ現ニ受ケ又ハ受ケヘキ退隱料ヲ給ス但シ支給ノ期日及權利ノ喪失又ハ停止ニ關シテハ本市退隱料條例ニ依ル

別表

第 號 退隱料證書

元大阪市何(職名) 氏 名

昭和年月日退職 生年月日

明治四十年大阪府條例第二號退隱料條例ニ依リ終身 退隱料年額金 ヲ支給ス

昭和 年 月 日 大阪市長 氏 名 印

市吏員退隱料條例同施行細則全文ハ別ニ印刷シ交付スルモノトス

編入町村有給吏員退隱料ニ關スル條例

本市會ノ議決ヲ經編入町村有給吏員退隱料ニ關スル條例左ノ通相定ム 編入町村有給吏員退隱料ニ關スル條例

テハ其ノ水利組合有給吏員在職年數ト本市有給吏員在職年數トヲ通算シテ本市退隱料條例又ハ遺族扶助料條例ヲ適用ス

弘濟會有給職員退隱料並遺族扶助料ニ關スル條例

本市會ノ議決ヲ經弘濟會有給職員退隱料並遺族扶助料ニ關スル條例左ノ通相定ム公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

弘濟會有給職員退隱料並遺族扶助料ニ關スル條例 弘濟會ノ有給職員ニシテ引繼ノ當日本市ノ有給吏員ニ就職シタル者又ハ雇員ニ就職シ其ノ後有給吏員ニ就職シタル者ニ對シテハ其ノ弘濟會有給職員在職年數ト本市有給吏員在職年數トヲ通算シテ本市退隱料條例又ハ遺族扶助料條例ヲ適用ス但シ弘濟會ノ退隱料及遺族扶助料規程ニ拘ラズ雇員在職年數ハ之ヲ通算セザルモノトス

遺族扶助料條例

本市會ニ於テ遺族扶助料條例ヲ議決シ市制第二百一十一條ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ左ノ通相定ム

第一條 本市有給吏員左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スルトキハ其遺族ハ此條例ノ規定ニ依リ二十年間扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス但シ第二條ノ納金ヲ爲サザリシ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス

第七類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與

三 退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者死亡シタルトキ
前項第二號及第九條ノ在職年數ノ計算ニ付テハ退隱料條例第五條ノ
規定ヲ準用ス

第二條 有給吏員ハ施行細則ノ定ムルトコロニ依リ其俸給ノ百分ノ一
ヲ本市ニ納付スヘシ但別段ノ規定ノ適用ヲ受クル者ハ之ヲ除ク

第三條 扶助料年額ハ左ノ區分ニ依ル
一 第一條第一項第一號ノ場合ニ在リテハ退隱料條例第三條ニ依リ
査定シタル金額ノ二分ノ一

二 第一條第一項第二號ノ場合ニ在リテハ退隱料條例第四條又ハ第
十條ニ依リ算出シタル金額ノ二分ノ一
三 第一條第一項第三號ノ場合ニ在リテハ退隱料年額二分ノ一

第四條 此條例ニ於テ遺族ト稱スルハ有給吏員タリシ者死亡ノ當時ヨ
リ引續キ其家ニ在リテ第五條ニ該當スル者ヲ云フ但父死亡後出生シ
タル嫡出子ハ死亡當時其家ニ在リタル者ト看做ス

第五條 扶助料ヲ受クヘキ者ノ順序左ノ如シ但養子ハ家督相續人ニ非
ラサルハ之ヲ給セス

第一 寡婦

第二 子

第三 父母

父母ノ間ニ於テハ父ヲ先キニシ子數人アル場合ハ施行細則ノ定ムル
順序ニヨリ支給ス

民法第九百六十九條ニ依リ家督相續人タルコトヲ得サル者及推定家
督相續人ニシテ廢除セラレタル者ニハ扶助料ヲ給セス但疾病其他身
體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ廢除セラレタ
ル者ハ此限ニアラス

該當スル者ノ中再任者ニアラサル者若ハ再任後在職二年五箇月以
上ノ者ハ最終俸給年額ノ三分ノ一

第十條 前條ノ扶助金ヲ支給スヘキ遺族ノ順序ハ第五條ニ依ル

第十條ノ二 健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給
アルヘキトキハ之ニ相當スル額ヲ第九條ノ扶助金ヨリ控除ス

第十一條 扶助料ノ年額及一時金ノ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第十二條 扶助料ノ支給及廢止ハ其事由ノ生シタル翌月ヨリ之ヲ行フ
第十四條但書ニ依ル扶助料ノ支給ハ出生ノ翌月ヨリ始マル

第十三條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後一ケ年以内ニ請求
セサルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十四條 扶助料ハ他ノ權利ノ目的トナスコトヲ得ス

第十五條 此條例施行ニ必要ナル細則ハ市參事會之ヲ定ム
附則 (昭一六、三條例三)

第十六條 昭和十六年四月一日現ニ遺族扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者
ニ付テハ退隱料條例第十八條但書ノ規定ヲ準用ス

遺族扶助料條例施行細則

制定 昭二一、三、二二告示一九

明治四十五年大阪市告示第九號遺族扶助料條例施行細則左ノ通改正シ
昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

遺族扶助料條例施行細則

第一條 本市有給吏員ハ遺族扶助料條例(以下條例ト稱ス)第二條ノ規
定ニ依ル金額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ給料支給ノ際之ヲ徴收ス
納付金ニ錢位未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ

第七類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與

第六條 扶助料ヲ受クル權利ヲ有スル者死亡シ又ハ其權利ヲ喪失シタ
ルトキハ扶助料ハ第一條第一項第一號乃至第三號ノ事項發生ノ時ヨ
リ二十年ヲ經過スル迄ノ間前條ニ定ムル順序ニ從ヒ次順位ノ者ニ轉
給ス

第七條 扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルト
キハ其權利ヲ失フ

一 懲役若クハ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケ其判決確定シタルトキ

二 日本臣民タルノ年限ヲ失ヒタルトキ

三 寡婦又ハ母婚姻シタルトキ

四 子二十歳ニ滿チタルトキ

第八條 扶助料ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姊妹
二十歳未滿又ハ篤疾廢疾ニシテ自活スルコト能ハス且扶養ヲ爲ス者
ナキトキハ扶助料ニ相當スル金額ノ二ケ年分ヲ一時ニ給與ス

第九條 本市有給吏員在職中死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ遺
族ニ一時扶助金ヲ給ス

一 再任者ニアラサル在職十年未滿ノ者職務ノ爲ニアラスシテ死亡
シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ在職一年以上ハ一箇月
ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

二 再任者ニシテ在職十年未滿ノ者職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタ
ルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一
箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

三 再任者ニシテ在職十年以上ノ者再任後在職二年五箇月未滿ニシ
テ職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ
一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二
百分ノ一ヲ加フ

四 第一條第一項第一號ニ該當スルトキ又ハ第一條第一項第二號ニ

該當スルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一
箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

再任者ニシテ在職十年以上ノ者再任後在職二年五箇月未滿ニシ
テ職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ
一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二
百分ノ一ヲ加フ

第一條第一項第一號ニ該當スルトキ又ハ第一條第一項第二號ニ

該當スルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一
箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

再任者ニシテ在職十年以上ノ者再任後在職二年五箇月未滿ニシ
テ職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ
一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二
百分ノ一ヲ加フ

第二條 子數人アル場合ハ左ノ順位ニ依リ扶助料ヲ支給ス

一 男女ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

二 男相互又ハ女相互間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

三 前二號ノ場合ニ於テ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニ
ス

民法第八百三十六條ノ規定ニ依リ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ニ
付テハ其ノ嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生レタル者ト看做ス

第三條 遺族扶助料ヲ受ケントスル者ハ扶助料請求書(第四號ニ該當
三號様式其ノ他)ニ戸籍謄本及左ノ書類ヲ添ヘ請求スヘシ

一 條例第一條第一號ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ傷痕若ハ疾病ノ
職務ニ基因シタルコトヲ證スルニ足ル書類及醫師ヲシテ診斷セシ
メタルトキハ其ノ診斷書

二 條例第一條第三號ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ市吏員退隱料條
例施行細則第十條ノ規定ニ依リ返納スヘキ退隱料證書但シ既ニ之
ヲ返納シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 條例第五條第三項但書ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者又ハ先順位者
カ同條同項但書以外ノ事由ニ基キ家督相續ヲ廢除セラレタルニ因
リ扶助料ヲ受クヘキ者ハ家督相續廢除ノ原因ヲ證スル確定判決ノ
謄本若ハ戸籍吏ノ證明書

四 條例第六條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ前者ノ扶助料證書及前
者カ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ確定判決ノ謄
本

五 條例第八條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ二十歳未滿又ハ篤疾廢

第七類 給與 第三章 退職料、遺族扶助料及退職給與金

疾ニシテ自活スルコト能ハス且扶養ヲ爲ス者ナキコトヲ證スル市
區町村長又ハ市區町村長及醫師ノ證明書

第四條 前條ノ規定ニ依ル請求ヲ理由アリト認ムルトキハ第一號様式
ノ扶助料證書ヲ交付ス但シ條例第八條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ニ
ハ辭令書ヲ用フ

第五條 扶助料ハ年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ當月分
及其ノ前二月分ヲ支給ス
支給日ハ十二月ニ在リテハ二十三日以降、其ノ他ノ月ニ在リテハ各
二十六日以降トス

第六條 扶助料證書ヲ交付シタル者ニ對シテハ最近到來ノ前項ノ規定ニ
依ル期日ヨリ當月分及其ノ以前ニ屬スル遺族扶助料ノ金額ヲ一時ニ
支給ス
權利消滅シ又ハ停止セラレタル場合ニ於ケル扶助料ハ前各項ノ規定
ニ拘ラス隨時之ヲ支給ス
一時扶助金ハ隨時之ヲ支給ス

第七條 扶助料ヲ受ケル者ハ豫メ印鑑證明書ヲ差出スヘシ改印シタル
トキ亦同シ

第八條 扶助料ヲ受ケル者住所ヲ轉シタルトキハ其ノ旨ヲ、本籍地ニ
變更シタルトキハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ、改名シタル
トキハ扶助料證書又ハ其ノ謄本及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ

届出ツヘシ

第九條 扶助料證書ヲ亡失シ又ハ其ノ謄本ヲ亡失若ハ汚染毀損シタル
トキハ遲滞ナク其ノ理由ヲ具シ届出ツヘシ
前項ノ規定ニ依ル届出ヲ事實ト認ムルトキハ扶助料證書ノ謄本ヲ交
付ス此ノ謄本ハ扶助料證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十條 扶助料證書ヲ汚染シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ證書ヲ差出シ
代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル請求アリタルトキハ其ノ真正ヲ認定シ得ヘキモノ
ニハ代證書ヲ交付シ其ノ眞偽ヲ認定シ難キモノニハ前條第二項ノ規
定ヲ準用ス

第十一條 扶助料ヲ受ケヘキ權利消滅シ又ハ之ヲ受ケヘキ者ナキニ至
リタルトキハ本人、家族若ハ親族等扶助料證書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出
ツヘシ

第一號様式

第 號 扶助料證書

故大阪市何(職名)氏名(寡婦)
(子)(父)(母) 氏 名

生年月日

扶助料年額金若干

明治四十二年大阪市條例第六號遺族扶助料條例ニ依リ
昭和何年何月ヨリ前記扶助料ヲ支給ス

年 月 日

大阪市長 氏 名 印

第二號様式

遺族扶助料條例同施行細則全文ハ別ニ印刷シ交付スルモノトス

扶助料請求書

故大阪市何(職名)氏名 何年何月何日大阪市何(職名)就職何年何月
何々ノ事由ニ依リ(何々ノ事由ニ依リ退職ノ處何年何月何日何々ノ
事由ニ依リ)死亡候ニ付明治四十二年大阪市條例第六號遺族扶助料
條例ニ依リ相當扶助料支給相成度別紙戸籍謄本(及何々書類)相添ヘ

第七類 給與 第三章 退職料、遺族扶助料及退職給與金

此段請求候也

年 月 日

本籍 現住所

故大阪市何(職名)氏名
(寡婦)(子)(父)(母) 氏 名

大阪市長氏名殿

扶助料請求書

故大阪市何(職名)氏名(寡婦)(子)(父)(母)氏名 遺族扶助料ヲ受ケ
ル者ニ候處何年何月何日死亡(又ハ何々ノ事由ニ依リ權利消滅)候ニ
付明治四十二年大阪市條例第六號遺族扶助料條例第六條ニ依リ自分
ヘ轉給相成度別紙戸籍謄本及扶助料證書(何々書類)相添ヘ此段請求
候也

年 月 日

本籍 現住所

故大阪市何(職名)氏名
(寡婦)(子)(父)(母) 氏 名

大阪市長氏名殿

本市會ノ議決ヲ經編入町村有給吏員遺族扶助料ニ關スル件左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

制定 昭二六、二九條例一四

編入町村有給吏員遺族扶助料ニ關スル件

大正十四年四月一日本市ニ編入シタル町村ノ有給吏員ニシテ編入ノ當日本市ノ有給吏員ニ就職シ又ハ雇員ニ就職シ其ノ後有給吏員ニ就職シタル者ニ對シテハ其ノ町村有給吏員在職年數ト本市有給吏員在職年數トヲ通算シテ本市遺族扶助料條例ヲ適用ス但シ本市ヨリ退職料ヲ受クル者ニシテ編入町村有給吏員ニ就職シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二節 退職給與金

有給吏員退職給與金條例

制定 昭三三、四、七告示三一
最近改正 昭九、一二、告示三二

本市會ノ議決ヲ經テ有給吏員諸職員退職者及死亡者給與金規程左ノ通相定ム

有給吏員退職給與金條例

第一條 本市有給吏員及諸職員在職滿一年以上ニシテ退職シタル者ニハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ支給ス

第二條 有給吏員及諸職員ニシテ退職ノ際給與金ヲ受ケタル者再ヒ就職シ爾後退職シタルトキハ前條ニ掲グルル在職年數ハ其再任ノ日ヨリ起算ス

前項ノ給與金トハ本規程第一條及明治二十三年大阪市告示第七號並ニ明治二十九年大阪市告示第十二號ニ依リ給與シタルモノヲ謂フ

第三條 自己ノ便宜ニ由リ退職シタル者、懲戒處分ニ依リ免職シタル者又ハ雇及之ニ準スヘキ者ニハ給與セズ

第三條ノ二 本條例ノ規定ニ依ル退職給與金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四條 本規程ハ告示ノ日ヨリ施行シ明治二十三年大阪市告示第七

號及明治二十九年大阪市告示第十二號ハ其日ヨリ廢止ス

附則 (昭六、七條例一〇)

昭和六年六月減俸ニ因リ引續キ從前受ケタル給料ヨリ少キ給料ヲ受ケル者ニ對シ本給與金ヲ支給スルトキハ從前ノ給料ニ依リ其ノ額ヲ定ム

給十五日分ヲ增加ス

三 勤續十年ヲ超エ退職シタルトキハ十年ヲ超エタル後一年毎ニ日給二十日分ヲ增加ス

四 職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ再ヒ從來ノ業務ヲ執ルコト能ハサル方爲退職シタルトキハ前各號ノ外在職年數ニ不拘日給百二十日分以內ヲ給ス

第四條 本規程ノ適用ヲ受クル者引續キ本市有給吏員トナリタルトキハ本規程ノ適用ニ付テハ退職シタル者ト看做ス但シ其ノ給與金ハ有給吏員ノ職ヲ退キタル際ニ之ヲ給與ス死亡シタルトキ亦同シ

前項ノ給與金ヲ受ケヘキ者大阪市有給吏員退職給與金條例第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ給セズ

第五條 遺族扶助金ハ在職中死亡シタル場合ニ死亡當時ノ日給ニ基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス

一 勤續五年以上ニシテ死亡シタルトキハ第三條第一號乃至第三號ノ例ニ依ル

二 職務上死亡シタルトキハ前號ノ外在職年數ニ不拘日給百二十日分以內ヲ給ス

第六條 遺族扶助金ヲ受ケヘキ者ニ付テハ備員扶助規程第九條ヲ準用ス

第七條 葬祭料ハ在職中死亡シタル者ノ葬祭ヲ爲シタル者ニ之ヲ給シ其ノ額ヲ五十圓トス

健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給ヲ受ケヘキ者ニ對シテハ葬祭料ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額方埋葬料又ハ埋葬ニ

雇員其ノ他日給者特別給與規程

制定 大二〇、四、一告示三五

最近改正 昭一一、三、告示一一〇

本市會ノ議決ヲ經雇員其ノ他日給者特別給與規程左ノ通相定ム

雇員其ノ他日給者特別給與規程

第一條 本市ノ雇員其ノ他日給者ニハ本規程ノ定ムル所ニ依リ退職給與金、遺族扶助金又ハ葬祭料ヲ給ス

前項ノ各給與金ハ他ノ規定ニ依リテ退職若クハ死亡ノ爲同一種類ノ給與金ヲ受クルトキハ其ノ給與額ヲ比較シテ多キ方ヲ給ス

第二條 本規程ノ適用ヲ受クル者ハ雇員及備員トス

第三條 退職給與金ハ退職者ニ對シ退職當時ノ日給ニ基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス但シ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ市ノ利益ヲ害シ若ハ著シク市ノ體面ヲ汚損スト認ムヘキ行爲アリタル爲解備シタル者ニハ之ヲ給セズ

一 勤續五年ニシテ退職シタルトキハ日給七十五日分トス

二 勤續五年ヲ超エ退職シタルトキハ五年ヲ超エタル後一年毎ニ日

第七類 給與 第三章 退職料、遺族扶助料及退職給與金

第四章 被服

吏員其ノ他被服規程

本市吏員其ノ他被服規程左ノ通相定ム
制定 大ニ、七、一八告示 七二
最近改正 昭二八、五 告示 一九七

第一條 本市吏員其ノ他ニシテ左ニ掲クル者ハ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス

- 別表甲第一號ニ依ルヘキモノ
度量衡取締書記、同技手、下水道及溝渠浚渫並尿尿應急汲取事務ニ服スル書記、公會堂監守長、守衛長、消毒事務ノ防疫事務員
- 別表甲第二號ニ依ルヘキモノ
度量衡取締履、外勤ニ服スル工手、土木局所屬履(現場員)、守衛副長、守衛、水道點檢員、水道局集金員(男子)、土木巡視、渡船巡視、公園看守、動物園看守、公會堂監守、少年保養所守衛、消毒事務ノ事務員、船長、機關長、機關手、下水道及溝渠浚渫並尿尿應急汲取事務ニ服スル履、昇降機手、公會堂電工、靈園巡視事務ニ服スル履、屠場守衛事務ニ服スル履、下水溝上巡視ニ從事スル監視員
- 別表甲第三號ニ依ルヘキモノ
上下水道諸職工、同工夫
- 別表甲第四號ニ依ルヘキモノ
使丁、水夫、土木局所屬船員
- 別表甲第五號ニ依ルヘキモノ
給仕(男子)
- 別表甲第六號ニ依ルヘキモノ
音樂隊樂長、樂手、音樂隊ニ屬スル技術員及技術補助員
- 別表甲第七號ニ依ルヘキモノ
秘書課所屬船長、機關長

第七類 給與 第四章 被服

【大ニ一三號】

別表乙ニ依ルヘキモノ
保健所及健康相談所勤務ノ女子職員ニシテ家庭訪問ニ從事スル者

- 別表甲第七號ニ依ル服裝ヲ爲ス者ハ「ワイシヤツ」又ハ「カッター」シテ「ラ著用シ」ネクタイ「ラ使用ス」ヘシ
- 第二條 被服ハ現品ヲ貸與シ保存期間満了シタルトキハ徽章ヲ除クノ外之ヲ給與ス但シ別表乙ニ依ルヘキモノニ對シテハ被服ハ之ヲ貸與セズ保存期間ノ計算ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル
- 第三條 被服ノ保存期間満了ニ至ラズシテ解職、退職、休職、轉職若ハ死亡シタルトキハ速ニ之ヲ返納セシム
- 第四條 故意又ハ過失ニ依リ保存期間中被服ヲ毀損又ハ滅失シタルトキ保存期間ノ殘餘月數ニ應ジ調製ノ原價ニ依リ其ノ價額ヲ賠償セシム
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ一月一圓ノ靴代料ヲ支給ス
 - 一 別表甲第一號ニ依ル服裝ヲ爲ス者ノ中守衛長、消毒事務ノ防疫事務員
 - 二 別表甲第二號乃至第五號及第七號ニ依ル服裝ヲ爲ス者
 - 三 別表乙ニ依ル服裝ヲ爲ス者
- 第五條ノ二 被服料ノ支給ヲ受クヘキ者及其ノ支給額左ノ如シ
 - 一 保健所及健康相談所勤務ノ女子職員ニシテ家庭訪問ニ從事スル者 一月、四圓
 - 二 女子給仕、水道局女子集金員 一月、二圓
- 第五條ノ三 前二條ノ該當者ニシテ傳染病豫防救治從事者手當ノ支給ヲ受クル者ハ本規程ニ依ル靴代料及被服料ハ之ヲ支給セズ
- 第五條ノ四 靴代料及被服料ハ毎月二十五日支給ス但シ當日休職ノ場合ハ繰下トス
- 靴代料及被服料ハ十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以前ニ解職、休職、轉職若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支給ス
- 第六條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ但シ第三號及第四號(使丁ヲ除ク)ハ新任者ニ限り夏服二著ヲ貸與ス

品名	區別						
	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第七號
冬服	一著	一著	一著	一著	一著	一著	一著
夏服	一著	一著	一著	一著	一著	一著	一著
外套	一著	一著	一著	一著	一著	一著	一著
帽子	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇
夏帽子	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇
雨具	一著	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇
グートル	一足	一箇年	一足	一箇年	一足	三箇年	

備考

別表甲第二號ニ該當スル者ノ中外勤ニ服スル工手、土木局所屬雇(現場員)、土木巡視、渡船巡視、公園看守、動物園看守、下水道並溝渠浚渫事務ニ服スル履、水道點檢員及水道局集金員(男子)ニ限リ之ヲ貸與ス

同第三號ニ該當スル者ノ中普通袴貸與ノ者ニハ「グートル」ヲ貸與セス

同第四號ニ該當スル者ノ中使丁ニ貸與スル冬服、夏服ノ保存期間ハ二年トス

第七條

本規程ハ大正二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス、但シ第一條ニ掲クル吏員其ノ他ニ對シ本規程施行前ニ貸與シタル被服ハ從前ノ規定ニ依ル保存期間滿了ニ至ルマテ之ヲ著用セシム

明治三十一年一月大阪市告示第一號度警衛取締吏員服制、同年六月大阪市告示第一號檢査吏員服制及同年七月大阪市告示第二十號水點檢從事者被服規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則(昭二、六告示一六六)

本改正規定施行ノ際現ニ貸與ヲ受クル被服ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則(昭九、六告示一四一)

本改正規程施行ノ際現ニ貸與ヲ受クル被服ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則(昭一、二、八告示五二)

本改正規程施行前ニ貸與シタル外套ハ從前ノ規定ニ依ル保存期間滿了ニ至ルマテ之ヲ著用セシム

附則(昭一、三、一〇告示五〇六)

保健婦長及保健婦ニ對スル昭和十三年十月分ノ靴代料及被服料ハ半額

附則(昭一、八、五、告示一九七)

本改正規定ハ昭和十八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔大例一三號〕

(別表甲)

品名	區別	
	第一號	第二號
第一號	地質 黒又ハ濃紺羅紗	同
第二號	地質 同	同上
第三號	地質 同上	同上
第四號	地質 同上	同上
第五號	地質 同上	同上
第六號	地質 國防色羅紗	同上
第七號	地質 黒羅紗	同上

品名	區別	地質	制式	徽章
夏帽	第一號	同上	圓形ニシテ黒革製ノ前底及頭紐ヲ付シ、紐ノ兩端ニ各一箇ノ釦ヲ以テ之ヲ留ム、但シ夏部ヲ白布ヲ以テ帽ノ上ヲ覆フ	金色市徽、中央ニ銀色ノ丸ニシテ、各職務ノ字ヲ以テ打テ、上、別、圖、各、如、シ
夏帽	第二號	同上	同上	同上
夏帽	第三號	同上	同上	同上
夏帽	第四號	同上	同上	同上
夏帽	第五號	同上	同上	同上
夏帽	第六號	同上	同上	同上
夏帽	第七號	同上	同上	同上

品名	區別	地質	制式	徽章
夏帽子	第一號	同上	同上	同上
夏帽子	第二號	同上	同上	同上
夏帽子	第三號	同上	同上	同上
夏帽子	第四號	同上	同上	同上
夏帽子	第五號	同上	同上	同上
夏帽子	第六號	同上	同上	同上
夏帽子	第七號	同上	同上	同上

套	外	服												
		夏					冬							
		袴	ヨキ	チツ	衣	上	袴	ヨキ	チツ	衣	上			
釦	袖章	制式	地質	制式	地質	制式	地質	襟章	釦	袖章	制式	地質	制式	地質
冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	折襟胸部二行釦十箇 頭巾附	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	上衣ニ同シ			冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	黒又ハ紺セル地	普	上衣ニ同シ
同	同	同	同	同	同			同	同	同	同	同	同	同
上同	上	上 折襟胸部二行 釦十箇	上 黒又ハ濃紺羅紗	上同	上同			上同	上同	上	上同	上 冬服ニ同シ	上 普通但シ業務ノ 種類ニ依リ短袴	上同
上同		折襟胸部二行 釦十箇 頭巾ナシ但シ水 夫ハ頭巾附	上同	上同	上同			上同	上 白色市徽章入 用ノモノニ同シ	上同	上同	白	上 小	上同
上同		折襟胸部二行 釦十箇	上同	上同	上同			上同	上 冬服ニ同シ	上同	上同	倉黒又ハ紺セル地 剛防	上同	上同
上		如シ 國民服型別圖ノ 折襟胸二重形別 圖ノ如シ	上 冬服ニ同シ	上同	上同			上同	上同	上同	上同	濃紺羅紗	上同	上同
色部ニハ釦一箇ヲ附ス宛二列	徑二・八種國防 色釦ニハ最上金 色市徽章五個							上同	上同	冬服ニシ	上同	濃紺セル	上同	上同

服	冬									
	衣					上				
	ヨキ	チツ	襟章	釦	袖章	制式	地質	襟章	釦	袖章
			七寶燒圓形徑六分 地定色ヲ以テ市徽 章ヲ表シタル別圖 ノ左側ニ付ス別圖 ノ如シ	徑六分五厘市徽章入 金製金色釦五箇別 圖ノ如シ	袖口ヨリ二分五分ノ 處ニ幅三分ノ黒線二 條ヲ二分五厘ノ間隙 ヲ以テ付ス		黒又ハ濃紺羅紗			
			第一號ト同一形 銅色地	上 徑六分五厘ノ徽 章入金製釦五箇別 圖ノ如シ	袖口ヨリ二分五分 ノ處ニ黒線一條ヲ付 ス		同			
			七寶燒圓形徑六分 淡色地ニ草水 市徽章下部ニ草水 ノ字兩側ニ尖ニ各 若葉中シニ得 職務ヲ識別シ得 ルノ別圖ノ左側 ニ付ス別圖ノ如シ	上 徑六分五厘ノ徽 章入金製釦五箇別 圖ノ如シ			上 黒又ハ濃藍霜降			
			金製金色釦徑六 分市徽章ヲ別圖 ノ左側ニ付ス別圖 ノ如シ	徑六分五厘ノ徽 章入金製釦五箇別 圖ノ如シ			上 紺			
				徑五分市徽章入 金製銀色釦五箇 別圖ノ如シ			上 倉黒又ハ濃紺羅紗			
				徑五分胸口ハケツ ト及袖口ハケツ ノ各一箇ヲ附ス			上 國防色羅紗			
				徑六分五厘市徽 章入金製金色釦 五箇別圖ノ如シ			上 濃紺サーシ			

雨具		ゲートル	
地質	制式	地質	制式
護謨引布又ハ防 水布	普通	淡藍色綿布	卷揚式
	通	黒革又ハ黒布	上下各一箇ノ尾錠ヲ 以テ留ム別圖ノ如シ

備考

第一號中守衛長及第二號中守衛副長ノ帽子徽章ハ前章ハ上部ニ市徽章中央ニ守ノ字ヲ銀絲ヲ以テ縫田シ金絲製縦四横六種ノ櫻ノ葉ヲ以テ之ヲ抱キ合セ(形狀別圖ノ如シ)帽ノ周圍ニ幅一・五種ノ黒蛇腹組線二條(守衛副長ハ一條)ヲ纏ヒ各線ノ間ハ〇・四種トシ冬服及夏服上衣袖章ハ幅一・八種ノ黒毛線及幅〇・七種ノ金絲各一條ヲ縱ニ附シ金色釦二箇(守衛副長ハ一箇)ヲ附シ(形狀別圖ノ如シ)同襟章ハ金色地トス

第二號中本廳舍勤務守衛ノ帽子徽章ハ守衛長及守衛副長帽子前章ニ同シ(形狀別圖ノ如シ)

第二號中守衛、靈園巡視事務ニ服スル雇員、公園看守、動物園看守屠場守衛事務ニ服スル雇員ノ帽子徽章及襟章ハ職名ノ頭字ニ代フルニ「巡視」「園」若ハ「守」ノ字ヲ以テシ下水道及溝渠浚渫並尿尿應急汲取事務ニ服スル書記、雇員ノ帽子徽章ハ「保」ノ字ヲ以テ水道點檢員及水道局集金員ノ帽子徽章ハ「水」ノ字ヲ以テ各職名ノ頭字ニ代フ第一號第二號中公會堂監守長同監守及同電工ノ帽子徽章及襟章ハ市徽章及職名ノ頭字ニ代フルニ別圖ノ如ク公會堂徽章ヲ以テス第四號中土木局所屬船員ノ帽子徽章ハ市徽章ニ「土」ノ字ヲ打出シタル徑二・六種ノ圓形中高金色ノ金屬製トス(形狀別圖ノ如シ)

第二號中水道局集金員(男子)ノ雨具ハ頭巾付マント型トス

第四號中使丁ノ冬服ハ黒若ハ濃紺維紗又ハセル地、夏服ハ黒又ハ紺セル地トス

第四號中電氣局使丁及第五號中電氣局給仕ニ貸與スル帽子徽章ハ徑三種ノ電氣局徽章ヲ金絲ヲ以テ顯シタルモノトシ釦ハ使丁徑一・八種、給仕徑一・五種ノ電氣局徽章入金色平打トス

第四號中水夫ハ夏服、冬服共フロッグ形トシ徽章ヲ除キ帽子ハ前底ヲ付セス周圍ハ黒八丈ノ帶ヲ纏フ形狀圖ノ如シ

第二號中事務員ノ冬服ノ袖章ハ第一號冬服袖章ニ同シ

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

本表ニ於テ定色ト稱スルハ度量衡取締從事員ニ在リテハ赤色、監守長ニ在リテハ薄茶色、守衛長及守衛副長ニ在リテハ白色、工手ニ在リテハ褐色、巡視、看守、監守、守衛、消毒事務ノ防疫事務員及同事務員ニ在リテハ紫色、水道點檢員ニ在リテハ綠色、水道局集金員ニ在リテハ青色、下水道及溝渠浚渫並尿尿應急汲取事務ニ服スル書記及雇員、取替ニ在リテハ黄色、船長、機關長、機關手ニ在リテハ藍色、昇降機手、公會堂電工ニ在リテハ黒色ヲ謂フ

第六號ニ該當スル者ノ夏服ノ袴ハ自費ヲ以テ白地ノモノヲ着用スルコトヲ得

第七號ニ該當スル者ノ帽子ノ釦ハ金色小形トシ櫻花ノ中央ニ市ノ徽章ヲ付ス

第一號二號帽子徽章



守衛長及守衛副長帽子徽章



本廳舍勤務守衛帽子徽章

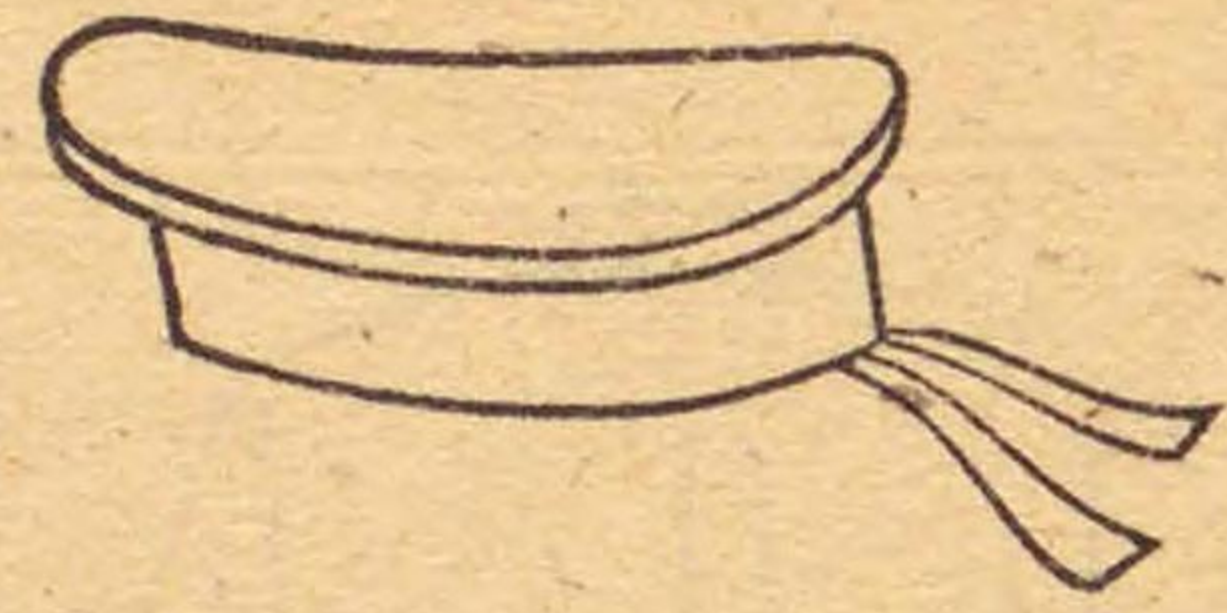


第二號夏帽子徽章



公會堂監守長及同監守帽子徽章及襟章



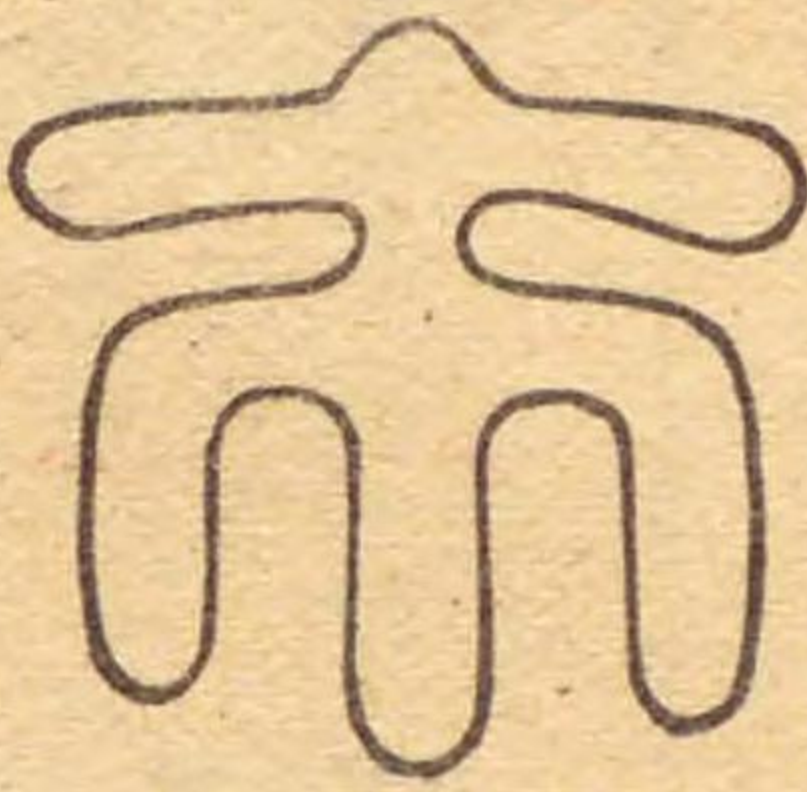
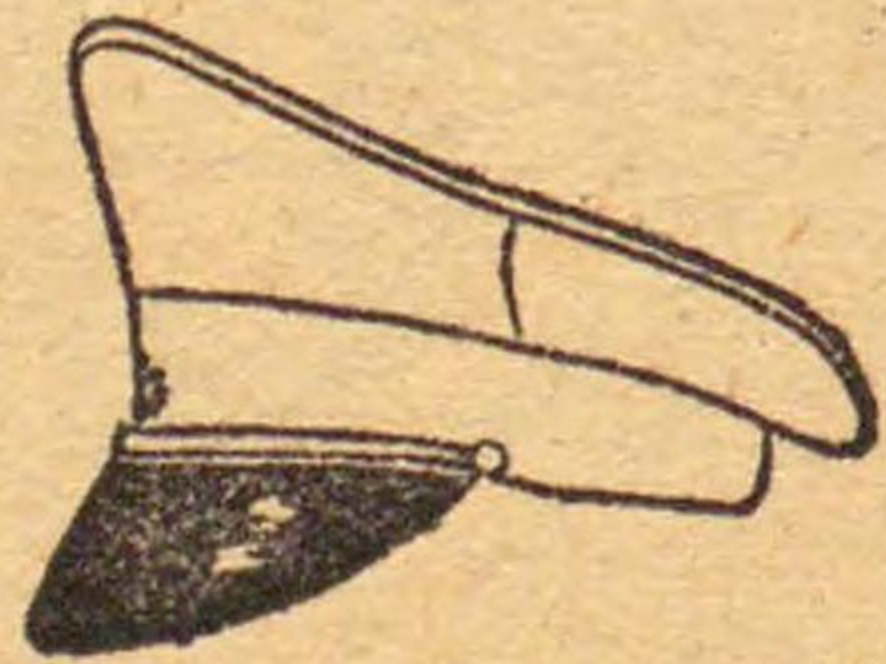
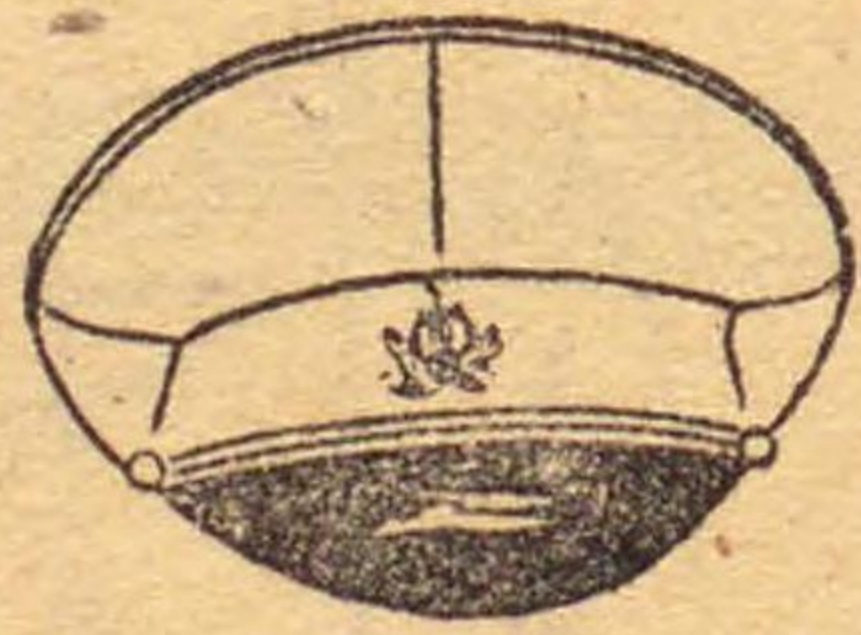


第四號ノ内水夫帽子及ヒ上着、洋袴様式

第六號帽子徽章



第六號帽子

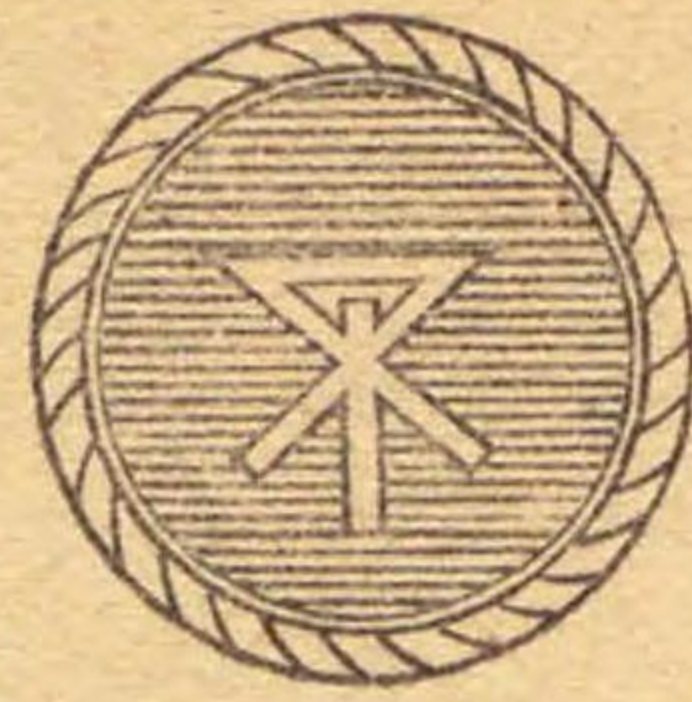


第三號帽子徽章

第四號帽子徽章

第五號帽子徽章

第一、二號鈕



第三號鈕



第四號鈕



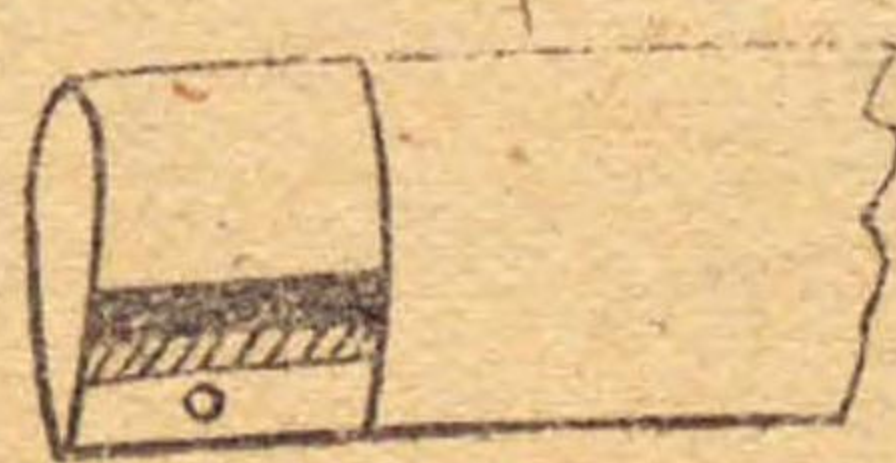
第四號襟章



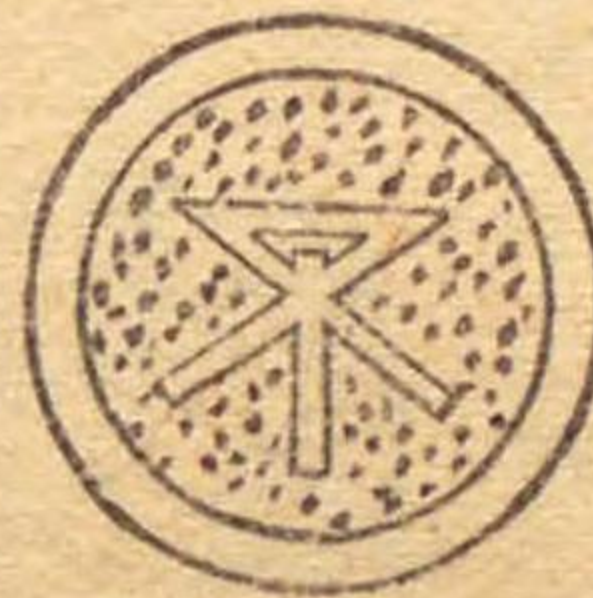
守衛長袖章



守衛副長袖章



第五號鈕



第一、二號襟章

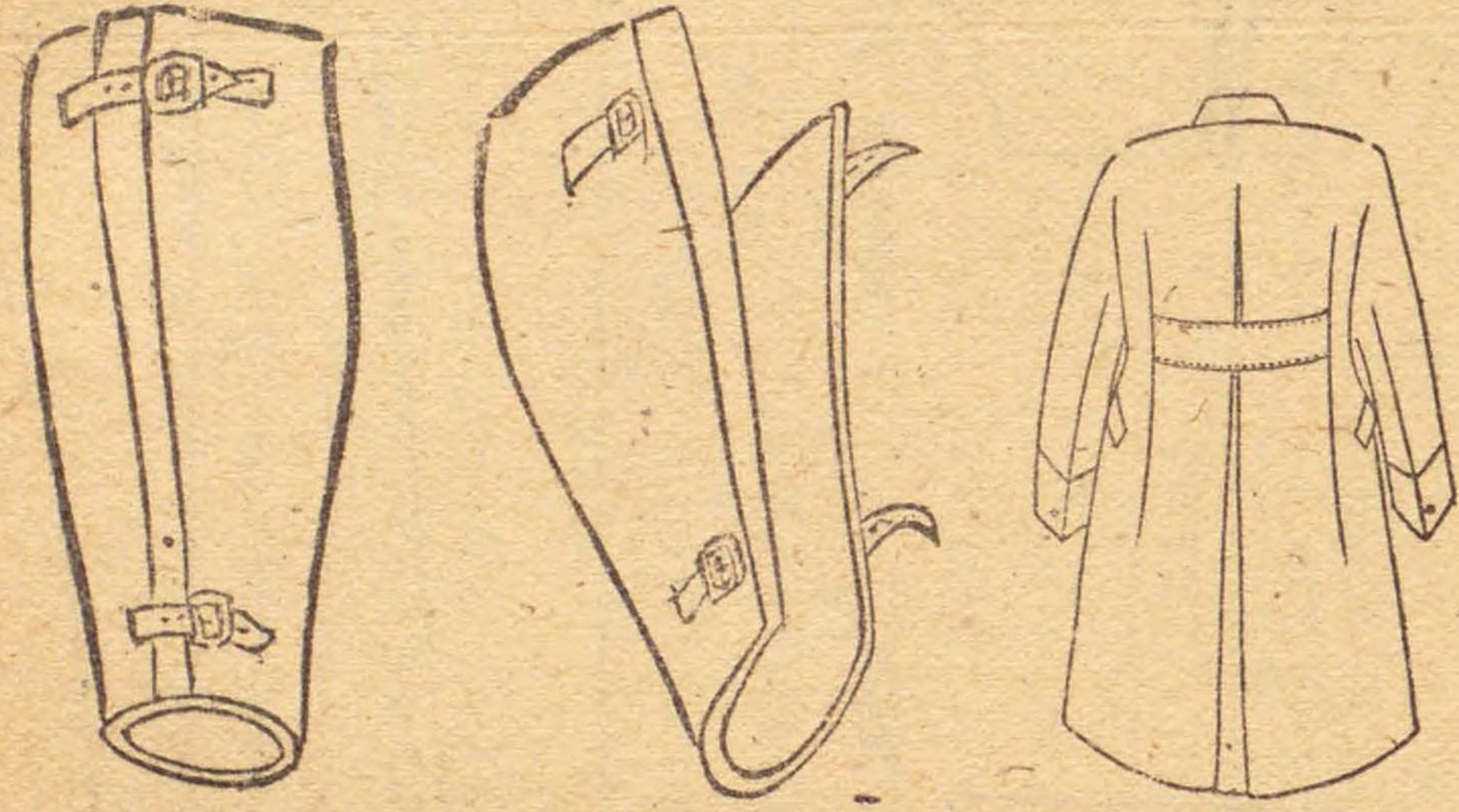


第三號襟章



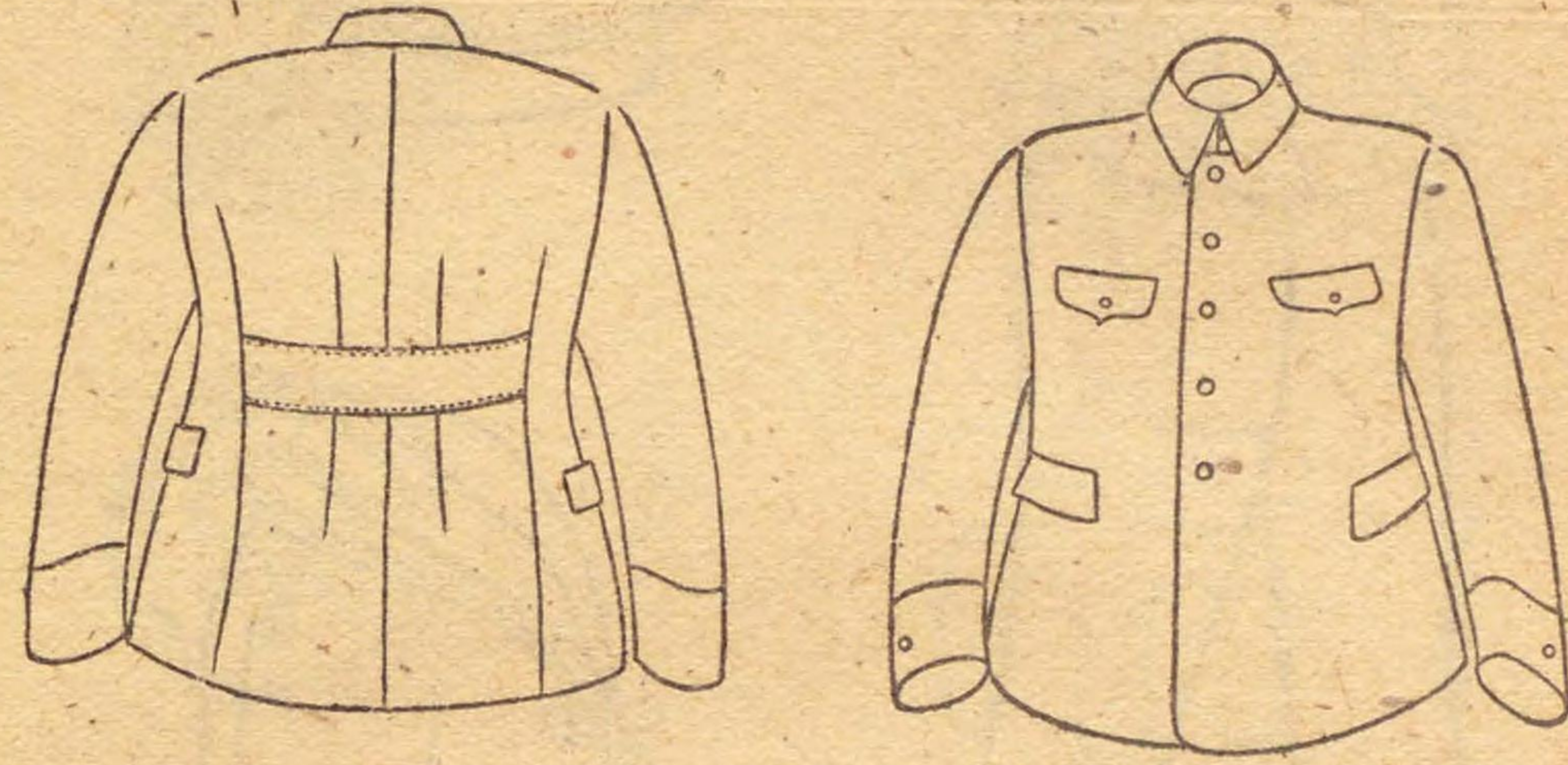
ルトラゲ號六第

第七類 給與 第四章 被服

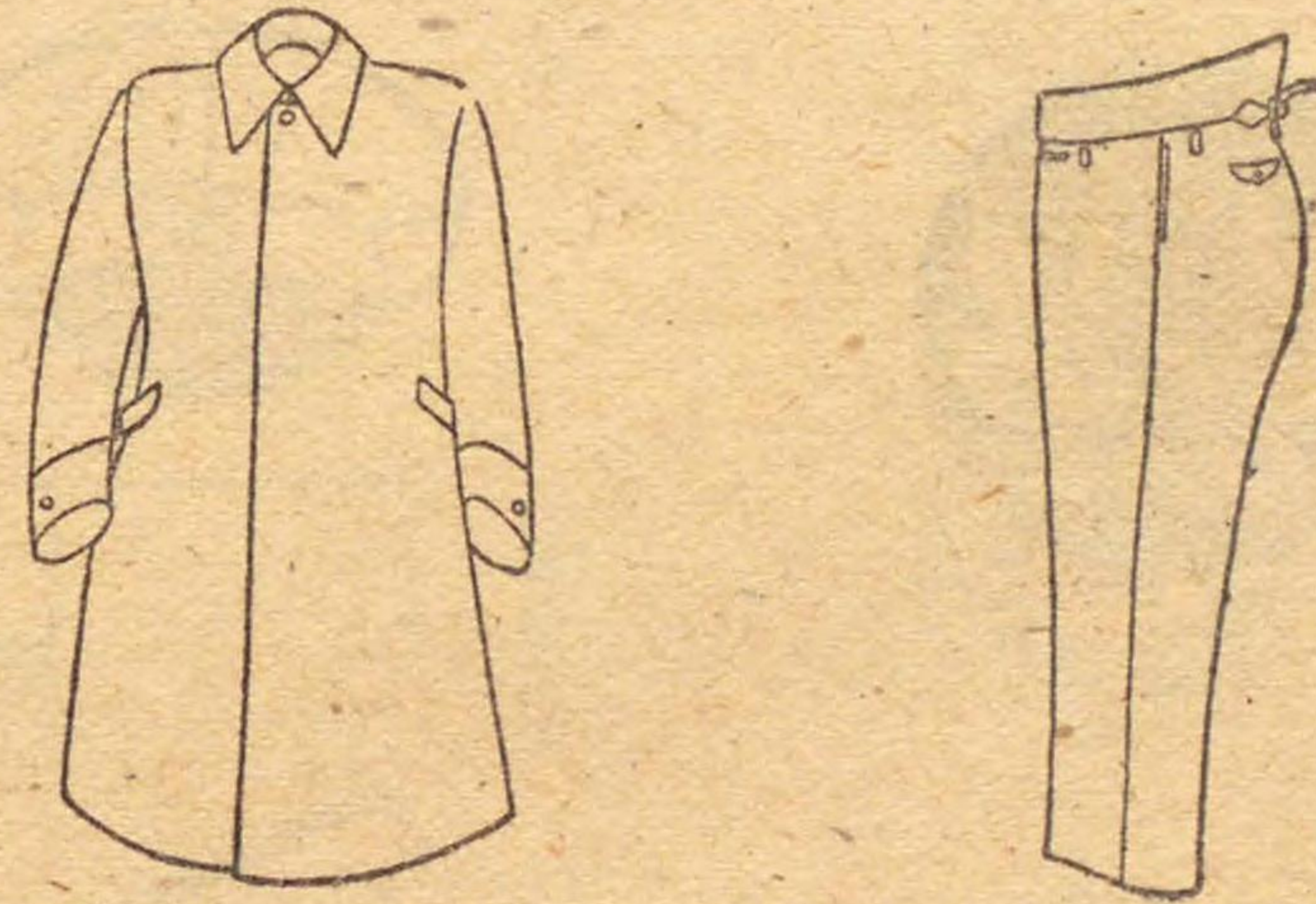


服冬號六第

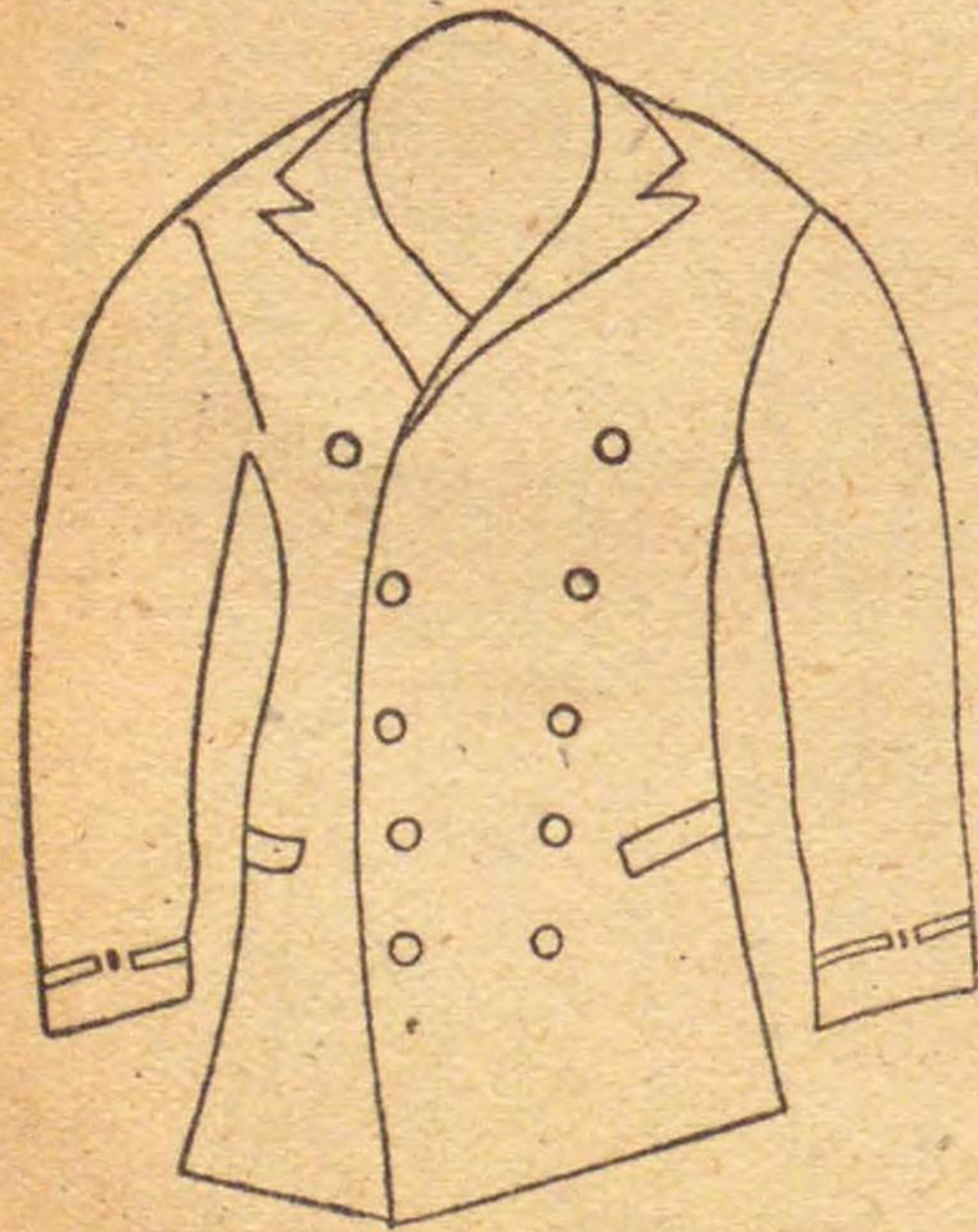
第七類 給與 第四章 被服



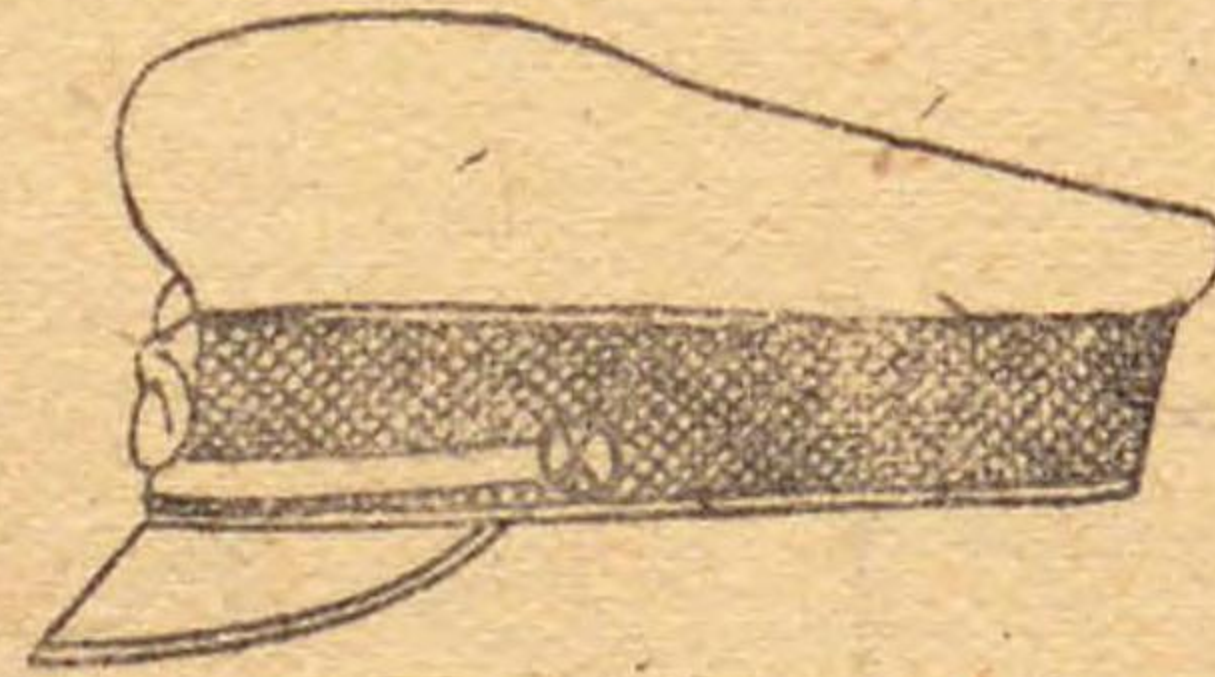
套外號六第



第七號 冬服



四〇六



第七號 帽子

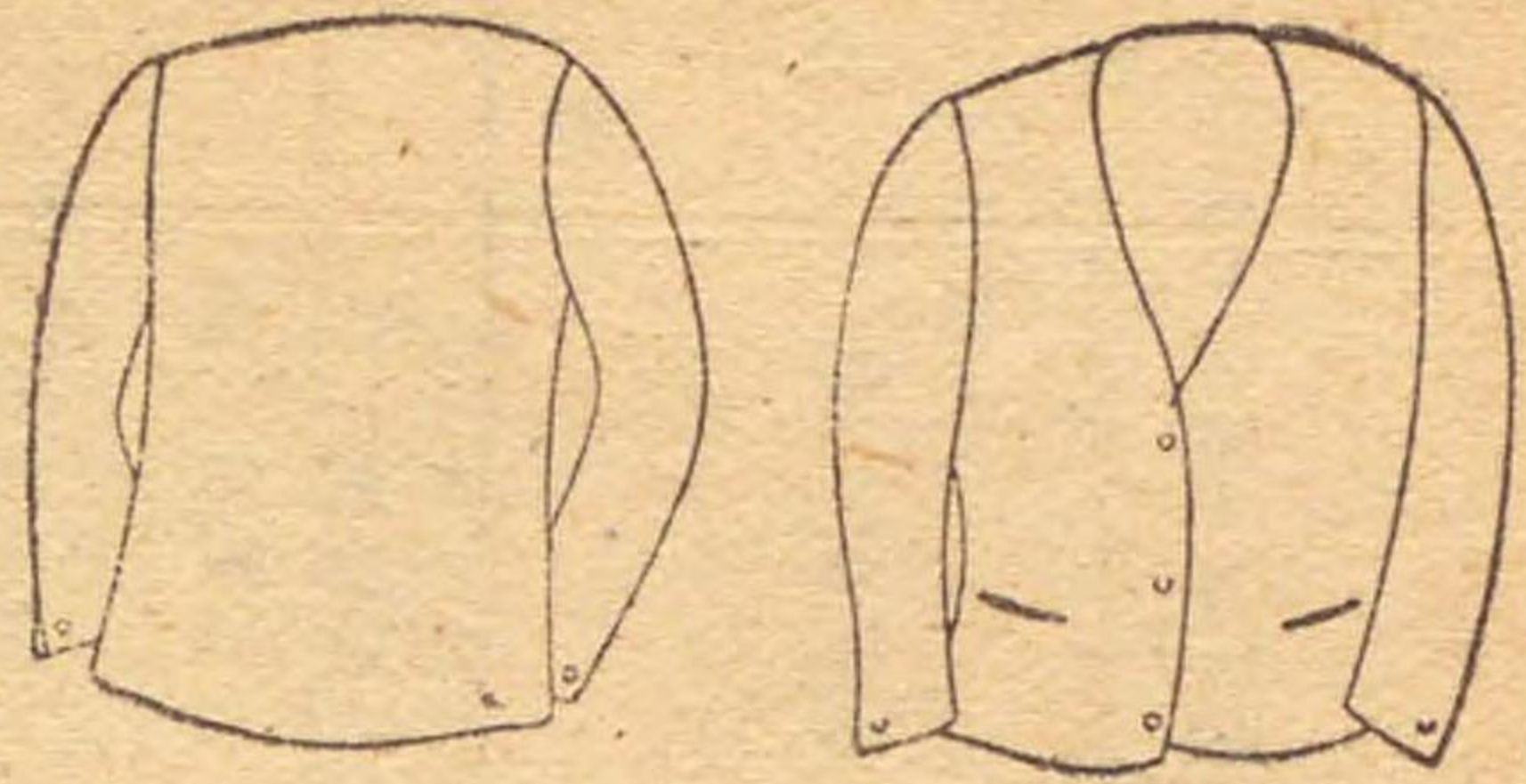


第七號 帽子徽章

〔大例二三號〕

四〇六

ハーフコート



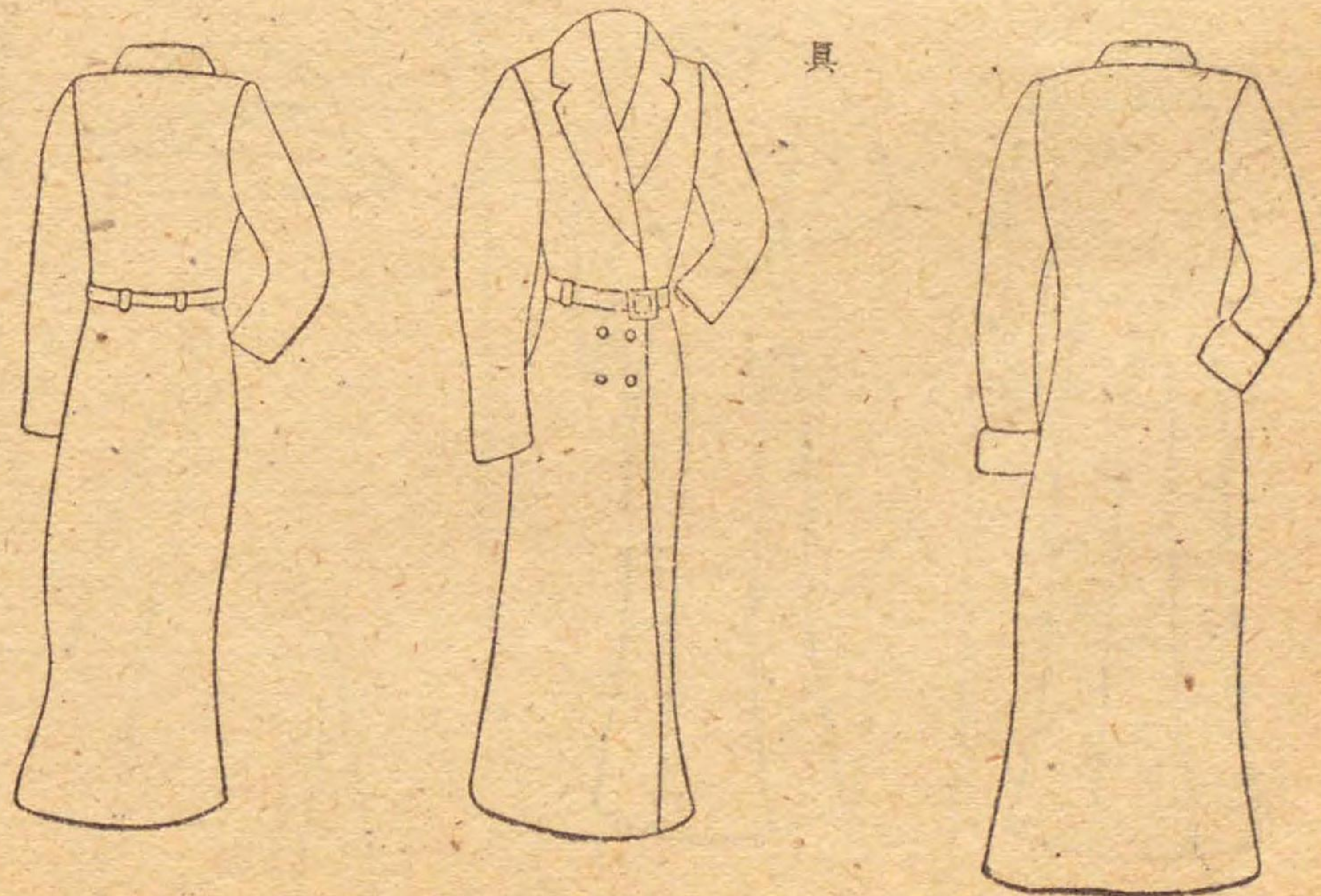
ネクタイ



外套



雨衣



〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

ヲ施行ス

本市使役工夫職工其ノ他被服規程

第一條 本市使役常備ノ工夫職工其ノ他ニシテ左ニ掲クル者ニ對シテハ別表ノ被服ヲ貸與ス

別表甲第一號ニ依ルヘキモノ

土木局所屬浚疏用操縦手、機關手、曳船用船長、機關長、轆壓機運轉手、動物園改札人、天守閣改札人、手荷物投入、土木費所屬抽水所運轉手、齋場及靈園費所屬作業手、傳染病豫防費所屬消毒員及捕鼠員、經理部所屬曳船用船長、機關長

別表甲第二號ニ依ルヘキモノ

屠場夫、家畜市場費所屬雜役夫、胞衣及汚物取扱夫(女人夫ヲ除ク)、汚物處理費所屬補助船員、塵芥捲揚手、塵芥燒却夫、塵芥運漕夫、塵芥蒐集夫、汚泥運漕夫、修繕工、公共便所掃除夫、屎尿汲取夫、職工、土木局所屬浚疏用並曳船用船員、船夫、動物飼養人、可動堰看守、工夫、大工、石工、手傳、鍛冶工、機械運轉手、園丁、人夫、渡船ニ從事スル船夫及作業手、舵取、油差、水夫、雜役夫、土木局埋設課所屬作業手、下水道改良費所屬抽水所運轉手、水道局所屬作業手、水夫、傭夫、公會堂費所屬常備雜役夫、公設市場費所屬常備雜役夫、櫻宮市場費所屬常備雜役夫、經理部所屬曳船用船員、工夫、大工、教育局防諺課所屬工夫、聖德館所屬傭夫、郊外學園所屬工夫、傭夫

別表甲第三號ニ依ルヘキモノ

齋場及靈園費所屬傭夫、産院、乳兒院費所屬雜役夫(女ヲ除ク)、傳

工夫職工其ノ他被服規程

制定大正四、二、一六號第一〇
最近改正 昭一八、四 發令二三七

本市使役工夫職工其ノ他被服規程左ノ通相定メ大正四年四月一日ヨリ之

第七類 給與 第四章 被服

染病預防費所屬消毒夫及鼠取扱夫、消毒隔離所費所屬雜役夫、トヲ
ホーム豫防及治療費所屬備夫、市民病院費所屬雜役夫（昇降機手及
女人夫ヲ除ク）、傳染病院費所屬磨工、大工、電工、消毒夫、牧夫、
火夫、掃除夫、熱帯病研究所費所屬備夫、少年保養所費所屬雜役夫
（女ヲ除ク）、精核豫防費所屬雜役夫（女ヲ除ク）、性病相談所費所屬
備夫、生活科學研究所費所屬雜役夫、社會事業費所屬雜役夫（女ヲ
除ク）、美術館費所屬電工、暖房夫、掃除夫
別表甲第四號ニ依ルヘキモノ
市役所費所屬暖房火夫、電工、公會堂費所屬火夫、理財局所屬青寫
眞製作ノ雜役

別表甲第五號ニ依ルヘキモノ
祕書課所屬船員
別表乙ニ依ルヘキモノ
胞衣及汚物女取扱夫

第二條 被服ノ保存期間満了シタルトキハ徽章ヲ除ク外之ヲ給與ス
保存期間ノ計算ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル

第三條 被服ノ保存期間満了ニ至ラスシテ解備、轉職若ハ死亡シタルト
キハ速ニ之ヲ返納セシム

品名	區別				
	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
冬服	數量	保存期間	數量	保存期間	數量
夏服	一著	二箇年	一著	一箇年	一著
冬服	一著	二箇年	一著	一箇年	一著
夏服	一著	一箇年	一著	一箇年	一著

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

品名	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間
夏服	一著	二箇年	一著	一箇年	一著	一箇年	一著	一箇年
外 套	一著	二箇年	一著	二箇年	一著	一箇年	一著	二箇年
雨 具	一著	一箇年	一著	一箇年	一著	一箇年	一著	一箇年
帽 子	一箇	二箇年	一箇	二箇年	一箇	一箇年	一箇	二箇年
夏 帽	一箇	一箇年	一箇	一箇年	一箇	一箇年	一箇	一箇年
ゲートトル	一足	一箇年	一足	一箇年	一足	一箇年	一足	一箇年

品名	區別		數量	保 存 期 間
	業 務	服 別		
雨 具	一	二	一	一箇年
作 業 服	一	二	一	一箇年
雨 具	一	二	一	一箇年
作 業 服	一	二	一	一箇年

備考
一 甲第二號ニ該當スル者ノ申汚物處理費所屬補助船員ニ對シテハ
ゲートトル、塵芥捲揚手、修繕工、塵芥燒却夫、塵芥運漕夫、汚泥
運漕夫、公共便所掃除夫、尿尿取扱夫、職工ニ對シテハ外套ヲ、
土木局及經理部所屬員中雨天作業ニ從事スル者ノ外雨具ヲ、可動
堰看守、渡船ニ從事スル船夫及作業手、舵取、油差、水夫、船夫
ニ對シテハゲートトルヲ、教育局防護課所屬工手ニ對シテハ雨具
ヲ、屠場夫、家畜市場費所屬雜役夫、浚疏用並曳船用船員、鍛冶
工、機械運轉手、抽水所運轉手、經理部所屬曳船用船員、郊外學

第七類 給與 第四章 被服

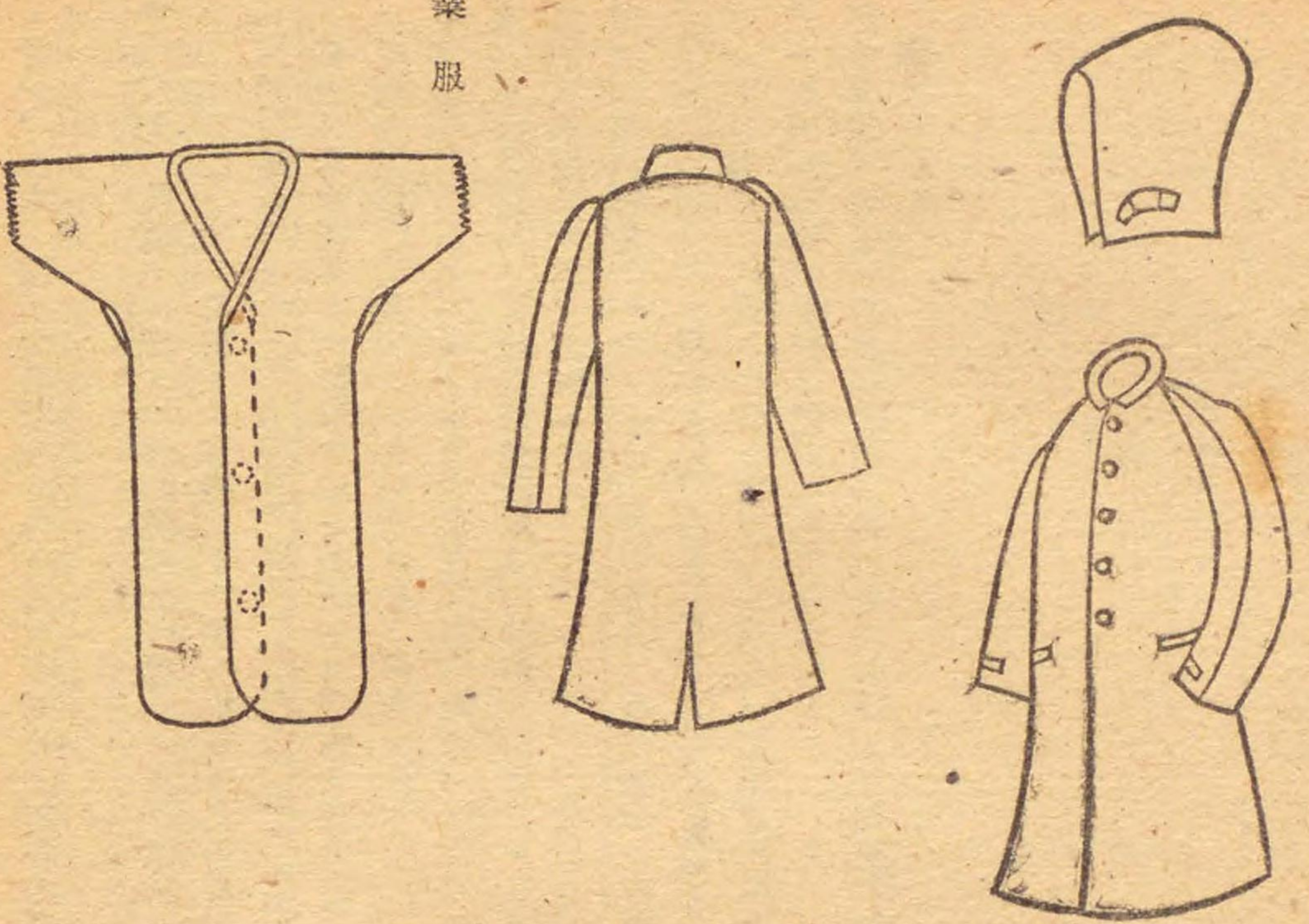
第四條 故意又ハ過失ニ依リ保存期間中被服ヲ毀損又ハ滅失シタルトキ
ハ保存期間ノ殘餘月數ニ應ジ調製ノ原價ニ依リ其ノ價額ヲ賠償セシム

第五條 別表甲第一號ニ該當スル者ノ中土木局所屬輾壓機運轉手、齋場
及靈園費所屬作業手、甲第二號ニ該當スル者ノ中屠場夫、家畜市場費
所屬雜役夫、胞衣及汚物取扱夫、汚物處理費所屬補助船員、甲第三號
ニ該當スル者ノ中傳染病院費所屬消毒夫、牧夫、火夫、掃除夫、熱帶
病研究所費所屬備夫、少年保養所費所屬雜役夫中大工、磨工、厨夫以
外ノ者、生活科學研究所費所屬雜役夫中牧夫、火夫、甲第四號ニ該當
スル者ノ中理財局所屬青寫眞製作ノ雜役以外ノ者、甲第五號及乙ニ該
當スル者ニ對シテハ一月金一圓、別表甲第一號ニ該當スル者ノ中土木
局所屬輾壓機運轉手、葬儀夫ヲ除キタル者及甲第二號ニ該當スル者ノ
中土木局所屬浚疏用並曳船用船員、動物飼養人、經理部所屬曳船用船
員ニ對シテハ一月金五十錢ノ靴代料ヲ支給ス但シ十六日以後ニ就職シ
タルトキ又ハ十五日以前ニ解備、轉職若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支
給ス

靴代料ハ毎月二十五日之ヲ支給ス但シ當日休職ノ場合ハ繰下トス

第六條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ但シ甲第二號乃至第四號ニ
該當スル者ニ對シテハ新任者ニ限り夏服二著ヲ貸與ス

園所屬工手、備夫ニ對シテハ雨具及ゲートトルヲ、土木局理設課所
屬作業手、水道局所屬作業手、水、備夫ニ對シテハ外套及雨具
ヲ、塵芥捲揚手、塵芥燒却夫、塵芥運漕夫、塵芥蒐集夫、汚泥運
漕夫、修繕工、公共便所掃除夫、尿尿取扱夫、職工、水道局所屬
作業手、水夫、備夫、公設市場費所屬常備雜役夫、教育局防護課
所屬工手、聖德館所屬備夫及炎天下ノ作業ニ從事スル土木局所屬
員ノ外夏帽子ヲ、公會堂費所屬常備雜役夫ニ對シテハ外套、雨具
及ゲートトルヲ、公設市場費所屬常備雜役夫、櫻宮市場費所屬常備
雜役夫ニ對シテハ外套及ゲートトルヲ貸與セス



作業服



自動車運轉士被服規程

本市自動車運轉士被服規程
 第一條 本市自動車運轉士ハ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス
 第二條 被服ハ現品ヲ貸與シ保存期間満了シタルトキハ徽章ヲ除クノ外之ヲ給與ス
 第三條 保存期間ノ計算ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル
 第四條 被服ノ保存期間満了ニ至ラスシテ解備若ハ死亡シタルトキハ速ニ之ヲ返納セシム
 第五條 故意又ハ過失ニ依リ保存期間中被服ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ保存期間ノ殘餘月數ニ應ジ調整ノ原價ニ依リ其ノ價額ヲ賠償セシム
 第六條 自動車運轉士ニ對シテハ一箇月金壹圓ノ靴代料ヲ支給ス但シ十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以前ニ解備若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支給ス

〔大例一號〕

〔大例二號〕

靴代料ハ毎月二十五日之ヲ支給ス但シ當日休職ノ場合ハ繰下トス
 第六條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ
 第七條 前六條ノ規定ハ自動車運轉士ニ之ヲ準用ス

品名	區別		數量	保存期間
	冬服	夏服		
冬服	一	一	一	一
夏服	一	一	一	一
外套	一	一	一	一
帽	一	一	一	一

冬服		帽		
袴	上衣	地質	制式	徽章
普通	上衣ニ同シ	黒又ハ濃紺絨	海軍形ニシテ黒色革製前庇及噴紐ヲ附シ鉸卷ニ黒色リボンヲ繞ラス	銀糸ヲ以テ上部ニ由徽章中央ニ車輪ヲ縫田シ金糸ヲ以テ之ヲ抱キ合ス横一寸五分縦一寸分別圖ノ如シ

外	夏服		袴	地質	制式
	衣	地質			
冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	黒又ハ濃紺絨	折襟ニ重鉤十二箇頭巾附ニシテ後面ノ裾ヲ割ル	冬服ニ同シ



電氣局運輸吏員其ノ他被服規則

制定 昭一、四、二五告示二八四
最近改正 昭一八、一一 規則一五

大正十四年大阪市告示第五百五十三號電氣局運輸吏員被服規程左ノ通告正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局運輸吏員其ノ他被服規則

第一條 電氣局吏員ハ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲スヘシ

別表第一號ニ依ルヘキモノ

電氣局長、運輸部長及自動車部長

別表第二號ニ依ルヘキモノ

庶務部厚生課教習所長、運輸部ノ各課長、同部電車課及高速運輸課ノ各係長並ニ同部各電車運輸事務所長

別表第三號ニ依ルヘキモノ

運輸部高速運輸課高速運輸係事務所主任

別表第四號ニ依ルヘキモノ

自動車部業務課長及自動車課長並ニ同部自動車課ノ各係長

別表第五號ニ依ルヘキモノ

運輸部電車課監督係運輸監督長、運輸監督副長及區主任、同部各電車運輸事務所助役並ニ同部勤務ノ書記及助手ニシテ運輸監督ノ勤務ニ服スル者

別表第六號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第七號ニ依ルヘキモノ

運輸部高速運輸課高速運輸係事務所助役、驛長及驛助役並ニ同係勤務ノ書記及助手ニシテ高速運輸監督ノ勤務ニ服スル者

別表第八號ニ依ルヘキモノ

電氣局長勤務上必要ト認ムルトキハ左ノ吏員其ノ他ノ者ニ對シ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲サシムルコトヲ得

別表第九號ニ依ルヘキモノ

技術部長

別表第十號ニ依ルヘキモノ

運輸部業務課ノ各係長、技術部ノ各課長、係長及工場長並ニ運輸部及技術部勤務ノ主事及技師

別表第十一號ニ依ルヘキモノ

自動車部車輛課長、同部業務課及車輛課ノ各係長並ニ同部勤務ノ主事及技師

別表第十二號ニ依ルヘキモノ

運輸部電車課及同部各運輸事務所勤務ノ書記及助手

別表第十三號ニ依ルヘキモノ

自動車部自動車課勤務ノ書記及助手

別表第十四號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十五號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十六號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十七號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十八號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十九號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十一號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十二號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十三號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十四號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十五號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十六號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十七號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十八號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十九號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十號ニ依ルヘキモノ

運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

品名	區別	數	量	保存期間
帽子	冬服	一	箇	二年
略帽	冬服	一	箇	二年
冬服	冬服	一	著	二年
夏服	夏服	一	著	二年
外套	外套	一	著	二年
雨衣	雨衣	一	著	二年

第四條 被服ノ著用期間左ノ如シ
夏服 六月一日ヨリ九月三十日迄

第七類 給與 第四章 被服

別表第六號ニ依ルヘキモノ
自動車部自動車課現業係運輸監督長及運輸監督副長、同課各營業所主任及助役並ニ自動車部勤務ノ書記及助手ニシテ運輸監督ノ勤務ニ服スル者

別表第七號ニ依ルヘキモノ
運輸部高速運輸課高速運輸係事務所助役、驛長及驛助役並ニ同係勤務ノ書記及助手ニシテ高速運輸監督ノ勤務ニ服スル者

別表第八號ニ依ルヘキモノ
電氣局長勤務上必要ト認ムルトキハ左ノ吏員其ノ他ノ者ニ對シ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲サシムルコトヲ得

別表第九號ニ依ルヘキモノ
技術部長

別表第十號ニ依ルヘキモノ
運輸部業務課ノ各係長、技術部ノ各課長、係長及工場長並ニ運輸部及技術部勤務ノ主事及技師

別表第十一號ニ依ルヘキモノ
自動車部車輛課長、同部業務課及車輛課ノ各係長並ニ同部勤務ノ主事及技師

別表第十二號ニ依ルヘキモノ
運輸部電車課及同部各運輸事務所勤務ノ書記及助手

別表第十三號ニ依ルヘキモノ
自動車部自動車課勤務ノ書記及助手

別表第十四號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十五號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十六號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十七號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十八號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第十九號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十一號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十二號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十三號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十四號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十五號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十六號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十七號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十八號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第二十九號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十一號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十二號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十三號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十四號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十五號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十六號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十七號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十八號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第三十九號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第四十號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第四十一號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第四十二號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第四十三號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第四十四號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

別表第四十五號ニ依ルヘキモノ
運輸部、自動車部及技術部勤務ノ書記及助手（別表第五號及第六號ニ服スル者）

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

附則 本改正規程施行ノ際現ニ貸與ヲ受クル被服ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 本改正規則ハ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

冬		帽		制式	
衣	襟章	制式	地質	徽章	制式
直徑ノ袖一五	ノシ條ニ合以葉色徽ノシ七耗直	廣詰襟形背	紺又ハ濃		
同	ル條外以色氣シ藍直	同	同		
上同	シ線合葉ヲル色氣シ藍直	上同	上同		
上同	ノ繞ニ抱葦シイ色氣シ藍直	上同	上同		
上	モ抱葦長色氣シ白直	上同	上同	一章シ金ニ	ニヘルメツト型
同	ノキノハ(シイ色氣シ藍直	上同	上同	同	同
上同	合葉ヲル色氣シ藍直	上同	上同		
上同	ノキノ意色シ白直	上同	上同		
上同	合葉ヲノテ地徑	上同	上同		
上	ノ合ヲ色局シヲ七ノ直	上	上		

子		帽		品名	
地質	徽章	制式	地質	別	種
	徑三合之葉絲打九章電金	ラ毛フ付貯海	附	第一號	
	同	同	同	第二號	
	上同	上同	上同	第三號	
	上同	上同	上同	第四號	
巾裏ハ白色綾金	上同	上	上同	第五號	
同	上同	上	上同	第六號	
上	上同	上	上同	第七號	
	上同	上	上同	第八號	
	四三キ以ノ打一局ヲ金	同	上	第九號	

下靴	靴	羽合雨		子
		制式	地質	
	制式 黒ボツクス短靴其ノ他普通同			徽 章
	同上			
	同上			
	同上			
	上 褐色ボツクス短靴			
女子用	黒ボツクス短靴其ノ他普通同			金色金屬製ニテ電氣局徽章ヲ打出ス徑一糎ハ耗
	同上	折襟一重隠釦五箇	黒色防水布	
	同上			
	上			

備考 一 第三號、第四號、第六號又ハ第七號ニ該當スル者事務手ニシテ十五年以上在職シ且成績優秀ナル者ノ帽子ニハ幅一糎五耗ノフランス毛線ヲ繞ラシ第一號ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得

二 第五號ニ該當スル者ニハ胸部物入上ニ褐色絲ヲ以テ刺繡シタル電氣局徽章(葉ノ葉一條ヲ以テ抱キ合ス徑三糎六耗)ヲ縫著セシム

電氣局守衛被服規則

制定 大五、一〇、二六 最近改正 昭一八、一一 規則 一七

電氣局守衛被服規程左ノ通相定ム

- 電氣局守衛被服規則
- 第一條 本市電氣局守衛ハ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス
- 第二條ノ二 被服ノ著用期間左ノ如シ
- 夏服 六月一日ヨリ九月三十日迄

冬服 十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄

外 套 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

第二條 被服ハ現品ヲ貸與シ保存期間満了シタルトキハ徽章襟章及釦ヲ除ク外之ヲ給與ス

保存期間満了ニ至ラズシテ解職、退職、轉職又ハ死亡シタルトキハ速ニ貸與品ノ全部ヲ返納セシム

保存期間ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル

第二條ノ二 保存期間中被服ノ全部又ハ一部ヲ減失若ハ毀損シタルトキ

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

ハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條 故意又ハ過失ニ因リ保存期間中被服ヲ減失又ハ毀損シタルトキハ左ノ各號ニ掲クル金額ノ合算額ヲ賠償セシム但シ情狀ニ依リ賠償額ヲ減スルコトアルヘシ

- 一 調製原價ノ三分ノ一ニ相當スル金額
- 二 調製原價ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヨリ保存期間中ニ於ケル著用期間經過月割額ヲ控除シタル金額
- 賠償額ノ算定ニ當リ著用期間ノ定ナキ被服ニ付テハ保存期間ヲ著用期間ト看做ス
- 第三條ノ二 返納被服ハ再度之ヲ貸與スルコトアルヘシ
- 第四條 電氣局守衛ニ對シテハ一箇月金壹圓ノ靴代料ヲ支給ス但シ十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以前ニ解職、退職、轉職若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支給ス
- 第五條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ但シ再度貸與被服ノ保存期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間トス

別表

冬	帽	
	地質	制式
上	地質 黒又ハ濃紺絨	制式 海軍形ニシテ黒色革製前庇及頤紐ヲ付シ鉢巻ニ黒色フランス毛線ヲ繞ラス圖ノ如シ
下	地質 黒又ハ濃紺絨	徽 章 金色金屬製電氣局徽章(徑一糎八耗)ヲ打出シ金絲ノ葦ノ葉ヲ以テ之ヲ抱キ合ス徑一糎二耗 守衛長ハ徑三糎九耗、横一糎五耗(圖ノ如シ)
各	制式 詰襟形背廣	

品名	區別	數	量	保存期間
帽子	子	一	個	二箇年
夏服	服	一	著	二箇年
冬服	服	一	著	二箇年
外套	套	一	著	二箇年

附則 明治四十四年二月廳達第一號電氣鐵道守衛被服規程ハ本規定施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則 (昭一八、一一規則一七)

本改正規則ハ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局鍊成員被服規程

制定 昭一七、二二、二四告示四七二

大阪市電氣局鍊成員被服規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局鍊成員被服規程

第一條 電氣局鍊成員ハ別表ノ服裝ヲ爲スベシ

第二條 被服ノ著用期間左ノ如シ

夏服 自六月一日 至九月 三十日

冬服 自十月一日 至翌年五月三十一日

外套 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

第三條 被服ハ之ヲ貸與シ保存期間満了シタルトキハ徽章、襟章及釦ヲ除キ之ヲ給與ス

解職、退職、轉職又ハ死亡シタルトキハ速ニ貸與品ノ全部ヲ返納セシム

保存期間ハ被服貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル

第四條 被服ノ隨時點檢ヲ爲スモノトス

第五條 保存期間中被服ノ全部又ハ一部ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ旨届出ツベシ

第六條 故意又ハ過失ニ因リ保存期間中被服ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ノ各號ニ掲グル金額ノ合算額ヲ賠償セシム但シ情狀ニ依リ賠償額ヲ減ズルコトアルベシ

一 調製原價ノ三分ノ一ニ相當スル金額

二 調製原價ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヨリ保存期間中ニ於ケル著用

期間經過月割額ヲ控除シタル金額
賠償額ノ算定ニ當リ著用期間ノ定ナキ被服ニ付テハ保存期間ヲ著用期間ト看做ス

第七條 保存期間満了セザル返納被服ハ再度之ヲ貸與スルコトアルベシ

被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ但シ再度貸與被服ノ保存期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間トス

品名	區別	數	量	保存期間	
				年	月
帽子	冬服	二年	一個	二	年
冬服	冬服	二年	一著	二	年
夏服	夏服	二年	一著	二	年
外套	外套	二年	一著	三	年
靴	靴	二年	一組	二	年
靴	靴	二年	一足	一	年

備考 冬服及夏服ハ上衣一袴二ヲ以テ一著トス

子	徽章	地質	
		制式	數量
茶褐色絨又ハ布	陸軍略帽型ニシテ幅三釐ノ同色同地質ノ鉢巻ヲ繞ラス	一	個
金色金屬製ヲ以テ電氣局徽章(徑二釐四耗)ヲ打田シ金糸ノ葦ノ葉ヲ以テ之ヲ抱キ合ス徑三釐九耗茶褐色ノ裏ヲ附ス		一	個

〔大例一三號〕

套	外	夏服				冬服			
		袴		上衣		袴		上衣	
		制式	地質	襟章	釦	制式	地質	襟章	釦
國民服外套型ニシテ襟上衣ニ同ジク附襟ハ附セズ釦五箇宛ニ行ニ附シ馬乘ヲ適宜ニ開キ袖部ニ端袖カフヲテ背部ニ縫帶ヲ附ス	國防色絨又ハ布	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ
外式蓋附物入ヲ後部左右ニ一箇宛設ケ蓋及釦ヲ附シ兩側物入ハ附セズ共布地ヲ以テ膝部裏ニ膝當ヲ腰部ニ腰締紐ヲ附ス但シ腰締紐ニ代ヘ皮帶ヲ用ヒルコトヲ得	國防色更生絲小倉織ノ類(商工省規格品)	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ
電氣局徽章入金色金屬製平打徑二釐一耗	銀色地ニ七寶燒黃色ヲ以テ顯ハシタル電氣局徽章ヲ銀色ノ葦ノ葉ヲ以テ抱キ合ス徑一釐八耗	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ	冬服ニ同ジ

電氣局技術職員、技術從業員及事務員被服規則

制定 大二三、六、一〇告示一〇一
最近改正 昭一八、一、一 規則一八

電氣局現業員被服規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局技術職員、技術從業員及事務員被服規則

第一條 電氣局技術職員、技術從業員及事務員ハ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲スヘシ但シ勞働課使丁ハ電氣局使丁ノ例ニ依ル服裝ヲ爲スヘシ

別表第一號ニ依ルヘキモノ

技術職員、工長又ハ組長タル技術從業員及乗用自動車運轉手但シ技術部電氣課配電係勤務者ニ在リテハ帽子及襟章ヲ除クノ外別表第五號ニ依ルヘシ

別表第二號ニ依ルヘキモノ

縫工、倉庫手、庶務部庶務課及同部調度課(印刷工場ヲ除ク)所屬ノ作業手

別表第三號ニ依ルヘキモノ

石工、電路工、建築工、軌道工、測量工、庶務部計理課管理係、技術部工務課、同部電氣課電車線係及同部高速建設課工事係保線出張

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

第七類 給與 第四章 被服

所屬ノ木工、技術部電氣課電車線係所屬ノ機工及塗工、庶務部計理課、技術部工務課、同部電氣課電車線係、同部高速建設課及病院所屬ノ作業手

別表第四號ニ依ルヘキモノ

貨物自動車運轉手

別表第五號ニ依ルヘキモノ

汽罐工、印刷工、前各號ニ依ルヘキモノ以外ノ木工、電工、機工、塗工、作業手及養成工

別表第六號ニ依ルヘキモノ

女子ノ印刷工、縫工及作業手

第二條 被服ノ著用期間左ノ如シ

夏服、夏作業服及夏上張り

六月一日ヨリ九月三十日迄

冬服、冬作業服及冬上張り

十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄

外套 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

第三條 被服ハ之ヲ貸與ス

被服ノ保存期間満了シタルトキハ徽章ヲ除キ之ヲ速ニ返納セシム但シ別表第一號及第四號ニ依ルヘキモノノ冬服(鈕ヲ除ク)ハ之ヲ給與ス

前項ノ保存期間ノ計算ハ被服貸與ノ月ヨリ起算シ満期ノ月ノ末日ニ終ル

第四條 被服ハ解備、退職、轉職又ハ死亡シタルトキハ速ニ之ヲ返納セシム

第五條 保存期間中被服ノ全部又ハ一部ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ

第六條 故意又ハ過失ニ因リ保存期間中被服ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ノ各號ニ掲グル金額ノ合算額ヲ賠償セシム但シ情狀ニ依リ賠償額ヲ減スルコトアルヘシ

一 調製原價ノ三分ノ一ニ相當スル金額

二 調製原價ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヨリ保存期間中ニ於ケル著用期間經過月割額ヲ控除シタル金額

賠償額ノ算定ニ當リ著用期間ノ定ナキ被服ニ付テハ保存期間ヲ著用期間ト看做ス

第七條 返納被服ハ再度之ヲ貸與スルコトアルヘシ

第七條ノ二 乗用自動車運轉手ニ對シテハ一月一圓ヲ靴代料ヲ支給ス但シ十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以前ニ解備、退職、轉職若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支給ス

前項ノ靴代料ハ毎月給料支給日之ヲ支給ス

第八條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ但シ再度貸與被服ノ保存期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間トス

〔大例一三號〕

品名	種別		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
	數量	保存期間						
冬帽子	一箇年	二年	二年	同上	同上	同上	同上	同上
帽子(陸軍略帽型)	一箇年	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上
夏帽子	一箇年	一年	同上	同上	同上	同上	同上	同上
冬服	上二年一著 袴二年一著 每一年一著	二年	二年	同上	同上	同上	同上	同上
夏服	一每年著	二年	二年	同上	同上	同上	同上	同上
外套	一二年著	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上
雨衣	一二年著	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上
作業衣	冬作業服及夏作業服各一著	二年	二年	同上	同上	同上	同上	同上
冬上張り								一二年著
夏上張り								一二年著

第七類 給與 第四章 被服

ゲ	ト	ル	毎	年	一	年	一	年	一	年
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

備考 一 第一號、第二號及第三號該當者ニシテ内勤ノ者及乗用自動車運轉手ニ對シテハ夏帽子ヲ貸與セス

二 第一號、第三號、第四號及第五號該當者ニシテ内勤ノ者ニ對シテハ雨衣ヲ貸與セス

三 第一號及第二號該當者ニシテ庶務部計理課管理係、技術部工務課、電氣課電務係、電車線係、高速建設課及高速施設課所屬ノ者以外ニハゲートルヲ貸與セス

四 第五號該當者ニシテ庶務部計理課管理係、技術部工務課、高速建設課工事係保線出張所及高速施設課電氣係所屬ノ機工、技術部高速施設課電氣係所屬ノ電工及作業手以外ノ者ニ對シテハ外套ヲ貸與セス

五 第五號該當者ニシテ技術部工務課所屬ノ者ニ貸與スル作業服ノ貸與數量ハ毎年一著トス

六 第五號該當者ニシテ左ニ掲クル者ニ貸與スル作業服ノ保存期間ハ左ノ通トス

イ 技術部工務課所屬ノ者 二年

ロ 同 部電氣課所屬ノ者 二年

ハ 同 部車輛課所屬ノ者 三年

七 冬帽子ヲ貸與スル者ニ對シテハ帽子(陸軍略帽型)ヲ貸與セス

附則 (昭一八、一)規則一八

別表

品名	種別	冬				
		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
帽	地質	黒若ハ濃紺絨又ハ布同	上	同	同	同
制式	海軍型ニシテ鉢巻ニ幅一ノ(フランクス)毛織一條ヲ繞シ黒革製ノ前底及頤紐付トシ頤紐ノ兩端ハ釦ヲ以テ留ム	海軍型ニシテ普通同	上	同	上	同
制式	海軍型ニシテ鉢巻ニ幅一ノ(フランクス)毛織一條ヲ繞シ黒革製ノ前底及頤紐付トシ頤紐ノ兩端ハ釦ヲ以テ留ム	海軍型ニシテ普通同	上	同	上	同

〔大例一三號〕

冬	子 帽 夏		子 帽		子	
	地質	制式	地質	制式	地質	制式
襟章	銀色地ニ七寶燒綠色ヲ以テ顯シタル電氣局徽章ヲ銀色草ノ葉ヲ以テ抱キ合ス徑一糎八糎	詰襟型背廣圖ノ如シ	銀色ヲ以テ電氣局徽章ヲ顯ス徑三糎六糎	普通型	黒又ハ濃紺絨又ハ布同	陸軍略帽型同
地質	黒又ハ濃紺羅紗		黒色ヲ以テ電氣局徽章ヲ顯ス徑三糎六糎	普通型	同	同
制式	詰襟型背廣圖ノ如シ		同	同	同	同
襟章	銀色地ニ七寶燒綠色ヲ以テ顯シタル電氣局徽章ヲ銀色草ノ葉ヲ以テ抱キ合ス徑一糎八糎		同	同	同	同
地質	黒又ハ濃紺羅紗		同	同	同	同
制式	詰襟型背廣圖ノ如シ		同	同	同	同

外	服											
	夏					服						
	袴	衣				袴	衣					
地質	制式	地質	袖章	鈕	襟章	制式	地質	制式	地質	袖章	鈕	
黒又ハ濃紺絨	冬服ニ同シ	上衣ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	濃紺セル地	普通	上衣ニ同シ	同幅九耗ニ附ス	同幅一耗ニ附ス	徑二種一耗電氣局徽 章及左ノ袖ニ各一 個五ノ上ノ鈕各二 個及右ノ袖ニ各一 個五ノ上ノ鈕各二 個五ノ上ノ鈕各二
同上												
同上												
同上	冬服ニ同シ	上衣ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ		冬服ニ同シ	濃紺セル地	普通	上衣ニ同シ	同幅九耗ニ附ス	同幅一耗ニ附ス	徑二種一耗電氣局徽 章及左ノ袖ニ各一 個五ノ上ノ鈕各二 個及右ノ袖ニ各一 個五ノ上ノ鈕各二
同上												
同上												

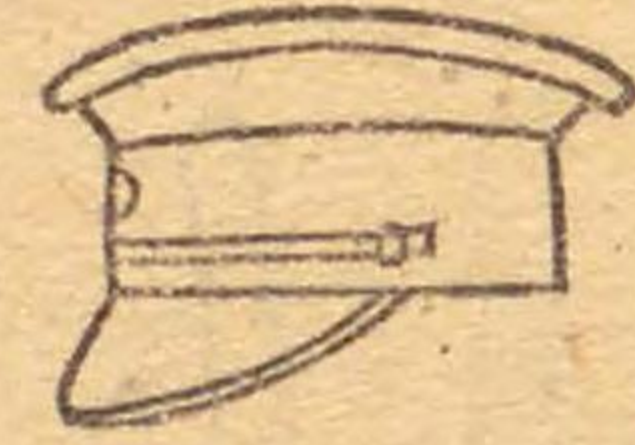
〔大例一三號〕

長上	業						作		衣		套	
	袴		衣				上		雨		套	
	地質	制式	地質	袖章	鈕	制式	地質	制式	地質	鈕	制式	
								カッパ型	黒色防水布	黒又ハ國防色練鈕	折襟一重隠鈕五箇頭 巾附	
	普通	上衣ニ同シ	黒線幅一耗五ノ上 條同幅九耗ニ附ス	上鈕各二箇ヲ附ス	徑二種一耗電氣局徽 章及左ノ袖ニ各一 個五ノ上ノ鈕各二	詰襟型背廣 圖ノ如シ	地倉 夏作業服ハ霜降小	カッパ型	黒色防水布	同上	同上	
	普通ニシテ半袴	同上	同上	同上	同上	同上	同上	カッパ型	同上	同上	同上	
								レインコート型	同上	同上	同上	
	普通	上衣ニ同シ		徑二種一耗電氣局徽 章入平打練鈕五箇		詰襟型背廣 袖口ハ 鈕留バンド附 圖ノ 如シ	黒小倉地	カッパ型	同上	同上	同上	
五枚縺子												

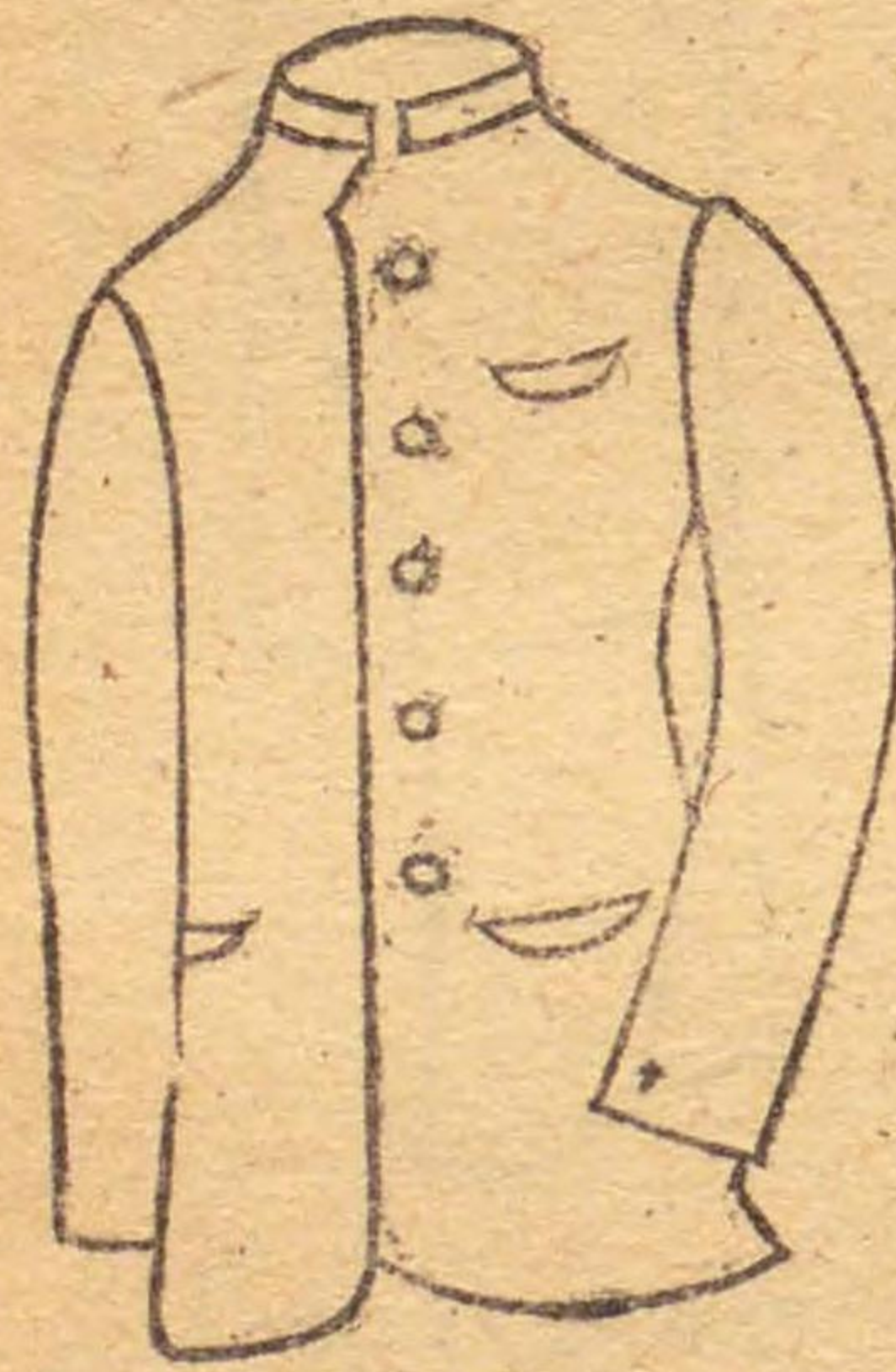
〔大例一三號〕



章 標



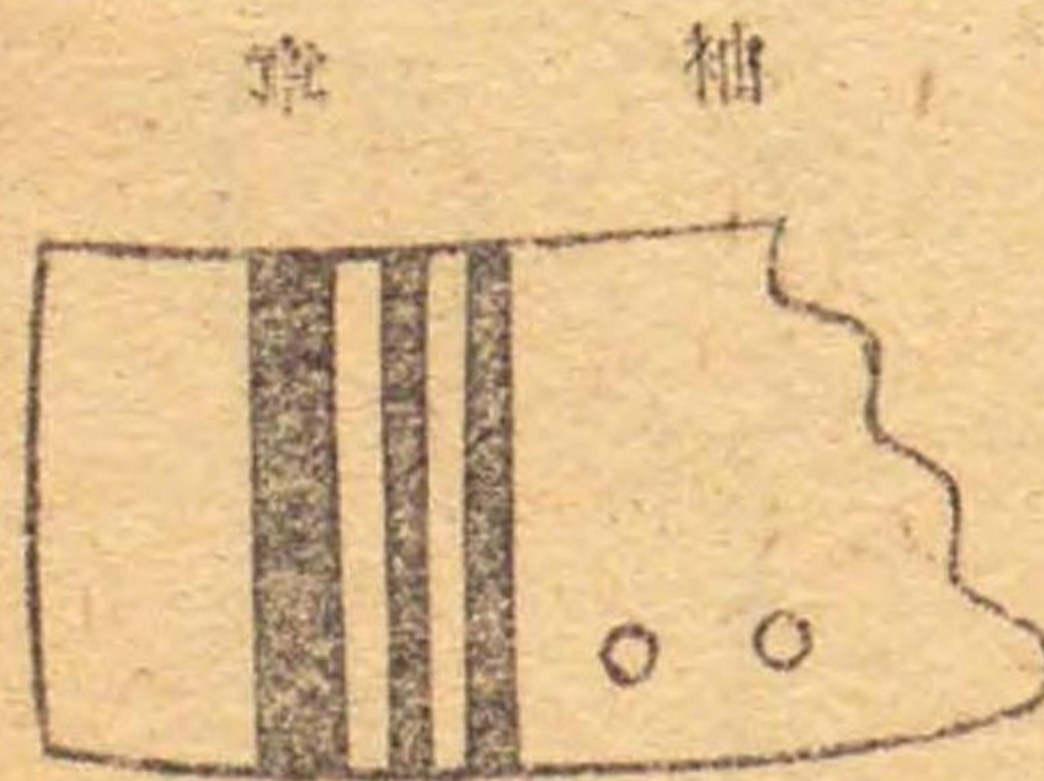
子 帽



衣上 號五、四、三、二、一第



章 徽 號一第



章 袖



章 徽

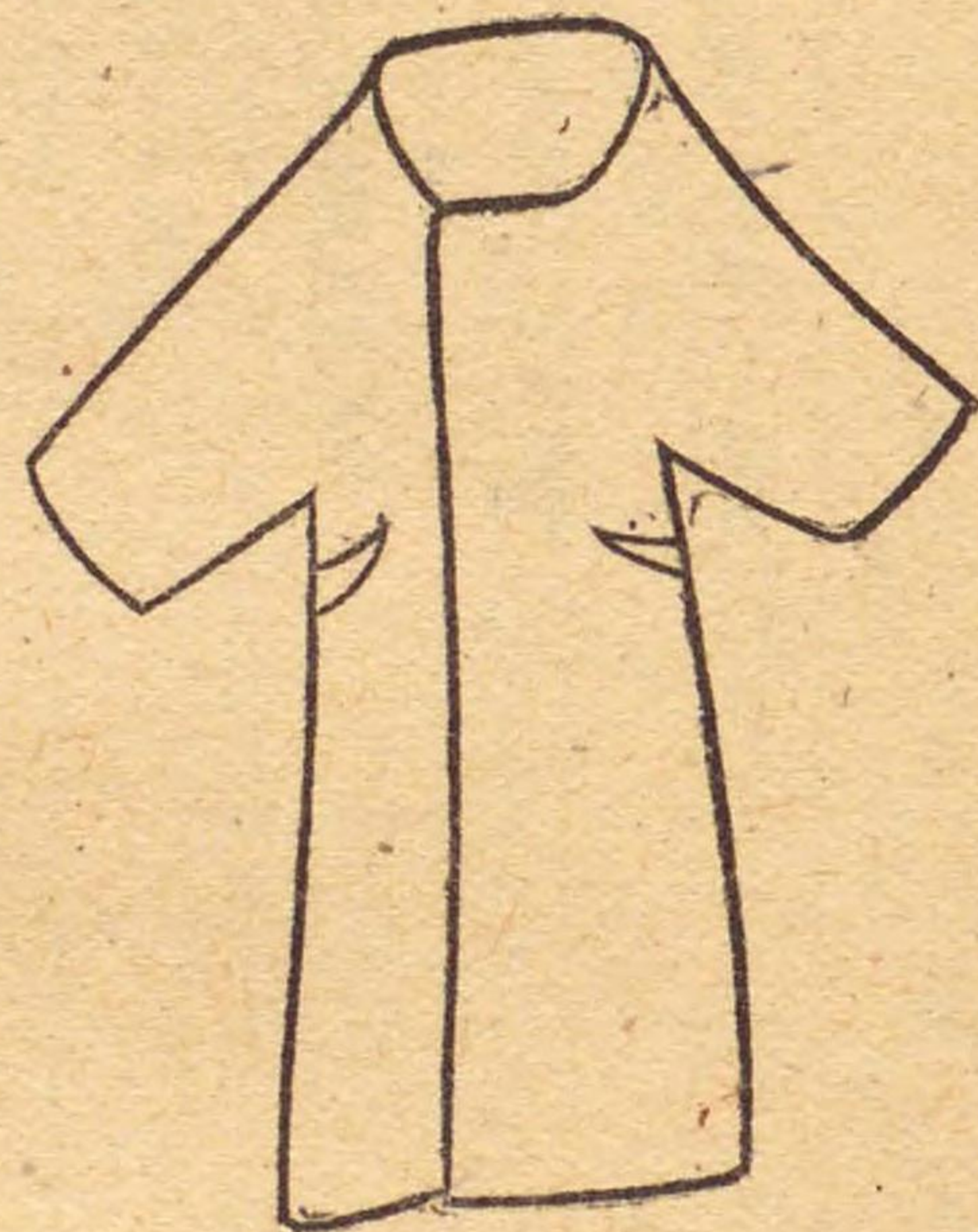
〔大例一三號〕

ゲートル	服			
	夏上着		制式	
制式	地質	制式		地質
卷揚式	黒羅紗			
卷揚式	黒羅紗			
				普通圖ノ如シ
			麻	
			冬カバーニ同シ	

備考

- 一 第二號乃至第五號該當者ニシテ十五年以上在職シ且成績優秀ナル者ノ帽子ニハ幅一糎五耗ノフランス毛線一條ヲ繞ラシ第一號ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得
- 二 第三號該當者ノ中庶務部計理課所屬ノ木工、建築工、測量工及作業手、技術部高速建設課所屬ノ測量工ニシテ高速軌道建設路線沿道家屋ノ調査ニ從事スル者及病院所屬ノ作業手ニ貸與スル袴ハ普通トス
- 三 第一號、第三號及第五號該當者ノ中乗用自動車運轉手、技術部高速建設課及高速施設課所屬ノ者ニ貸與スル雨衣ハレインコート型トス
- 四 庶務部計理課所屬ノ現場勤務ノ者、技術部高速建設課及高速建設課所屬ノ高速軌道建設現場勤務ノ者ニ貸與スル夏帽子ハ一文字型トス

〔大例一三號〕



リ 張 上



衣 雨



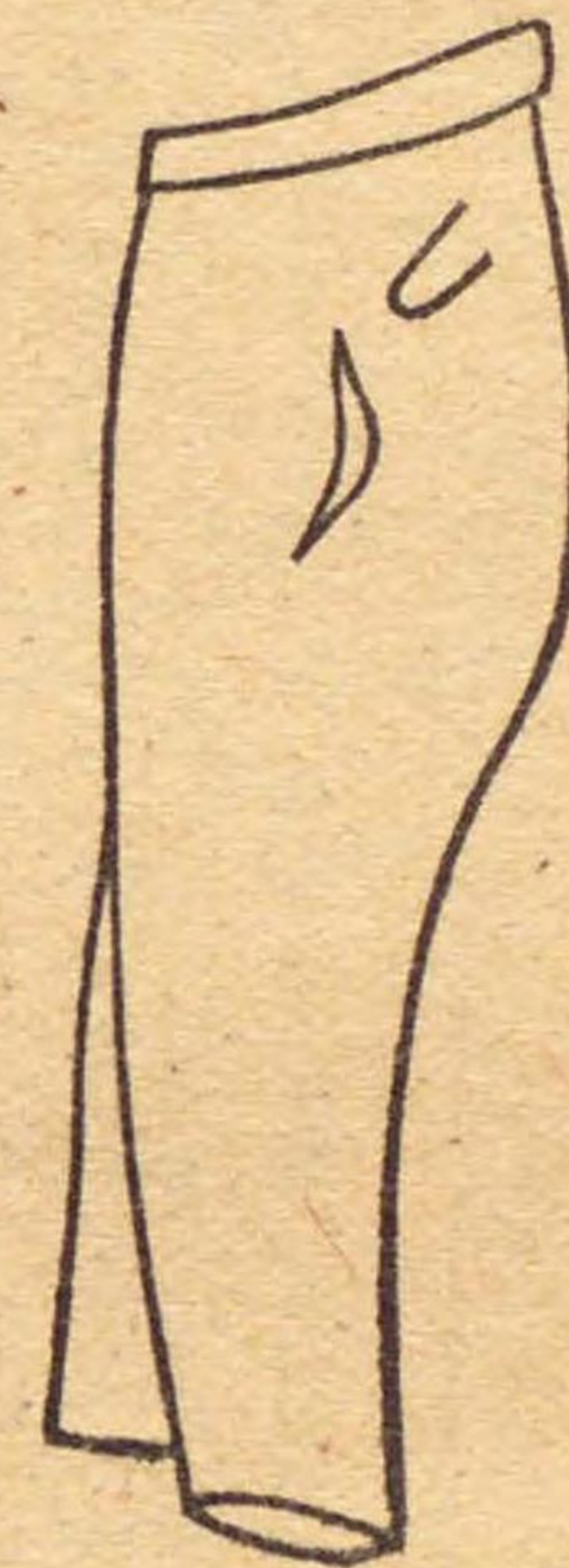
〔大例一三號〕



釦



袴號五第



袴號四、二、一第



袴號三第

〔大例一三號〕

港灣局吏員其ノ他被服規程

制定 大八、二六告示一〇六
最近改正 昭一七、九 告示三四一

港灣部吏員其ノ他被服規程左ノ通相定ム

港灣局吏員其ノ他被服規程

第一條 本市港灣局吏員其ノ他ニシテ別段ノ規程アルモノヲ除クノ外左

別表第一號ニ依ルヘキモノ

港灣局長ノ指定シタル吏員

別表第二號ニ依ルヘキモノ

各種船艇ノ船長、機關長及機關士

別表第三號ニ依ルヘキモノ

監視員、守衛、起重機手、作業監督

別表第四號ニ依ルヘキモノ

使丁、入津船舶調査ニ從事スル港夫

別表第五號ニ依ルヘキモノ

給仕

別表第六號ニ依ルヘキモノ

御崎丸、あやめ丸、渡船用船艇舵取及水夫、巡視艇水夫

別表第七號ニ依ルヘキモノ

港夫、起重機助手

別表第八號ニ依ルヘキモノ

工夫

別表第九號ニ依ルヘキモノ

常備夫、常備大工、園丁、掃除夫

別表第十號ニ依ルヘキモノ

常備職工

別表第十一號ニ依ルヘキモノ

別表第六號ニ依ラサル舵取、水夫並火夫、油差、船夫

第二條 被服ハ現品ヲ貸與シ保存期間満了シタルトキハ徽章ヲ除クノ外

之ヲ給與ス

保存期間ノ計算ハ貸與ノ月ヨリ起算シ満期ノ月ノ末日ニ終ル

第三條 被服ノ保存期間満了ニ至ラスシテ解職、退職、休職、轉職若ハ

死亡シタルトキハ速ニ之ヲ返納セシム

第四條 故意又ハ過失ニ依リ保存期間中被服ヲ毀損又ハ滅失シタルトキ

ハ保存期間ノ殘餘月數ニ應シ調製ノ原價ニ依リ其ノ價格ヲ賠償セシ

ム

第五條 別表第二號乃至第七號ニ依ル服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ一箇月金

壹圓ノ靴代料ヲ支給ス但シ十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以

前ニ解職、退職、休職、轉職若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支給ス

第六條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ

【大例一三號】

品名	第一號		第二號		第三號		第四號		第五號		第六號		第七號		第八號		第九號		第十號		第十一號	
	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間
夏(徽)帽	一箇	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
冬服	一著	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	一著	一年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
夏服	一著	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	一著	一年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
外服	一著	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
雨具	一著	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
作業服																						

備考 一 第一號及第七號ニ該當スル者ニシテ新任者ニ限リ夏服ニ著ヲ貸與ス

二 第八號及第九號ニ該當スル者ノ中夏帽子ノ貸與ヲ受クル者ニハ帽子日覆ヲ貸與セス

三 第四號ニ該當スル者ノ中入津船舶調査ニ從事スル港夫ニ對シテハ雨具ヲ貸與ス其ノ數量及保存期間ハ一著、二年トス

附則

(昭二、四告示九一)

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ニ掲ケタル吏員其ノ他ニ

對シ本規程施行前ニ貸與シタル被服保存期間ハ從前ノ規程ニ依ル

明治三十二年六月築港事務所長決定帽子雨覆貸與規程、同三十八年十

一月廳達第一三號棧橋長同助手被服規程、同年同月同第十四號御崎丸

渡船丸船舶給水用難波津丸及巡視用船艇員被服規程、大正五年五月大

阪市告示第五十二號船夫被服規程ハ之ヲ廢止ス

本改正規程施行ノ際現ニ貸與ヲ受クル被服ニ付テハ其ノ保存期間満了

ニ至ル迄仍從前ノ規程ニ依ル

附則 (昭六、告示二二〇)

本改正規程施行ノ際現ニ貸與ヲ受クル被服ニ付テハ其ノ保存期間満了

ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第一號帽子

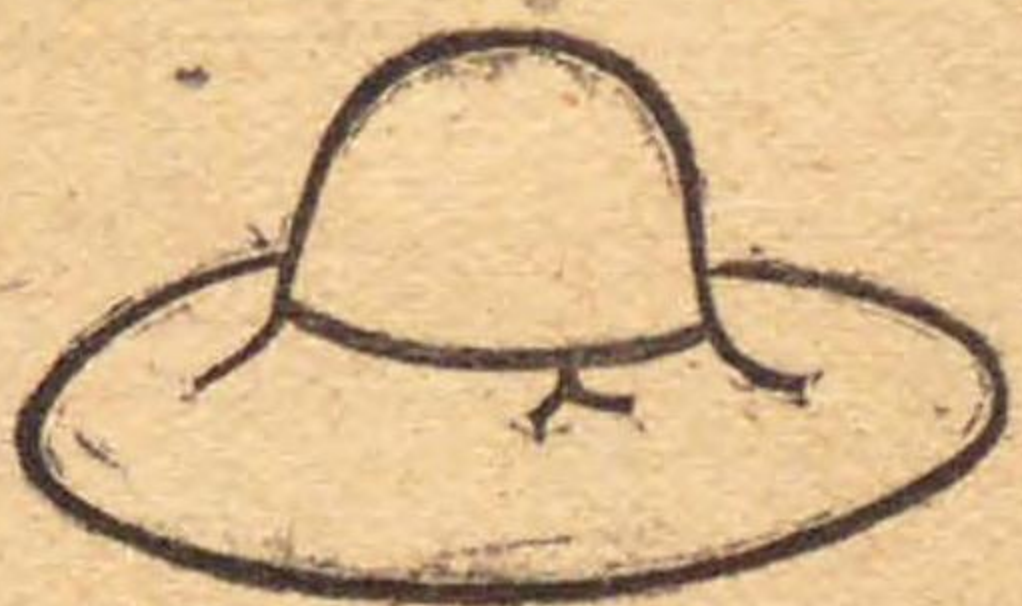


帽子ノ周圍ニ幅一寸
三分ノ黒毛縁ヲ纏フ

第六號帽子



第八、九號夏帽子



第一號帽子徽章



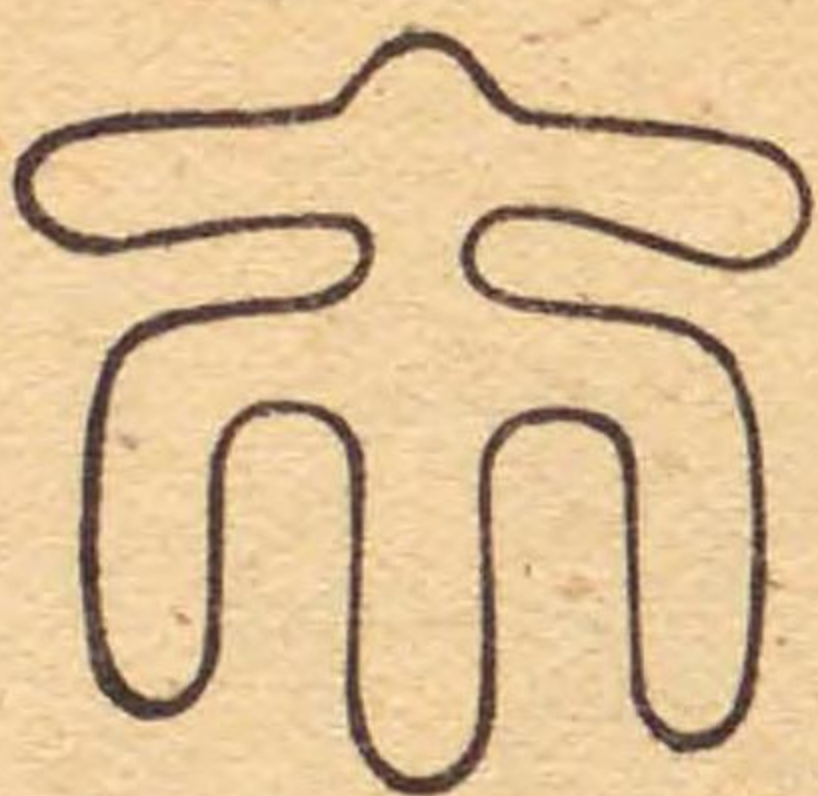
上部ニ銀色市ノ徽章金
色ニテ中央圓ノ中ニ錨
ヲ附シ其ノ下部ニ棧橋
ノ雛形ヲ置キ金色ノ櫻
葉ニテ抱合ス
高サ一寸八分 幅二寸

第二、三號帽子徽章



金絲ニテ苜蓿葉ヲ抱合セ上部ニ
銀色市ノ徽章下部ニ銀色ノ錨
中央金色圓ノ中ニ各職名一字
又ハ二字(入津船舶調査ニ從
事スル港夫ニツイテハ調ノ
字)ヲ白絲ヲ以テ縫出ス
高サ 一寸四分五厘
幅 一寸五分五厘

第四號帽子徽章



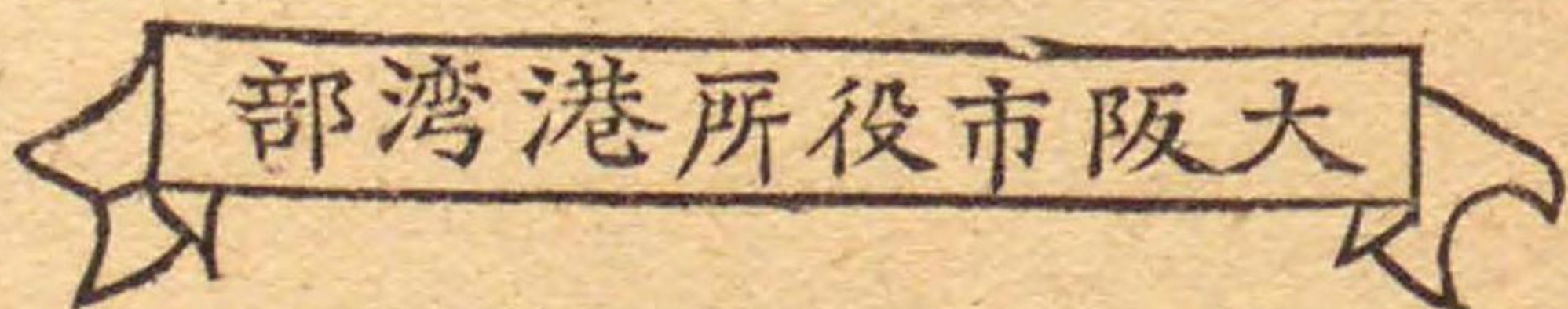
金 屬 製
銀 色
徑 七 分

第五號帽子徽章



金 屬 製
銀 色
高サ幅各三厘

第六號帽子徽章



〔大例一三號〕

第七號帽子徽章



金絲組紐ヲ以テ階圓形
輪廓ヲ作り金色金屬製
ニテ市ノ徽章ノ下部錨
爪トナシタルモノヲ打
出ス
高サ 一寸二分
幅 一寸

第八、九、十號帽子徽章

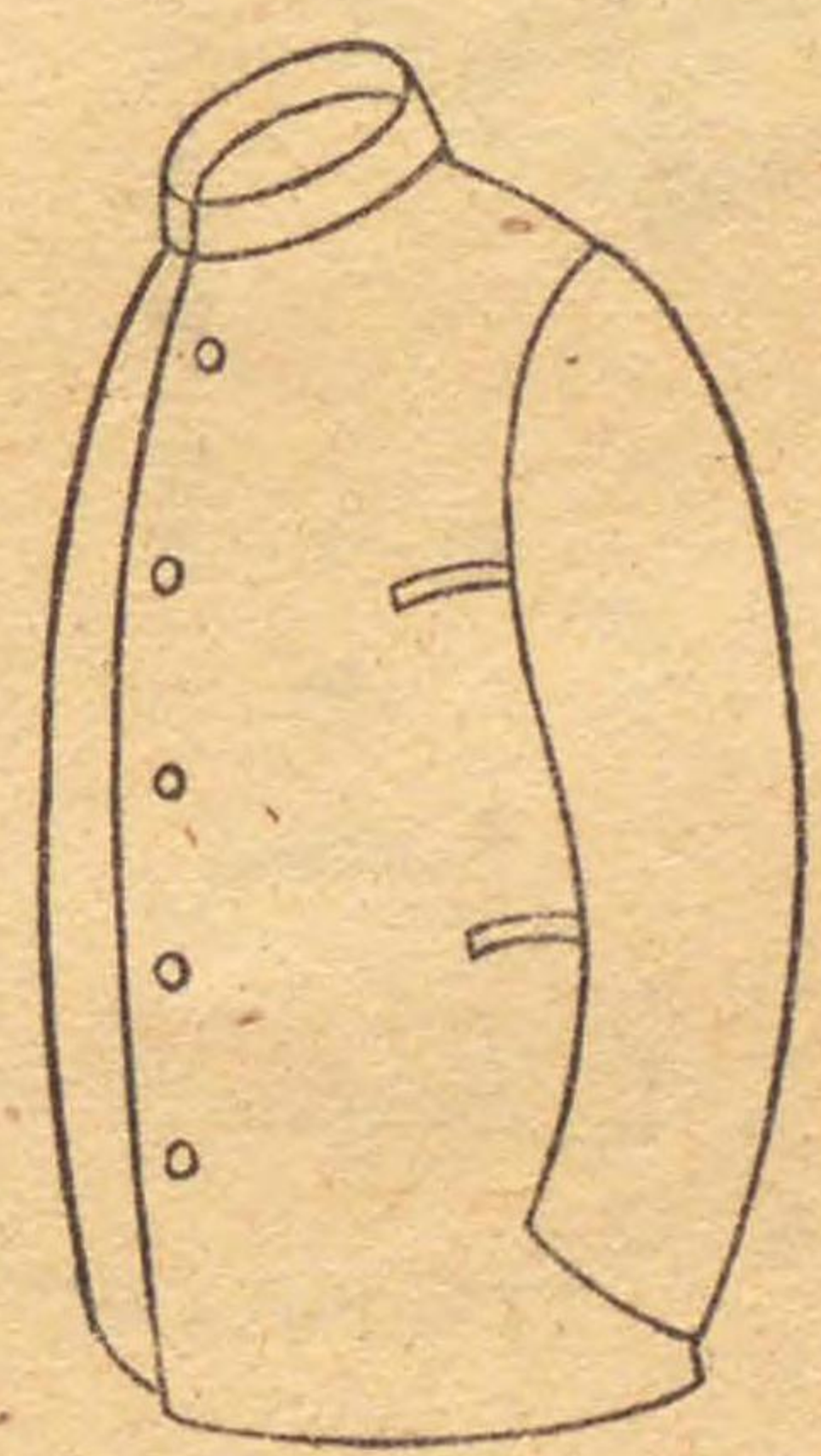


金 屬 製
銀 色
高サ 一寸四分
幅 一寸七分

第一號冬服上衣



第二、三、四、五、七、八、九、十、十一號上衣



第六號上衣



練 釦



徑五分六厘

釦

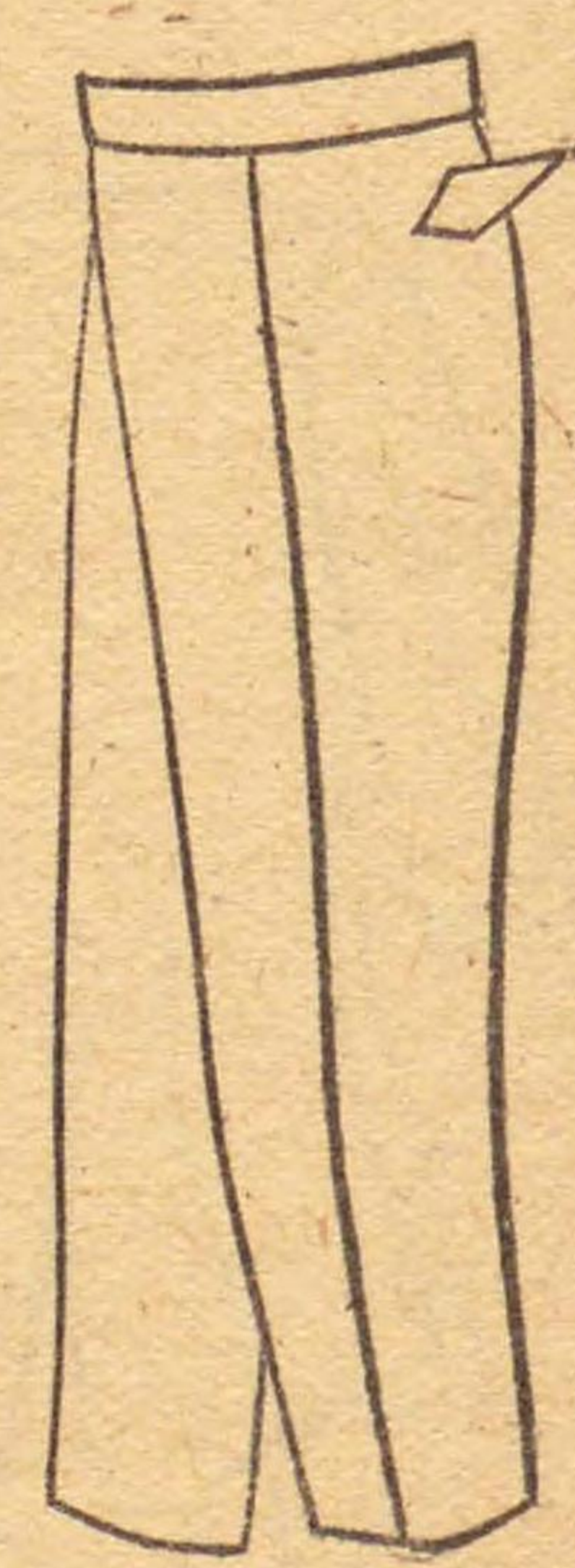


平打裂地トシ
中央ニ市ノ徽
章ヲ附ス
大形 徑六分五厘
小形 徑五分

第一號肩章



第二、三、四、五、七、十、十一號袴



長四寸幅一寸五分ノ黑羅紗ニ徑一分五厘ノ金繩ヲ以テ輪廓ヲ作り銀色市ノ徽章及金色錨ヲ附シ金色櫻花ノ中央ニ徽章アルモノ二個ヲ附ス但シ係長以外ハ錨ノ下ニ一個ノミヲ附ス

第八、九號袴



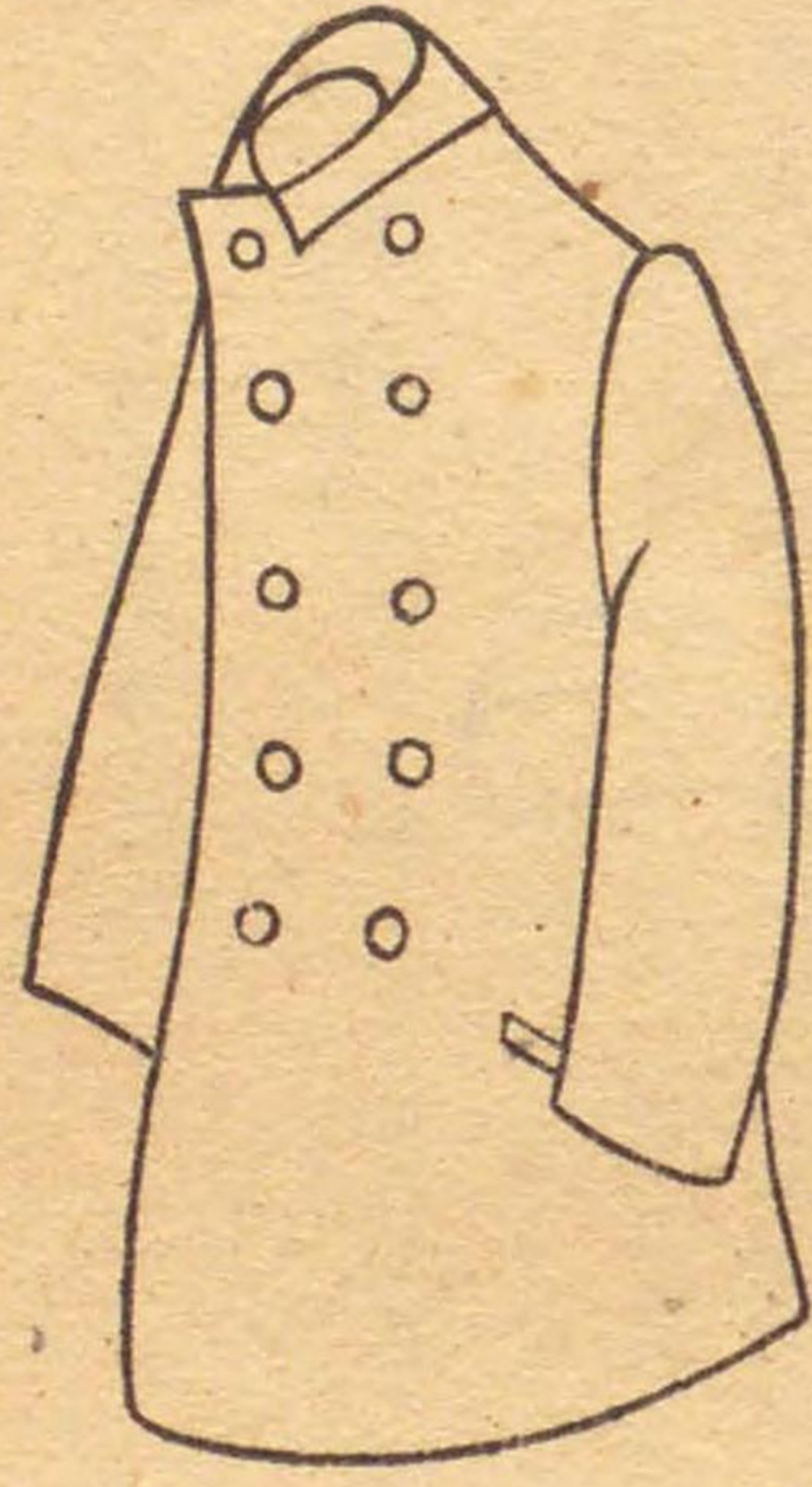
第一號袴



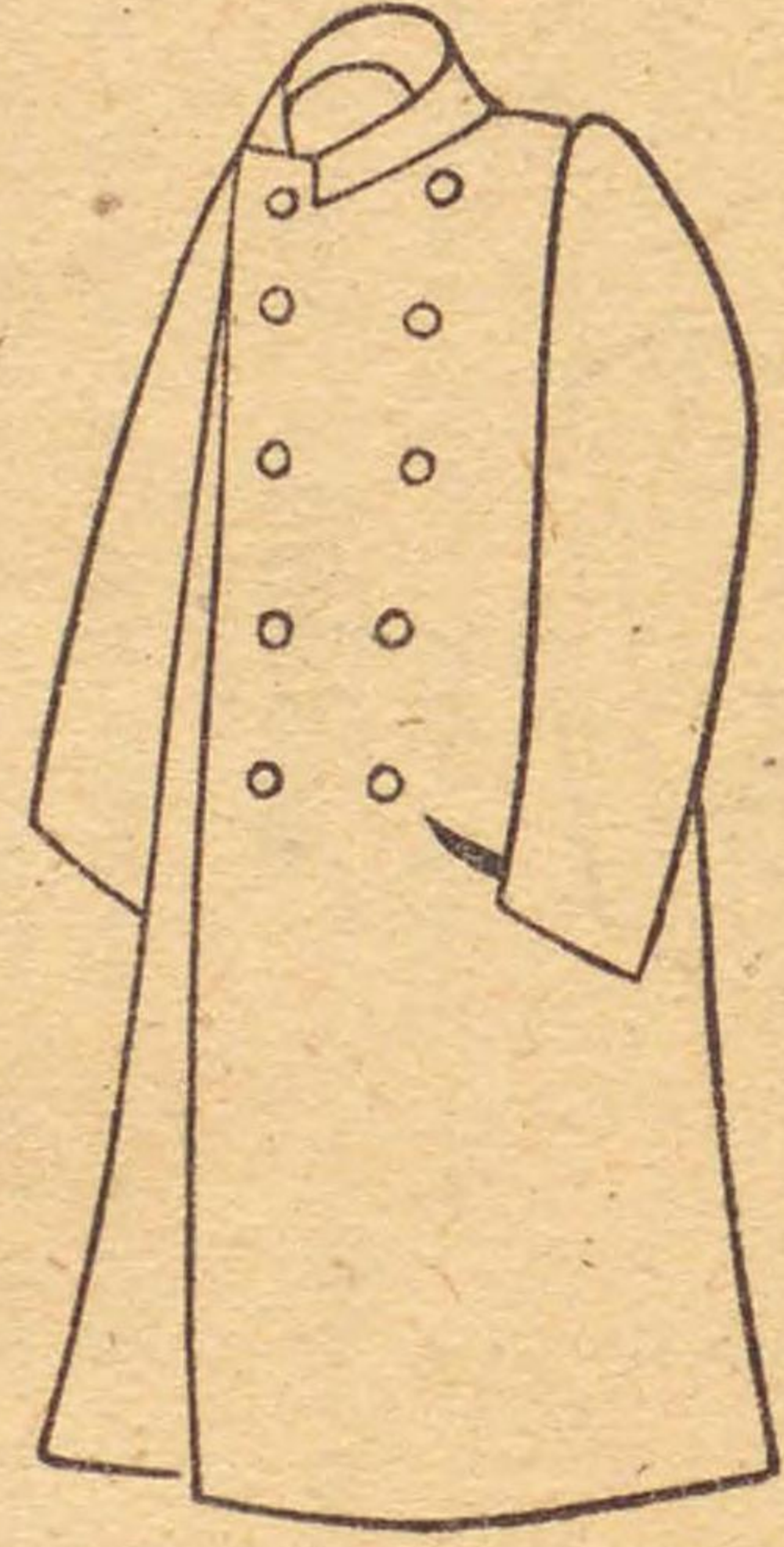
第六號袴



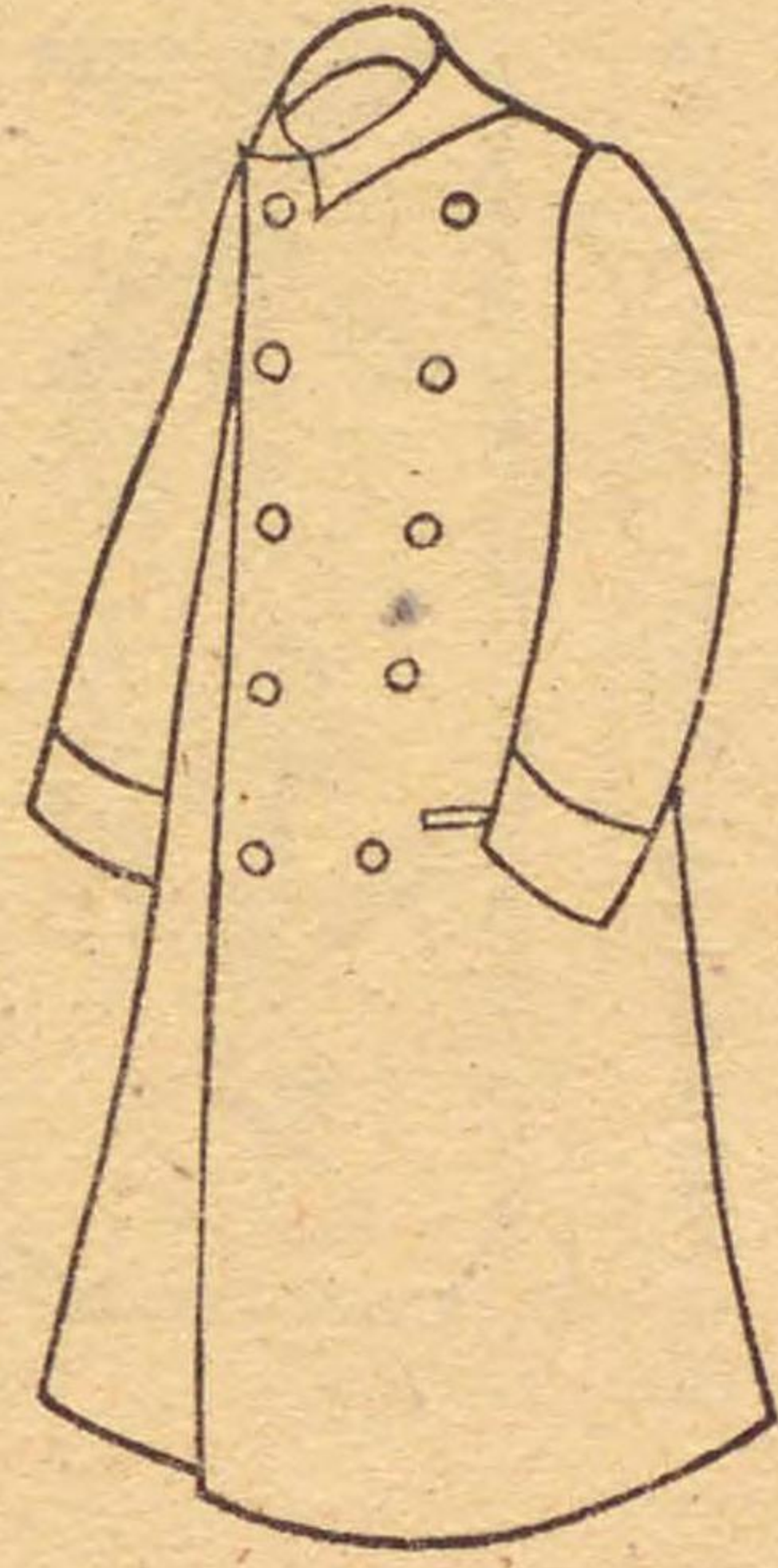
第七類 給與 第四章 被服



第六號外套



第四、五、七、八號外套

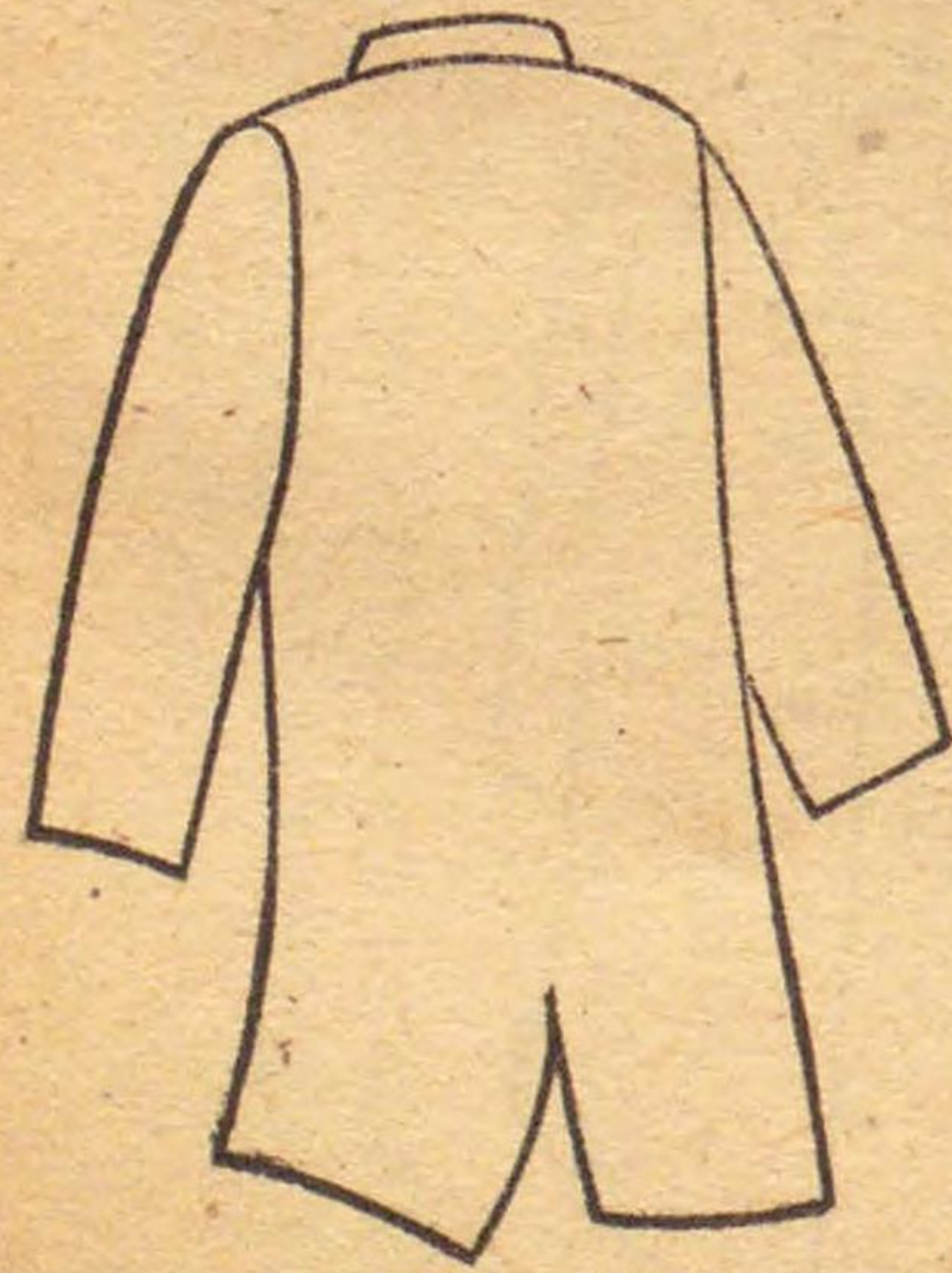


第二、三號外套

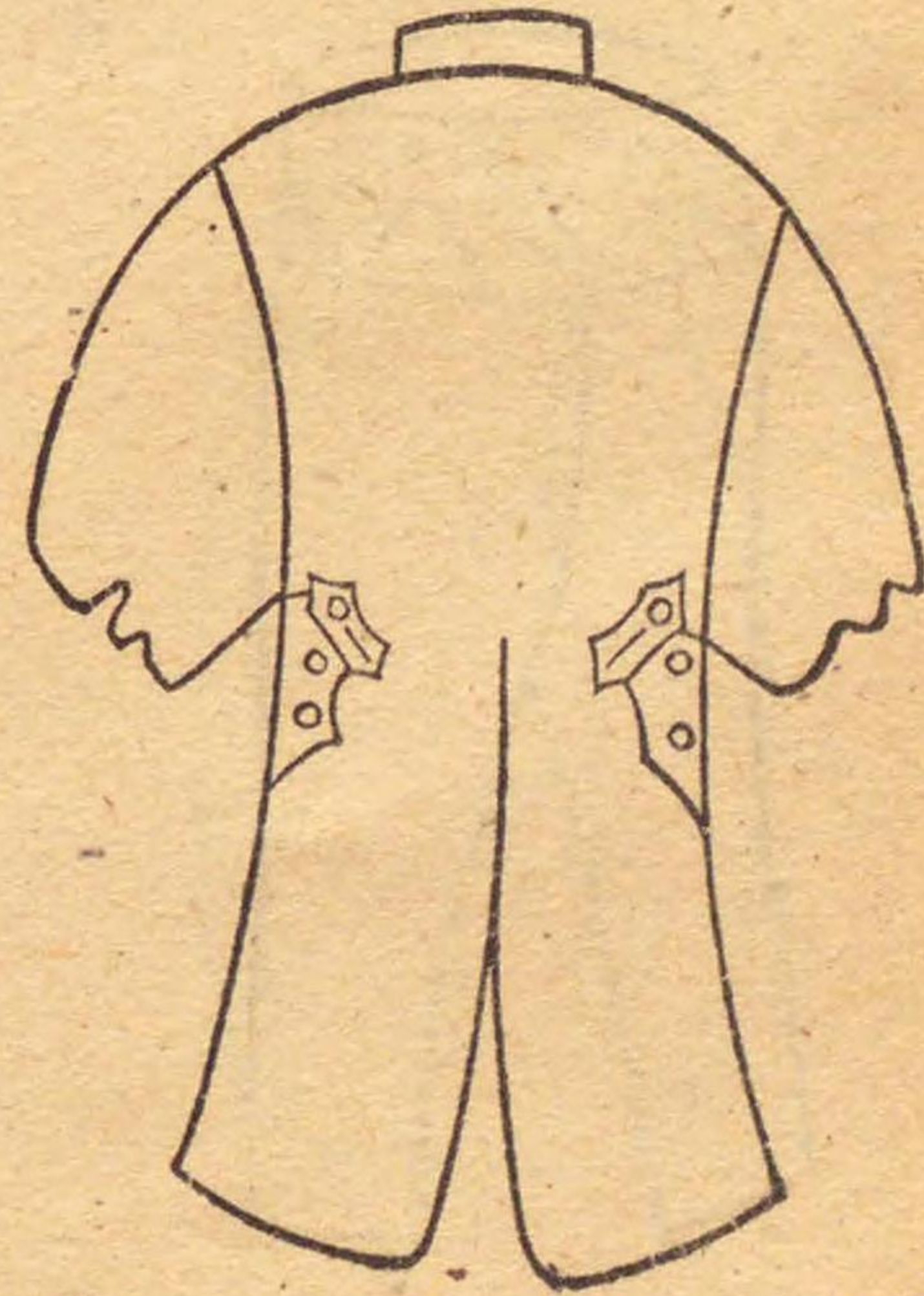
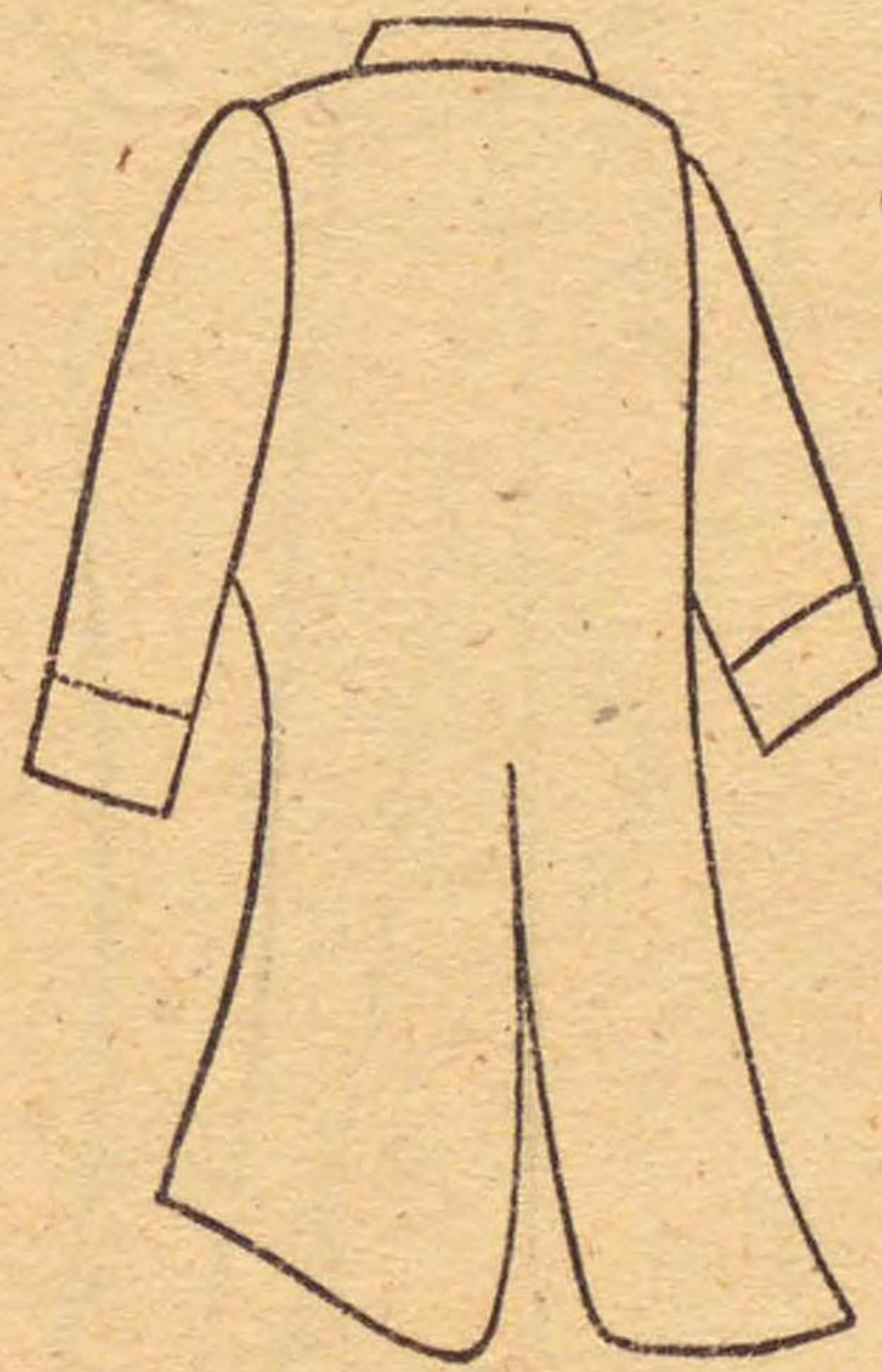


第七類 給與 第四章 被服

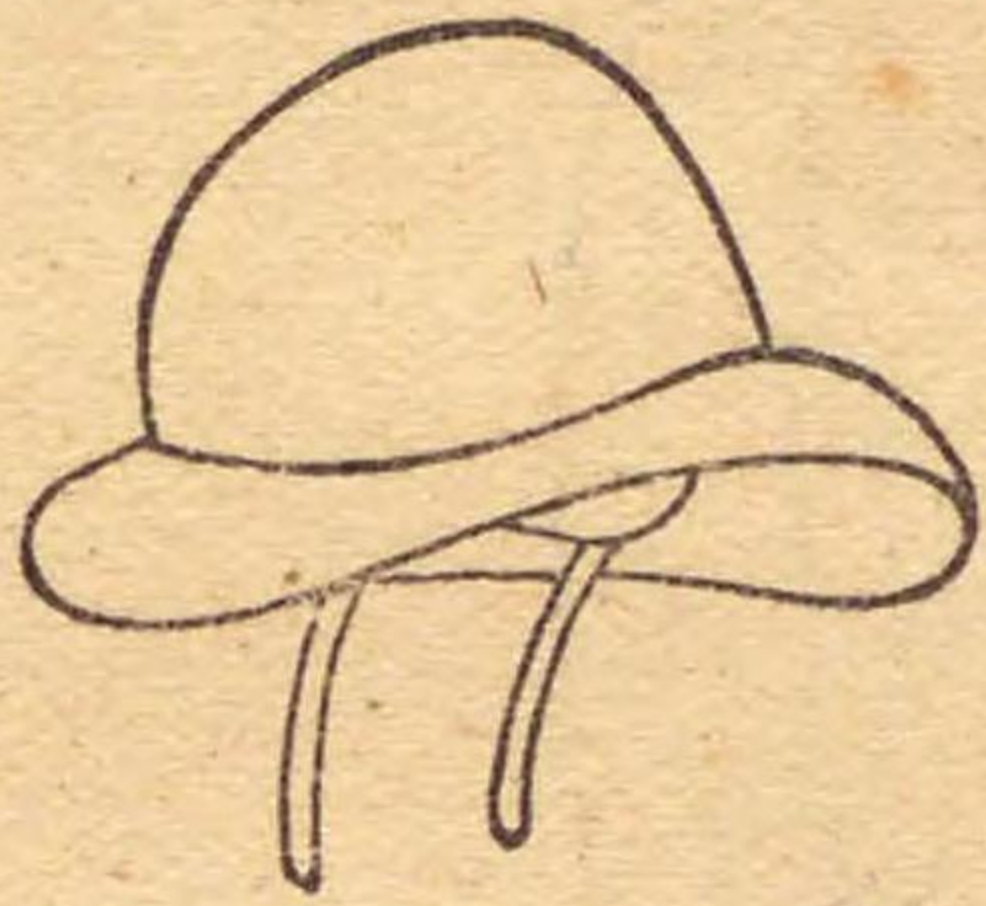
四五九



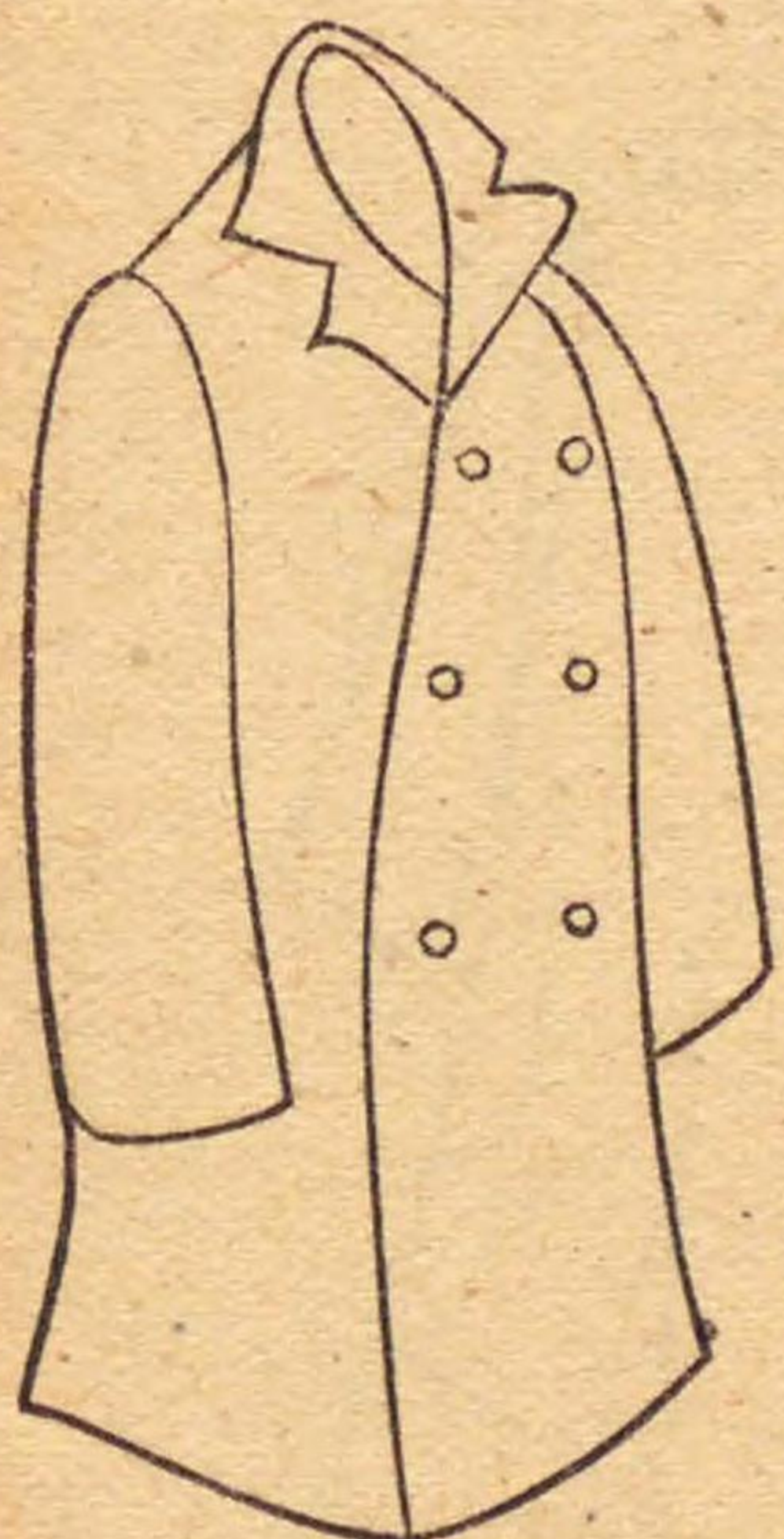
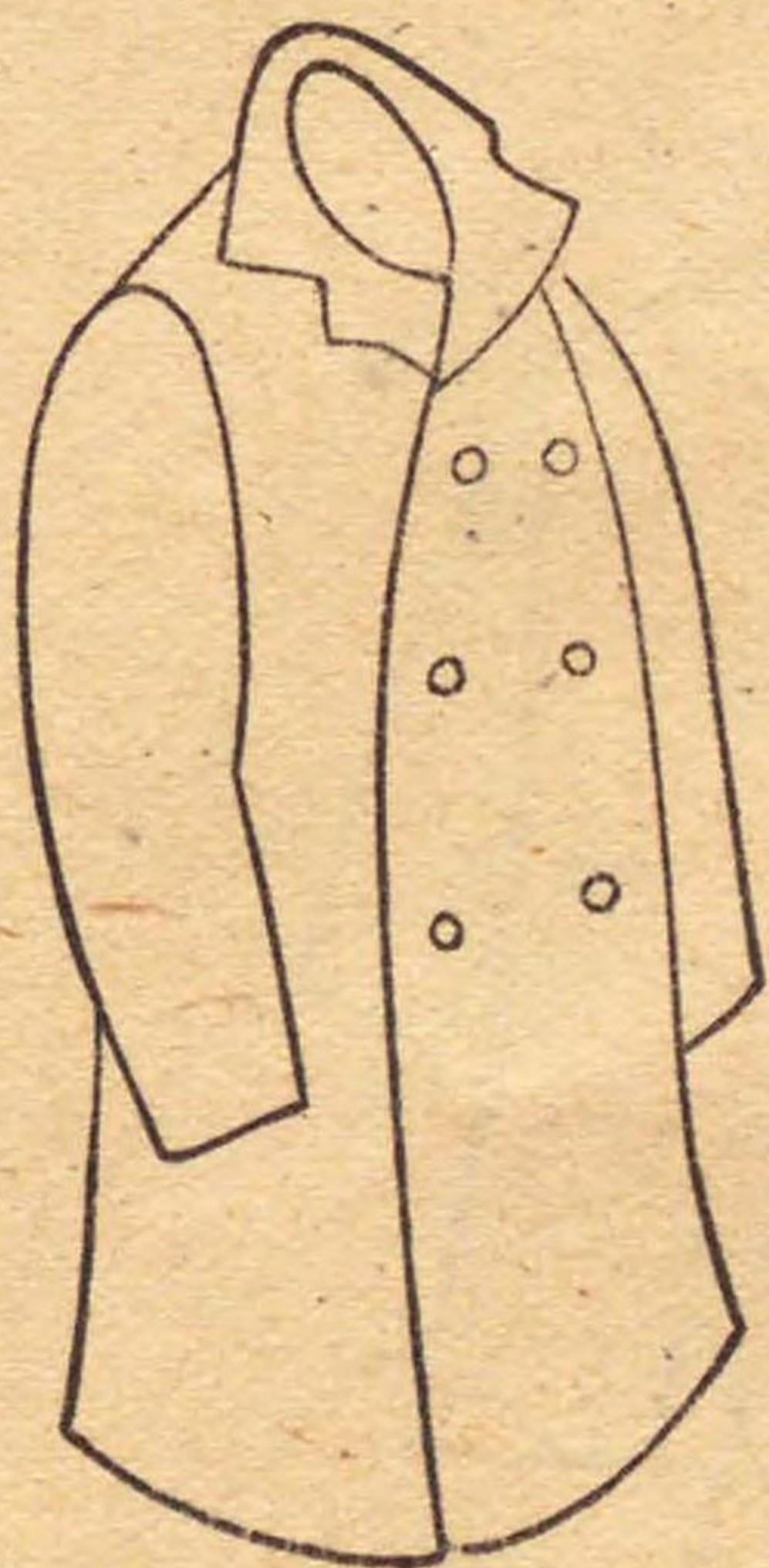
四五八



第七號雨具



第八、九號黑色布合羽



掃除監視吏員被服規程

制定 大七、五、六告示三九
最近改正 昭八、一二告示四三八

掃除監視吏員被服規程左ノ通相定ム

掃除監視吏員被服規程

第一條 本市掃除監視吏員ハ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス

第二條 被服ハ現品ヲ貸與シ保存期間滿了シタルトキハ徽章ヲ除クノ外之ヲ給與ス

保存期間ノ計算ハ貸與ノ月ヨリ起算シ満期ノ月ノ末日ニ終ル

第三條 被服ノ保存期間滿了ニ至ラスシテ解職、退職、休職、轉職若ハ死亡シタルトキハ速ニ之ヲ返納セシム

第四條 故意又ハ過失ニ依リ保存期間中被服ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ保存期間ノ殘餘月數ニ應シ調整ノ原價ニ依リ其ノ價額ヲ賠償セシム

第五條 清掃監視ニ對シテハ一箇月金貳圓ノ被服附屬品代料ヲ支給ス但シ十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以前ニ解職、退職、休職、轉職若ハ死亡シタルトキハ半額ヲ支給ス

被服附屬品代料ハ毎月二十五日之ヲ支給ス但シ當日休職ノ場合ハ繰下トス

第六條 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ

別表

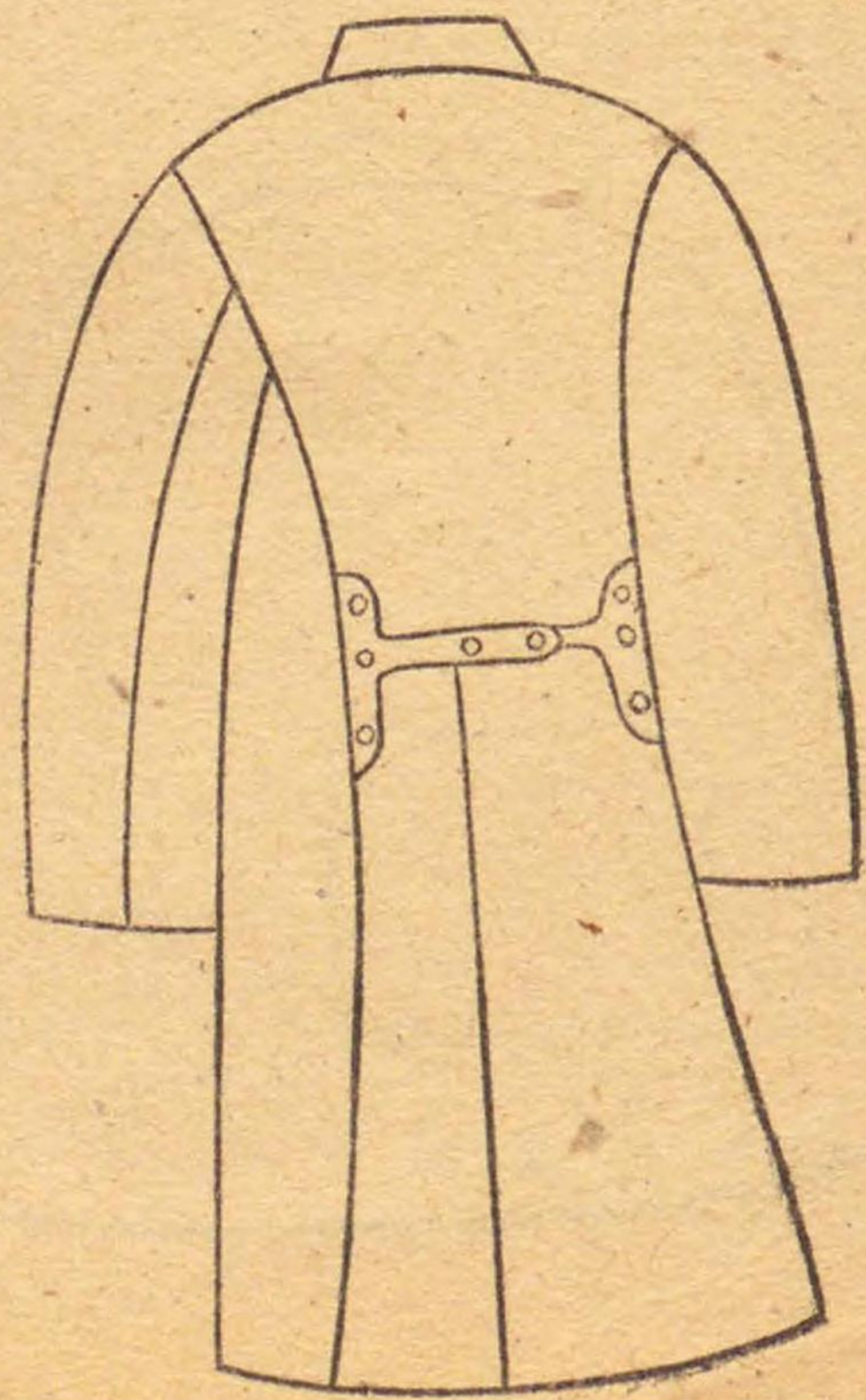
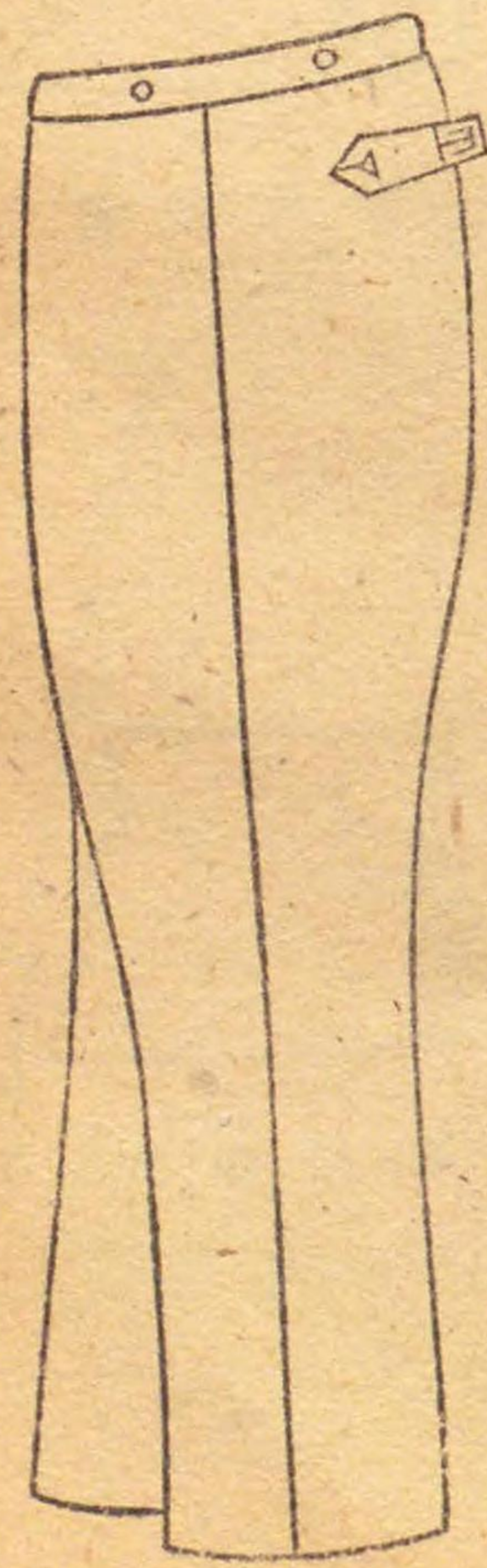
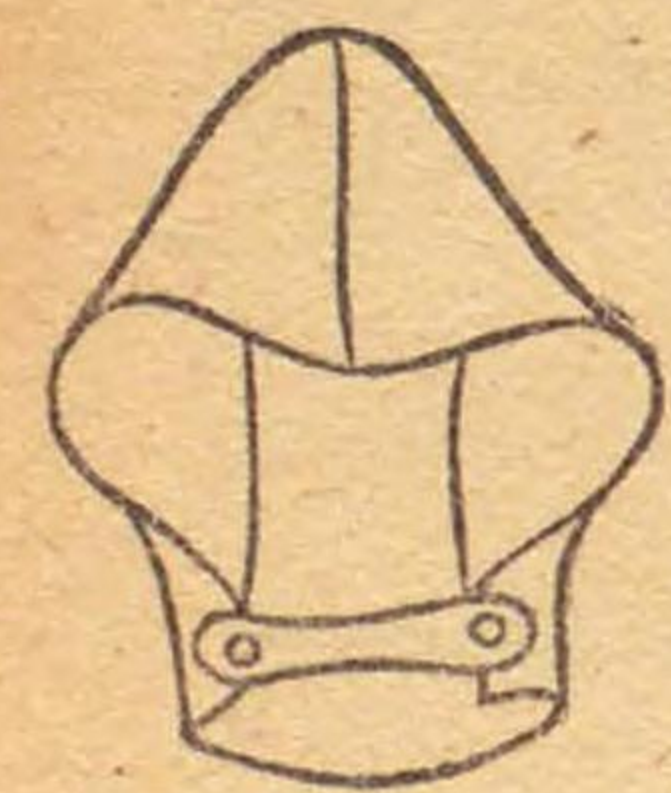
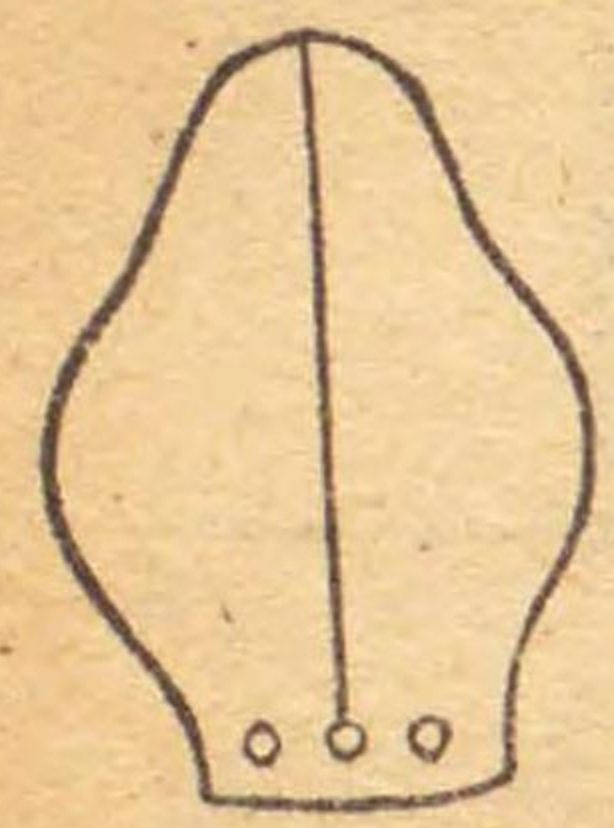
第七類 給與 第四章 被服

品名	區別	數	量	保存期間	冬		外		夏		雨	
					服	帽	套(甲種共)	服	具	具		
		一	著	二	一	普通帽	一	一	一	一	一	一
		一	著	二	一	特殊帽	一	一	一	一	一	一
		一	著	二	一	筒	一	一	一	一	一	一
		一	著	二	一	筒	一	一	一	一	一	一
		一	著	二	一	筒	一	一	一	一	一	一

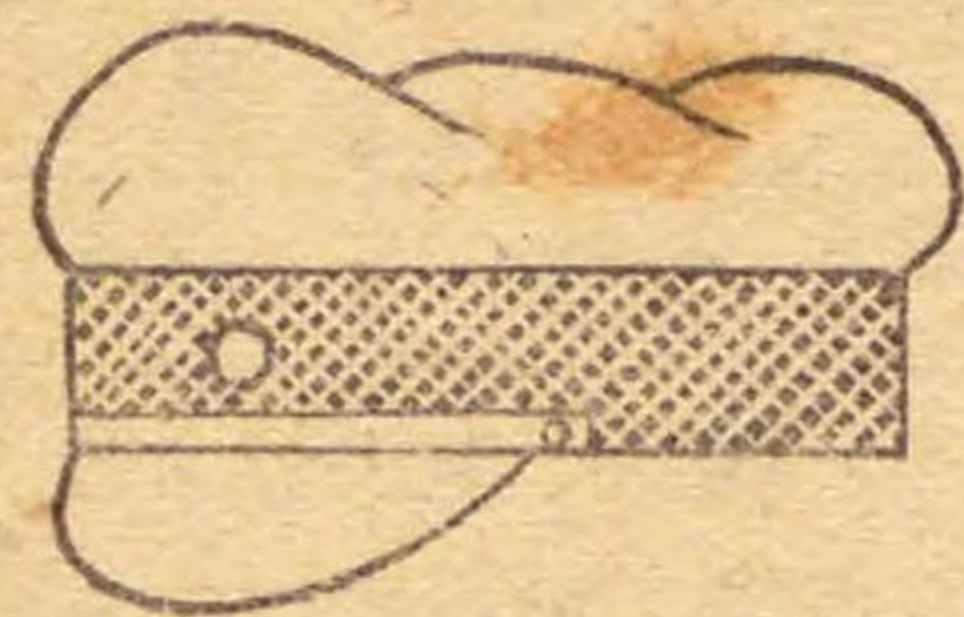
備考 特殊帽ニ付テハ第三條ハ之ヲ適用セス

第七條 本規程ハ大正七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本規程施行前ニ貸與シタル被服ハ從前ノ規程ニ依リ保存期間滿了ニ至ル迄之ヲ著用セシム

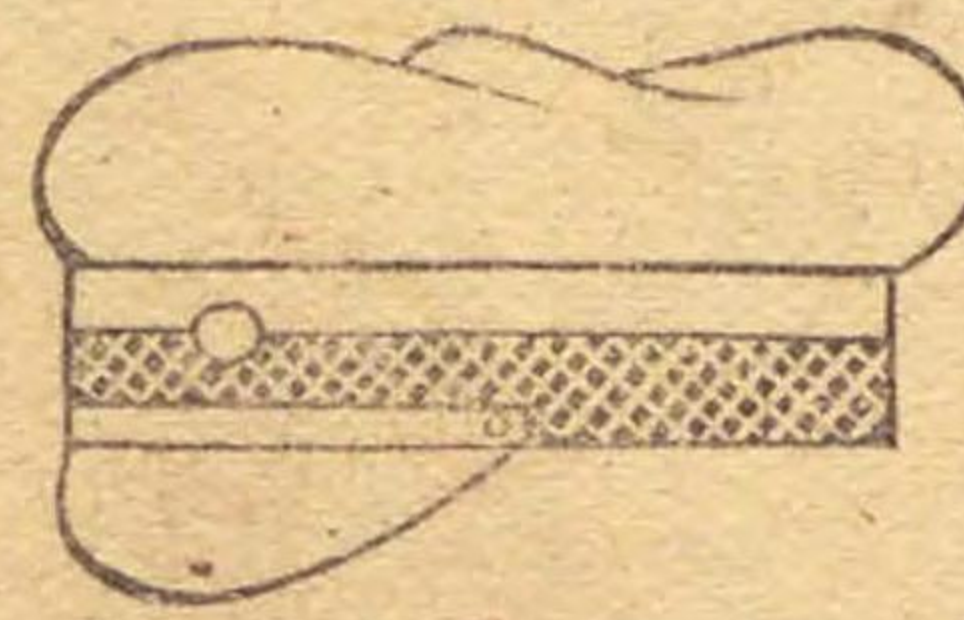
第八條 明治三十三年四月大阪市告示第四十四號掃除監視吏員服制及大正二年七月廳達第十號掃除監視吏員被服貸與及附屬品代料支給規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



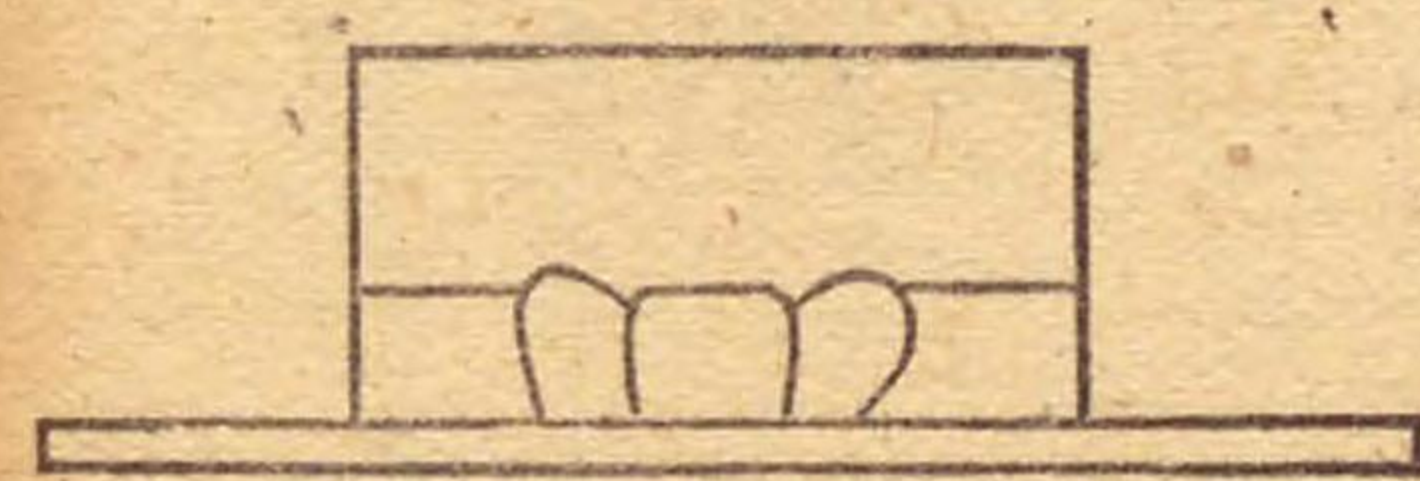
督監除掃



視巡除掃



帽殊特



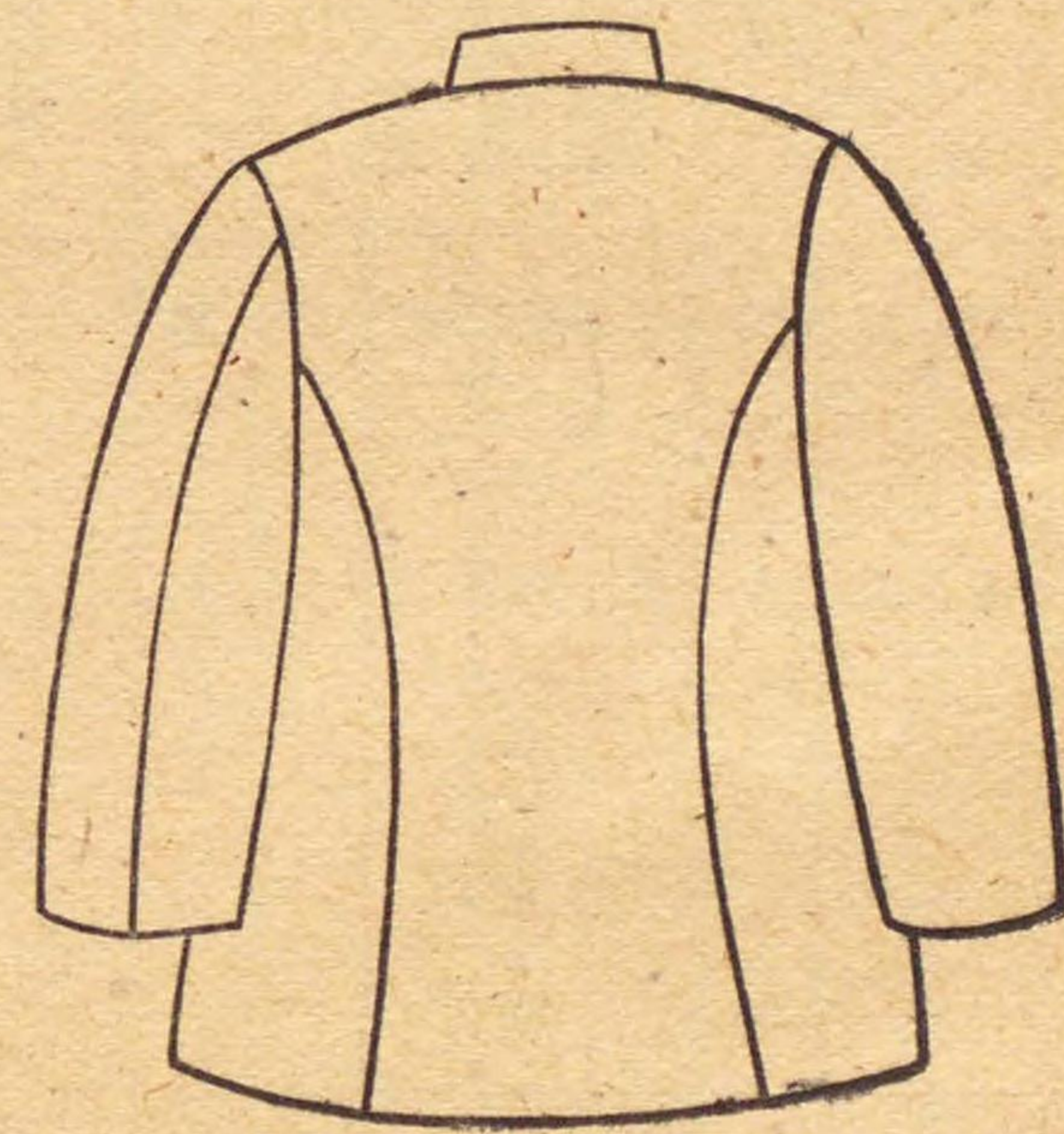
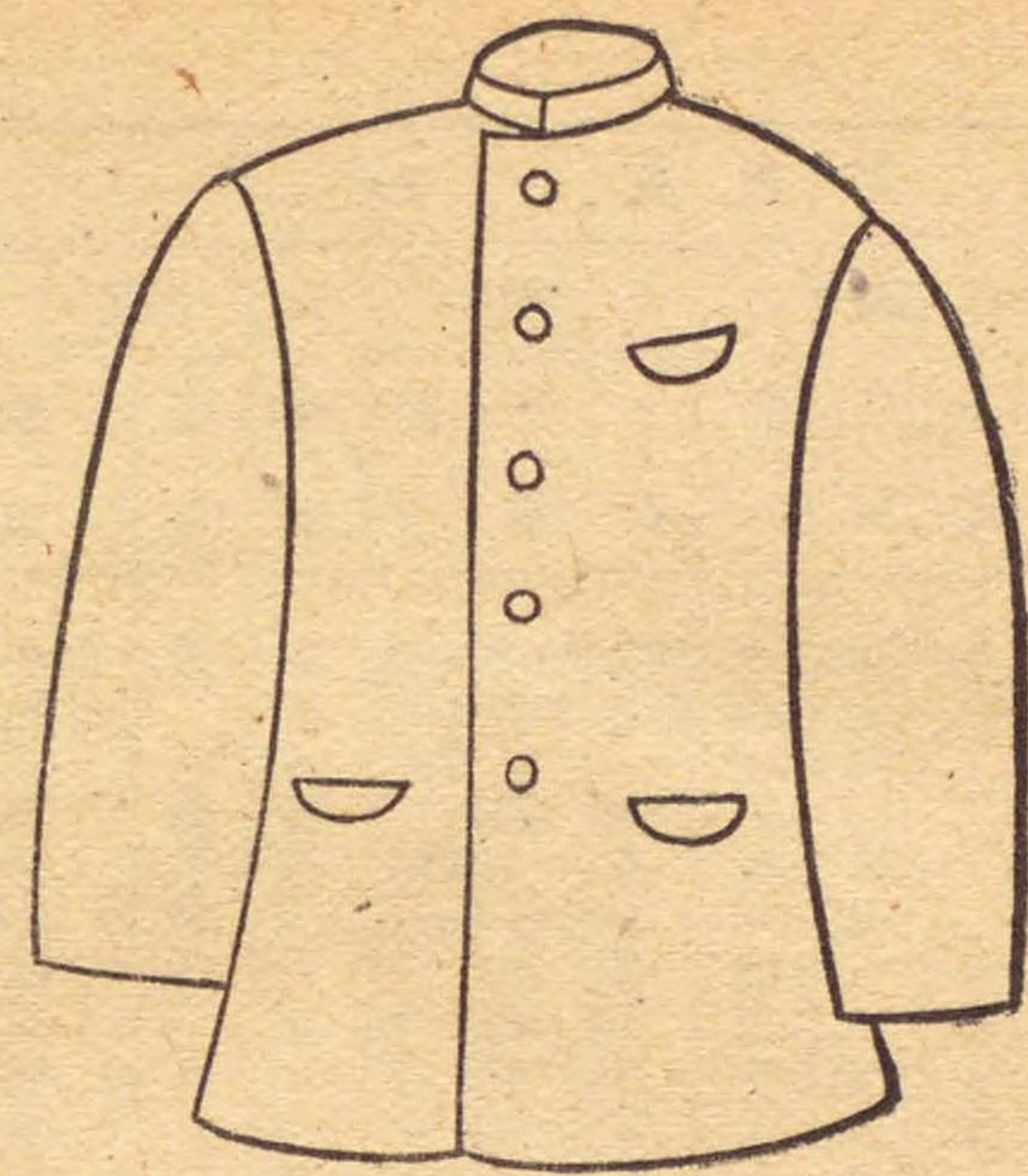
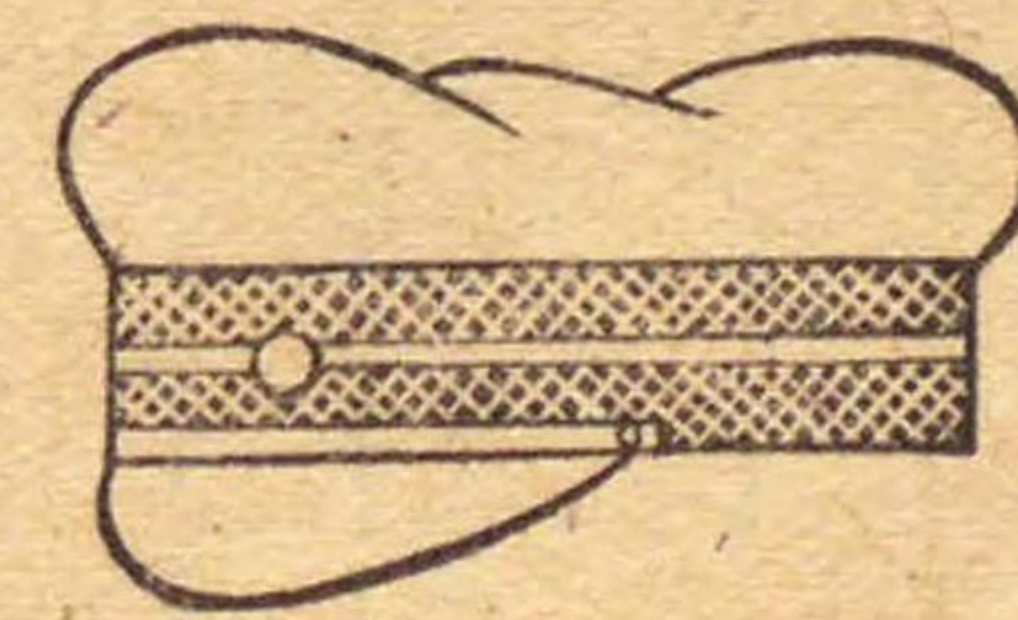
長督監除掃
督監除掃及



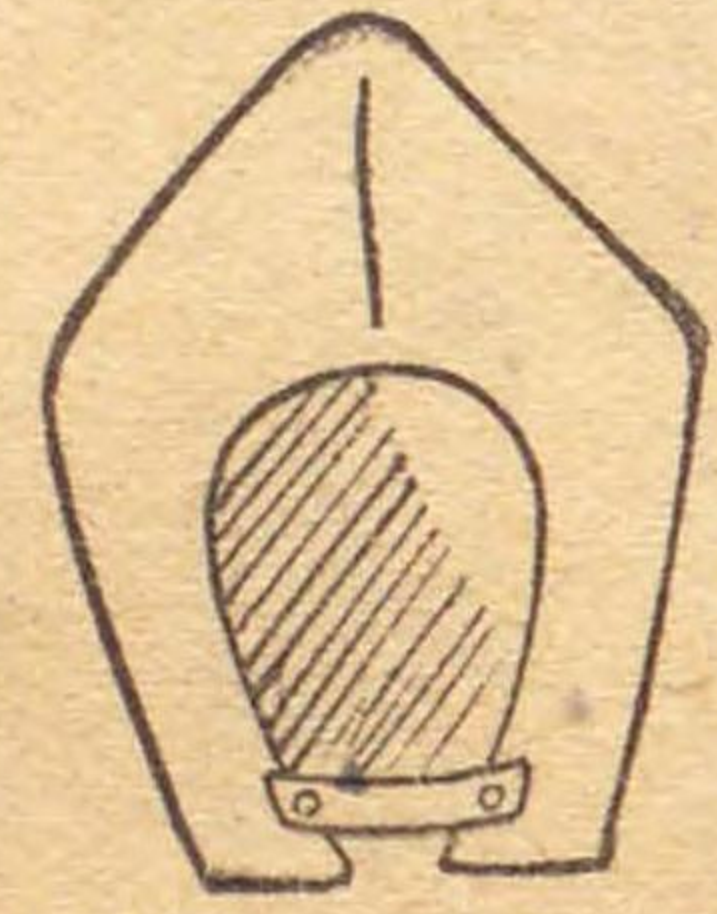
視巡除掃



長督監除掃



具 雨



外套袖章



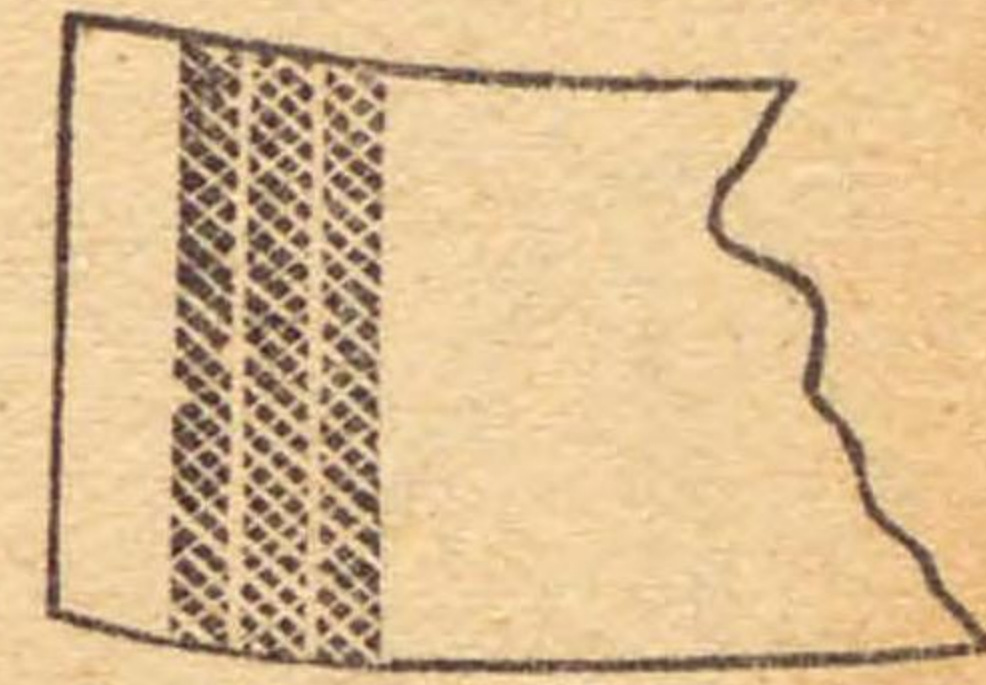
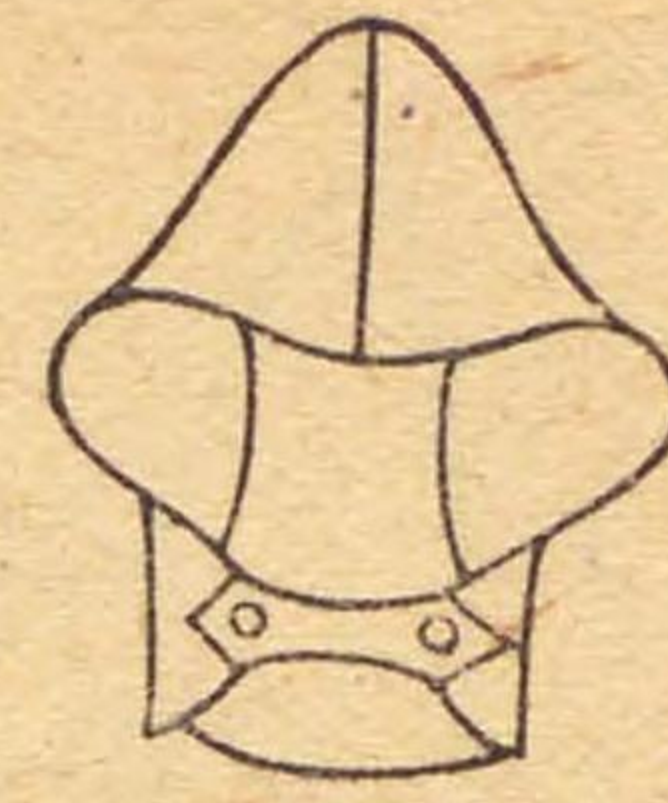
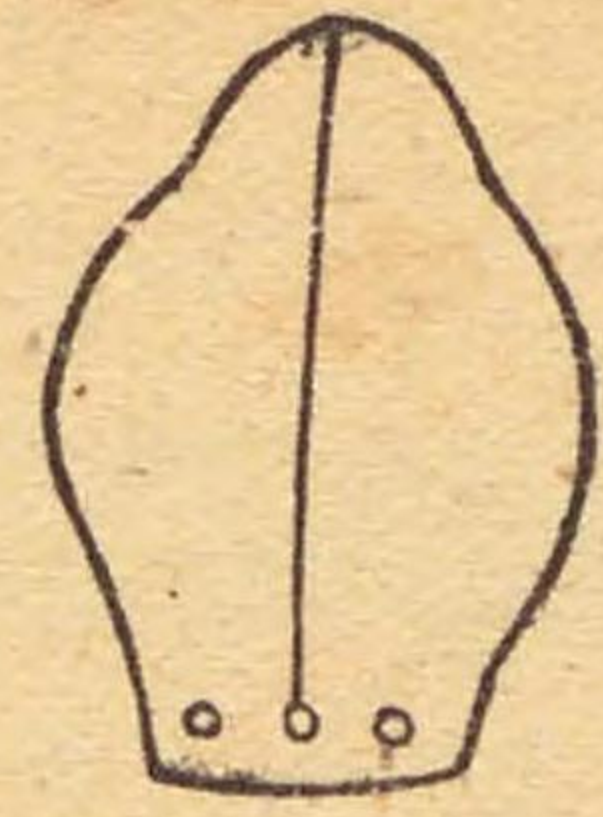
事主掃清



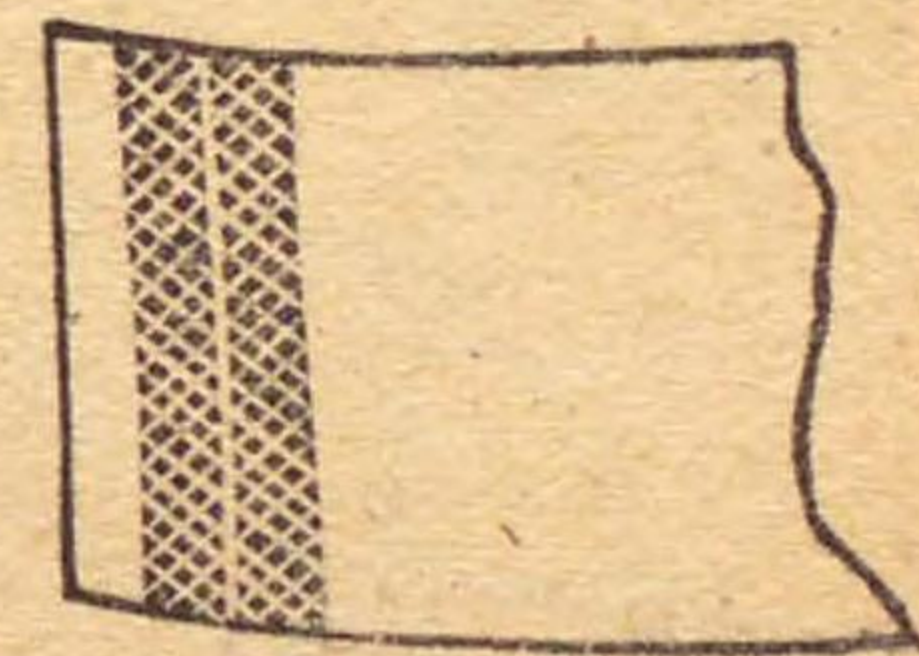
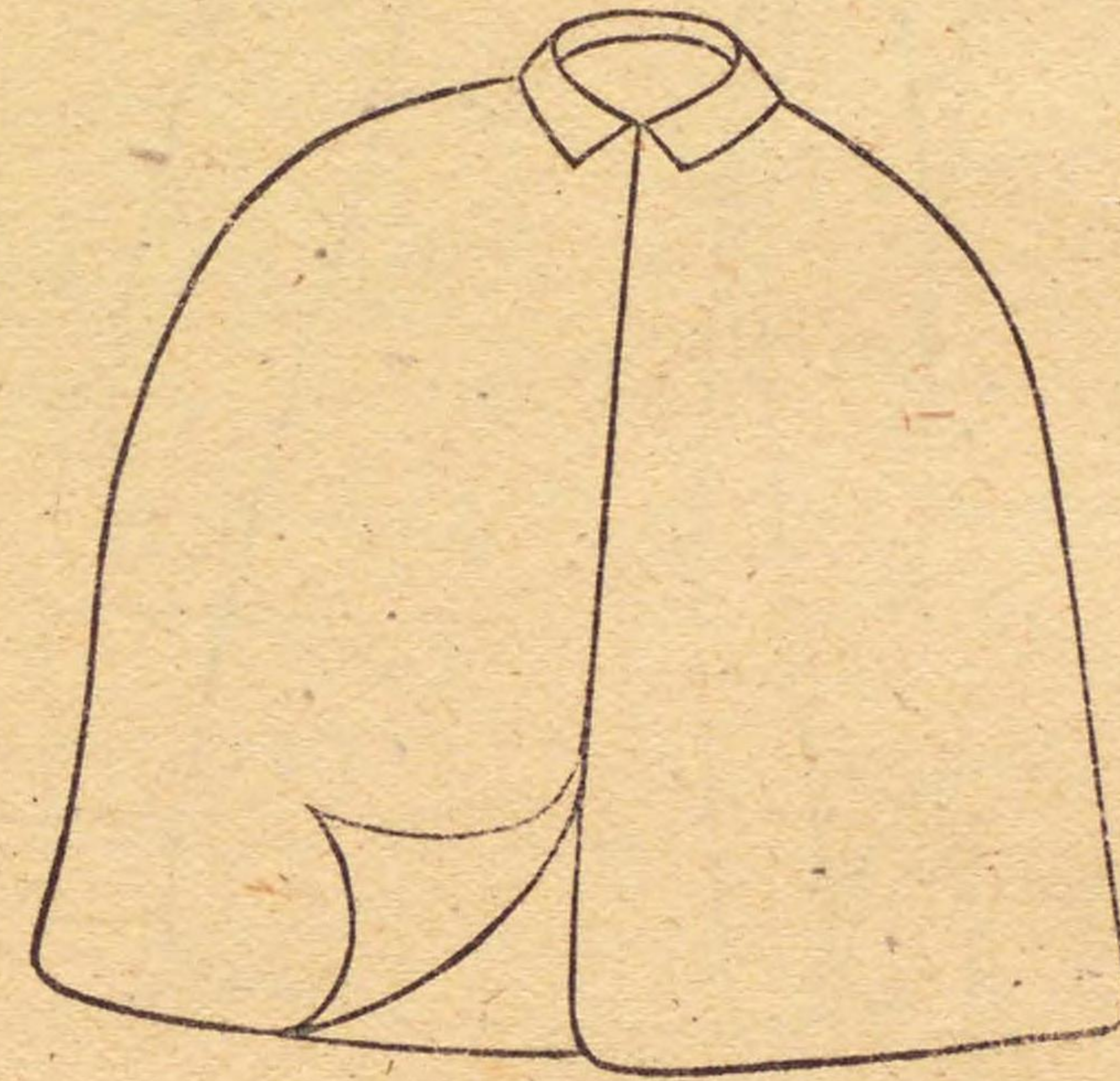
督監掃清



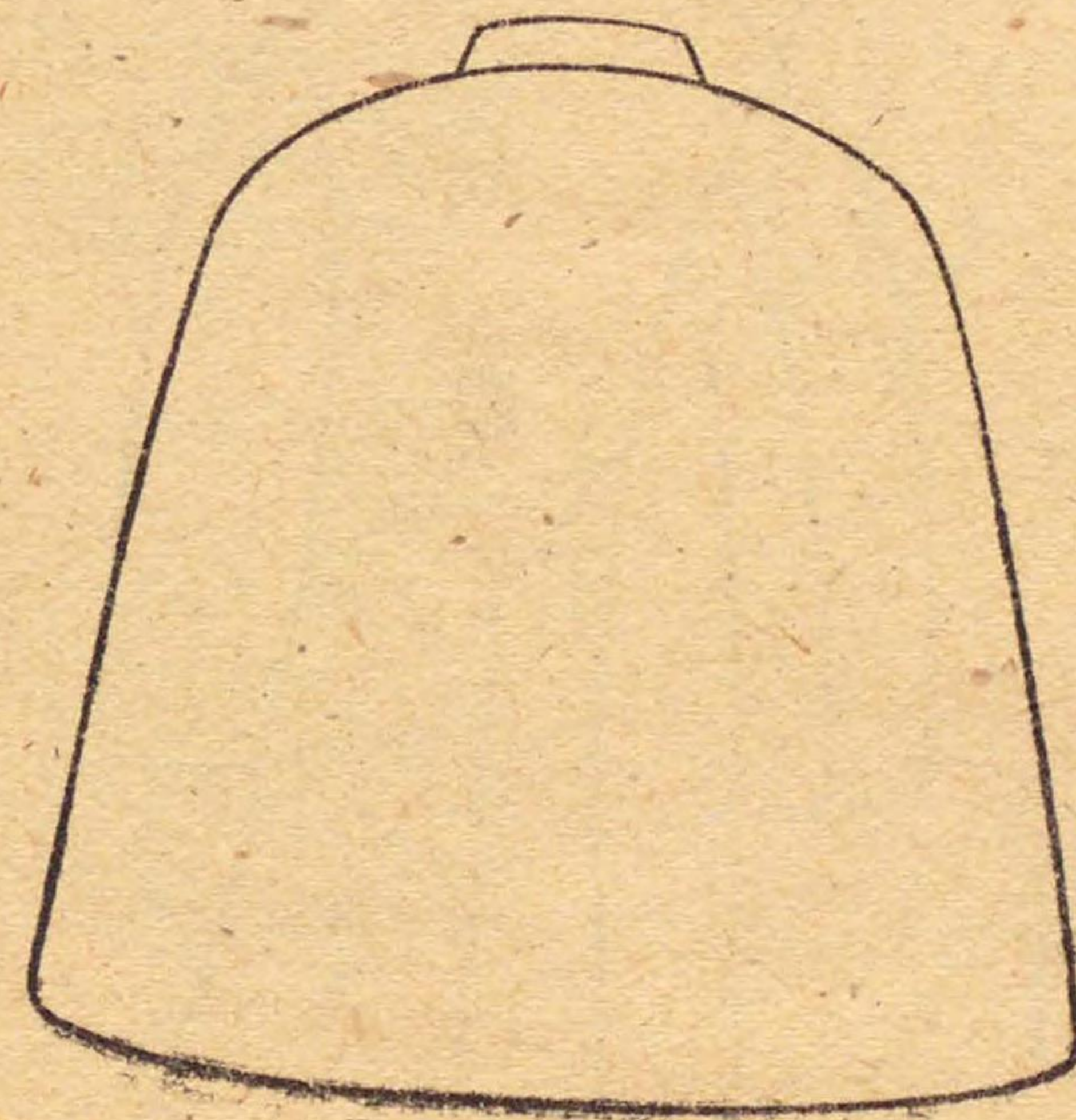
視監掃清



事主掃清



督監掃清



視監掃清

中央卸賣市場吏員其ノ他被服規程

制定 昭六、九、一二告示二〇七
最近改正 昭一一、六、告示四〇一

中央卸賣市場吏員其ノ他被服規程左ノ通相定メ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

中央卸賣市場吏員其ノ他被服規程

第一條 中央卸賣市場吏員、雇員、傭人ニシテ場長ノ指定スル者ハ左

ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス
別表第一號ニ依ルヘキ者
雇員以上

別表第二號ニ依ルヘキ者
機關車運轉手、降昇機手、電工

別表第三號ニ依ルヘキ者
水 夫

別表第四號ニ依ルヘキ者
前號以外ノ常備雜役夫

給仕、使丁ノ被服ニ付テハ市吏員其ノ他被服規程ニ依ル

第二條 被服ノ著用期間左ノ如シ

夏 服 六月一日ヨリ九月三十日迄

冬 服 十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄

第三條 別表第一號ニ依ル服裝ヲ爲ス者ニシテ有給吏員タラサル者及

別表第二號、別表第三號 依ル服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ一月金一

圓、別表第四號ニ依ル服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ一月金五十錢ノ靴代

料ヲ支給ス但シ正服ノ貸與ヲ受ケサル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラ

ス
十六日以後ニ就職シタルトキ又ハ十五日以前ニ解職、退職、休職、

轉職若ハ死亡シタルトキハ前項ノ半額ヲ支給

靴代料ハ毎月給料支給日ニ之ヲ支給ス

第四條 市吏員其ノ他被服規程第二條乃至第四條ノ規定ハ本規程ニ之

ヲ準用ス
第五條 被服ノ貸與數量及其ノ保存期間左ノ如シ但シ第三號、第四號

ニ依ル者ノ中新任者ニ限リ夏服二著ヲ貸與ス

品名	區別	第一號		第二號		第三號		第四號	
		數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間
正 夏 服	冬 服	一 著	二年	一 著	二年	一 著	一年	一 著	一年
	夏 服	一 著	二年	一 著	二年	一 著	一年	一 著	一年

服 助 補	服					
	外 套	帽 子	夏 帽 子	雨 具	ゲ ー ト ル	事 業 服
長 靴	一 著	一 箇	一 箇	一 著	一 足	一 著
	二 年	二 年	二 年	三 年	一 年	一 年
	一 著	一 箇	一 箇			
	二 年	二 年	一 年			
	一 著	一 箇				
	二 年	二 年				
	一 著	一 箇				
	二 年	二 年				
	一 著	一 箇				
	二 年	二 年				

備考

- 一 正服ヲ貸與スルトキハ補助服ノ全部又ハ一部ハ之ヲ貸與セシ
- 二 雨具、ゲートルハ外勤ニ服スル者ノ外、長靴ハ製氷作業ニ從事スル者及外勤ニ服スル者(靴代料ノ支給ヲ受クヘキ者ヲ除ク)ノ外之ヲ貸與セス
- 三 第一號中夏帽子ハ監視ノ外之ヲ貸與セス
- 四 第一號中外套及雨具ヲ併セ貸與スル者ノ外套ノ保存期間ハ三年トス
- 五 第二號中夏帽子ハ昇降機手ニハ之ヲ貸與セス

(別表)

臨時被服規程

制定 昭一三、一〇、一三告示四八八
最近改正 昭一八、四 告示一七七

臨時被服規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時被服規程

第一條 被服類ノ貸與ハ當分ノ内他ノ規定ニ拘ラス本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 帽子(夏帽子、略帽、雨帽子及特殊帽ヲ除ク以下同シ)ノ保存期間ハ各規定ニ定ムルモノヨリ一年之ヲ延長ス但シ第七條ノ規定ニ依ルヘキモノ、電氣局運輸職員及運輸從業員被服規程第一條別表第二號乃至第八號ニ依ルヘキモノ、電氣局技術職員、技術從業員及事務員被服規程並ニ電氣局鍊成員被服規程ニ依ルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス帽子ノ貸與數量ノ特例左ノ如シ

種	別	貸與數量
電氣局運輸職員及運輸從業員被服規程ニ依ル(キモノ)	第一條別表第一號ニ依ルヘキモノ	三年一箇
	第一條別表第二號乃至第八號ニ依ルヘキモノ	二年一箇
電氣局技術職員技術從業員、及事務員被服規程ニ依ル(キモノ)		二年一箇

第二條ノ二 帽子ノ日覆ハ左ニ掲クル者ニ限り之ヲ貸與ス

- 一 港灣局所屬書記ニシテ港灣局長ノ指定シタル者
- 一 御崎丸及あやめ丸乗組ノ船長、機關長及機關士
- 一 觀光艇乗組ノ船長及機關長
- 一 音樂隊隊長、樂手及音樂隊所屬技術員

第二條ノ三 外套ノ保存期間ハ各規程ニ定ムルモノヨリ一年之ヲ延長ス但シ外勤ノ運輸監督ノ職務ニ從事スル運輸監督長、運輸監督副長、區主任、書記及技手ニ貸與スルモノ、電氣局運輸職員及運輸從業員被服規程第一條別表第二號乃至第八號ニ依ルヘキモノ並ニ電氣局鍊成員被服規程ニ依ルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス
外套ノ貸與數量ノ特例左ノ如シ

種	別	貸與數量
電氣局運輸職員及運輸從業員被服規程第一條別表第一號ニ依ルヘキモノ		四年一著
	電氣局技術職員、技術從業員及事務員被服規程ニ依ルヘキモノ	三年一著

第三條 冬服、夏服、外套、帽子、作業衣及卷揚式ゲートルノ材料ハ代用原料混用絨其ノ他適當ナル代用原料ヲ用フルモノトス

第四條 現ニ貸與中ノ雨具ヲ除クノ外雨具ハ之ヲ貸與セス但シ晝又ハ藁等ヲ以テ製シタル藁ヲ貸與スコトアルヘシ

第五條 現ニ貸與中ノモノヲ除クノ外黒革製ゲートルハ之ヲ貸與セス
第六條 被服類ノ保存期間滿了シタルトキハ徽章、襟章、金釦其ノ他金

〔大例一三號〕

依ル

附則

〔大例一三號〕

第二條及第六條第一項ノ規定ハ本規程施行ノ際現ニ貸與中ノモノ及昭和十三年九月末日ヲ以テ保存期間滿了ノモノニ對シテモ之ヲ適用ス
本規程施行ノ際現ニ調製シ又ハ返納ヲ受ケタル被服類ハ之ヲ貸與スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ返納被服類ヲ貸與シタル場合ニ於ケル保存期間ハ所屬長別ニ之ヲ定ム
冬服ノ交付期ハ昭和十三年度ニ限り之ヲ變更スルコトアルヘシ此ノ場合ト雖保存期間ノ計算ハ仍從前ノ規定ニ依ル交付ノ月ヨリ之ヲ起算ス
電氣局勤務ノ者ニ對シテハ昭和十三年度ニ限り本規程ハ之ヲ適用セス

附則 (昭一四、九告示五八三)
第二條及第二條ノ三ノ規定ハ本改正規程施行ノ際現ニ貸與中ノモノニ對シテモ之ヲ適用ス
第二條ノ二ノ規定ハ本改正規程施行ノ際現ニ貸與中ノモノニ對シテハ之ヲ適用セス

附則 (昭一七、二告示三〇)
本改正規定施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ貸與中ノモノニ對シテハ仍從前ノ例ニ依ル

屬製品(金絲、銀絲製品ヲ含ム)ハ之ヲ返納スヘシ

被服類ノ貸與ニ際シテハ其ノ附屬金屬製品ハ前項ノ規定ニ依ル返納品ヲ以テ之ニ充ツルノ外金絲、銀絲ヲ用フルモノハ黃及白色ノ絹絲ヲ、金屬製金釦ハ鍊釦ヲ其ノ他ノ金屬製品ハモルロイド其ノ他ノ代用原料、代用原料混用絨等ヲ以テ之ニ代フ

第七條 從業員ニ對シテ貸與スヘキ被服類ノ地色ハ國防色トシ其ノ制式左ノ如シ但シ電氣局勤務ノ者、乗用自動車運轉手及觀光艇乗組船員ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 帽子 陸軍略帽型
- 一 冬服、夏服及作業衣

一 外套 上衣ハ開襟式立折襟、袴ハ長袴又ハ短袴、形狀別圖
一 ゲートル 卷揚式

前項ノ規定ニ依リ貸與スル冬服、夏服、作業衣及ゲートルノ保存期間ハ一年トス

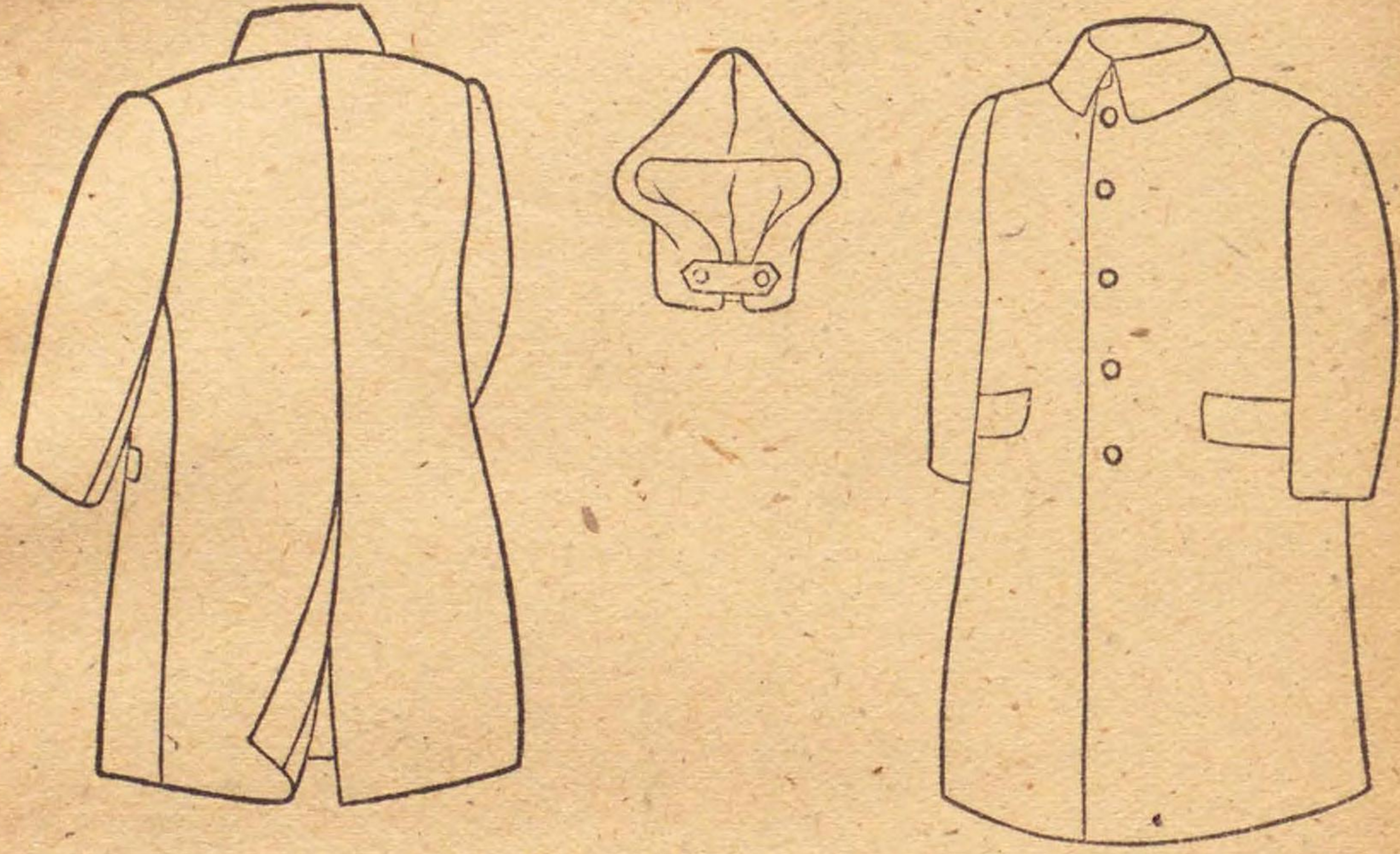
第八條 從業作業ノ性質上貸與被服類ノ汚染損傷特ニ甚シキ者ニ對シテハ所屬長ハ異様ニ互ラサル限リ私服用ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ私服用ヲ著用ヲ許可シタルモノニシテ特ニ必要アリト認ムル者ニ對シテハ別ニ定ムル徽章、腕章又ハ證票ヲ佩用又ハ携帶セシム

第九條 被服類ノ貸與ニ關シテハ本規程ニ定ムルモノノ外仍從前ノ例ニ

第七類 給與 第四章 被服

第七類 給與 第四章 被服



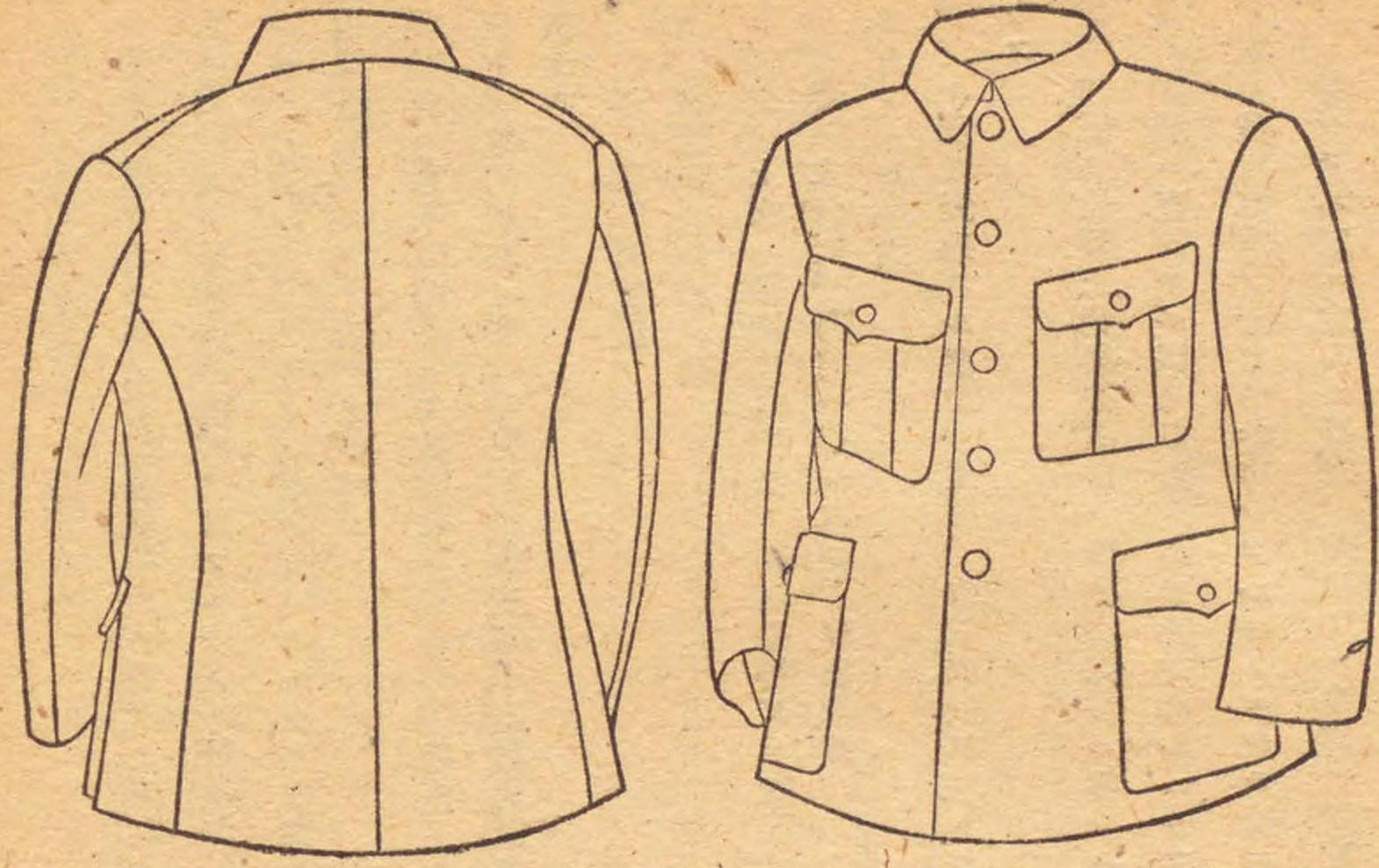
外套

〔大例三號〕

四七七

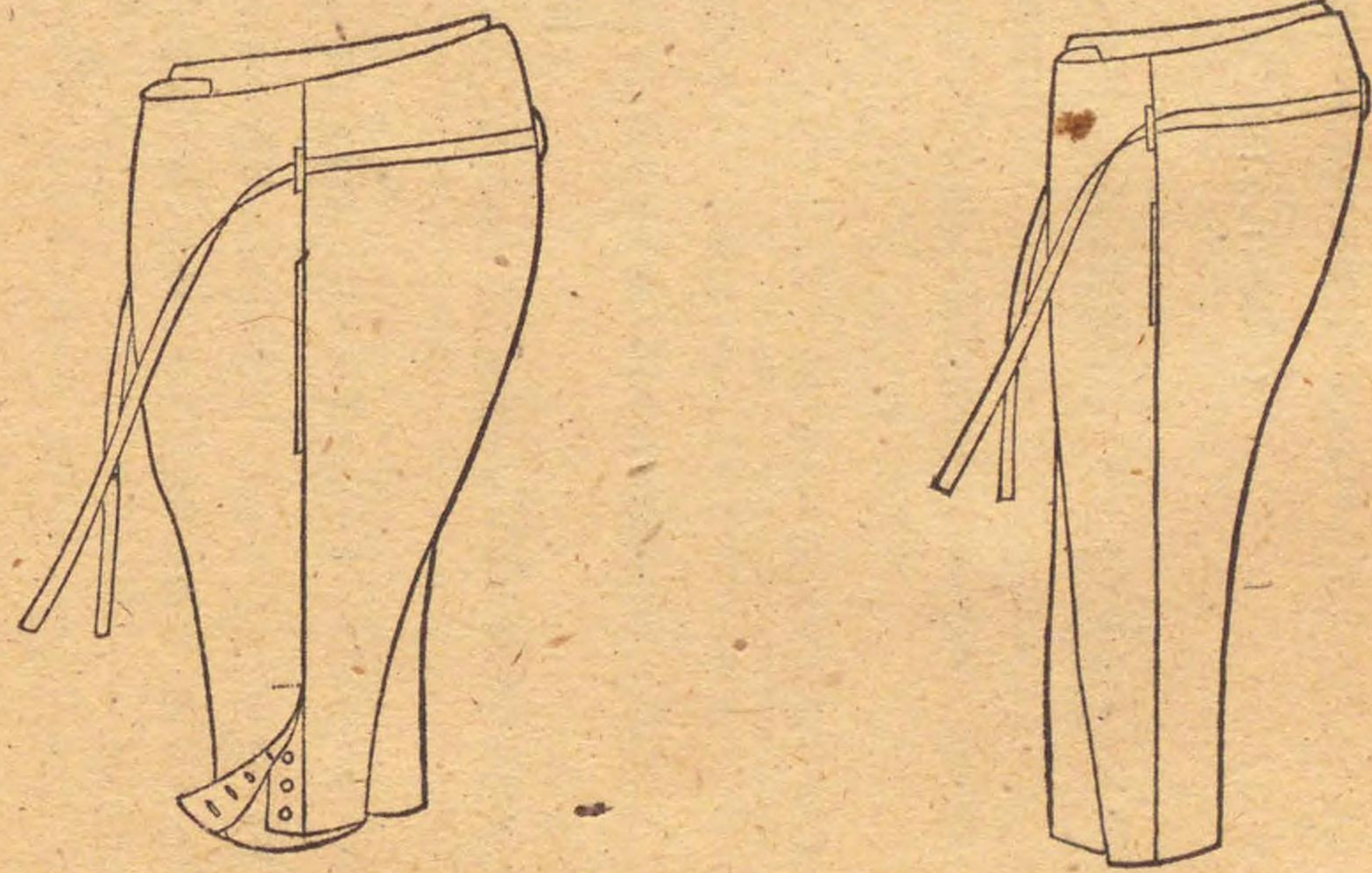
冬服及夏服

第七類 給與 第四章 被服



〔大例三號〕

四七六



第五章 公舎

公舎貸與規程

本市會ノ議決ヲ經大阪府知事ノ許可ヲ受ケ公舎貸與規程左ノ通相定ム
制 定 大正三、三、二七告示二五

- 第一條 公舎ハ市長ノ指定スル市吏員及職夫ニ之ヲ貸與ス
- 市長ハ公舎ノ居住者ニ對シ公舎ノ返還ヲ命スルコトヲ得
- 第二條 吏員又ハ職夫ハ任意ニ前條ノ指定ヲ辭シ又ハ公舎ヲ返還スルコトヲ得但シ市長ニ於テ吏員職夫ノ職務上必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 公舎ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ス家族雇人ノ外公舎ニ同居セシムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 居住者ハ公舎ノ原形ヲ變更スルコトヲ得ス但シ左ニ掲グル事項ニシテ市長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 建物又ハ其ノ他ノ工作物ヲ假設スルコト
 - 二 電燈、電鈴、瓦斯、電話又ハ水道ノ取付ヲ爲スコト
 - 三 樹木ノ栽培ヲ爲スコト
- 前項ノ建設物ハ公舎返還ノ際之ヲ取除キ原形ニ復スルモノトス
- 第五條 自然ノ腐朽又ハ不可抗力ニ因リ公舎及附屬物ノ毀損滅失シタル場合ヲ除クノ外一切ノ修繕ハ居住者ノ負擔トス
- 第六條 電燈、瓦斯、水道、電話、衛生其ノ他居住ニ關スル費用ハ居住

第七類 給與 第五章 公舎

【大正一三號】

者ノ負擔トス但シ居住者ノ職務上必要ト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 公舎居住者ハ家屋ノ内外ヲ清潔ニシ建物及附屬物保存ノ責ニ任

スルモノトス

第八條 公舎賃貸料ハ市長之ヲ定メ毎月末日迄ニ其ノ月分ヲ徵收ス但シ

十六日以後ニ貸與シ又ハ十五日以前ニ返還シタル月ニ限り賃貸料ハ半箇月分トス

市長ハ一箇月前ニ居住者ニ通告シテ其ノ賃貸料ヲ増加スルコトアルヘ

第九條 居住者又ハ其ノ家族ハ左記ノ期限内ニ公舎ヲ返還スヘシ

- 一 解職、退職、休職、轉職者 二十日
- 二 返還命令ヲ受ケタル者 三十日
- 三 死亡者 五十日

第十條 公舎又ハ其ノ附屬物ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ何ハノ所爲タルヲ問ハス居住者ハ市長ノ定ムル損害額ヲ賠償スヘシ

第十一條 當該吏員ハ居住者又ハ家族ノ立會ヲ得テ臨時公舎ノ内外ヲ巡視スベシ

第十二條 本規程ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

公舎貸與規程施行細則

制 定 大正三、四、八號 八
最近改正 昭一八、五 一、九六
公舎貸與規程施行細則左ノ通相定ム
公舎貸與規程施行細則

前項ノ賃貸料ハ前月二十五日迄ニ納付スヘシ但シ中途入舍セムトスルトキハ入舍前之ヲ納付スヘシ

第五條ノ二 市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證金トシテ賃貸料二箇月分以内ニ相當スル金額ヲ納付セシムルトキハ居住者退舍ノ際未納賃貸料又ハ賠償金ヲ完納セサルトキハ保證金中ヨリ之ヲ控除ス

第六條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ居住者ノ立會ヲ得テ隨時屋内ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ居住者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 居住者退舍ヲ命セラレタルトキハ十五日ノ期間内ニ於テ當該吏員ノ指定シタル日時ニ公舍ヲ退去スヘシ

第八條 大正三年三月告示第二十五號公舍賃貸與規程第四條乃至第七條及第十條ハ本規程ニ之ヲ適用ス但シ第六條ノ電燈及水道料金ハ之ヲ免除ス

附則

第九條 本規程施行ニ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

電氣鐵道現業員公舍規程施行細則

電氣鐵道現業員公舍規程施行細則左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
制定 大八、六、二二 連二三ノ一
最近改正 昭六、二 連 八

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

電氣鐵道現業員公舍規程施行細則

第一條 公舍ニ入舍スルコトヲ得ル現業員ハ本市電氣局運輸職員、電車車掌、電車車掌補、電車車掌助手、電車運轉手、電車運轉手補、轉轍手及信號人ニシテ家族ト同居スル者タルコトヲ要ス
本則ニ於テ家族ト稱スルハ同一世帯内ニ在ル者ヲ謂フ

第二條 公舍ニ入舍セムトスル者ハ入舍願(第一號様式)ニ戸籍謄本ヲ添ヘ電氣局運輸部所屬係長又ハ所長ノ證明ヲ得當該係員ニ之ヲ提出シ入舍ノ承認ヲ受クヘシ
前項ニヨリ入舍ノ承認ヲ受ケタル者ハ入舍前保證金トシテ賃貸料一ヶ月分ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第三條 保證人ハ電氣局吏員、運輸職員、電車車掌、電車車掌補、電車運轉手、電車運轉手補又ハ本市内ニ一家ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者タルコトヲ要ス但シ同一人ニシテ二名以上ノ保證ヲ爲スコトヲ得ス
前項保證人ノ資格消滅シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ直ニ保證書(第二號様式)ヲ提出スヘシ

第四條 居住者家族又ハ家族以外ノ者ヲ更ニ同居セシメムトスルトキハ同居者追加願(第三號様式)ニ同居セシメムトスル者ノ戸籍謄本ヲ添ヘ之ヲ提出シ同居者追加ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 居住者退舍セムトスルトキハ退舍願(第四號様式)ヲ提出シ退舍ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 居住者同居者ヲ退舍セシメムトスルトキハ同居者退舍願(第五號様式)ヲ提出スヘシ

第七條 電氣鐵道現業員公舍規程第三條ニ依リ現業員其ノ他ノ者ニ對シ

入舍ヲ命スルトキハ入舍命令書(第六號様式)ヲ交付スヘシ

退舍ヲ命スルトキハ退舍命令書(第七號様式)ヲ交付スヘシ

第八條 居住者退舍ノ際ハ當該係員ニ於テ遲滞ナク公舍及公舍附屬物目錄(別表)ニ依ル物件ヲ詳細ニ點檢スヘシ

第九條 電氣鐵道現業員公舍規程第五條ノ公舍ノ賃貸料ハ左ノ通之ヲ定ム

一	運輸現業員築港公舍	階上	一室ニ付	金四圓五拾錢
		階下	一室ニ付	金六
二	同長柄公舍	イ 號	階上 一室ニ付	金四圓五拾錢
		イ 號	階下 一室ニ付	金六
		ロ 號	階上 一室ニ付	金六圓五拾錢
		ロ 號	階下 一室ニ付	金七
三	同天王寺公舍	階上	一室ニ付	金六圓五拾錢
		階下	一室ニ付	金七
四	同都島公舍	階上	一室ニ付	金六圓五拾錢
		階下	一室ニ付	金七
五	同鶴町公舍	階上	一室ニ付	金六圓五拾錢
		階下	一室ニ付	金七
六	同春日出公舍	階上	一室ニ付	金六圓五拾錢
		階下	一室ニ付	金七
七	同今里公舍	階上	一室ニ付	金六圓五拾錢
		階下	一室ニ付	金七

第一號様式

入舍願
私儀今般電氣鐵道現業員(築港)公舍(何々)第 號ニ左記ノ者ト入舍

第七類 給與 第五章 公告

致度候ニ付御承認(御許可)被成下度入倉ノ上ハ御規則御命令等堅ク遵守可致ハ勿論退舍ノ際ハ別紙目錄記載ノ附屬物ハ悉ク返還シ萬一不都合ノ所爲有之候節ハ保證人ニ於テ一切其ノ責ニ任シ御市ニ對シ御迷惑相掛申間敷後日ノ爲保證人連署此段奉願候也
年 月 日

所屬、襟番、職名
居住者 氏
本籍地
現住所、職業
保證人 氏
生年月日
名
生年月日

大阪市長名殿

公舍附屬物目錄 階上ノ部

物 件	摘	要	員 數	物 件	摘	要	員 數
入口硝子戸	(共 用)	四枚	二枚	戸 棚	勝 手 元	二枚	二枚
階段室硝子障子	(共 用)四枚入	壹枚	壹枚	流 臺	竹置板二枚付	壹枚	壹枚
錠 前	錠 付	壹個	壹個	電 燈	竹筒壹本付	壹個	壹個
片 開 戸	入口、勝手口	二枚	二枚	壘	四疊半、貳疊	六枚半	六枚半
雨 戸	壹間貳枚建	四枚	四枚	欄間硝子戸		貳枚	貳枚

運輸課何々係長又ハ所長

居住者本籍地	同 現住所	就職年月日	同日々見習拜命現日給額
		大正 年 月 日	大正 年 月 日

居住者下ノ續柄又ハ關係	同 居者	右 證 明 ス
氏 名	氏 名	年 月 日
生年月日	生年月日	本 籍 地

障 子	襖	同	硝 子 戸	同	窓 障 子	水 道 錠
壹間半四枚建縁側	壹間 貳枚建	壹間半四枚建押込	壹間半四枚建六枚入	壹間貳枚建明取窓	勝 手 元 上	壹 個
四 枚	貳 枚	四 枚	四 枚	貳 枚	同 硝 子 戸	物 干
電 燈	便ノ所漏斗	便所開所	同 窓 障 子	同 硝 子 戸		
十六燭光電球(共用、舊公舍一)及二十五燭光電球(專用、新公舍二)付	陶 器 製	陶 器 製				
舊公舍三 壹個、新公舍四 壹個	壹 個	壹 個	壹 枚	壹 枚	壹 枚	貳ヶ所

右附屬物中共同物ハ階上居住者ノ共同責任トス

公舍附屬物目錄 階下ノ部

物 件	摘	要	員 數	物 件	摘	要	員 數
入口格子戸用	入口外側、壹間貳枚建	壹 個	壹 個	流 臺	竹置板二枚付	壹 個	壹 個
折戸(門壹本付)	入口内側、壹間貳枚建	貳 枚	貳 枚	壘	貳疊、六疊、參疊	拾壹枚	拾壹枚
障 子	壹間貳枚建 貳ヶ所	八 枚	八 枚	電 燈	二十五燭光電球付	貳 個	貳 個
窓 障 子	壹間半四枚建 壹ヶ所	五 枚	五 枚	便所漏斗	陶 器 製	壹 個	壹 個
襖	六疊壹枚、入口横窓貳枚	拾 枚	拾 枚	陶 器 製	陶 器 製	壹 個	壹 個
	參疊押込貳枚、參疊及六疊界四枚、六疊押込貳枚、六疊及貳疊界四枚						

第二號樣式

襖片開	勝手六疊取合	壹枚	便所開戸	壹枚
硝子戸	參疊間壹間半四枚建壹ヶ所	四枚	同汲取口戸	壹枚
欄間硝子戸	椽側ノ上	壹枚	手洗鉢臺	壹枚
片開戸	椽押込壹、椽勝手壹、裏口壹	參枚	水道鍵	壹個
雨戸	壹間貳枚建	四枚	非常開戸	壹個
			物干丸太	壹枚

保證書
電氣鐵道現業員(何々)公舎(何々)第 號
所屬、襟番、職名

右者電氣鐵道現業員公舎ニ入舎致居候ニ付テハ御規則御命令等遵守セシムルハ勿論退舎ノ際ハ入舎願添付目録記載ノ附屬物悉ク返還セシメ可申萬一不都合ノ康有之候節ハ拙者ニ於テ一切其ノ責ニ任シ御市ニ對シ御迷惑相掛申間敷仍テ茲ニ保證致候也
年 月 日

本籍地、職業
現住所
居住者 氏 名
保證人 氏 名
生年月日

第三號樣式 大阪市長名殿

退舎願
私儀今般都合ニ依リ同居者ト共ニ退舎シ左記ノ所へ移轉致度候ニ付

第四號樣式

居住者トノ續柄又ハ關係	氏 名	生年月日	本籍地
-------------	-----	------	-----

同居者追加願
電氣鐵道現業員(築港)公舎(何々)第 號
所屬、襟番、職名
居住者 氏 名
氏 名
大阪市長名殿
同居者

テハ曩ニ提出致候公舎附屬物目録記載ノ物件悉ク取揃へ原形ニ復シ置候間御承認被成下度何月分賃貸料相添へ此段奉願候也
年 月 日

電氣鐵道現業員(築港)公舎(何々)第 號
居住者 氏 名

第五號樣式 一 移轉先 何々

同居者退舎願
電氣鐵道現業員(築港)公舎(何々)第 號
所屬、襟番、職名
居住者 氏 名
氏 名
年 月 日

大阪市長名殿

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
-----	-----	-----	-----

第七類 給與 第五章 公舎

第六號樣式 第 號

入舎命令書
所屬、襟番、職名
氏 名
右電氣鐵道現業員公舎規程第三條ニ依リ來ル 月 日ヨリ(築港)公舎(何々)第 號ニ入舎ヲ命ス
但シ左記條項ヲ遵守スヘシ
年 月 日

- 記
- (管理ニ關スル命令事項記入ノコト)
 - 公舎賃貸料ハ「一ヶ月ニ付金 圓トス」又ハ「之ヲ免除ス」
 - 本書交付ノ日ヨリ三日以内ニ公舎附屬物(別紙目録ノ通)保管證ヲ提出スヘシ
 - 同居者ハ左ノ通トス

居住者トノ續柄又ハ關係	氏 名	生年月日	摘 要
-------------	-----	------	-----

第七號樣式
退舎命令書
(別紙ハ第一號樣式添付ノ目録ニ同シ)

電氣鐵道現業員(築港) 公舍(何々)第 號
所屬、襟番、職名

右來ル 月 日迄ニ同居者ト共ニ退舍スヘシ 氏 名
年 月 日 市長 名

附則 (六一〇、四達一七ノ二)

現ニ在舍中ノ者ニ限リ第二條ノ保證金ハ本年九月末日迄ニ之ヲ納付シ
第九條ノ改正賃貸料ハ本年八月分ヨリ之ヲ適用ス

電氣鐵道現業員寄宿舍規程

制定 大八、六、一六告示五五
最近改正 大二、三 告示二一

本市會ノ議決ヲ經大阪府知事ノ許可ヲ受ケ電氣鐵道運輸現業員寄宿舍
規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣鐵道現業員寄宿舍規程

第一條 本規程ニ於テ寄宿舍ト稱スルハ本市電氣鐵道現業員寄宿舍ヲ
謂フ

第二條 本市電氣鐵道現業員ハ別ニ定ムル所ニ據リ市長ノ承認ヲ得テ
寄宿舍ニ入舍シ又ハ退舍スルコトヲ得

第三條 市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ現業員其ノ他ノ者ニ對シ入舍

ヲ施行ス

電氣鐵道現業員寄宿舍規程施行細則

第一條 寄宿舍ニ入舍スルコトヲ得ル者ハ本市電氣鐵道現業員ニシテ
左記各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

- 一 品行端正ナル者
- 一 身體健康ナル者

前項寄宿舍ニ入舍シ得ル現業員ノ範圍ハ電氣鐵道部長ノ定ムル所ニ
依ル

第二條 寄宿舍ニ入舍セムトスル者ハ入舍願(第一號様式)ニ當該課長
(所屬係長、所長又ハ主任經由)ノ證明ヲ得、保健課ニ之ヲ提出シ寄宿
員證(第二號様式)ヲ受ケヘシ

第三條 保證人ハ本市内ニ一家ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者又ハ第一條
ニ依リ寄宿舍ニ入舍シ得ル滿二十歳以上ノ者タルコトヲ要ス但シ同
一人ニシテ三名以上ノ保證ヲ爲スコトヲ得ス

前項保證人ノ資格消滅シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ直ニ保
證書(第三號様式)ヲ提出スヘシ

第四條 寄宿員退舍セムトスルトキハ退舍願(第四號様式)ニ寄宿員證
及未納賃費ヲ添ヘ之ヲ提出シ退舍承認書(第五號様式)ヲ受ケヘシ

第五條 電氣鐵道現業員寄宿舍規程第三條ニ依リ入舍ヲ命スルトキハ
本人ニ入舍命令書(第六號様式)ヲ交付スヘシ

第六條 電氣鐵道現業員寄宿舍規程第四條ニ依リ退舍ヲ命スルトキハ
本人ニ退舍命令書(第七號様式)ヲ交付スヘシ

第七條 電氣鐵道現業員寄宿舍規程第六條ノ賃費ハ一ヶ月ニ付金壹圓

ヲ命スルコトアルヘシ
前項ニ依リ入舍ヲ命セラレタル者ニ對シテハ舍費ノ全部又ハ一部ヲ
免除スルコトアルヘシ

第四條 市長ハ左記各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ退舍ヲ命スルモノト
ス

一 退職シタル者及解職セラレタル者

二 寄宿舍管理上支障アリト認ムル者

三 其他市長ニ於テ退舍ヲ必要ト認ムル者

第五條 寄宿員寄宿舍備付ノ器具什器其ノ他ノ物品ヲ滅失又ハ毀損シ
タルトキハ市長ノ定ムル所ニ依リ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第六條 寄宿舍ノ舍費ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル一ヶ月
ニ付金壹圓以上貳圓以下ニ於テ市長之ヲ定メ毎月末日迄ニ之ヲ徵收
ス但シ在舍日數十五日未滿ナルトキ舍費ハ之ヲ半額トス

第七條 寄宿員退舍ヲ命セラレタルトキハ三日ノ期間内ニ於テ當該吏
員ノ指定シタル日時ニ退舍スヘシ

附則

第八條 本規程施行ニ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

電氣鐵道現業員寄宿舍規程施行細則

制定 大八、六、二一達三三ノ三
最近改正 大二、四 達二二

電氣鐵道運輸現業員寄宿舍規程施行細則左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之

五拾錢トス

第一號様式

入舍願

私儀今般電氣鐵道現業員寄宿舍ニ入舍致度御承認ノ上ハ御規則御命
令等遵守可致ハ勿論萬一不都合ノ所爲有之候節ハ保證人ニ於テ一切
其ノ責ニ任シ御市ニ對シ御迷惑相掛申間敷候間御承認被成下度何々
課長ノ證明ヲ得保證人連署此段奉願候也

年 月 日

所屬、襟番、職名
本人 氏 名
本籍地
現住所、職業
保證人 氏 名
生年月日

大阪市長名殿

本人本籍地	
同現住所	
就職年月日	大正 年 月 日 (何々) 見習拜命 現日給額
病氣其ノ他 事故發生ノ 際ニ於ケル 通知先	第一 氏 名 柄 續 所 住 第二 氏 名 柄 續 所 住 第三 氏 名 柄 續 所 住

第六章 厚生施設

職員貸付資金規程

制 定 昭一六、一、二二、一五告示七四五
最近改正 昭一六、六、六 告示三三七

本市會ノ議決ヲ經職員貸付資金規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

職員貸付資金規程

第一條 本資金ハ之ヲ三十萬圓トス
第二條 本資金ハ不慮ノ災厄疾病等特ニ多額ノ出費ヲ要スル職員ニ對スル貸付其ノ他市長ニ於テ必要ト認ムル目的ニ運用セシムル爲大阪府共濟組合及大阪市電氣局共濟組合(以下組合ト稱ス)ニ之ヲ貸付クルモノトス

第三條 組合ニ對スル貸付、組合ニ於ケル本資金ノ運用其ノ他本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

従前ノ職員貸付資金ハ之ヲ本資金ニ引繼クモノトス

附 則 (昭一六、六告示三三七)

本改正規定施行ノ際現ニ本資金ノ貸付ヲ受クル者ハ組合ヨリ貸付ヲ受ケタル者ト看做ス

〔大例一三號〕

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金規程

本市會ノ議決ヲ經學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金規程

第一條 本資金ハ之ヲ二十萬圓トス

第二條 本資金ハ本市立學校、幼稚園、圖書館教職員ニシテ不慮ノ災厄、疾病其ノ他特別ノ事由ニ依リ特ニ多額ノ出費ヲ要スル者ニ對シ貸付クルモノトス

第三條 貸付金額ハ俸給月額ノ二倍以内トス但シ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ俸給月額ノ六倍迄貸付クルコトヲ得

第四條 貸付金ノ利率ハ百圓ニ付日歩二錢以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條 貸付金ノ返済、資金ノ管理其ノ他本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金規程施行細則

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金規程施行細則左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金規程施行細則

- 第一條 學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金ハ教育局長之ヲ管理シ現金ハ收入役之ヲ保管ス
- 第二條 教育局長貸出ノ必要アルトキハ貸出金ヲ收入役ニ請求スヘシ
- 第三條 教育局長貸出元金ヲ回收シタルトキハ遲滞ナク之ヲ收入役ニ拂込ムヘシ
- 教育局長必要アリト認ムルトキハ回收元金ヲ學校長、幼稚園長、圖書館長ヲシテ直接收入役ニ拂込マシムルコトヲ得
- 利子ハ別途整理スルモノトス
- 第四條 收入役回收元金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ之ヲ本資金ニ戻入スヘシ

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金貸付規程

制定昭一六、五、一五連二〇四

學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金貸付規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 學校、幼稚園、圖書館教職員貸付資金貸付規程
- 本市立學校、幼稚園、圖書館教職員ニ之ヲ貸付クルモノトス
- 第二條 本資金ノ貸付ヲ受ケ得ル者ハ本市立學校、幼稚園、圖書館ノ專任教職員ニシテ本市ニ引續キ二年以上在職セル者ナルコトヲ要ス
- 實習教員、教員心得、指導員又ハ囑託教員ニシテ給料又ハ手當月額四

第十條 貸付金ノ利息ハ百圓ニ付日歩一錢五厘トス但シ市長必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

第十一條 貸付金ノ償還期限ハ左記各號ニ依ル

- 一 貸付金額俸給月額ノ二倍以内ナルトキ 十八月以内
 - 二 貸付金額俸給月額ノ四倍以内ナルトキ 二十四月以内
 - 三 貸付金額俸給月額ノ六倍以内ナルトキ 三十月以内
- 市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ償還期限ヲ延長スルコトヲ得

第十二條 貸付金ハ借入ノ翌月ヨリ毎月俸給支給日ニ於テ均分シテ之ヲ償還スヘシ但シ六月及十二月ニ限り償還月額ノ三倍迄之ヲ増額スルコトヲ得

利息ハ毎償還期日迄ノ分ヲ支拂フヘシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル償還元利金ハ俸給又ハ賞與ヨリ之ヲ控除ス

第十四條 債務ヲ完済セサル借受人ニ對シテハ資金ノ貸付ヲ爲サス但シ現存債務カ俸給二月分ニ滿タサルトキニ於テ其ノ殘存部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

債務ノ償還未済額俸給二月分ヲ超ユルトキト雖市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ申出ニ依リ俸給六月分ノ限度ニ至ル迄貸付クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ追加借入ヲ爲サントスル者ハ追加借入申込書(第一號様式ニ準ス)ヲ教育局長ヲ經テ市長ニ提出スヘシ追加貸付ヲ爲ス場合ニ於テ償還殘額下追加貸付金トヲ合算シ契約ヲ更新スルモノトス此

十圓以上ノ日勤者ハ本規程ノ適用ニ關シテハ專任教職員ト看做ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ本資金ノ貸付ヲ爲サス

- 一 俸給、給料又ハ手當(以下單ニ俸給ト稱ス)其ノ他ノ給與金債權ヲ處分シ又ハ差押若ハ假差押ヲ受ケ居ル者
- 二 著シク不信用ト認ムル者

第四條 本資金ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ學校長、幼稚園長又ハ圖書館長(以下所屬長ト稱ス)ノ證明其ノ他ノ必要事項ヲ具シ借用申込書(第一號様式)ヲ教育局長ニ提出シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 貸付金額ハ俸給月額ノ二倍以内トス但シ市長必要アリト認ムルトキハ俸給月額ノ六倍迄貸付クルコトヲ得

第六條 前條ノ規定ニヨリ貸付ノ承認ヲ受ケタル者ニシテ勤續年數五年未滿ノ者ハ連帶保證人一人ヲ立テ連署ノ上借用證書(第二號様式)ニ必要事項ヲ記入シ提出スヘシ

前條但書ノ場合ニ於ケル連帶保證人ノ數ハ左ノ區別ニ依ル

- 一 勤續年數十年以上ノ者 一人
- 二 勤續年數十年未滿ノ者 二人

第七條 前條ノ規定ニ依リ連帶保證人ハ本資金ノ貸付ヲ受ケ得ル者タルコトヲ要ス但シ本資金ノ貸付ヲ受ケ未タ債務ノ辨濟ヲ了ラサル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 連帶保證人ハ三人以上ノ保證人タルコトヲ得ス

第九條 連帶保證人死亡、退職、休職、本市外へ轉任其ノ他ノ理由ニ依リ第七條ノ規定ニ依ル資格ヲ喪失シタルトキ又ハ市長不適任ト認ムルトキハ之ヲ補充又ハ交替セシム

〔大例一三號〕

ノ場合ニ於テハ更新ノ際其ノ前日迄ノ未拂利息ヲ支拂フヘシ

第十五條 借受人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十一條ノ規定ニ拘ラ

ス償還未済額ヲ一時ニ辨濟セシム

- 一 死亡、退職、本市外へ轉任其ノ他ノ理由ニ依リ本資金貸付資格ヲ喪失シタルトキ
- 二 債務ノ辨濟ヲ怠リ又ハ著シク信用ヲ失墜シタルトキ
- 三 其ノ他市長必要アリト認ムルトキ

資格喪失ノ當時受クヘキ俸給カ一時償還金ニ滿タサルトキハ資格喪失ノ際ニ受クヘキ諸給與金ヨリ之ヲ控除ス

第十六條 前條第二項及第十三條ノ場合ニ於テハ借受人ハ豫メ委任狀ニ依リ取立及支拂ノ權限ヲ俸給其ノ他諸給與金受領代理人ニ委任スルモノトス

第十七條 第五條但書、第十一條第二項又ハ第十四條第二項ノ規定ニ該

當スル場合ニ於テハ市長ハ別ニ定ムル審査委員ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 第十二條ノ規定ニ依ル償還元利金ノ回收ニ付テハ教育局長ハ豫メ毎月俸給支給日前ニ別ニ定ムル様式ニ依リ貸付金償還計算表ヲ所屬長ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル所屬長ハ回收金ヲ取經メ遲滞ナク收

入役ニ拂込ミ教育局長ニ其ノ明細ヲ報告スヘシ

第十九條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ教育局長之ヲ定ム

第一號様式 貸付資金借用申込書

第七類 給與 第六章 厚生施設

者ニ對シテハ其ノ減給額

第七條 療養費ノ支給期間左ノ如シ

- 一 休職者ニ對シテハ一年以内
- 二 休職ノ途ナキ者ニ對シテハ十月以内

第八條 療養費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ醫療費給與申請書(第一號樣式)又ハ補給費給與申請書(第二號樣式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ校園長ヲ經テ市長ニ申請スヘシ

- 一 醫師ノ診斷書(第三號樣式)
- 二 家庭狀況調書(第四號樣式)
- 三 戶籍謄本

第九條 校園長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ勤務成績調書(第五號樣式)ヲ作成シ意見ヲ附シ市長ニ副申スヘシ

第十條 療養費ヲ支給スヘキ者ト認定シタルトキハ通知書(第六號樣式)ヲ交付ス

第十一條 前條ノ規定ニ依ル通知書ヲ交付ヲ受ケタル者醫療費ノ支給ヲ受ケントスルトキハ醫療費支給願(第七號樣式)ニ醫師又ハ病院等ノ治療費、入院料其ノ他ノ請求書又ハ領收書ヲ添ヘ其ノ月分ヲ翌月五日迄ニ校園長ヲ經テ市長ニ申請スヘシ但シ市長ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ申請期限ヲ延長スルコトアルヘシ

第十二條 補給費ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

第十三條 療養費ノ支給ヲ受ケル者ハ一月毎ニ療養狀況報告書(第九號樣式)ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ傷病經過ヲ市長ニ報告スヘシ

醫療費給與申請書

病氣ノ爲療養仕居候處左記ノ通ニシテ昭和 年 月 日ヨリ 教員 共濟組合令施行規則ニ依ル療養費ノ給付ヲ受ケ得サル事情ニ有之候條 大阪市立學校幼稚園職員療養費支給規程ニ依ル醫療費給與相成度別紙 醫師診斷書相添ヘ此段及申請候也

昭和 年 月 日

現住所 勤務校

大阪市長 殿

職 氏 名

一 教員 職員共濟組合員トナリタル年月日

一 内務 職員共濟組合ヨリ療養費ノ給付ヲ受ケタル期間

一 休職年月日

一 其ノ他 副申書

本人申請ノ通相違無之候條給與相成様致度意見ヲ附シ及副申候也

昭和 年 月 日

意 見

校 園 長

第二號樣式

補給費給與申請書

第七類 給與 第六章 厚生施設

私儀

第十四條 療養費ノ支給ヲ受ケル者其ノ傷病又ハ疾病治療シタルトキハ

疾病治療届(第十號樣式)ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ市長ニ届出ツヘシ

第十五條 療養費ノ支給ヲ受ケル者死亡シタルトキハ遺族ニ於テ死亡届(第十一號樣式)ニ醫師ノ死亡診斷書及戶籍謄本ヲ添ヘ直ニ市長ニ届出ツヘシ

第十六條 市長必要アリト認ムルトキハ療養費ノ支給ヲ受ケントスル者又ハ受ケル者ニ對シ其ノ指定スル醫師ノ診斷又ハ診療ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第十七條 虚偽ノ申請又ハ報告ヲ爲シ若ハ故意ニ報告ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリト認ムルトキハ療養費ノ支給ヲ停止シ又ハ既ニ支給シタル療養費ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ教育局長之ヲ定ム

附 則

本規程施行ノ際現ニ休職中ノ者又ハ休職ノ途ナキ者ニシテ連續缺勤九十日ヲ超ユル者ニ對シテハ本規程ニ依リ昭和十三年四月一日以降ノ療養費ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ本規程施行ノ日ヨリ一月内ニ必要書類ヲ添附シ校園長ヲ經テ市長ニ申請スヘシ但シ規則第五條ニ依リ申請ヲ爲シタルトキハ添附書類ヲ省略スルコトヲ得

附 則 (昭一七二告示六〇)

本改正規定施行ノ際現ニ療養費ノ給與ヲ受ケル者ニ付テハ仍從前規定ニ依ル

第一號樣式

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

病氣ノ爲左記ノ通ノ事情ニ有之療養仕居候ニ付テハ大阪市立學校幼稚園職員療養費支給規定ニ依ル補給費給與相成度別紙醫師診斷書及家庭狀況調査書相添ヘ此段及申請候也

昭和 年 月 日

現住所 勤務校

大阪市長 殿

職 氏 名

發 病 昭和 年 月 日

療 養 爲 連續 昭和 年 月 日

休 職 年 月 日 昭和 年 月 日

減 給 開 始 昭和 年 月 日

休職前ノ俸給又ハ減給前ノ俸給、給料又ハ手當額

本人申請ノ通相違無之候條給與相成様致度意見ヲ附シ及副申候也

昭和 年 月 日

意 見

校 園 長

第三號樣式

診斷書

- 一 學校名及職名
- 一 氏名
- 一 生年月日及性別
- 一 病傷名(或ハ其ノ疑名)
- 一 同右病傷歴
- 一 現症狀
- 一 自覺的症狀(主要ナルモノ)
- 一 他覺的症病(主要ナル醫學的徵候並診定上ノ根據トナル所見)
- 一 療養期間(見込)
- 一 治療方法(主要ナル治療方法或ハ處置)
- 一 經過ノ概要
- 一 豫後(見込)

住所
職(學校醫又ハ其ノ他) 氏名

第四號様式

家庭狀況調書

一 同一世帯ニ屬スル家族ニ關スル事項

祖父祖母	家族別	年	齡	月	收	額	備	考
------	-----	---	---	---	---	---	---	---

療養ニ要スル經費	計
----------	---

注意

- 一 同一世帯ニ屬スル家族ニ關スル事項記入ニ就テ
 - (イ) 一名毎ニ行ヲ更ムルコト
 - (ロ) 各個人ノ資産收入ハ(ニ)ニシテ記入スルコト
- 二 資産ニ關スル事項記入ニ就テ
 - (イ) 不動産ハ時價、時價不明ノ場合ハ評價額、尙地積、土地ノ種類、建物ノ種類、建坪等ヲ備考欄ニ明記スルコト
 - (ロ) 動産ハ有價證券等ニシテ收入ヲ伴フモノ
 - (ハ) 收入ハ凡テ收入ノ爲ニ必要不可缺ノ經費ヲ控除シタル純收入額
- 三 一月所要經費ニ關スル事項記入ニ就テ
 - (イ) 家賃ハ住宅料其ノ他ノ名義ニヨリ公ノ補助ヲ受クル場合ハ該金額ヲ控除シタル金額ヲ記入シ備考欄ニ之ヲ明カニスルコト
 - (ロ) 其ノ他ノ經費ハ食費等生活ニ必要ナル經費
 - (ハ) 療養ニ要スル經費欄ニハ入院料及治療費ヲ記入ノコト
 - (ニ) 備考欄ニハ經費ノ概別其ノ他参考事項ヲ記入ノコト

第五號様式

勤勞成績調書

校 園 名	名 職	名 氏	所屬長 認 印
-------	-----	-----	---------

第七類 給與 第六章 厚生施設

父 母	配 偶 者	子	兄 弟 姉 妹	本 人	其 他	月 收 入
-----	-------	---	---------	-----	-----	-------

二 資産ニ關スル事項

資 産 別	時 價	月 收 額	備 考
動 産			
不 動 産			
計			

三 一月ノ所要經費

家 賃	支 出 月 額	備 考
子 弟 教 育 費		
其 他 之 經 費		

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

調 査 事 項	成 績	參 考 事 項
教 授	上	
研 究	中上	
勤 務	中	
事 務	中下	
識 見	下	
薰 化		
信 望		
平 素 ノ 健 康 狀 態		

第六號様式

通告書

(職名) 大阪市……… 氏名 何 某
 大阪市立學校幼稚園職員療養費支給規程第 條ニ依リ療養費(醫療費(補給費)ヲ支給ス
 年 月 日
 大阪市長 氏 名

第七號様式

學校長認印

五〇五

第七類 給與 第六章 厚生施設

醫療費支給願

昭和 年 月 日 附醫療費給與ノ儀認定相受候ニ付テハ 自昭和 年 月 日 醫療費支給相成度別紙證據書類相添ヘ及御願候也

昭和 年 月 日
現住所
勤務校

第八號様式

通告書

大阪市長 殿
職 氏 名
大阪市長 殿

金 圓 錢也

但シ自昭和 年 月 日 醫療費

右大阪市立學校幼稚園職員療養費支給規程第 條ニ依リ之ヲ支給ス
年 月 日

第九號様式

療養狀況報告書

昭和 年 月 分
學校長認印

大阪市長 氏 名

第十一號様式

大阪市長 殿 職 氏 名
勤務校

第十號様式

勤務校園名		職名	氏名
療養狀況			
主治醫ノ住所			
氏名及専門科名			
治 療 別	期 間	醫 療 費	病氣ノ經過概要其ノ他參考事項
自 宅 治 療			
通 院 治 療			
入 院 治 療			

學校長認印

疾病治療届

昭和 年 月 日 附療養費ノ給與相受療養致居候處疾病治療シ昭和 年 月 日 附復職 勤 致候條別紙醫師診斷書相添ヘ及御願候也
昭和 年 月 日
現住所
勤務校

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

死亡届

生前ノ住所
生前ノ勤務校並職氏名
右者昭和 年 月 日 附療養費ノ給與相受療養致居候處昭和 年 月 日 死亡致候條及御届候也
昭和 年 月 日
現住所
本人トノ續柄

遺族ノ氏名

共済組合ニ關スル件

制 定 昭 五、五、三一告示一三五
最近改正 昭一八、四 告示一四二
本市會ノ議決ヲ經大阪府職員其ノ他日給者ノ共済組合ニ關スル件左ノ通相定ム

大阪市共済組合ニ關スル件

第一條 本市職員及備員ハ市長ノ定ムル所ニ依リ其ノ相互共済及福利増進ヲ目的トスル組合ヲ組織ス
第二條 市ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ千分ノ五十一以内ニ相當スル金額ヲ限度トシテ組合ニ補給金ヲ交付ス但シ組合ノ豫算ニ不足ヲ生シタル年度ニ於テハ組合員ノ養老年金、療疾年金、療疾手當金、遺族年金、脱退手當金及醫療金ノ支給額ヲ限度トシテ補給金ヲ増加スルコトアルヘシ

第七類 給與 第六章 厚生施設

第三條 市長ハ市ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
第四條 組合ノ重要ナル事項ヲ審議スル爲評議員會ヲ置ク
評議員ノ組織ハ市長之ヲ定ム

第五條 大阪市電氣局共済組合條例ノ適用ヲ受クル者ニ對シテハ本件ヲ適用セス

附 則

本件ハ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
同一原因ニ付雇傭員扶助規程其ノ他ノ規程ニ依リ本市ヨリ給與金ヲ受クルトキハ本件ニ依ル給與金ヨリ之ヲ控除ス
本件ニ依リ給與ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ本給與金ヨリ其ノ金額ヲ控除ス
本市渡船事業請負者ノ使用人ニシテ專ラ本市渡船事業ニ從事スル者ハ本件ノ適用ニ付テハ之ヲ本市職員其ノ他日給者ト看做ス

附 則 (昭一六、三告示一三五)

本改正規定ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭一七、六告示二九ノ三)

本改正規定ハ昭和十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

共済組合規程

昭和十六年大阪府告示第百三十六號大阪府共済組合規程左ノ通告正ス
大阪府共済組合規程
第一章 總則

- 第一條 本組合ハ昭和五年大阪府告示第百三十五號ニ基キ之ヲ組織ス
- 第二條 本組合ハ大阪府共済組合ト稱シ其ノ事務所ヲ大阪府役所内ニ置ク
- 第三條 本組合ノ事務ハ統理之ヲ統轄ス
統理ハ市理事中ヨリ市長之ヲ命ズ
- 第四條 本組合ハ本規程ニ定ムルモノノ外大阪府共済組合ニ關スル件第一條ノ目的ヲ達スル爲其ノ附屬事業トシテ組合員及家族ニ對シ左ニ掲グル施設ヲ爲スコトヲ得
 - 一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
 - 二 健康診断ニ關スル施設
 - 三 保養ニ關スル施設
 - 四 健康者ノ表彰
 - 五 其ノ他福利増進ニ關スル施設

〔大例一三號〕

〔大例一三號〕

第五條 組合員ヲ分チテ左ノ第一種乃至第五種組合員トス

- 一 第一種組合員トハ労働者年金保險法施行令第三十二條第一項ノ規定ニ依リ労働者年金保險法ノ被保險者タラザル者ヲ謂フ
 - 二 第二種組合員トハ昭和十七年五月三十一日現在ノ組合員タル雇員及傭員ニシテ第一種組合員及労働者年金保險法ノ被保險者タラザル者ヲ謂フ
 - 三 第三種組合員トハ昭和十七年六月一日以降加入ノ雇員及傭員ニシテ労働者年金保險法ノ被保險者タラザル者ヲ謂フ
 - 四 第四種組合員トハ労働者年金保險法ノ被保險者タル者ヲ謂フ
 - 五 第五種組合員トハ給料月額百五十圓未満ノ吏員及日勤囑託者ニシテ健康保險法ノ被保險者タラザル者ヲ謂フ
- 給料月額百五十圓以上ノ吏員及日勤囑託者ニシテ組合加入ノ意思ヲ表示シタル者(以下任意加入者ト稱ス)ハ第五種組合員タルコトヲ得
- 退職積立金及退職手当法ノ適用ヲ受ケザル勤続一年未満ノ臨時傭員ハ第三種及第四種組合員タルコトヲ得ズ
- 第六條 第一種組合員労働者年金保險法ノ被保險者タル資格ヲ有スル者タラザルニ至リタルトキハ吏員及日勤囑託者ト爲リタル場合ヲ除キ其ノ當日第二種組合員ト爲ル
- 第二種組合員又ハ第三種組合員労働者年金保險法ノ被保險者ト爲ルニ至リタルトキハ其ノ當日第四種組合員ト爲ル
- 第四種組合員労働者年金保險法ノ被保險者タラザルニ至リタルトキハ吏員及日勤囑託者ト爲リタル場合ヲ除キ其ノ當日第三種組合員ト爲ル
- 但シ第二種組合員ニシテ轉勤ニ依リ第四種組合員ト爲リタル者同法ノ

被保險者タラザルニ至リタルトキハ吏員及日勤囑託者ト爲リタル場合ヲ除キ當日第二種組合員ト爲ル

雇員及傭員タル組合員ガ健康保險法ノ被保險者タラザル吏員及日勤囑託者ト爲リタルトキハ其ノ當日第五種組合員ト爲ル

第七條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ翌日ヨリ組合ヲ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
 - 二 退職シタルトキ
 - 三 電氣局ニ轉職ヲ命ゼラレタルトキ
 - 四 雇員及傭員タル組合員有給吏員ニ任ゼラレ健康保險法ノ被保險者ト爲ル勤務ヲ命ゼラレタルトキ又ハ吏員及日勤囑託者ニシテ健康保險法ノ被保險者ト爲ル勤務ヲ命ゼラレタルトキ
 - 五 第五種組合員給料月額百五十圓以上ト爲リ組合脱退ノ意思ヲ表示シ組合長ノ承認ヲ得タルトキ
 - 六 任意加入者脱退ノ意思ヲ表示シ組合長ノ承認ヲ得タルトキ
- 第八條 組合員ノ加入年數ヲ計算スル場合ニハ月ヲ以テ基準トス
- 休職又ハ休務期間ハ之ヲ組合加入年數ニ算入ス但シ入替ノ爲本市ヨリ休務ヲ命ゼラレタル者ニシテ退營後自己ノ都合ニ依リ本市ノ勤務ニ復セザルトキ又ハ復スト雖モ相當期間ニ互リ勤務セザルトキハ其ノ休務期間ハ之ヲ算入セズ
- 再ビ組合ニ加入シタル者ノ組合加入年數ニハ前ノ組合加入年數ヲ算入セズ但シ入替者職業保障法ノ適用ヲ受クベキ者ニシテ入替ノ爲脱退シ退營其ノ他ノ事由ニ因リ再ビ組合員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七類 給與 第六章 厚生施設

在職年數ノ計算其ノ他ニ關シテハ前三項ノ例ニ依ル

第九條 組合員、組合員タリシ者及其ノ遺族ハ本規程ニ依ル給付ヲ受クルノ外組合ニ對シテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 本規程ニ於テ給料月額トハ左ノ各號ニ該當スル金額ヲ謂フ

一 日給者ニ在リテハ其ノ日給額ノ三十日分

二 月給者ニ在リテハ其ノ月給額

三 年給者ニ在リテハ其ノ年給額ノ十二分ノ一

第十一條 本規程ニ於テ家族トハ引續キ六月以上組合員タリシ者ノ配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下同シ)及子ニシテ専ラ其ノ者ニ依リ生計ヲ維持スル者並ニ其ノ組合員ト同一世帯ニ屬シ専ラ其ノ者ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ

第三章 掛金及補給金

第十二條 組合員ハ毎月左ノ掛金ヲ組合ニ支拂フモノトス

一 第一種組合員 給料月額ノ千分ノ二十

二 第二種組合員 健康保險法ノ被保險者タラザル者 同 千分ノ三十三

三 第三種組合員 健康保險法ノ被保險者タル者 同 千分ノ十三

四 第四種組合員 健康保險法ノ被保險者タル者 同 千分ノ四十

五 第五種組合員 健康保險法ノ被保險者タル者 同 千分ノ二十

第十三條 掛金ハ毎月給料受領ノトキ之ヲ支拂フモノトス

給料ヲ受ケザル月又ハ給料ヲ受ケルモ其ノ額ガ掛金額ニ滿タザルトキハ其ノ月ノ掛金ハ最近ニ於テ受領スル給料ガ掛金ヲ支拂フニ足ルトキ之ヲ支拂フモノトス

第十四條 掛金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ヲ四捨五入ス

第十五條 掛金ニ異動ヲ生ズベキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス但シ月ノ初日ニ於テ掛金額ニ異動ヲ生ズベキ事由アリタルトキハ其ノ月ヨリ之ヲ改定ス

第十六條 組合員昭和十二年大阪市條例第二十號戰時專應召者特別給與條例ノ適用ヲ含ムヲ受ケルトキハ其ノ翌月ヨリ召集解除ノ月迄掛金ハ之ヲ徵收セズ休職又ハ休務ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ復職又ハ復務ノ月ノ前月迄ニ付亦同シ

第十七條 大阪市共濟組合ニ關スル條件第二條本文ニ依リ組合ガ毎年市ヨリ受ケル補給金左ノ如シ

一 第一種組合員 給料總額ノ千分ノ四十

二 第二種組合員 健康保險法ノ被保險者タラザル者 同 千分ノ五十一

三 第三種組合員 健康保險法ノ被保險者タル者 同 千分ノ四十四

四 第四種組合員 健康保險法ノ被保險者タル者 同 千分ノ四十八

五 第五種組合員 健康保險法ノ被保險者タル者 同 千分ノ二十五

第十四章 給付 第一節 總則

第二十五條 法令ノ規定ニ依リ同一原因ニ付國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ給付ヲ受ケルトキハ其ノ受ケル限度ニ於テ本規程ニ依リ給付ハ之ヲ爲サズ

第二十六條 養老年金、癡疾年金及遺族年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第二十七條 或ル種類ノ組合員ヨリ他ノ種類ノ組合員ト爲リタル者ニ對スル脱退手當金ノ算定方法ハ統理之ヲ定ム

第二十八條 特定給與金ノ支給ニ付テハ各種類ノ組合員タリシ期間ヲ通算ス

第二十九條 脱退手當金、養老年金、癡疾年金、癡疾手當金若ハ遺族年金ノ額ニ圓位未滿ノ端數アルトキハ圓位ニ滿タシム

第三十條 休職又ハ休務ヲ命セラレタル者ニ對シテハ其ノ間別段ノ定アルモノヲ除クノ外給付ハ之ヲ爲サズ

第三十一條 組合員、組合員タリシ者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受ケル者死亡シタルトキハ其ノ戸主若ハ家族又ハ之ニ代ルベキ者ヨリ遲滞ナク組合長ニ申告スベシ

第三十二條 組合員、組合員タリシ者若ハ組合員ノ家族死亡シ又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ本人、戸主又ハ家族ハ組合長ノ指定シタル醫師ノ臨檢若ハ診察ヲ拒ムコトヲ得ズ癡疾年金ヲ受ケル者ニ付必要アリト認ムルトキ亦同シ

第三十三條 前二條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ給付金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルベシ

第三十四條 組合員又ハ組合員タリシ者及其ノ家族故意若ハ重大ナル過失ニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ給付ノ事由ヲ生ゼシメタルトキハ給付金ノ全部又ハ一部ヲ支給

第十八條 健康保險法ノ被保險者タル組合員ニ對シテハ疾病給與金及產婦給與金ハ之ヲ支給セズ

健康保險法ノ被保險者タル組合員ノ死亡ニ關シ同法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ其ノ相當金額ヲ脱退手當金ヨリ控除ス但シ其ノ控除額五十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十九條 給付金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ給料日額ニ依リ之ヲ算定ス

一 給付事由生シタルトキノ給料日額

二 養老年金ニ付テハ組合ヲ脱退シタル際ノ給料日額

第二十條 給付金ヲ算定スル場合ニ於テハ掛金ノ標準タル給料月額ノ三十分ノ一ヲ以テ一日ノ額トス

第二十一條 給付金支拂ノ際掛金、療養費ノ立替金、購買券代金、供給物品代金、貸付金等ノ未拂アルトキハ以上ノ順序ニ依リ之ヲ給付金ヨリ控除ス

第二十二條 給付金ノ支給ヲ受ケベキ遺族ノ範圍及其順位ハ別段ノ定アルモノノ外勞働者年金保險法施行令第十八條及第十九條ノ規定ニ依ル

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ給付金ヲ受領スル者ナキトキハ統理ハ本組合ノ趣旨ニ遵ヒ之ヲ適當ニ處分スルコトヲ得

第二十四條 給付金ハ請求ヲ俟チテ之ヲ支給ス但シ第二十一條ノ規定ニ依リ控除金アルトキハ請求ナキトキト雖モ之ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ請求ハ給付事由生シタル日ヨリ一年以内ニ請求スルニ非ザルハ其ノ效力ナシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七類 給與 第六章 厚生施設

セザルコトヲ得但シ自己ノ犯罪行為ニ依リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ癡疾年金、癡疾手當金又ハ遺族年金ヲ支給セズ
 詐偽其ノ他之ニ類スル行為ニ依リ給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者ニ對シテハ其ノ行為ヲ爲シタルトキヨリ一年間給付金ノ支給ヲ爲サズ他人ヲシテ給付ヲ受ケシメ又ハ受ケシメントシタルトキ亦同シ
 第四十五條(第八十一條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第五十條(第八十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第五十一條(第八十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第五十六條、第五十七條、第六十五條、第八十三條(第八十五條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第八十四條(第八十五條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第九十四條及第一百一條ノ規定ニ依ル一時金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受ケベキ者ガ組合員、組合員タリシ者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受ケル者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給セズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ス

第三十五條 組合員懲戒處分其ノ他之ニ類スル處分ニ依リ解職、解備又ハ解嘱ト爲リタルトキハ給付金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得
 組合員退職シタルトキト雖モ其ノ情狀ニ依リテハ給付金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第三十六條 養老年金、癡疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受ケル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及癡疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金、癡疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第三十七條 給付金ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ

シタル後退職又ハ在職中死亡シタルトキハ前項ノ例ニ依リ第一種組合員タリシ當時ノ給料ニ基キ算出シタル金額ヲ脱退手當金トシテ本人又ハ其ノ遺族ニ支給ス

第八條第三項但書ノ規定ニ該當スル者曩ニ退職若ハ組合脱退ノ際脱退手當金ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第四十五條 第一種組合員職務執行ニ起因セズ死亡シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ニ葬祭料五十圓ヲ加算シタル金額ヲ脱退手當金トシテ其ノ遺族ニ支給ス
 左ノ區別ニ依リ算出シタル金額ガ前項ノ規定ニ依ル脱退手當金ヨリ多キトキハ之ヲ支給ス

- 一 組合加入年數一年未滿ノ者 給料 六十日分
 - 二 同 一年以上ノ者 給料 百二十日分
 - 三 同 三年以上ノ者 給料 百八十日分
 - 四 同 五年以上ノ者 給料 二百四十日分
- 第四十六條 第一種組合員入管ノ爲退職シタルニ因リ組合ヲ脱退シタルトキハ餉別金トシテ金二十圓ヲ支給ス

第四十七條 養老年金ハ第一種組合員タリシ期間二十年以上ナル者組合ヲ脱退シタル後五十五歳ヲ超エタルトキ又ハ五十五歳ヲ超エ組合ヲ脱退シタルトキ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄之ヲ支給ス
 第四十八條 養老年金ノ額ハ給料百二十日分ニ相當スル金額トシ第一種組合員タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ給料七・五日分ニ相當スル金額ヲ加給ス

第二節 第一種組合員ニ對スル給付

第一款 特種給與金

第三十八條 特種給與金ハ第一種組合員職務執行ニ起因セズシテ肺結核、喉頭結核又ハ癩病ニ罹リ退職シタルトキ又ハ健康保險ノ被保險者タル第一種組合員前記ノ疾病ニ罹リ退職ノ直前吏員ニ任用セラレタルガ爲組合ヲ脱退シタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス
 一 組合加入後一年以上ノ者 給料 九十日分
 二 組合加入後三年以上ノ者 給料 百二十日分

第三十九條 癡疾年金ヲ受ケル者ニハ特種給與金ヲ支給セズ

第二款 災厄給與金

第四十條 災厄給與金ハ第一種組合員又ハ其ノ家族災厄ニ罹リタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス
 一 災害見舞金
 二 家族弔慰金

第四十一條 災害見舞金ハ第一種組合員水、火、震災其ノ他非常災害ニ遭遇シタル爲住居ヲ轉シ又ハ生活上必要ナル器具、食糧品等ヲ毀損滅失シタル場合ニ於テ給料三十日分以内ノ金額ヲ支給ス

第三款 除除

第四十二條 家族弔慰金ハ第一種組合員ノ家族(組合員タル家族ヲ除ク)死亡シタルトキ給料十日分以内ノ金額ヲ支給ス

第四款 脱退手當金

第四十四條 脱退手當金ハ第一種組合員退職若ハ死亡シタルニ因リ組合ヲ脱退シタルトキ給料日額ニ別表第一及第三ニ定ムル日數ヲ乘ジテ得タル金額ヲ本人又ハ其ノ遺族ニ支給ス
 第一種組合員吏員ト爲リ若ハ電氣局ニ轉職シタルニ因リ組合ヲ脱退

第四十九條 養老年金ノ支給ヲ受ケル者本市ニ就職シタルトキハ其ノ月ヨリ、組合ヲ脱退シタル後引續キ本市ニ在職中ナルトキハ其ノ間養老年金ノ支給ヲ停止ス

第五十條 養老年金ノ支給ヲ受ケル者ガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受ケベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ組合脱退ノ際支給ヲ受ケルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第五十一條 第一種組合員タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受ケルコトナクシテ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受ケベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ組合脱退ノ際支給ヲ受ケルコトヲ取ベカリシ脱退手當金ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス
 前項ノ規定ハ第五十七條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受ケル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ第一種組合員タリシ期間二十年以上ナル者ガ脱退手當金ノ支給ヲ受ケルコト亦同シ

第五十二條 養老年金ヲ受ケベキ者ニハ脱退手當金ヲ支給セズ但シ本人ノ選擇ニ依リ養老年金ニ代ヘ脱退手當金ヲ支給スルコトヲ得
 養老年金ヲ受ケベキ者ガ前項但書ノ規定ニ依リ選擇ヲ爲サズシテ死亡シタルトキハ脱退手當金ヲ選擇シタルモノト看做ス

第五款 癡疾年金及癡疾手當金

第五十三條 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ガ勞働者年金保險法施行令別表第一ニ定ムル程度ノ癡疾ノ狀態ニ在ルニ因リ組合ヲ脱退シ

タルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養疾年金ヲ支給シ同令別表第二ニ定ムル程度ノ養疾ノ状態ニ在ルニ因リ組合ヲ脱退シタルトキハ養疾手當金ヲ支給ス

第五十四條 養疾年金ノ額ハ左ノ區別ニ依リ算出シタル金額トス

- 一 第一種組合員タリシ期間十年未満ノ者 給料 九十日分
- 二 第一種組合員タリシ期間十年以上二十年未満ノ者 給料 百日分
- 三 第一種組合員タリシ期間二十年以上ノ者 給料 百二十日分

第一種組合員タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ給料七・五日分ニ相當スル金額ヲ加給ス

第五十五條 養疾手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依リ算出シタル金額トス

- 一 給料月額七月分
- 二 但シ脱退手當金ト合算シ給料月額ノ十三月分ヲ超ユルト得ズ

但シ脱退手當金ト合算シ給料月額ノ十三月分ヲ超ユルト得ズ
二 特種補與金ヲ受クル者ニハ其ノ者ノ受ケ得ル脱退手當金ト特種給與金トノ合算額ガ其ノ者ノ受ケ得ル脱退手當金ト養疾手當金トノ合算額(十三月分ヲ超ユルトキハ十三月分ニ止ム)ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第五十六條 第一種組合員タリシ期間二十年未満ナル者ニシテ養疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養疾年金ノ總額ガ組合脱退ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金及給料月額ノ七月分ノ合算額(十三月分ヲ超ユルトキハ十三月分ニ止ム)但シ脱退手當金ノ額ガ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ額)若キハ其ノ差額

金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第五十九條ノ規定ニ依リ養疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養疾年金ノ總額ガ組合脱退ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第六十二條 第一種組合員タリシ期間二十年以上ナル者ガ組合ヲ脱退シタル後死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス但シ第五十二條ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十三條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依リ算出シタル金額トス

- 一 養老年金又ハ養疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラレタル養老年金又ハ養疾年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額
- 二 第一種組合員タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第六十四條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失フ此

- 一 遺族年金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ期間ハ既ニ支給セラレタル期間ト合算シテ十年ヲ超ユルト得ズ
- 二 女子タル配偶者ガ婚姻シタルトキ
- 三 遺族ガ第一種組合員又ハ第一種組合員タリシ者ノ戸籍ヲ去リタ

ハ脱退手當金及特種給與金ノ合算額(特種給與金ノ外ニ養疾手當金ニ相當スル金額ヲ受ケ得ル者ニ付テハ其ノ額ヲ加ヘタル額)ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第五十七條 第一種組合員タリシ期間二十年以上ナル者ニシテ養疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養疾年金ノ總額ガ組合脱退ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金若ハ脱退手當金及特種給與金ノ合算額ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第五十八條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ養疾年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタルトキハ其ノ養疾年金ハ之ヲ支給セズ養老年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタル者ガ同時ニ養疾年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタルトキ亦同シ

第五十九條 養疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ養疾年金ノ支給ヲ受クル程度ノ養疾ノ状態ニ該當セザルニ至リタルトキハ爾後養疾年金ヲ支給セズ

第六十條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ養疾手當金ヲ、養疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脱退手當金ヲ支給セズ

第六十一條 第一種組合員タリシ期間二十年未満ナル者ニシテ養疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第五十九條ノ規定ニ依リ養疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養疾年金ノ總額ガ組合脱退ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第六十五條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失フタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ナキトキ又ハ遺族年金ノ受給期間満了シタルトキ左ノ區別ニ依リ金額ヲ一時金トシテ第一種組合員タリシ者ノ遺族ニ支給ス
一 養老年金又ハ養疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ養疾年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタル遺族年金トノ合算額ガ組合脱退ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金若ハ脱退手當金及特種給與金ノ合算額ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第六十六條 遺族年金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ労働者年金保險ルコトキ
三 子又ハ孫(第一種組合員又ハ第一種組合員タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具養疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキ者ヲ除ク)ガ十五歳ニ達シタルトキ
四 不具養疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受クル男子タル配偶者、子、父、母、孫、祖父又ハ祖母ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第六十六條 遺族年金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ労働者年金保險